

指宿市埋藏文化財発掘調査報告書第36集

水迫遺跡Ⅲ

平成16年3月

鹿児島県指宿市教育委員会

Report of
The
MIZUSAKO

Archaeological
Site
Vol.3

Published by
The
IBUSUKI
Board
of Education

2004
March

序 言

水迫遺跡は、平成5年度に実施されたサンオーシャンリゾート計画に伴う分布調査で、その存在が明らかになりました。平成8年度は、広域農道建設事業に伴う確認調査が実施され、さらに、平成11年度には、鹿児島県農政部、指宿市耕地課の協力を得て農道建設予定地の全面的な発掘調査が行われました。そして、後期旧石器時代に帰属する竪穴建物跡、道跡、ピット、石器分布から構成される遺構群が発見され、全国的な注目を集めました。

日本の旧石器時代遺跡において、ここまで具体的に集落の様子が判明した事例はなく、また、この時期の遺構群としては世界的にも貴重であると聞き及んでいます。

この成果から、新たな課題も提出されました。それは、どこまで遺構の範囲が広がっているのかという点や、どうして建物跡は竪穴を伴っているのかという点、なぜ道は掘り穿められなければならないのか、どの位の期間に人々が生活を営んだのか等、それまでの旧石器時代研究では言及することのできなかった具体的な議論が可能になってきました。

この平成11年度の成果を受けて、平成12年度には、文化庁、鹿児島県教育委員会の御理解と御協力を得て水迫遺跡の内容を確認するため、水迫遺跡総合調査団が組織されました。総合調査の結果、竪穴建物跡5基、道跡2条、炉跡2基などが新たに発見されました。

また、こうした成果から、平成13・14年度には、水迫遺跡における後期旧石器時代の遺跡範囲の確認調査を実施し、幅の狭い尾根上に東西に伸びる後期旧石器時代の遺跡範囲が確定されました。

水迫遺跡の発掘調査の成果は、わが国の集落の出現について大きな貢献をするものと確信するところです。

この報告書は、こうした水迫遺跡の発掘調査の結果を報告するものです。これが水迫遺跡の適切な保存・活用に役立てられることを願ってやみません。

水迫遺跡の大きな成果をあげることができましたのも、関係機関、各位の御理解と御協力のおかげと感謝申し上げる次第です。また、水迫集落の皆様の暖かい御協力を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

指宿市教育委員会
教育長 林 賢一郎

例 言

1. 本書は、平成13年9月10日から平成14年3月31日と、平成14年4月24日から平成15年3月20日まで実施した鹿児島県指宿市西方に所在する水迫遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国庫・県補助金・市単費を用いて、指宿市教育委員会が実施し、社会教育課文化係の下山 覚、中摩浩太郎、渡部徹也、鎌田洋昭がそれぞれ分担して担当した。
3. 平成13年度の調査費は3,500千円(国:1,750千円、県:875千円、市:875千円)で、平成14年度の調査費は、5,500千円(国:2,750千円、県:1,100千円、市:1,650千円)である。
4. 各調査の原因・製図作成者については、目次に記す。執筆は、中摩、渡部、鎌田が分担した。本文については文中末尾にそれぞれ文責を記す。本書の編集は、中摩、渡部、鎌田が行った。
5. 遺構検出状況や・出土遺物状況の写真撮影については、中摩、渡部、鎌田が行った。
6. 本書のレベルはすべて絶対高である。また、図中に用いられている座標値は国土座標系第IX系に準ずる。
7. 本発掘調査の基本測量については、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、基本測量と空撮の協力を得た。
8. 本書の層位の色調表記は、特に断りのない場合は「標準土色帖」1990年版に基づくマンセル表色系によるが、必要に応じてCIEL*a*b*(CIE1976表色系:JISZ8729)あるいはRGB表色系などを用いている。
9. 遺物観察表、遺物実測図、遺構図の表記凡例は、下記及び、「橋半礼川遺跡Ⅲ」(1992、指宿市教育委員会)に準ずる。
10. 本調査で得たすべての成果については、指宿市考古博物館 時遊館C O C C Oはしむれでこれを保存し、活用している。
11. 本報告書を作成するために使用したソフトウェアは以下のとおりである。
編集 QuarkExpress (Pantone, Inc), Excel2000 (MicroSoft, Inc), Paintshop Pro (Jasc Software, Inc)
図面作成 AutoCAD (Autodesk, Inc)
12. 発掘調査員(平成13-14年度)
吉元トシエ 吉元澄子 林山イネ 竹下カツエ 東 冨子 池元ヨシエ 新小田千恵子 田野尻忠美
13. 室内整理員(平成13-14・15年度)
清 秀子 竹下珠代 有村尚子 下吹越美香 鮫島里奈 松山麻弥

表記凡例

〈表中表記凡例〉

土器の混和材[カ:角閃石、セ:石英、金:金ウソモ、白:白色粒、黒:黒色粒、赤:赤色粒]

遺物の色調[内面の色調:色内、外面の色調:色外、器内の色調:色内]

層位断面図中の記号[第14層ブロック:Y、第9層、及び第10層中の「斑」*:B 1、またはB 2「色調の違いで、明るいものをB 1、暗いものをB 2とした。色については各TabのL*a*b*値を参照]

※「斑」…第9層、第10層中に含まれる褐色土のブロックを示す。この褐色土のブロックの起源については、「水迫遺跡I」の早田 勉(古環境研究所)「水迫遺跡の土層とテフラ」を参照された。

〈図中表記凡例〉

断面図の▼は遺構の立ち上がりを示す。また、○で囲んだ数値、例えば①、②などは測色の位置を示す。a, b, cなど小文字のアルファベットは、細分した埋土を示す。また、Rは樹木痕を示す。

石器実測図中の→は、使用痕の範囲を示す。▼→▼は、磨面の範囲を示す。▼は想定される打面の位置を示す。石器が使用による破損あるいは切断が認められる場合は一印で推定復元した。さらに、実測図中の小文字a～fは、展開面を示す。

石器表裏面に見られる節理面は斜線で示し、自然面は細かな点で示した。

目次 CONTENTS

第一編 発掘調査編	1	①土器	73
		②石器	75
		③礫器	75
第1章 遺跡の環境	1	第6節 11トレンチの調査	93
第1節 水迫遺跡の立地	1	(1)調査の経緯	93
第2節 周辺の遺跡と水迫遺跡	3	(2)層位	95
第2章 発掘調査の経緯と組織	5	(3)横転	102
第1節 発掘調査の経緯	5	(4)縄文時代の遺物	103
第2節 発掘調査・報告書作成組織	6	①分布状況	103
第3章 発掘調査	7	②土器	103
第1節 調査区の設定	7	③石器	109
第2節 基本層序	9	(5)後期旧石器時代の遺構	115
(1)火山噴出物堆積層の概要	9	①遺構A	117
(2)水迫遺跡標準土層	12	②遺構B	131
第3節 12トレンチの調査	15	③遺構C	150
(1)層位	15	④遺構D	156
(2)遺構	15	⑤遺構E	158
①第1層bの遺構	15	⑥ピット	160
②第1層eの遺構	15	⑦土坑	164
(3)遺物	18	(i)土坑①	164
第4節 13トレンチの調査	23	(ii)土坑②	165
(1)層位	23	(6)後期旧石器時代の遺物	167
(2)遺構	25	①第9層出土遺物	167
①第1層bの遺構	25	(i)分布状況	167
②第1層gの遺構	25	(ii)石器組成	167
③第5・6層の遺構	25	(iii)石材組成	167
④第8層の遺構	25	(iv)石器	169
⑤第9層の遺構	26	②遺構埋出土遺物	175
(3)遺物	30	(i)石器	175
①土器	30	③第10層出土遺物	179
②礫器	33	(i)分布状況	179
③石器	33	(ii)石器組成	179
第5節 14トレンチの調査	55	(iii)石材組成	179
(1)層位	55	(iv)石器	179
(2)遺構	58	第7節 平成13・14年度の調査成果	193
①第1層dの遺構	58	第8節 第1調査区・吾妻地区後山の後期旧石器時代の遺構群について	195
②第1層gの遺構	58	第9節 水迫遺跡の保存処置について	214
(3)遺物	71		

図版目次 FIGURES

Fig.1 水迫遺跡の位置(1/2,400,000・1/50,000)	(原:一, 製:室内整理員)	2
Fig.2 水迫遺跡の地形(1/5,000)	(原:一, 製:室内整理員)	2
Fig.3 水迫遺跡周辺の遺跡(1/50,000)	(原:下山, 製:室内整理員)	4
Fig.4 各調査区の位置(1/2,000)	(原:鎌田, 製:鎌田)	7
Fig.5 各時期の推定地形コンタ図(1/2,000)	(原:鎌田, 製:鎌田)	8
Fig.6 水迫遺跡の各地点の柱層図	(原:鎌田, 製:鎌田)	11
Fig.7 12トレンチ完掘状況図(S=1/100)	(原:堀文サポート, 製:室内整理員)	15
Fig.8 12トレンチ東壁層位断面図(S=1/40)	(原:中摩・波部, 製:室内整理員)	16
Fig.9 12トレンチ北壁層位断面図(S=1/40)	(原:中摩・波部, 製:室内整理員)	17
Fig.10 12トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:堀文サポート, 製:堀文サポート)	19
Fig.11 12トレンチ出土土器実測図(S=1/3)	(原:波部, 製:波部・室内整理員)	20
Fig.12 13トレンチ完掘状況図(S=1/100)	(原:堀文サポート, 製:室内整理員)	23
Fig.13 13トレンチ東壁・北壁層位断面図(S=1/60)	(原:堀文サポート, 製:室内整理員)	24
Fig.14 13トレンチ第5・6層層位のピット検出状況図(S=1/40)	(原:中摩, 製:室内整理員)	26
Fig.15 13トレンチ第5・6層の燧石のピット平面・断面図(S=1/20)	(原:中摩, 製:室内整理員)	27
Fig.16 13トレンチ第9層層位のピット検出状況図(S=1/20)	(原:鎌田, 製:室内整理員)	28
Fig.17 13トレンチ第9層の燧石のピット平面・断面図(S=1/10)	(原:鎌田, 製:室内整理員)	29
Fig.18 13トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/120)	(原:堀文サポート, 製:堀文サポート)	30

Fig.19	13トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	32
Fig.20	13トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	34
Fig.21	13トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	35
Fig.22	13トレンチ弥生時代出土土器実測図(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	38
Fig.23	13トレンチ弥生時代出土土器実測図(S=2/3・1/3)	(原:鎌田, 製:鎌田)	39
Fig.24	14トレンチ完掘状況図(S=1/10)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	55
Fig.25	14トレンチ西壁層位断面図(S=1/50)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	56
Fig.26	14トレンチ北壁層位断面図(S=1/50)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	57
Fig.27	14トレンチ中世ビット検出状況図(S=1/80)	(原:鎌田・埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	59
Fig.28	14トレンチ中世ビット平面・断面図①(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	60
Fig.29	14トレンチ中世ビット平面・断面図②(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	61
Fig.30	14トレンチ弥生時代出土土器実測図(S=1/80)	(原:中摩・埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	63
Fig.31	14トレンチ第1層g層属のビット平面・断面図①(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	64
Fig.32	14トレンチ第1層g層属のビット平面・断面図②(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	65
Fig.33	14トレンチ第1層g層属のビット平面・断面図③(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	66
Fig.34	14トレンチ第1層g層属のビット平面・断面図④(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	67
Fig.35	14トレンチ弥生時代炭化物平面・断面図(S=1/20)	(原:渡部・鎌田, 製:渡部)	70
Fig.36	14トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:埋文サポ-ト, 製:埋文サポ-ト)	71
Fig.37	14トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	72
Fig.38	14トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	74
Fig.39	14トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	76
Fig.40	14トレンチ弥生時代出土土器実測図④(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	77
Fig.41	14トレンチ弥生時代出土土器・礫器実測図(S=1/1・1/2)	(原:鎌田, 製:鎌田)	81
Fig.42	11トレンチ調査終了時状況図・セクション釘位置図(S=1/100)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	94
Fig.43	11トレンチ西壁層位断面図(S=1/80・1/40)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	96
Fig.44	11トレンチ東壁層位断面図(S=1/80・1/40)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	97
Fig.45	11トレンチ北壁層位断面図(S=1/80・1/40)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	98
Fig.46	11トレンチ中央・ベルト層位断面図(S=1/20)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	99
Fig.47	11トレンチ横軸1・2検出状況位置図(S=1/80)	(原:埋文サポ-ト, 製:室内整理員)	102
Fig.48	11トレンチ縄文時代出土土器実測図①(S=1/2)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	104
Fig.49	11トレンチ縄文時代出土土器実測図②(S=1/2)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	106
Fig.50	11トレンチ縄文時代出土土器実測図③(S=1/2)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	107
Fig.51	11トレンチ縄文時代出土土器実測図④(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	110
Fig.52	11トレンチ縄文時代出土土器実測図⑤(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	112
Fig.53	11トレンチ縄文時代出土土器実測図⑥(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	114
Fig.54	11トレンチ後期旧石器時代の遺構配置図(S=1/25)	(原:下山・中摩・渡部・鎌田, 製:中摩)	116
Fig.55	遺構A全体図・インデックス(Section:S=1/20, 中央平面図:S=1/40)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	118・119
Fig.56	遺構A-①層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	120
Fig.57	遺構A-②層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	121
Fig.58	遺構A-③層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	122
Fig.59	遺構A-④層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	123
Fig.60	遺構A-⑤層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	124
Fig.61	遺構A-⑥層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	125
Fig.62	遺構A-⑦層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	126
Fig.63	遺構A-⑧層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	127
Fig.64	遺構A-⑨層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	128
Fig.65	遺構A-⑩層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	129
Fig.66	遺構B全体図・インデックス(Section:S=1/20, 中央平面図:S=1/40)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	132・133
Fig.67	遺構B-①層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	134
Fig.68	遺構B-②層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	135
Fig.69	遺構B-③層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	136
Fig.70	遺構B-④層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	137
Fig.71	遺構B-⑤層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	138
Fig.72	遺構B-⑥層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	139
Fig.73	遺構B-⑦層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	140
Fig.74	遺構B-⑧層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	141
Fig.75	遺構B-⑨層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	142
Fig.76	遺構B-⑩層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	143
Fig.77	遺構B-⑪層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	144
Fig.78	遺構B-⑫層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	145
Fig.79	遺構B-⑬層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	146

Fig.80	遺構B-③層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	147
Fig.81	遺構B-④層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	148
Fig.82	遺構B-⑤層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	148
Fig.83	遺構C全体図・インデックス(Section:S=1/20, 平面図:S=1/40)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	151
Fig.84	遺構C-①層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	152
Fig.85	遺構C-②層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	154
Fig.86	遺構C-③層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	154
Fig.87	遺構C-④層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	154
Fig.88	遺構D全体図・インデックス・各断面図(Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	157
Fig.89	遺構E全体図・インデックス・各断面図(Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	159
Fig.90	11トレンチピット平面・断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	161
Fig.91	土坑①平面・断面図(S=1/10)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	164
Fig.92	土坑②平面・断面図(S=1/25)	(原:中摩・波部・鎌田, 製:室内整理員)	165
Fig.93	11トレンチ第9層石器出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:堀文サポート, 製:堀文サポート)	168
Fig.94	11トレンチ第9層出土石器実測図①(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	170
Fig.95	11トレンチ第9層出土石器実測図②(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	172
Fig.96	11トレンチ遺構埋土層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:堀文サポート, 製:堀文サポート)	176
Fig.97	11トレンチ遺構埋土層出土石器実測図(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	178
Fig.98	11トレンチ第10層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:堀文サポート, 製:堀文サポート)	180
Fig.99	11トレンチ第10層出土石器実測図(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	182
Fig.100	水迫遺跡後期旧石器時代層属の遺構群の広がりに関する調査(Section:S=1/2,000)	(原:鎌田, 製:鎌田)	194
Fig.101	第1調査区・西側拡張区の地層堆積状況図(S=1/20)	(原:堀文サポート, 製:室内整理員)	196
Fig.102	水迫遺跡後期旧石器時代石器群の組成図	(原:鎌田, 製:鎌田)	198
Fig.103	第1調査区・西側拡張区第9層出土遺物平面分布図(S=1/120)	(原:波部, 製:波部)	200
Fig.104	西側拡張区検出の1号が跡平面・断面図(S=1/10)	(原:鎌田, 製:波部)	201
Fig.105	西側拡張区第9層遺構外出土遺物平面・垂直分布図(S=1/50)	(原:波部, 製:波部)	204
Fig.106	西側拡張区第9層遺構外出土遺物・遺構埋土出土遺物平面・垂直分布図(S=1/50)	(原:鎌田, 製:鎌田)	206

表目次 TABLES

Tab.1	水迫遺跡周辺の遺跡	4	Tab.31	14トレンチ出土遺物台帳①	82
Tab.2	水迫遺跡の基本層序	10	Tab.32	14トレンチ出土遺物台帳②	83
Tab.3	12トレンチ出土遺物観察表	20	Tab.33	14トレンチ出土遺物台帳③	84
Tab.4	12トレンチ出土遺物台帳①	21	Tab.34	14トレンチ出土遺物台帳④	85
Tab.5	12トレンチ出土遺物台帳②	22	Tab.35	14トレンチ出土遺物台帳⑤	86
Tab.6	13トレンチ第5-6層層属のピット法量表	26	Tab.36	14トレンチ出土遺物台帳⑥	87
Tab.7	13トレンチ第9層層属のピット法量表	28	Tab.37	14トレンチ出土遺物台帳⑦	88
Tab.8	13トレンチ出土遺物観察表①	36	Tab.38	14トレンチ出土遺物台帳⑧	89
Tab.9	13トレンチ出土遺物観察表②	37	Tab.39	14トレンチ出土遺物台帳⑨	90
Tab.10	13トレンチ出土石器・石器観察表	40	Tab.40	14トレンチ出土遺物台帳⑩	91
Tab.11	13トレンチ出土遺物台帳①	41	Tab.41	14トレンチ出土遺物台帳⑪	92
Tab.12	13トレンチ出土遺物台帳②	42	Tab.42	11トレンチ縄文時代出土石器観察表	108
Tab.13	13トレンチ出土遺物台帳③	43	Tab.43	11トレンチ縄文時代出土石器観察表	113
Tab.14	13トレンチ出土遺物台帳④	44	Tab.44	遺構A-①測色データ	120
Tab.15	13トレンチ出土遺物台帳⑤	45	Tab.45	遺構A-②測色データ	121
Tab.16	13トレンチ出土遺物台帳⑥	46	Tab.46	遺構A-③測色データ	122
Tab.17	13トレンチ出土遺物台帳⑦	47	Tab.47	遺構A-④測色データ	123
Tab.18	13トレンチ出土遺物台帳⑧	48	Tab.48	遺構A-⑤測色データ	124
Tab.19	13トレンチ出土遺物台帳⑨	49	Tab.49	遺構A-⑥測色データ	125
Tab.20	13トレンチ出土遺物台帳⑩	50	Tab.50	遺構A-⑦測色データ	126
Tab.21	13トレンチ出土遺物台帳⑪	51	Tab.51	遺構A-⑧測色データ	127
Tab.22	13トレンチ出土遺物台帳⑫	52	Tab.52	遺構A-⑨測色データ	128
Tab.23	13トレンチ出土遺物台帳⑬	53	Tab.53	遺構A-⑩測色データ	129
Tab.24	13トレンチ出土遺物台帳⑭	54	Tab.54	ピットと平面ラインの距離	130
Tab.25	14トレンチ中世ピット法量表	61	Tab.55	遺構B-①測色データ	134
Tab.26	14トレンチ弥生時代ピット法量表	68	Tab.56	遺構B-②測色データ	135
Tab.27	14トレンチ弥生時代出土遺物観察表①	78	Tab.57	遺構B-③測色データ	136
Tab.28	14トレンチ弥生時代出土遺物観察表②	79	Tab.58	遺構B-④測色データ	137
Tab.29	14トレンチ弥生時代出土遺物観察表③	80	Tab.59	遺構B-⑤測色データ	138
Tab.30	14トレンチ弥生時代出土石器・石器観察表	81	Tab.60	遺構B-⑥測色データ	139

Tab.61	遺構B-⑦測色データ	140	Tab.77	土坑①・②法量表	166
Tab.62	遺構B-⑧測色データ	141	Tab.78	11トレンチ第9層出土石器組成表	173
Tab.63	遺構B-⑨測色データ	142	Tab.79	11トレンチ第9層出土石器観察表	174
Tab.64	遺構B-⑩測色データ	143	Tab.80	11トレンチ埋土層出土石器組成表	177
Tab.65	遺構B-⑪測色データ	144	Tab.81	11トレンチ遺構埋土層出土石器観察表	177
Tab.66	遺構B-⑫測色データ	145	Tab.82	11トレンチ第10層出土石器組成表	181
Tab.67	遺構B-⑬測色データ	146	Tab.83	11トレンチ第10層出土石器観察表	181
Tab.68	遺構B-⑭測色データ	147	Tab.84	11トレンチ出土遺物台帳①	183
Tab.69	遺構B-⑮測色データ	148	Tab.85	11トレンチ出土遺物台帳②	184
Tab.70	遺構C-①測色データ	152	Tab.86	11トレンチ出土遺物台帳③	185
Tab.71	遺構C-②測色データ	155	Tab.87	11トレンチ出土遺物台帳④	186
Tab.72	遺構C-③測色データ	155	Tab.88	11トレンチ出土遺物台帳⑤	187
Tab.73	遺構C-④測色データ	155	Tab.89	11トレンチ出土遺物台帳⑥	188
Tab.74	遺構D-①②・E-①測色データ	156	Tab.90	11トレンチ出土遺物台帳⑦	189
Tab.75	遺構E-②測色データ	158	Tab.91	11トレンチ出土遺物台帳⑧	190
Tab.76	ピット法量表	163	Tab.92	11トレンチ出土遺物台帳⑨	191

写真目次 Plates

Pl.1	水迫遺跡全景(西側から東側を望む)	1	Pl.42	14トレンチ中世ピット10・11号検出状況写真③	62
Pl.2	第1調査区全景(後期旧石器時代の遺構検出状況)	1	Pl.43	14トレンチ中世ピット15号検出状況写真④	62
Pl.3	12トレンチ完掘状況写真(南側より)	15	Pl.44	14トレンチ弥生時代ピット13号検出状況写真	68
Pl.4	12トレンチ第1層g出土遺物状況写真(北側より)	18	Pl.45	14トレンチ弥生時代ピット4号検出状況写真	68
Pl.5	12トレンチ東壁層位断面(一段目)状況写真①	18	Pl.46	14トレンチ弥生時代ピット20号検出状況写真	68
Pl.6	12トレンチ北壁層位断面(二・三段目)状況写真①	18	Pl.47	14トレンチ弥生時代ピット26号検出状況写真	68
Pl.7	12トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真②	18	Pl.48	14トレンチ弥生時代ピット15号検出状況写真	69
Pl.8	12トレンチ出土石器写真(外面)	20	Pl.49	14トレンチ弥生時代ピット14号検出状況写真	69
Pl.9	12トレンチ出土石器写真(内面)	20	Pl.50	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真①	69
Pl.10	13トレンチ完掘状況写真(南側より)	23	Pl.51	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真②	69
Pl.11	13トレンチ東壁層位断面(一〜四段目)状況写真①	25	Pl.52	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真③	69
Pl.12	13トレンチ東壁層位断面(五段目)状況写真	25	Pl.53	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真④	69
Pl.13	13トレンチ北壁層位断面(一〜四段目)状況写真①	25	Pl.54	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑤	70
Pl.14	13トレンチ北壁層位断面(五段目)状況写真②	25	Pl.55	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑥	70
Pl.15	第5・6層のピット検出状況写真(南側より)	26	Pl.56	14トレンチ弥生時代遺物状況写真(北東側より)	71
Pl.16	第5・6層のピット1号検出状況写真	27	Pl.57	14トレンチ弥生時代出土石器①写真(外面)	72
Pl.17	第5・6層のピット2号検出状況写真	27	Pl.58	14トレンチ弥生時代出土石器①写真(内面)	72
Pl.18	第5・6層のピット3号検出状況写真	27	Pl.59	14トレンチ弥生時代出土石器②写真(外面)	74
Pl.19	13トレンチ第9層ピット1号検出写真	29	Pl.60	14トレンチ弥生時代出土石器②写真(内面)	74
Pl.20	13トレンチ第9層ピット2号検出写真	29	Pl.61	14トレンチ弥生時代出土石器③写真(外面)	76
Pl.21	13トレンチ第9層ピット3号検出写真	29	Pl.62	14トレンチ弥生時代出土石器③写真(内面)	76
Pl.22	13トレンチ第9層ピット4号検出写真	29	Pl.63	14トレンチ弥生時代出土石器④写真(外面)	77
Pl.23	13トレンチ第9層ピット5号検出写真	29	Pl.64	14トレンチ弥生時代出土石器④写真(内面)	77
Pl.24	13トレンチ第1層g出土遺物状況写真(南側より)	30	Pl.65	14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(表面)	81
Pl.25	13トレンチ弥生時代出土石器①写真(外面)	32	Pl.66	14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(裏面)	81
Pl.26	13トレンチ弥生時代出土石器①写真(内面)	32	Pl.67	11トレンチ調査終了時状況写真(南側より)	93
Pl.27	13トレンチ弥生時代出土石器②写真(外面)	34	Pl.68	11トレンチ北壁・西壁層位断面状況写真 (平成13年度・東側より)	100
Pl.28	13トレンチ弥生時代出土石器②写真(内面)	34	Pl.69	11トレンチ西壁・南壁層位断面状況写真 (平成14年度・北側より)	100
Pl.29	13トレンチ弥生時代出土石器③写真(外面)	35	Pl.70	11トレンチ南壁層位断面(一段目)状況写真	100
Pl.30	13トレンチ弥生時代出土石器③写真(内面)	35	Pl.71	11トレンチ西壁層位断面(一段目)状況写真	100
Pl.31	13トレンチ出土礫器写真(表面)	38	Pl.72	11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真	100
Pl.32	13トレンチ出土礫器写真(裏面)	38	Pl.73	11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真	100
Pl.33	13トレンチ出土石器写真(表面)	39	Pl.74	11トレンチ南壁層位断面(三段目)状況写真	100
Pl.34	13トレンチ出土石器写真(裏面)	39	Pl.75	11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真①	101
Pl.35	14トレンチ完掘状況写真(南側より)	55	Pl.76	11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真②	101
Pl.36	14トレンチ東壁層位断面(一〜三段目)状況写真①	58	Pl.77	11トレンチ北壁層位断面(一段目)状況写真①	101
Pl.37	14トレンチ東壁層位断面(一・二段目)状況写真②	58	Pl.78	11トレンチ北壁層位断面(二段目)状況写真②	101
Pl.38	14トレンチ北壁層位断面(一〜三段目)状況写真①	58	Pl.79	11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真③	101
Pl.39	14トレンチ北壁層位断面(四段目)状況写真②	58	Pl.80	11トレンチ横庭1検出状況写真(東側より)	102
Pl.40	14トレンチ中世ピット6号検出状況写真①	62			
Pl.41	14トレンチ中世ピット17号検出状況写真②	62			

Pl.81	11トレンチ横断2検出状況写真(北側より)	102	Pl.141	9号-10号ピット断面写真	163
Pl.82	11トレンチ第5・6層出土遺物状況写真(東側より)	103	Pl.142	土坑①平面写真	166
Pl.83	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(外面)	104	Pl.143	土坑②断面写真(東側より)	166
Pl.84	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(内面)	104	Pl.144	土坑②断面写真(東側断面)	166
Pl.85	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(外面)	106	Pl.145	11トレンチ第9層遺物出土状況写真①	167
Pl.86	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(内面)	106	Pl.146	11トレンチ第9層遺物出土状況写真②	167
Pl.87	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(外面)	107	Pl.147	11トレンチ第9層出土土器①写真(表面)	170
Pl.88	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(内面)	107	Pl.148	11トレンチ第9層出土土器①写真(裏面)	170
Pl.89	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(表面)	110	Pl.149	11トレンチ第9層出土土器②写真(作業面)	172
Pl.90	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(裏面)	110	Pl.150	11トレンチ第9層出土土器②写真(打面)	172
Pl.91	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(表面)	112	Pl.151	11トレンチ遺構埋土層出土状況写真	175
Pl.92	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(裏面)	112	Pl.152	11トレンチ遺構埋土層出土土器写真(表面)	178
Pl.93	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(表面)	114	Pl.153	11トレンチ遺構埋土層出土土器写真(裏面)	178
Pl.94	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(裏面)	114	Pl.154	11トレンチ第10層出土土器写真(表面・作業面)	182
Pl.95	11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真①	115	Pl.155	11トレンチ第10層出土土器写真(裏面・打面)	182
Pl.96	11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真②	115	Pl.156	1号竪穴建物跡検出直後の写真	208
Pl.97	遺構A—東辺検出状況スナップ写真	117	Pl.157	1号竪穴建物跡ラインあり写真	208
Pl.98	遺構A—①層位断面写真	120	Pl.158	西側拡張区落ち込み断面直後の写真	208
Pl.99	遺構A—②層位断面写真	121	Pl.159	西側拡張区落ち込み断面確認写真	208
Pl.100	遺構A—③層位断面写真	122	Pl.160	西側拡張区南側平面確認写真	208
Pl.101	遺構A—④層位断面写真	123	Pl.161	6号竪穴建物立ち上がり状況	208
Pl.102	遺構A—⑤層位断面写真	124	Pl.162	6号竪穴建物立ち上がり状況	212
Pl.103	遺構A—⑥層位断面写真	125	Pl.163	6号竪穴建物立ち上がり画像解析	212
Pl.104	遺構A—⑦層位断面写真	126	Pl.164	水道遺跡の層序	212
Pl.105	遺構A—⑧層位断面写真	127	Pl.165	道跡B検出状況	212
Pl.106	遺構A—⑨層位断面写真	128	Pl.166	道跡B検出状況	212
Pl.107	遺構A—⑩層位断面写真	129	Pl.167	第1調査区・西側拡張区遺構所在地確認用のピンポイント位置写真	215
Pl.108	遺構B—①層位断面写真	134	Pl.168	埋め戻し作業状況写真①	216
Pl.109	遺構B—①層位断面解析画像	135	Pl.169	埋め戻し作業状況写真②	216
Pl.110	遺構B—②層位断面写真	135	Pl.170	埋め戻し作業状況写真③	216
Pl.111	遺構B—③層位断面写真	136	Pl.171	埋め戻し作業状況写真④	216
Pl.112	遺構B—④層位断面写真	137	Pl.172	埋め戻し作業状況写真⑤	216
Pl.113	遺構B—⑤層位断面写真	138	Pl.173	埋め戻し作業状況写真⑥	216
Pl.114	遺構B—⑥層位断面写真	139	Pl.174	埋め戻し作業状況写真⑦	217
Pl.115	遺構B—⑦層位断面写真	140	Pl.175	埋め戻し作業状況写真⑧	217
Pl.116	遺構B—⑧層位断面写真	141	Pl.176	埋め戻し作業状況写真⑨	217
Pl.117	遺構B—⑨層位断面写真	142	Pl.177	埋め戻し作業状況写真⑩	217
Pl.118	遺構B—⑩層位断面写真	143	Pl.178	埋め戻し作業状況写真⑪	217
Pl.119	遺構B—⑪層位断面写真	144	Pl.179	埋め戻し作業状況写真⑫	217
Pl.120	遺構B—⑫層位断面写真	145	Pl.180	埋め戻し作業状況写真⑬	218
Pl.121	遺構B—⑬層位断面写真	146	Pl.181	埋め戻し作業状況写真⑭	218
Pl.122	遺構B—⑭層位断面写真	147	Pl.182	埋め戻し作業状況写真⑮	218
Pl.123	遺構B—⑮層位断面写真	148	Pl.183	埋め戻し作業状況写真⑯	218
Pl.124	遺構B—⑰層位断面写真	148	Pl.184	埋め戻し作業状況写真⑰	218
Pl.125	遺構C—①層位断面写真	152	Pl.185	埋め戻し作業状況写真⑱	218
Pl.126	遺構C—②層位断面写真	155			
Pl.127	遺構C—③層位断面写真	155			
Pl.128	遺構C—③層位断面解析画像	155			
Pl.129	遺構C—④層位断面写真	155			
Pl.130	遺構D—①層位断面写真	157			
Pl.130-2	遺構D—②層位断面写真	157			
Pl.131	遺構E—①層位断面写真	158			
Pl.132	遺構E—②層位断面写真	158			
Pl.133	1号ピット断面写真	162			
Pl.134	2号ピット断面写真	162			
Pl.135	3号ピット断面写真	162			
Pl.136	4号ピット断面写真	162			
Pl.137	5号ピット断面写真	162			
Pl.138	6号ピット断面写真	162			
Pl.139	7号ピット断面写真	163			
Pl.140	8号ピット断面写真	163			

水迫遺跡発掘調査報告編

第一編 発掘調査編

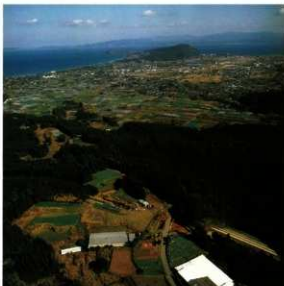
第1章 遺跡の環境

第1節 水迫遺跡の立地

水迫遺跡は、指宿市西方水迫に所在する遺跡で、標高約126mの尾根上に位置する。池田湖からは直線距離で約1.2kmと近い。池田湖と水迫遺跡の間には、約5万年前に活動していた清見岳があり、清見岳から延びる裾野上に水迫遺跡が所在する尾根がある (Fig.1)。

現在確認できる立地状況は、次のとおりである。尾根は、ほぼ東西方向に伸びており、南方は急激な傾斜をなし、深い谷地形を形成する。この谷では、近年まで湧水地があり、水迫集落に生活用水を供給していたという。北方は、畑が広がり、水迫遺跡から約100mほどで急傾斜面になる (Fig.2)。北側は土地改良が一部行なわれて平坦地があるものの別の谷地形が控えている。

水迫遺跡の現地形は、池田カルデラ噴出物の埋積とその後の侵食作用によって、池田カルデラ噴出以前の旧地形と比較するとかなり変化している状況が窺える。実際、第1調査区・西側拡張区と11トレンチの地権者に聞き取り調査をした結果、2筆とも現在よりも2～5m以上も高い丘 (尾根の頂上部) の地形であり、その丘を3m程削平し、かつ東側の土地はさらに2m程土取りし東側の土地と段差をつけたこととであった。



PL1 水迫遺跡全景(西側から東側を望む)

11トレンチの西側層位断面図 (Fig.43) に、第2層を斜めに断ち切るように第1層が斜堆積していることと、1トレンチの北側への斜面地の確認から、削平以前の旧地形が丘のような地形であったことが推定できる。また、その尾根の頂上部である丘は、13・14トレンチを設定した西側の方まで延びていたものと考えられる。また、調査の結果、13・14トレンチの部分も削平を行っていたことが判明した。

この尾根状の地形の基盤は、第14・15層の宿利原火山灰と第16～19層までの清見岳の噴出物であり、その後の侵食によって地形が形成されているものと考えられる。

Fig.5に示しているとおり、後期旧石器時代と縄文時代早期、弥生時代中期の各時代・時期の旧地形を比較してみると、基本的な尾根の位置と南側の谷地形は変わらない。しかし、池田カルデラ噴出物の埋積とその後の侵食作用によって、12・13・14トレンチの北側部分の傾斜地の位置が現在の平坦地部分にまで入り込ん

でいることから、池田カルデラ噴出物の侵食が著しかったことが窺える。

したがって、水迫遺跡では、清見岳の活動で形成された基本的な尾根地形上にさまざまな層が堆積したが、池田カルデラ噴出物の埋積と後の侵食により大きく地形が変化し、さらに現在の削平により平坦な畑地に至るという履歴を有していることがわかる。

(文責 鎌田)



PL2 第1調査区全景(後期旧石器時代の遺構検出状況)



Fig.1 水迫遺跡の位置(1/2,400,000-1/50,000)

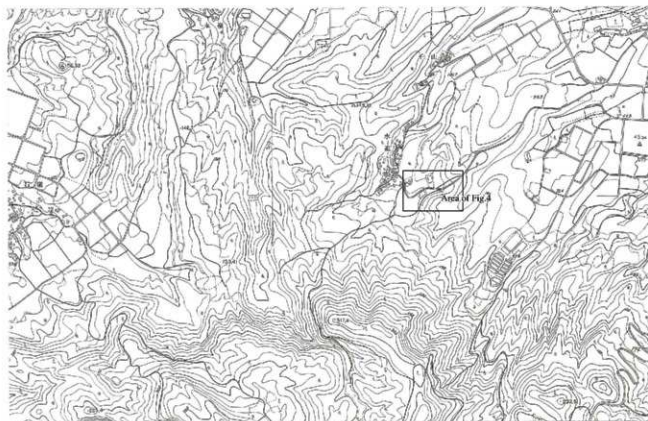


Fig.2 水迫遺跡の地形(1/5,000)

第2節 周辺の遺跡と水迫遺跡

水迫遺跡は、平成5年度に実施しているサンオーシャン・リゾート計画に伴う鹿児島県教育委員会文化財課が実施した早期調査成果に基づき周知された遺跡である。平成8年度に、広域農道建設に伴う確認調査が実施され、その際、縄文時代の土器、石鏃、石斧、集石、ナイフ形石器などが発見された。このことを受けて、平成11年5月より、対象地1,400㎡の内、340㎡の発掘調査が実施された¹⁾。

水迫遺跡の周辺には、平成8年度に行われた中尾迫遺跡があり、ここでは、弥生時代の土器焼成土壌などが発見されている。また、水迫遺跡より、やや標高の下がる侵食台地では、鳥山遺跡群の中の西原迫遺跡²⁾の所在する十石台地があり、ここでは縄文時代末から弥生時代前期にいたる資料が出土している。

十石台地の北側に隣接して、岩本式土器³⁾の標識遺跡として知られている岩本遺跡⁴⁾の所在する岩本台地がある。また、さらに北の小牧台地に所在する小牧第Ⅱ遺跡群⁵⁾ではナイフ形石器などが出土した露重遺跡などがあり、鹿児島県における後期旧石器時代の遺跡の存在する代表的な地域として知られている。

岩本遺跡の発掘調査は、昭和51、52年の二カ年にわたり発掘調査が行われた遺跡で、貝殻文系円筒形土器の最古形態として評価される岩本式土器の標識遺跡である。岩本遺跡の発掘調査は県営畑地帯総合土地改良事業に伴って発掘調査が実施されたが、平成11年度にNTT Docomoの中継施設建設に伴う発掘調査も行われ、良好な状態で遺跡が残存していることが確認されている。

岩本遺跡の発掘調査では、縄文時代早期の土器や石器資料が蓄積されたが、それらは、上野原遺跡(約9,500年前)に先立つおよそ10,000年ほど前の遺跡である。そして水迫遺跡では、この岩本式土器に先行すると考えられる水迫式土器が発見されている。また、隆帯土器と呼ばれる11,400年以前の土器も同時に発見されている。

このような資料の蓄積によって、旧石器時代から縄文時代への文化変遷の姿が次第に具体的に示されるようになってきた。岩本遺跡の成果は、このような問題意識を生み出すきっかけとなった遺跡である。

小牧遺跡は、包括名で、指宿市小牧の北西および南西に広がる台地上に立地する。小牧3A遺跡は、昭和51年に県営畑地帯総合土地改良事業に伴い発掘調査された遺跡であるが、その位置は、現在の小牧台地より、ひとつ隔てた岩本台地であり、現在の指宿商業のグラウンドの上の台地が該当する。

また、小牧第Ⅱ調査区は、県営畑地帯総合土地改良事業小牧工区の対象エリア65ヘクタールが該当し、昭和53年に確認調査が行われた。その中で、遺跡は9地点に分けられ、51ヶ所のトレンチが設けられ調査された。その結果、5地点が遺跡として確認されたものである。発掘調査は、昭和53年度に実施されており、出水迫、中尾、尾越、堀添、露重、小久保などの地点で遺跡が確認された。小牧遺跡という名称は、この二つの調査をまとめて包括的に用いられていることがあるが、基本的な位置が全く異なることに注意しなければならない。

さて、この二つの発掘調査ともに、南部九州では事例の少なかった旧石器時代、特に、ナイフ形石器や台形石器などが多量に出土し、南部九州の代表的な旧石器時代遺跡として評価された。

小牧3A遺跡の発掘調査においては、剥片尖頭器、三稜尖頭器、ナイフ形石器、台形石器、スクレイパーなどが豊富に出土した。このような良好な資料が数量的にも多く出土した事例は当時はきわめて稀であった。それら資料については、まさに、始良カルデラの噴火(24,000年前程)によって堆積した堆積物、いわゆるシラスの上から出土した一群の石器であり、南部九州における細石刃文化の出現以前の後期旧石器時代の代表的な遺跡と評価された。

そして、昭和51年から、研究の深化に伴い、例えば、ナイフ形石器や台形石器などの詳細な観察に基づいて分類され、小牧3A遺跡の石器群もいくつかの石器組成の段階に分離できることが判明しつつある。

小牧第Ⅱ遺跡群のある小牧台地と侵食谷をはさんで、喜入町側は、帖地と呼ばれ、A T下位の石器群が多く発見された帖地遺跡がある。帖地遺跡では、概ね4つの時期の文化層が確認されている。

第一文化層は、細石刃を主体とする文化層で木葉形の石槍、石鏃、局部磨製石斧などが礫群などと同一レベルで出土しているという。また、第二文化層は、三稜尖頭器と両面加工尖頭器が主体となっている。第三文化層は、剥片尖頭器と台形石器が主体層。露重遺跡との対比が可能であろう。さらに、第四文化層はA T回の石器群でナイフ形石器、台形石器などが主体と成っている。この中で、水迫遺跡の古い様相の細石器文化の包含層は見られず、該当時期の資料は認められないことから、水迫遺跡の石器群の評価を含め、帖地遺跡の第一文化層と第二文化層との間隙に位置する可能性が高い。

喜入町、指宿市の標高100m以上の台地では、このように、後期旧石器時代の良好な遺跡が散在しており、A T前後のナイフ形石器から細石器までの文化解明に絶好の遺跡が存在しているといえよう。

(『水迫遺跡Ⅱ』より転載)

- 1) 指宿市教育委員会 1999 p1-p4 水迫遺跡の概要、第6回企画展示「ドキどき縄文さがりけ展」図録、指宿市教育委員会
- 2) 鹿児島県教育委員会 1980 p36-p55 鳥山岡赤土器-西原迫遺跡 西原迫遺跡 早川迫遺跡 その他、鹿児島県指宿市教育委員会
- 3) 下山愛・鎌田洋輝 1999 p12-p15 水迫式土器の設定、第6回企画展示「ドキどき縄文さがりけ展」図録、指宿市教育委員会
- 4) 指宿市教育委員会 1978 岩本遺跡、指宿市教育委員会
- 5) 指宿市教育委員会 1979 小牧第Ⅱ調査区-出水迫遺跡 中尾迫遺跡 尾越・堀添遺跡 露重遺跡 小久保遺跡、鹿児島県指宿市教育委員会

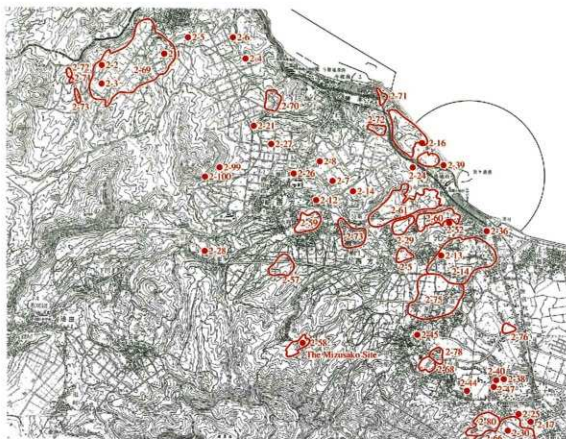


Fig.3 水迫遺跡周辺の遺跡(1/50,000)

遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	時代	調査履歴
2-58	水迫	新方字水迫	丘陵	新石器時代・縄文	平成11・12・13・14年度
2-1	鎌倉	小牧字鎌倉	台地	新石器	昭和53年度
2-2	塚越・継道	小牧字塚越・継道	台地	新石器	昭和53年度
2-3	中野	小牧字中野	台地	新石器	昭和53年度
2-4	小牧善人	小牧	台地	新石器・縄文	昭和53年度
2-5	小久保	小牧字小久保	台地	新石器	昭和53年度
2-6	駒木	小牧	台地	縄文・古墳	昭和52年度
2-69	駒木Ⅰ	駒木	台地	縄文・古墳	昭和53年度
2-70	駒木Ⅱ	駒木麓上門之口西平	台地	縄文・古墳	昭和53年度
2-21	鳥山	新西方鳥山	台地	古墳・古代・中世	市誌
2-27	藤原東後	新西方藤原東後	台地	古墳・中世	
2-7	藤原道朝	新西方藤原道朝	台地	縄文・鎌倉	昭和54年度
2-4	藤原道	新西方藤原道	台地	縄文	
2-12	藤原	新西方藤原	台地	縄文・鎌倉	日本考古学報告5
2-14	早瀬	新西方早瀬	台地	縄文・鎌倉	昭和54年度
2-99	宮尻平	新西方宮尻平	台地	古墳・古代・中世	
2-100	高山山麓	宮本高山山麓	斜面	鎌倉・古墳	
2-71	栗色ヶ鼻	宮本栗色ヶ鼻	斜面	古墳・古代	
2-72	十石	西方十石石原敷	台地	古墳	
2-16	高長谷道	西方高長谷道	海岸段丘	古墳・古代・中世	昭和60年度
2-24	松尾	西方松尾	海岸段丘	中世	
2-39	佐賀原	西方佐賀原	台地	古墳・古代・中世	
2-61	長原	西方宮之前河端	古墳	古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分佈調査
2-52	長原院跡	西方宮之前	古墳	古墳・古代・中世	市指定文化財
2-29	宮之前	西方宮之前	台地	鎌倉・古墳・古代	昭和63年度
2-36	藤川	西方宮ヶ鼻	河川	鎌倉	市指定文化財
2-13	鴨川	西方鴨川	台地	縄文・鎌倉	
2-74	大園原	西方大園原	台地	縄文	
2-75	道下	西方道下	台地	古墳	
2-76	西田	西方二月田西田	段丘	古墳	
2-45	上園原	西方	段丘	古墳	
2-78	野瀬	西方道下野瀬	台地	古墳	市指定文化財
2-68	中野ノ下	中野長平島ノ下	段丘	古墳・弥生	平成2年度
2-44	藤原海岸	西方	海岸段丘	古墳	市指定文化財
2-40	藤原	西方	台地	古墳	市指定文化財
2-38	藤原	西方	段丘	古墳	市指定文化財
2-47	藤原神社遺跡の神	西方	段丘	古墳	市指定文化財
2-25	久玉神社	西方	段丘	古墳	市誌
2-17	藤原高院校遺跡	西方	段丘	古墳	市誌
2-80	松ヶ谷	西方松ヶ谷	段丘	古墳	
2-96	上玉野	西方上玉野	段丘	古墳・古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分佈調査
2-30	光明寺跡	西方	段丘	中世	市誌
2-59	久保	西方久保	台地	縄文	サンオーシャンリゾート分佈調査
2-73	西園	西方西園	台地	古墳	
2-57	中園	西方中園	台地	古墳	
2-28	中野	西方中野	台地	古墳・古代・中世	平成9年度発掘調査
2-3	宮	小牧字宮	台地	縄文・古墳	サンオーシャンリゾート分佈調査
2-7	多摩ヶ道	小牧字多摩ヶ道	谷道	中世	平成13年度
2-72	西多摩ヶ道	小牧字西多摩ヶ道	丘陵	新石器・縄文・中世	平成14・15年度

Tab.1 水迫遺跡周辺の遺跡

第2章 発掘調査の経緯と組織

第1節 発掘調査の経緯

水迫遺跡は、平成5年度に鹿児島県が実施するサン・オーシャンリゾート開発に伴い、鹿児島県文化財課による分布調査が実施され、弥生時代等の土器片が表面採集された。そして、弥生時代の遺物散布地として周知化された。

平成8年度に、指宿市教育委員会が鹿児島県耕地事務所と委託契約し、広域農道建設に伴う確認調査が実施された。その結果、縄文時代早期の岩本式土器や石斧などが出土し、広域農道予定路内の地下に遺物包含層があることが確認された。

その後の協議の結果、平成11年度に約1,400㎡の対象地域（市道を挟み南側を第Ⅰ調査区、北側を第Ⅱ調査区と仮称）の発掘調査を指宿市教育委員会が行うこととなった。平成11年度の調査成果は大きく3つ挙げられる。

①後期旧石器時代の遺構群の発見

第Ⅰ調査区の第14層（宿利原火山灰ローム層）上面で、第9層（ナイフ形石器文化終末期～細石刃文化初期）に帰属すると考えられる竪穴建物跡、道跡、ピットと石器分布によって構成される遺構群が発見された。

②縄文時代草創期の「水迫式土器」の出土と型式設定

サツマ火山灰を混在する第7層中から、隆帯文土器と貝殻文系円筒形土器との型式学的なヒアタスを埋める土器が発見された。その土器を「水迫式土器」と命名した。層位学的方法により、隆帯文土器と水迫式土器は、同一層に包含され、貝殻文系円筒形土器の最古形態とされる岩本式土器は、その上位層から確認されたことから、隆帯文土器から水迫式土器、そして貝殻文系円筒形土器への型式変遷の組列はほぼ正しいものであることが確認された。

③弥生時代の生活域の発見

標高120mを越す尾根上の広い範囲において、弥生時代中期（入来Ⅱ式土器・山之口式土器）の遺物包含層と柱穴等の遺構が検出された。

平成12年度は、国庫・県費補助金による第Ⅰ調査区の後期旧石器時代の遺構群の広がり、内容確認を目的とした確認調査を実施した。その結果、第Ⅰ調査区の西側隣接地（西側拡張区）から竪穴建物跡5基、道跡2条、炉跡2基、土坑、ピット、石器分布が検出され、遺構群が西側に広がっていることが確認された。合わせて、市道を挟んだ第1トレンチでは、北側への急斜面が検出され、後期旧石器時代の遺構群が幅約16mの尾根上の南側平坦地と緩やかな傾斜地に造られていることが確認された。

同年には、水迫遺跡の保存を目的とし、広域農道の迂回予定路を検討。この基礎情報入手のため、鹿児島県耕地事務所と委託契約を締結し、広範囲に遺跡の有無を目的として3～10トレンチを設定し、確認調査を実施した。その結果、第Ⅰ調査区の東側には遺跡が広がっていないことが確認された。

平成13年度は、後期旧石器時代の遺構群の広がり、内容確認を目的として、11・12・13トレンチを設定し、確認調査を実施した（文化庁補助事業）。11トレンチでは、後期旧石器時代に帰属する竪穴建物跡と考えられる遺構が検出された。12・13トレンチでは、弥生時代中期の遺物包含層が確認された。

平成14年度は、遺構が検出された11トレンチの西側を拡張し、継続調査を実施した。また、14トレンチでは弥生時代中期の遺物包含層が確認された。

平成12年度以降の確認調査成果では、上記した平成11年度の調査成果以外に、中世・弥生時代後期・縄文時代中期の遺物包含層や柱穴、土坑などの遺構が確認された。

また、これまでの確認調査の結果、水迫遺跡は、中世、弥生時代後期・中期（入来Ⅱ式土器・山之口式土器）、縄文時代中期（春日式土器）・早期（岩本式土器・前平式土器・葬式土器）、草創期（水迫式土器・隆帯文土器）、後期旧石器時代第9層石器群（ナイフ形石器文化～細石刃文化）・第10層石器群（ナイフ形石器文化）・第12・13層石器群（ナイフ形石器文化：A・T下位）の遺物包含層が確認され、県内でも希少な複合遺跡（4時代9時期）であることが分かった。

平成11年度から平成14年度までの継続調査によって、第Fig.100図の範囲のように後期旧石器時代の遺構群の範囲が確認された。

本発掘調査報告書は、平成13・14年度の国庫・県費補助金による11・12・13・14トレンチの確認調査成果の報告である。

（文責 鎌田）

第2節 発掘調査・報告書作成組織

水辺遺跡の発掘調査（平成13・14年度）と報告書作成（平成15年度）の組織は、以下のとおりである。

発掘調査・報告書作成主体	指宿市教育委員会			
発掘調査責任者	指宿市教育委員会	教 育 長 同 上	(～2003.8.10) (2003.9.22～)	
発掘調査担当者	指宿市教育委員会	教 育 次 長 同 上	(～2002.3.31) (2002.4.1～)	
		指宿市教育委員会	社 会 教 育 課 長 同 上	(～2002.3) (2002.4.1～)
	指宿市教育委員会	社 会 教 育 係 長 同 上	(～2003.3.31) (2003.4.1～)	
		派 遣 社 会 教 育 主 事 同 上	(～2003.3.31) (2003.4.1～)	
		社 会 教 育 係 主 事 同 上	(～2003.3.31)	
		文 化 係 長 同 上	(～2002.3.31) (2002.4.1～)	
		文 化 係 主 査 同 上	(～2003.3.31) (2002.4.1～)	
		同 上		
		文 化 係 主 事 補 (2003.4.1～)		
		発掘調査担当	文 化 係 主 査 同 上	(～2003.3.31)
			同 上	
			文 化 係 主 事	
			同 上	
		発掘調査指導者	平成13・14年度	文 化 庁 記 念 物 課 調 査 官
国 学 院 大 学 教 授	小 林 達 雄			
別 府 大 学 教 授	橋 昌 信			
岡 山 大 学 教 授	稲 田 孝 司			
東 京 大 学 助 教 授	佐 藤 宏 之			
鳥 取 環 境 大 学 助 教 授	浅 川 滋 男			
鹿 児 島 国 際 大 学 教 授	上 村 俊 雄			
鹿 児 島 国 際 大 学 教 授	中 園 聡			
鹿 児 島 県 教 育 委 員 会 文 化 財 産 文 化 財 主 事	井 上 秀 文			
鹿 児 島 県 立 郷 土 文 化 財 セ ン タ ー 調 査 課 長	新 東 晃 一			
鹿 児 島 県 立 郷 土 文 化 財 セ ン タ ー 文 化 財 主 事	宮 田 栄 二			
鹿 児 島 県 立 郷 土 文 化 財 セ ン タ ー 文 化 財 主 事	前 迫 亮 一			
糸 良 国 立 文 化 財 研 究 所	宮 路 淳 子			
京 京 農 工 大 学 大 学 院	須 永 薫 子			

第3章 発掘調査

第1節 調査区の設定

水迫遺跡は、平成5年度に鹿児島県が実施するサン・オーシャンリゾート開発に伴い、鹿児島県文化財課による分布調査が実施され、弥生時代等の土器片が表面採集された。そして、弥生時代の遺物散布地として周知化された。

平成8年度に、指宿市教育委員会が広域農道建設に伴う確認調査を実施し、その際、現在の第1調査区に設定した2ヶ所のトレンチから縄文時代早期の岩本土器、石斧などが出土し、縄文時代早期の遺物包含層が広域農道予定路の地下にあることが確認された。

平成11年度には、広域農道予定路内で買収が完了している地域に第1調査区と第2調査区を設定し発掘調査を実施した。道路予定地における工事区域の形態に沿って設定されたため、道路及び、交差点削切部分の発掘調査となっている。

平成12年度は、平成11年度調査成果に基づき、国庫・県費補助金を用いて次の調査区を設定し、後期旧石器時代の遺構群の広がりとその内容確認を目的とした確認調査を実施した。第1調査区の西側隣接地に西側拡張区を、第1調査区の北側に1トレンチと2トレンチを設定した。

合わせて、鹿児島耕植地事務所と委託契約を締結して、水迫遺跡の保存を目的として広域農道迂回路候補の確定のための遺跡の有無調査を実施した。その際に、3・4・5・6・7・8・9トレンチを設定した。

平成13年度には、第1調査区と西側拡張区の西側に後期旧石器時代の遺構群が広がっているかを目的として、11・12・13トレンチを設定して確認調査を実施した。

平成14年度には、前年度の11トレンチを南側に拡張して縦断調査を実施した。また、周知の遺跡の範囲内での最も西側に位置する所に14トレンチを設定して遺構群の広がりを目的とした確認調査を実施した。

11トレンチは、拡張し最終的には13×15の規模となり、縄文時代早期・草創期と第9層の遺物包含層の調査後、第10層上面で第9層等を埋土とする方形状の遺構と考えられるものを検出した。

12トレンチでは、弥生時代中期の遺物包含層と北側への傾斜面を確認した。その後、約6m以上の池田カルデラ噴出物層と二次堆積層を重機で除去し縄文時代と後期旧石器時代の遺物包含層の探査を行なった。

13トレンチと14トレンチでは、中世と弥生時代中期の遺物包含層を確認した。その後、段掘りを行いながら後期旧石器時代の遺物包含層の有無と遺構探査を行った。

(文責 鎌田)



Fig.4 各調査区の位置(1/2,000)

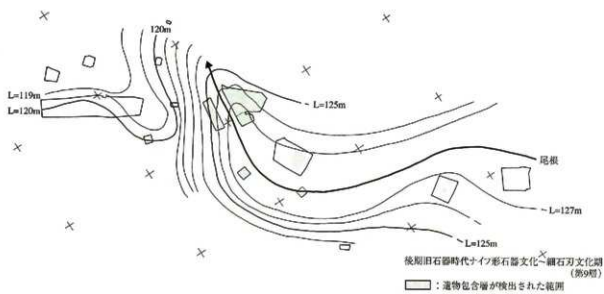
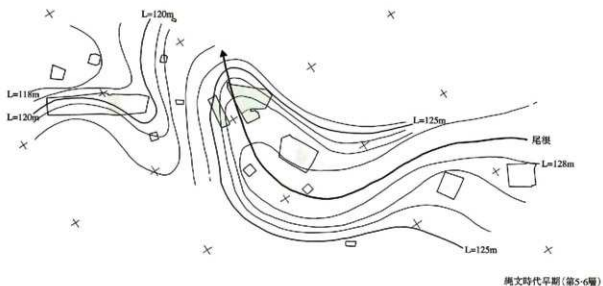
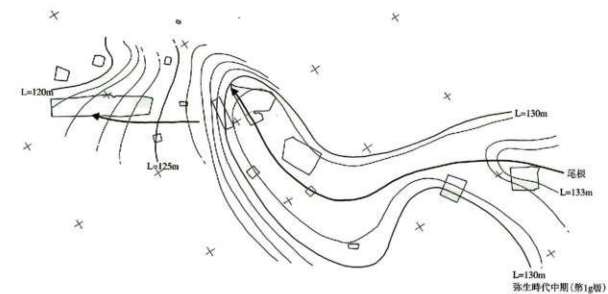


Fig.5 各時期の推定地形コンタ図(1/2,000)

第2節 基本層序

水迫遺跡の堆積層は、およそ5万年前に比定される清見岳の噴火に伴う噴出物堆積層をベースとしながら、おもに火山噴出物堆積層やローム層、そして、高所からの土砂供給や腐植土層の発達などの要因で堆積している。

清見岳の噴出物堆積層の下位についても、火山噴出物堆積層と腐植土層との互層となっているが、考古学的な遺物、遺構の確認は現在までに行われていない。したがって、ここでは、現地表面から清見岳噴出物堆積層までの層序について言及する。

(1) 火山噴出物堆積層の概要 (Tab.2)

指宿地方では、さまざまな火山の活動によって噴出物が供給されているため、鍵層として層序の対比に大きく貢献していると同時に、包含層のおよその年代を考えるために極めて有効である。層序において指宿市内で確認される火山活動の痕跡は、まず、清見岳火山の噴出物が知られている。これは、約4～5万年前に噴出したものと推定されているものであるが、その年代観についてはまだ課題が多いとされている。宿利原テフラと呼ばれる噴出物は、奥野らの研究によると、約3.7万年前とされる。このテフラは、一次堆積においては、フォール・ユニットが顕著であり、また硬化していることが特徴である。水迫遺跡の遺構は、この層ないしは、この層の上位に発達しているローム層に掘り込まれたものが多い。

指宿地方では、その後の堆積物で顕著なものは、始良カルデラの噴火に伴う噴出物であるが、これは、現在の標高で100メートルを超えるような場所では比較的薄く堆積しており、水迫遺跡では、厚くとも30センチメートル程度しか残存していない。始良カルデラの一連の火山活動に伴い、水迫遺跡では、大降降下軽石と考えられるユニットが確認され、その上に降下火山灰などが堆積している。始良カルデラの噴出物の年代観については、およそ2.4万年前とされているが、最近では、2.8万年前に修正される可能性がある。これに伴い、下位のテフラについても補正される可能性が高い。

さて、第9層の細石器文化期における噴出物堆積層のうち、後期旧石器時代に該当すると考えられている火山噴出物堆積層では、岩本火山灰とよばれるテフラが知られている。このテフラは比較的ローカルなテフラであると考えられる。指宿市岩本遺跡の発掘調査において注意された層序であり、現在、その給源など不明な部分があるものの、後期旧石器における編年研究などに有意となると考えられるものである。ただし、水迫遺跡では、その堆積状況は、谷部分などでは比較的厚く、顕著に堆積しているが、遺構が検出された尾根上においてはさきわめてルーズな堆積状況が看取され、遺物の弁別には至っていない。今回、この岩本火山灰のテフラとしての特性については水迫Ⅰの附属で述べられているのでここでは詳述しない。

岩本火山灰の上位で観察されるテフラでは、桜島を給源とするいわゆるサツマ火山灰 (P14,Sz-Sr) と呼ばれているものがあるが、指宿市はその分布の外縁に位置すると考えられ、堆積状況は必ずしも良好ではないがこのテフラによって供給された降下軽石がルーズな堆積状況で認められる。これがおよそ11,400yBP頃と考えられている。

サツマ火山灰の上位では、いわゆるアカホヤと呼ばれる鬼界カルデラの噴火に伴うテフラが認められる。水迫遺跡は火砕流範囲であり、その下半部分では、幸屋火砕流が認められ、その上半部分は、降下テフラとなっている。この年代観については、従来6,400yBPと考えられてきたが、近年の計測データでは、さらに古いデータが求められていることから、実年代観については暫定的なものになりつつある。

アカホヤの直上層は、霧食土壌が発達しているが、その上位では、池田カルデラの噴火に伴う火山噴出物堆積層が厚く堆積する。水迫遺跡では、池田カルデラの噴火に伴う噴出物の堆積によって、大きく地形が変化している。池田カルデラの噴出物は、大きく3つのステージがあることが知られている。初期のマグマ水蒸気爆発に伴うベースサージ、そして、降下軽石、そして降下火山灰である。特に、給源に近い水迫遺跡では、降下火山灰の堆積厚が谷部では5メートルに達する場所もあり、付近の地形的な景観を大きく改変するほどの状況であったと考えられるものである。この一連の火山活動に伴う噴出物堆積層の形成時期については、直下の炭化物からおよそ5,500yBP頃のデータが得られている。

池田カルデラの活動の収束後には、開閉岳の活動が開始したと考えられ、指宿では、大きく5回の活動履歴を示す火山噴出物堆積層が認められる。縄文時代後期の指宿式土器を被覆していたことで知られる噴火のステージ。そして縄文時代晩期の土器が直上、直下から認められたステージ、そして、山之道遺跡で、弥生時代中期の土器を直接被覆していた事で知られる噴火のステージ、そして、7世紀前半期のスコリアを堆積させ、その後7世紀第4四半期の須恵器を直接被覆していた一連の火山活動のステージ、そして最後のステージは、「日本三代実録」に記載のある貞観十六年三月四日 (旧暦) 及び、仁和元年に発生した噴火のステージである。

開閉岳は、指宿から直線距離にして10Km程度あり、比較的給源から遠いこともあり、堆積物のほとんどはエア・フォールによるものであるため、指宿市でも地形的あるいは地形的に残存する場所と現在までに欠失して残存していない場所が認められる。水迫遺跡では、開閉岳噴出物は、弥生時代該当期の堆積物、7世紀第4四半期該当の堆積物が認められる。他の開閉岳の噴出物堆積層については、今回の調査トレンチでは欠失していた。

Layers Number	Layer Symbol	Name of layers	Soil colors of Horvath's chroma ¹⁰	Inclusions	Other soil bases	Factors of accumulation	Containing relics
		層名称	色相群	包含物	その他の土層	形成要因	遺物
第7層	No.1	a 赤土(arenaceous soil)	7.5YR3/3,10YR1/4	—	—	Primary soil	—
		b 中炭灰白土層(Black band of the medieval Age)	10Y2/3	—	—	Human	—
1140yBP	c	常つ大土灰(Tephra from Kaimondake 'No-kura')	10R0/1-4/1	—	Harder	Ash fall from Kaimondake	—
	d	灰褐色土層(Greyish brown layer)	2.5YR10/2-3/2	—	Silty clay	Secondary and loamy, and Human	—
2000yBP	e	暗赤つ大土灰(Tephra from Kaimondake 'Andō-kura')	10YR3/4-3/5	—	Harder	Ash fall from Kaimondake	—
	f	暗色土層(Dark reddish brown layer)	10YR4/4,6	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
	g	灰黄褐色土層(Greyish yellow brown layer)	10YR4/2-4/3	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	古土時代の遺物(Debris of the middle of Yayoi period)
	h	暗褐色土層(Dark brown layer)	10YR3/2	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
	i	暗褐色土層(Dark brown layer)	10YR3/4	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
	j	暗色土層(Brown layer)	10YR4/2	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	縄文時代早期遺物(Debris of the middle Jomon period)
	k	チープ暗色土層(Olive brown layer)	2.5Y4/5	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
	l	黄褐色土層(Yellowish brown layer)	10YR5/6-5/6	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
	m	黄褐色土層(Yellowish brown layer)	10YR5/6	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
	n	こびり暗褐色土層(Dark brown layer)	2.5YR4/1-4/6	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
	o	暗赤褐色土層(Dark reddish brown layer)	2.5YR3/2-3/3	Fluvial from the Ikida	—	Secondary and loamy, and Human	—
第8層	No.2	a 炭灰層(大土灰)二次堆積物(Secondary ash layer)	10YR4/2,7.5YR3/1	Fluvial from the Ikida	—	Secondary accumulation of ash from Ikida	—
2000yBP	b	炭灰層(大土灰)下層(大土灰堆積物)(atafa fall ash (Lower in Pyramidal-form))	7.5YR4/1,7.5YR5/7,3.5YR5/6	—	Micro-budding	Ash fall	—
	c	炭灰層(下層)暗褐色土層(Black positive fall)	10YR7/6,7.5YR3/5	—	Fluvial only	Fluvial fall from Ikida	—
	d	炭灰層(大土灰)塊(atafa ash fall)	10YR3/4	Onagat Sarcia	—	Ash fall	—
第9層	No.3	a 灰色腐葉土層(Black human layer)	10YR3/1	Based on the ash of Ah	—	Human	—
第10層	No.4	a アサキ大土灰(Ah)(Akakage ash layer)	10YR4/1-1/5	Small pebble	Loosely bedding	Ash fall from the Kikui	—
6000yBP	b	赤土層(赤土)赤土層(arenaceous-flow)	10YR4/2	赤土層(赤土)赤土層(arenaceous-flow from Kikui)	—	—	—
	c	暗土層(暗土)暗土層(arenaceous fall layer)	10YR5/2,4/3	—	—	Reddish positive fall from Kikui	—
第11層	No.5	a 褐色土層(Brown)	7.5YR4/1	—	—	Human	縄文時代早期遺物(Debris and other relics of the early Jomon period)
第12層	No.6	a 褐色土層(Brown)	7.5YR4/2,3/1	—	—	Human	縄文時代早期遺物(Debris and other relics of the early Jomon period)
第13層	No.7	a 暗褐色土層(Dark brown layer)	10YR3/2	Substratum positive/Flint, Human, Loamy accumulation	—	Human	縄文時代早期遺物(Debris and other relics of the early Jomon period)
1140yBP							
第14層	No.8	a 暗色土層(Black layer)	7.5YR2/2	—	—	Mineral and Human	—
第15層	No.9	a 暗褐色土層(Dark brownish black layer)	7.5YR2/2-2/2	Ironstone, siliceous concretions, block of AT or Yabuchi loam	Loosely accumulation	Mineral and Human	縄文時代早期遺物・遺物(Debris of the Palaeolithic period)(Blackhead Archaic, Transvaal, Micro-core, Micro-heads, Scrapers, and axes)
13000-12000yBP							
第16層	No.10	a 暗色腐葉土層(Black layer)	7.5YR3/1	Block of AT or Yabuchi loam	Silty clay	Mineral and Human	縄文時代早期遺物(Debris of the Palaeolithic period) / Scrapers
	b	第10a, 11層を形成する土層(Mixture of the 10a and 11b layer with a dark brown color)	7.5YR3/2,3/4	Block of AT or Yabuchi loam	Silty clay	Mineral and Human	縄文時代早期遺物(Debris of the Palaeolithic period) / Scrapers
第11層	No.11	a 腐葉土層(腐葉土)腐葉土層(AT)/AT	7.5YR4/1	—	—	Primary AT	—
2400yBP	b	大土灰層(大土灰)二次堆積物(Secondary layer of Onagat positive)	7.5YR4/1	—	—	Secondary Onagat positive	—
	c	大土灰層(大土灰)腐葉土層(Onagat positive layer)	7.5YR5/6	—	—	Secondary Onagat positive	—
第12層	No.12	a 暗褐色土層(Dark brown layer)	7.5YR3/4-3/2	—	—	Silty clay	Secondary and loamy of the ash from the Yabuchi tephra, and Human
第13層	No.13	a 暗色土層(Brown layer)	7.5YR4/1,3/1	—	—	Silty clay	Secondary and loamy of the ash from the Yabuchi tephra, and Human
第14層	No.14	a 腐葉土層(腐葉土)腐葉土層(Loamy layer of Yabuchi ash with a brown color)	7.5YR4/1	—	—	Secondary and loamy of the ash from the Yabuchi tephra	—
第15層	No.15	a 腐葉土層(腐葉土)腐葉土層(Loamy ash fall layer)	10YR4/6,10YR5/4,2.5Y5/4	—	—	Micro-budding, Harder	Ash fall of the Yabuchi
27000yBP							
第16層	No.16	a 腐葉土層(腐葉土)腐葉土層(Loamy layer of Kiyomizake fall ash with a brown color)	7.5YR4/1,6,5/6	—	—	Loamy layer of the Kiyomizake ash	—
第17層	No.17	a 腐葉土層(腐葉土)腐葉土層(Kiyomizake fall ash layer)	10YR3/2,10YR4/6,7.5YR4/2,7.5YR3/2	—	—	Micro-budding, Harder	Ash fall of the Kiyomizake
6000-3000yBP							
第18層	No.18	a 腐葉土層(腐葉土)腐葉土層(Kiyomizake)	—	—	—	Rock	Lava of Kiyomizake
第19層	No.19	a 瓦下土層(瓦下土)瓦下土層(Uncovered)	—	—	—	Uncovered segments	—

※この表にはF15土色表記は、調査時にF15土層から採取されたF15土層のみであり、F15層平均的な土色表記はなされていない。
 ※In this Table, the numbers of the Munsell's color chart was measured by SCR-1 (Datsil Co. Co., Ltd).

※ [] These marked places were tephra.

Tab.2 水迫遺跡の基本層序

(2) 水迫遺跡標準土層 (Tab.2)

各調査区において堆積層は、微地形の特質に応じて層の堆積状況は異なるが、水迫遺跡のこれまでの発掘調査で認識した土層について次に包括的に記述する。

- 第1層 a 現代耕作土である。
- 第1層 b 中世黒色帯と呼ばれる指宿市内一円に認められる土層で、12世紀以降の遺物を包含しているものと一致する。水迫遺跡では出土遺物はなかった。
- 第1層 c 青コラと一般に呼ばれる開聞岳の7世紀第4四半期に該当するテフラである。水迫遺跡では、スコリアは認められず、降下火山灰がルーズなユニットを形成しながら堆積する。
- 第1層 d 明褐色の粘性の高い土層で、一般には、古墳時代の遺物を包含する土層であるが、水迫遺跡では遺物は認められていない。
- 第1層 e 暗紫コラと一般に呼ばれる開聞岳の弥生中期に該当するテフラである。山之口式土器を被覆することで知られている。水迫遺跡ではこのテフラの直下層から山之口式土器は出土していない。この層は岩片やスコリアによりざらざらとした堆積状況で、フォールユニットは不明瞭である。
- 第1層 f 本層は、暗紫コラ直下の層であり、本来的には、山之口遺跡出土資料該当期の資料が包含される時期のものであると想定する。しかし、水迫遺跡においては遺物は出土していない。
- 第1層 g 弥生時代中期に該当する層であるが、山之口遺跡の出土資料が暗紫コラに直接被覆されていたものであるのに対し、本層の土器資料は、第1層 f という間層を挟んで下位から出土している資料であり、時間的に若干古いものであるといえる。この層は、下位の地層の土壌供給によって生成したものと考えられ、池田カルデラを給源とする降下軽石の砕片が土壌中に混入する。しかし、この層中では遺物の上下移動がほとんど見られず、ほぼ一定範囲に収まる垂直分布を見せることや、直下の層が擾乱を受けていないことから、これらの軽石は、土層の生成過程において、付近の高所からの急激ではない土壌供給によるものと考えられ、直下の池田降下軽石層の軽石が攪乱等の理由によってこの層にもたらされたものではない。
- 第1層 h 池田降下軽石砕片を含む、やや粘土質の土壌で、土壌中の礫の量は第1層 f、g に比べて少ない。無遺物層である。
- 第1層 i 第1層 h とほぼ同じ土壌性状を有するが、本層のほうがやや暗い色調を呈している。無遺物層である。
- 第1層 j 第1層 i に比べ、やや明るい褐色を呈する土壌で、やはり、池田降下軽石砕片が含まれる。この層からは、縄文時代中期に該当すると考えられる土器が少量出土している。第1層 h から第1層 o までは、池田降下火山灰が侵食され形成された谷地形に局部的に堆積した層準であり、縄文時代中期には、池田カルデラの活動および、その直後の浸食作用によって形成された谷地形が高所などからの土壌供給によって、埋没していく過程の生成層であると認められる。
- 第1層 k この層も、池田カルデラの噴出物が侵食された谷地形が埋没していく過程の土層である。池田降下軽石砕片を含む、土質は細くなり、池田降下火山灰などのほぼ均質な性状となる。無遺物層である。
- 第1層 l 第1層 l、m とともに黄褐色の土層で、明るい色調を呈する。土質は、池田降下火山灰の性状に近くなり、やや明るい土色を呈するようになる。本層では池田降下軽石砕片を含む。無遺物層である。
- 第1層 m 第1層 l とほぼ同様の土壌性状を有するが、池田降下軽石砕片がほとんど含まれない。無遺物層である。
- 第1層 n 直上層よりも赤みが強く、褐鉄の吸着痕跡も若干認められる。粘性が強く、土壌性状は、池田降下火山灰に近い。無遺物層である。
- 第1層 o 池田降下火山灰が堆積し、やや土壌の移動が安定した後発達した腐植土層であると考えられる。土壌性状は第1層 n に近いが、黒みが強い。無遺物層である。
- 第2層 a 池田降下火山灰二次堆積層であり、一次堆積層である池田降下火山灰が降下した直後の地形の安定に伴う堆積層であると考えられ、腐植化が進んでいない段階のものであることがわかる。土壌性状は、池田降下火山灰とはほぼ等しく、池田降下軽石をほとんど含んでいない。池田降下火山灰は、極めて厚く、水迫遺跡周辺では、薄くとも1.5メートルを超えることから、池田降下火山灰が堆積した後の地形が侵食などによって安定化するまでの期間においては、この降下火山灰が主な供給土層であったことが想定できる。
- 第2層 b 池田降下火山灰である。内眼により層を観察すると白色やピンク、褐色などのフォールユニットが認められる。また、第2層 c の直上付近では、カーボンが認められることから、降下火山灰に先立ち、火砕流などの熱を有する堆積形態が想定できる。この層の堆積厚は給源に近いこともあり、1～4メートルの堆積厚が認められる。この層は、旧地形に対して影響を与えたと考えられる。
- 第2層 c 池田降下軽石である。粒径が5センチメートル程度の軽石が約50センチメートル程度堆積しており、軽石と火山灰の混在状況を呈している。

- 第2層 d 池田カケラの初期の噴出物の堆積層である。池崎火山灰とよばれるこの層中には、尾下スコリアと呼ばれる礫が混在し、粒径の大きい礫については、10センチメートル程度も下層に突き刺ささり、直下の土層に影響を受け歪曲した構造が認められる。
- 第3層 本層は、アカホヤ火山灰をベースとして生成された腐植土壌の堆積層であり、アカホヤ火山灰の上位から色調変化が漸移し、黒色に至る。土壌性状は、色調以外はアカホヤ火山灰と大きく異ならないが、やや粘質である。無遺物層である。
- 第4層 a アカホヤ火山灰である。軽石細片を含み、フォールユニットは極めてルーズな状態で認められる。下部には、異質の砂質の薄い層が認められる。
- 第4層 b 幸屋火砕流である。軽石細片で構成されるもので、粒径は3ミリメートル程度である。
- 第4層 c 1～2ミリメートルの軽石石片が薄く堆積している。これは、第4層 b と一連の堆積状況を示しているが、色はやや白みが強く、初期のステージの堆積物の可能性がある。
- 第5層 明るい褐色を呈する層で、縄文時代早期前半の岩本式土器を包含する。本層と第6層は基本的に土壌性状は似ているが、本層の場合、上半部分に第4層 c の微細な軽石細片が混在している。また、第6層の場合、植物の地下茎の生育痕跡に由来すると考えられる、鉄ないしはマンガンなどの成分と考えられる無機分の吸着が認められることから、やや暗い色調になっている。
- 第6層 第5層と比較し、やや黒みが強い土層で、縄文時代早期前半に該当する岩本式土器を包含する。縄文時代早期の遺構については、本層に帰属するものが多い。
- 第7層 本層は、サツマ火山灰と呼ばれるテフラのうち、褐色の特徴的な色調を呈する降下軽石が極めてルーズな状態で混在している。本層は、上下の地層とは土壌性状が明らかに異なり、硬く硬化しているうえ、黒みが極めて強い。本層からは、縄文時代草創期に該当する隆帯文土器、水迫式土器とそれに伴う遺物が出土しており、また、遺構も多く認められる。本層では、サツマ火山灰がマーカーとして包含されているため、下位の層準に掘り込む遺構が本層の該当期に構築されたものであることが、サツマ火山灰の軽石細片の有無や、本層のブロックなどが入り込むため識別できる。サツマ火山灰は、鹿兒島湾奥部を中心として火砕流エリアが認められているが、本水迫遺跡付近は、その縁辺部として位置付けられる。確認調査地点によって、降下軽石層とやや硬く引き締まった火山灰層に細分できる地点もあり、第7層 a・第7層 b と細分を行なっている。
- 第8層 本層は黒褐色を呈する土層で、第9層よりも黒みの強い土層である。極めて薄く、谷部における傾斜面では、比較的厚く堆積しているが、尾根頂部付近の平坦面では欠失しているところもある。遺物は明確な人為物の出土はない。若干、黒曜石の薄片などが若干出土しているが2点程度であり、本層が遺物等を包含するいわゆる文化層と認めることが困難である。第8層は上下層の第7層と第9層との混在層が認められる調査区もあり、その場合は第8層の細分を行い、出土遺物の帰属層別に留意した。
- 第9層 本層は、後期旧石器時代の細石器文化期に該当する遺物を包含する層で、第10層、第8層と比較し、第9層は明るい色を呈しており、土壌中には、白色の粒子を多く含む。この白色の粒子は、いわゆる岩本火山灰と呼ばれる火山噴出物の構成物であり、その粒子中には角閃石を含む。岩本火山灰が認識されたのは、指宿市岩本遺跡の発掘調査においてである。このテフラは、比較的ローカルに分布するものと考えられている。さて、このテフラは、第9層において混在している状況であるが、第9層の中央付近にルーズであるがピークが認められる。このテフラは、将来的には、第9層が包含する細石器文化期を細分する上で有意なテフラとされるものと思われる。ところで、第9層の土壌特性は、他の層準には認められないものであり、たとえば、第9層の時期に掘り込まれた遺構であれば、その遺構を埋めた埋土は第9層の土壌的な性状を有するであろう。このように、第9層の特に白色粒の存在は、土壌そのものの性状と合わせて遺構などの構築に伴う攪乱のマーカーとして機能することが考えられる。第9層には、さらに、色がうすいブロックが「斑」状に混在している。第9層の生成段階ですでに混在しているこれらの混在物が遺構構築に伴い人為的にカットされるなどの痕跡も残ることが予想されるなど、これらの混在物もまた、遺構などの探索において有効なマーカーとして機能すると考えられる。第9層に包含されている石器類は、黒曜石を素材とした小形な野岳・休場型細石核、細石刃と、頁岩等を主体的に素材として用いるナイフ形石器と台形形器などである。出土石器の形態と出土層位から、九州におけるナイフ形石器文化終末から細石刃分化初期にかけての石器群と考えられる。第9層中位に普遍的に点在する岩本火山灰や白色粒を考慮し、かつ、細石核とナイフ形石器・台形形器の出土分布状況から分離・分層を試みたが、明確にはできなかった。
- 第10層 a 第10層 a と第10層 b は基本的に同質土壌性状を有するが、第10層 b のほうが、より A T や宿利原テフラのブロックを多く含むことから暫定的に分層した。第10層の生成段階では、斜面部分では、A T が、尾根頂部では宿利原テフラが露出していた状態であり、第10層が生成されたものと思量する。本層では、後期旧石器時代の遺物が確認されている。主要なものとしては、ナイフ形石器・台形形器・三稜尖頭器・楕尖頭器などである。いわゆる A T 上位のナイフ形石器文化で確認できる薄片尖頭器は

出土していないことから、九州におけるナイフ形石器文化においても剥片尖頭器が消滅し三稜尖頭器も小型化しているものが主体を占める時期の石器群と考えられる。

- 第10層 b 第10層 bは、第10層 a とほぼ同様の土壌性状を有するが、A T や宿利原テフラのブロックがより多く含まれることから分層した。しかし、第10層 a と第10層 b の包含する遺物の時期差を明確に言及できるほどの明瞭な性状差はない。遺物量は少なく、スクレーパーや剥片が若干出土している。A T や宿利原テフラのルームからの漸移的な変化をたどることができることから、これらルームの腐植土壌化が進んだ時期に生成された層準であると考えられる。
- 第11層 a 本層はA T (始良・丹沢火山灰) と呼ばれる広域に分布するテフラの堆積層である。本遺跡では、ほぼ10センチメートル程度の厚みがあり、硬化している。本層の上位では、ややルーム化しているが、極めて薄く、すぐに第10層に移行する。
- 第11層 b 本層は大隅降下軽石と呼ばれる降下軽石堆積層の二次堆積層または、第11層 c の一連のユニットとして考えられるものであるが、色調が第11層 b の場合、やや赤色が強い分層した。
- 第11層 c 本層は、大隅降下軽石と呼ばれる降下軽石堆積層で、粒径3～5ミリメートル程度の軽石細片が堆積したものである。
- 第12層 本層は、暗褐色の高腐植土壌であるが、そのベースとなっているのは、宿利原テフラであると考えられ、宿利原テフラの構成物である火山ガラスや岩片を含む。後期旧石器時代の遺物を含み、スクレーパーなどの資料が若干得られている。
- 第13層 基本的に第12層と同様の土壌性状であるが、後期旧石器時代の遺物をより多く含む。第12層と本層とを比較すると、本層は遺物量が少ないため、本来的には、第13層が文化層として存在し、その再堆積の過程で、第12層に遺物が混在した可能性もある。このように考えると、第12層と第13層の遺物を積極的に時期差として捉えることには躊躇しなければならない。ところで本層の下半部分は、宿利原テフラのルーム層ブロックの包含状況が漸移的に少なくなる傾向は、第11層 a と第11層 b の状況に類似していることから、このようなテフラのルーム層が腐植土壌化していく過程において同様の現象が見られることは興味深い。
- 第14層 本層は、宿利原火山灰を起源とするルーム層で粘性が高い。遺物はこの中からは得られていない。
- 第15層 宿利原火山灰の一次堆積物である。さまざまな噴出物が互層をなしてユニットを形成しているが、その上部においては細粒の火山灰のマイクロベディングが認められ、硬化している。
- 第16層 本層は清見岳火山灰のルーム層であり、遺物は得られていない。
- 第17層 清見岳を給源とするテフラで、青灰色をした火山灰が厚く堆積する。非常に固結している。
- 第18層 第17層と同様に、清見岳を給源とする溶岩であり、噴出源に近いため供給されたものと考えられる。
- 第19層 第18層以下において、テフラ、腐植土などが互層になっている状況が認められるが、現在、テフラマンパーの研究については途上である。考古学的な資料も現在のところ得られていない。

(『水迫遺跡Ⅱ』より転載・一部改変)

第3節 12トレンチの調査

遺跡の広がりを確認するために、第I調査区の西側、約85mの地点に5×10mのトレンチを1箇所設定し、確認調査を実施した。

本地点では、第2層の堆積が5mと厚く、第5層検出時点で、現地表下約7mに達していたため、第5層途中までの調査にとどめ、記録措置後、埋め戻し、原状に復した。



PL3 12トレンチ完掘状況写真(南側より)

(1) 層位 (Fig.8・9)

確認調査の結果、第1層g、第2層a～e、第3層、第4層、第5層を確認した。第2層上面は、南側から北側に向けて傾斜しているため、その後に堆積した上位層も同様の堆積状況を示す。しかしながら、第3層以前は、概ね水平堆積を示しており、旧地形と現況地形とが大きく異なることが確認できた。鬼界カルデラ噴出物の第4層は、層厚約30cmで、第5層を直接被覆している。第5層は、縄文時代早期該当の層であるが、本地点から遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 遺構 (Fig.9)

①第1層bの遺構

北側壁面において、第1層bを埋土とする土坑2基を確認した。土坑1は、断面で確認した範囲では、上幅75cm、下幅50cm、深さ22+ α cmを測り、断面形態は台形を呈する。立ち上がりは、第1a直下まで延びるが、埋土は、第1bのみで、第1bの上部が削平されているものと考えられる。

土坑2は、断面で確認した範囲では、上幅100cm、下幅70cm、深さ30cm前後を測り、断面形態は台形を呈し、切り合いが見られる。埋土から、いずれも中世の時期のものと考えられる。確認した範囲では、埋土中に見られなかった。

②第1層eの遺構

同じく、北側壁面において、第1層eを埋土とするピット1基を確認した。ピットは、第1層gから第2層aに対して掘り込まれ、埋土中には、第1層e(暗紫コラ)のブロックが混在していた。確認した範囲では、上幅20cm、下幅8cm、深さ50+ α cmを測る。埋土から、弥生時代中期に帰属するものと考えられる。(文責 渡部)

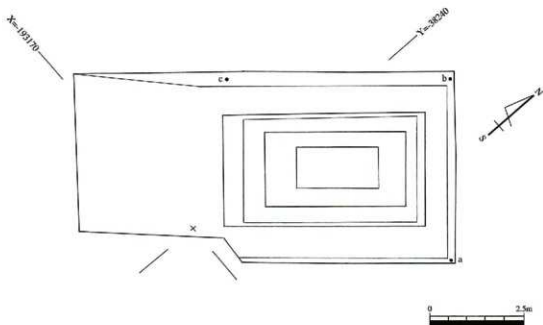


Fig.7 12トレンチ完掘状況図(S=1/100)

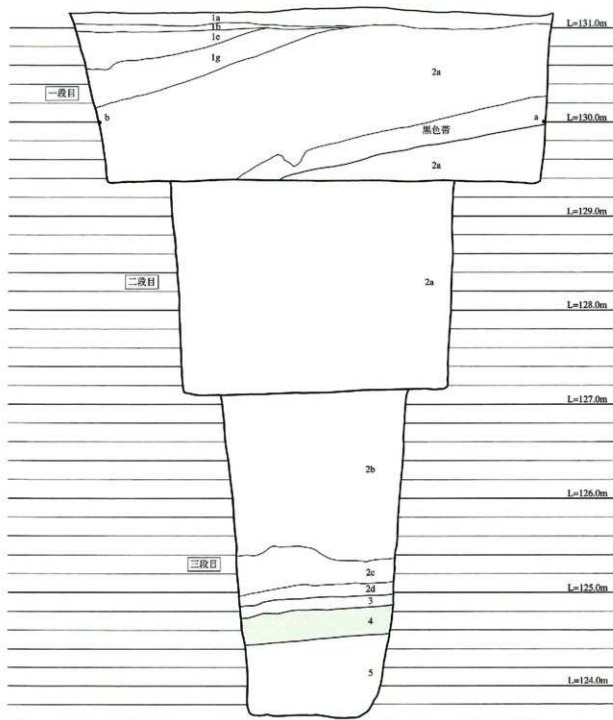


Fig.8 12トレンチ東壁層位断面図(S=1/40)

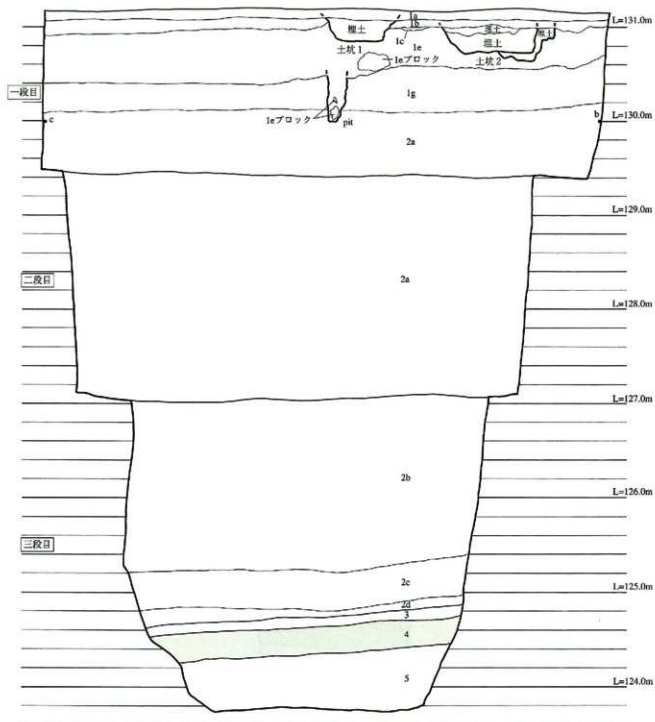


Fig.9 12トレンチ北壁層位断面図(S=1/40)



Pl.4 12トレンチ第1層g出土遺物状況写真(北側より)



Pl.5 12トレンチ東壁層位断面(一段目)状況写真①



Pl.6 12トレンチ北壁層位断面(二・三段目)状況写真①



Pl.7 12トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真②

(3) 遺物 (Fig.11)

本地点では、第1層gから、弥生時代中期に該当すると思われる合計65点の遺物が出土した。遺物の種類別の内訳は土器61点、石器2点、礫2点である。

遺物は、旧地形の傾斜面に散在した状況で出土した。いずれも破片資料である。以下、図化した4点について報告する。

No.1は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部端部が窪み、断面形態は、わずかに丸みを帯びる。口縁部は、若干外上がりには上げられている。器面内面には、工具によるナデの痕跡を確認できる。

No.2は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、端部が丸みを帯びるT字状を呈し、外上がりに仕上げられている。器面内面には、ユビオサエの痕跡を確認できる。

No.3は、甕形土器、もしくは鉢形土器の底部の破片である。復元底径は、8.1cmを計る。底部は平底である。器面外面には、一部ユビオサエの痕跡を確認できる。

No.4は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、9cmを計る。底部は平底になるものと思われる。

(文責 渡部)

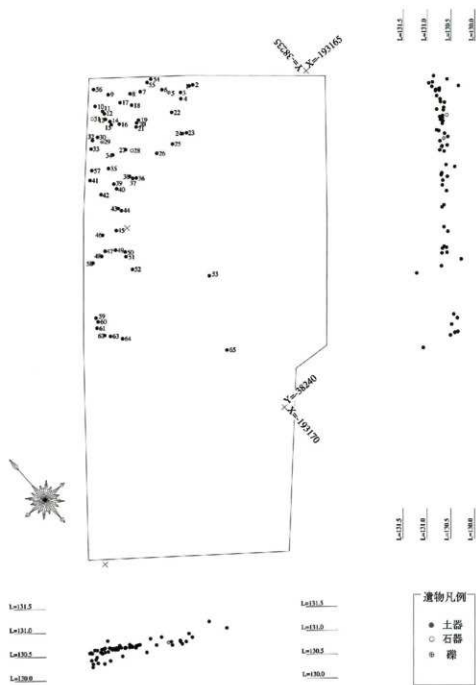
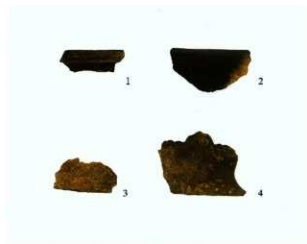
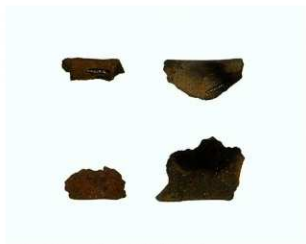


Fig.10 12トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)



Pl.8 12トレンチ出土土器写真(外面)



Pl.9 12トレンチ出土土器写真(内面)

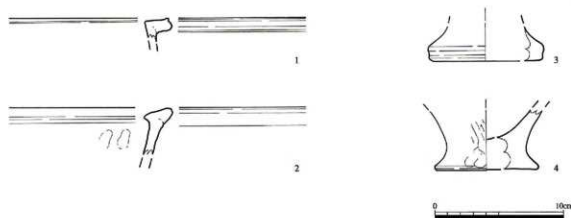


Fig.11 12トレンチ出土土器実測図(S=1/3)

図番 No.	取上げ No.	器 種	残存長さ(cm)	形状	色 外	色 内	色 底	色 底	土 質	胎土数	胎土材	備 考	その他	出土 部位	量 合
1	32	壺形土器	破片	口縁部	75YR7/3 SP3/1	75YR5/4	SP4/1	75YR4/3	細砂粒を若干含む	黒・セ・ 白・黄・黒	内・工具に2層のナメの 外・ナメ 口縁・コナテ	傾斜破片	1g		
2	42	壺形土器	破片	口縁部	75YR3/1 75YR2/1	75YR6/4 10GY9/1	5YR5/3 75YR4/2 10YR3/2	口縁	赤褐色をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	黒・セ・ 白・黄・黒	内・ナメ一部に2層の 外・ナメ 口縁・コナテ	傾斜破片	1g		
3	43	壺形土器	破片 1/3残存 復元図見 9	胴部	5YR5/4	—	25YR4/4	底	赤褐色をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を多く含む	黒・セ・白・ 黄・黒	外・ナメ コナテ 底・ナメ	片断	1g		
4	12	壺形土器 or 鉢形土器	破片 1/3残存 復元図見 8,1	胴部	75YR4/2 10YR4/2	75YR3/1	25Y4/1	底	赤褐色をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	黒・セ・ 白・黄・黒	内・ナメ 外・工具に2層の のりナメ 一部に2層の ナメ一部に2層のナメ コナテ 底・ナメ	片断	1g		

Tab.3 12トレンチ出土土器観察表

取上 番号	器類 番号	用途	部位	種類	部位・器名	材質	容積率 (×10 ⁻⁴ SI)	径長さ (cm)	径深幅 (cm)	径厚 (cm)	重量 (g)	X線探	Y線探	Z線探	結合	同一 器類	備考
1		1g	土器	甕形土器内帯磁片	-						-193163.619	-8237.051	130.968				
2		1g	土器	磁片	-						-193163.649	-8236.983	130.892				
3		1g	土器	胴部片	-						-193163.601	-8237.279	130.834				
4		1g	土器	磁片	-						-193163.704	-8237.360	130.802				
5		1g	磁	甕	安山岩	42.6	71.7	44	29.7	80	-193163.439	-8237.464	130.785				
6		1g	土器	磁片	-						-193163.300	-8237.534	130.902				
7		1g	土器	磁片	-						-193163.031	-8237.904	130.744				
8		1g	土器	胴部片	-						-193162.923	-8238.092	130.749				
9		1g	土器	口縁部片	-						-193162.634	-8238.430	130.828				
10		1g	土器	磁片	-						-193162.638	-8238.817	130.637				
11		1g	土器	胴部片	-						-193162.818	-8238.771	130.654				
12	4	○	1g	土器	甕形土器 or 甕形土器底磁片	-					-193162.883	-8238.773	130.661				
13		1g	土器	磁片	-						-193162.986	-8238.837	130.677				
14		1g	土器	磁片	-						-193163.084	-8238.793	130.680				
15		1g	土器	磁片	-						-193163.151	-8238.816	130.673				
16		1g	土器	突帯部片	-						-193163.256	-8238.682	130.686				
17		1g	土器	磁片	-						-193162.923	-8238.374	130.731				
18		1g	土器	磁片	-						-193163.125	-8238.226	130.721				
19		1g	土器	磁片	-						-193163.456	-8238.323	130.735				
20		1g	土器	磁片	-						-193163.473	-8238.391	130.725				
21		1g	土器	甕形土器内帯磁片	-						-193163.530	-8238.458	130.682				
22		1g	土器	磁片	-						-193163.791	-8237.694	130.800				
23		1g	土器	磁片	-						-193164.321	-8237.743	130.801				
24		1g	土器	磁片	-						-193164.277	-8237.817	130.756				
25		1g	土器	胴部片	-						-193164.303	-8238.118	130.732				
26		1g	土器	甕形土器内帯磁片	-						-193164.232	-8238.495	130.735				
27		1g	土器	磁片	-						-193163.742	-8238.937	130.688				
28		1g	石器	調整用片	頁岩	0.8	22.2	18.2	3.6	1.47	-193163.844	-8238.849	130.697				
29		1g	磁	甕	磁石	21.6	62.4	46.5	36.1	36.87	-193163.299	-8239.201	130.651				
30		1g	土器	磁片	-						-193163.159	-8239.307	130.634				
31		1g	石器	石版	頁岩	0.6	21.1	13.7	2.2	0.61	-193162.797	-8239.057	130.588				
32	1	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193163.142	-8238.331	130.566				
33		1g	土器	胴部片	-						-193163.257	-8239.471	130.577				

Tab.4 12トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	表層	層位	種類	部位・器種名	材質	帯幅中 (×10-4.5)	決量長 (mm)	決量幅 (mm)	決量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	整合	同一 個体	備考
34			1g	土器	破片	-						-193163.650	-38239.211	130.643			
35			1g	土器	破片	-						-193163.804	-38239.667	130.601			
36			1g	土器	破片	-						-193164.338	-38239.180	130.703			
37			1g	土器	破片	-						-193164.295	-38239.220	130.705			
38			1g	土器	破片	-						-193164.223	-38239.242	130.692			
39			1g	土器	破片	-						-193164.123	-38239.587	130.671			
40			1g	土器	破片	-						-193164.237	-38239.619	130.681			
41			1g	土器	胴部片	-						-193163.738	-38239.923	130.574			
42			1g	土器	底部土器尖唇破片	-						-193164.113	-38239.946	130.591			
43			1g	土器	破片	-						-193164.370	-38239.868	130.647			
44			1g	土器	破片	-						-193164.648	-38239.846	130.687			
45			1g	土器	破片	-						-193164.889	-38240.253	130.646			
46			1g	土器	破片	-						-193164.775	-38240.483	130.583			
47			1g	土器	胴部片	-						-193165.062	-38240.664	130.592			
48			1g	土器	破片	-						-193165.096	-38240.788	130.580			
49			1g	土器	破片	-						-193165.189	-38240.486	130.643			
50			1g	土器	口縁部片	-						-193165.351	-38240.359	130.676			
51			1g	土器	破片	-						-193165.436	-38240.412	130.688			
52			1g	土器	尖唇部片	-						-193165.728	-38240.485	130.697			
53			1g	土器	胴部片	-						-193166.890	-38239.362	131.216			
54			1g	土器	胴部片	-						-193162.979	-38237.564	130.868			
55			1g	土器	破片	-						-193162.980	-38237.667	130.584			
56			1g	土器	破片	-						-193162.351	-38238.610	130.345			
57			1g	土器	胴部片	-						-193163.606	-38239.759	130.420			
58			1g	土器	破片	-						-193165.081	-38241.019	130.282			
59			1g	土器	底部土器尖唇破片	-						-193166.990	-38241.733	130.438			
60			1g	土器	胴部片	-						-193166.078	-38241.752	130.364			
61			1g	土器	破片	-						-193166.164	-38241.858	130.484			
62	2	○	1g	土器	底部土器口縁部片	-						-193166.383	-38241.835	130.352			
63	3	○	1g	土器	底部土器尖唇部片	-						-193166.476	-38241.754	130.414			
64			1g	土器	破片	-						-193166.681	-38241.600	130.508			
65			1g	土器	破片	-						-193168.304	-38240.111	131.077			

Tab.5 12トレンチ出土遺物台帳②

第4節 13トレンチの調査

遺跡の広がりを確認するために、第I調査区の南西側、約100mの地点に10×12mのトレンチを設定し、確認調査を実施した。

本地点では、後期旧石器時代の遺構群が、西側にどこまで、広がっているかを確認する必要があったため、段掘りを繰り返して、第11層までを確認した。第11層検出時点で、現地表下約6.5mに達していたため、記録措置後、埋め戻し原状に復した。



PL10 13トレンチ完掘状況写真(南側より)

(1) 層位 (Fig.13)

第1層a~g、第2層a~e、第3層、第4層、第5層、第6層、第7層、第8層、第9層、第10層、第11層を確認した。第2層上面は、12トレンチ同様、北側方向は浸食され、南側から北側に向けて傾斜しているため、その後堆積した上位層も同様の堆積状況を示す。しかしながら、第3層以前は、概

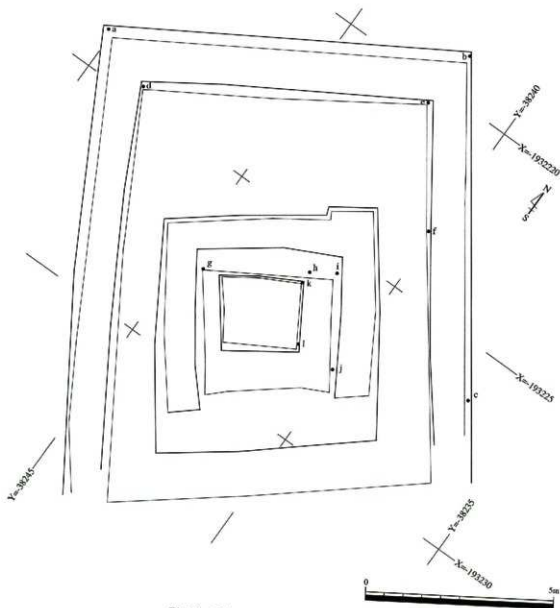


Fig.12 13トレンチ完掘状況図(S=1/100)

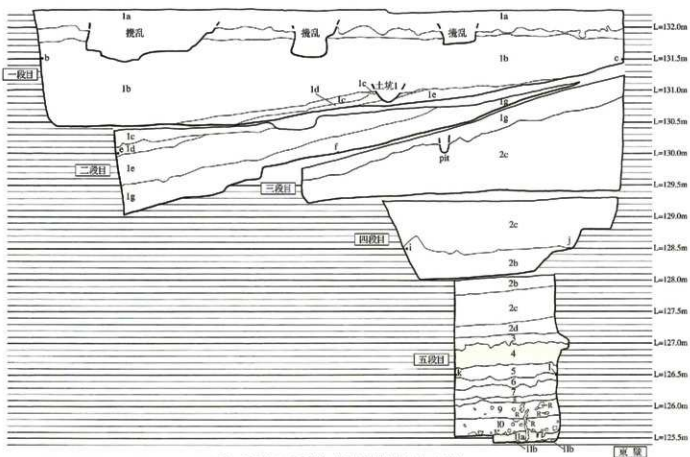
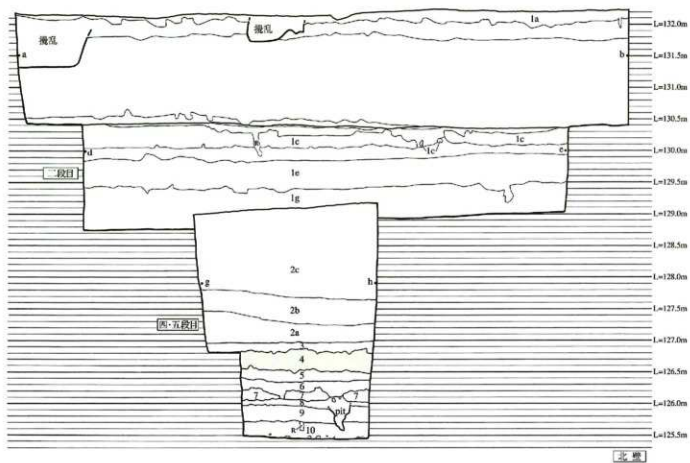


Fig.13 13トレンチ東壁・北壁層位断面図(S=1/60)



Pl.11 13トレンチ東壁層位断面(一～四段目)状況写真①



Pl.12 13トレンチ東壁層位断面(五段目)状況写真②



Pl.13 13トレンチ北壁層位断面(一～四段目)状況写真①



Pl.14 13トレンチ北壁層位断面(五段目)状況写真②

ね水平堆積を示しており、旧地形と現況地形とが大きく異なることが確認できた。第4層は、層厚約30cmで、第5層を直接被覆している。第7層は、層厚約20cmで、第8層を被覆している。第8層は、層厚約8cmで比較的安定して堆積している。第9、10層はともに層厚約25cmを測り、A T、あるいは岩本火山灰を起源とするブロックが混在する。

(文責 録田)

(2) 遺構

①第1層bの遺構 (Fig.13)

東側壁面において、第1層bを埋土とする土坑1基を確認した。土坑1は、断面で確認した範囲では、上幅約40cm、深さ約15+ α cmを測り、断面形態はボール形を呈する。埋土の土色等から、中世の時期のものと考えられる。確認した範囲では、埋土中に遺物は見られなかった。

②第1層gの遺構 (Fig.13)

同じく、東側壁面において、第1層gを埋土とするピット1基を確認した。ピットは、第1層gから第2層に対して掘り込まれていた。確認した範囲では、上幅約15cm、下幅約10cm、深さ約18+ α cmを測る。埋土の土色等から、弥生時代中期に帰属するものと考えられる。

③第5・6層の遺構 (Fig.14・15)

第8層上面で、第5・6層を埋土とするピット3基を確認した。平面形態は、不整形な楕円を呈する。埋土から、縄文時代早期に帰属するものと考えられる。プランは形成されなかった。ピットの詳細はTab.6の通りである。

④第8層の遺構 (Fig.13)

北側壁面において、第8層を埋土とするピット1基を確認した。ピットは、第8層から第9、10層に対して掘り込ま

れていた。確認した範囲では、上幅約30cm、下幅約10cm、深さ約40+α cmを測る。埋土から、縄文時代草創期に帰属するものと考えられる。

⑤第9層の遺構 (Fig.16・17)

第11層の上面で、第9層を埋土とするピット5基を確認した。後期旧石器時代に帰属するものと思われる。ピットの詳細はTab.7の通りである。調査範囲も狭いことからプランを検討することは出来なかった。

(文責 渡部)



Pl.15 第5・6層のピット検出状況写真(南西側より)

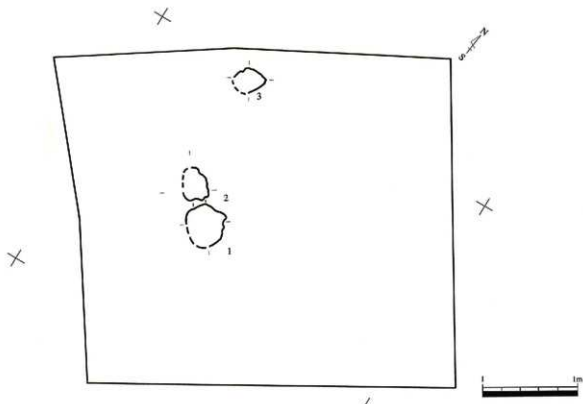


Fig.14 13トレンチ第5・6層層属のピット検出状況図(S=1/40)

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	47	39	67.5
2	34	21.5	59.5
3	36.5	28	41

Tab.6 13トレンチ第5・6層層属のピット法量表



Pl.16 第5・6層のピット1号検出状況写真



Pl.17 第5・6層のピット2号検出状況写真



Pl.18 第5・6層のピット3号検出状況写真

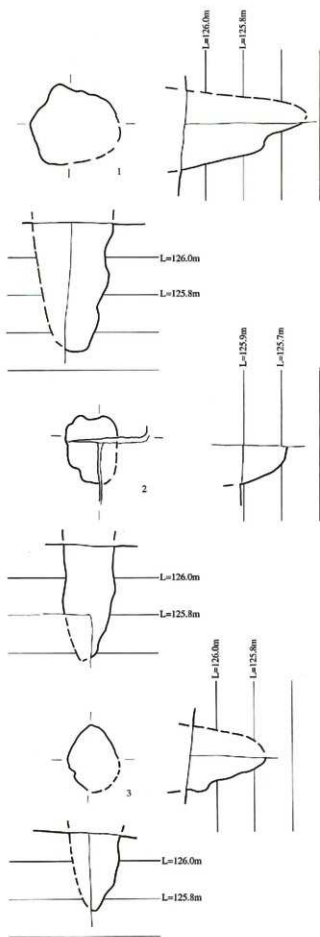


Fig.15 13トレンチ第5・6層燧石のピット平面・断面図(S=1/20)

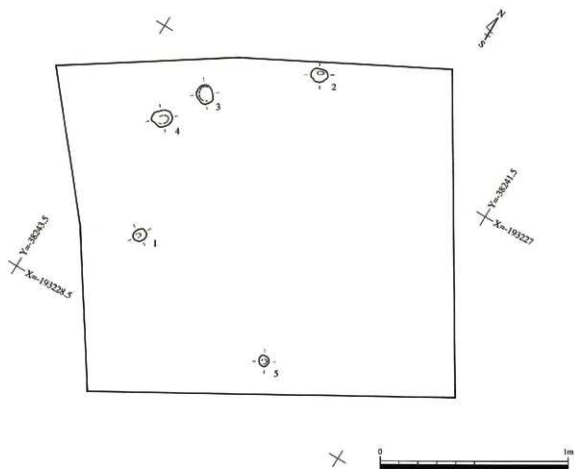


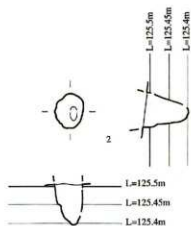
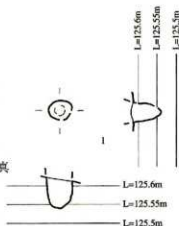
Fig.16 13トレンチ第9層層属のビット検出状況図(S=1/20)

ビットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	13	11	16
2	19	15.5	23
3	21	17.5	21
4	22.5	17.5	20.5
5	12.5	14.5	22.5

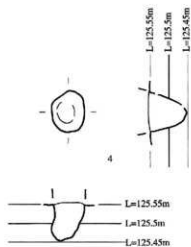
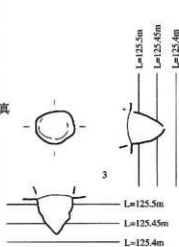
Tab.7 13トレンチ第9層層属のビット法量表



Pl.19 13トレンチ第9層ビット1号検出写真



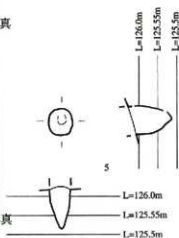
Pl.20 13トレンチ第9層ビット2号検出写真



Pl.21 13トレンチ第9層ビット3号検出写真



Pl.22 13トレンチ第9層ビット4号検出写真



Pl.23 13トレンチ第9層ビット5号検出写真

Fig.17 13トレンチ第9層掃蕩のビット平面・断面図(S=1/10)

(3) 遺物

本地点では、第1層gから、それぞれ弥生時代中期に該当すると思われる遺物合計682点の遺物が出土した。第1層g出土の遺物の種類は、土器632点、石器5点、礫器9点、礫35点、粘土塊1点である。なお、35点の礫の中には、石器素材や自然礫等が含まれている可能性がある。第9層出土の3点の遺物は、すべて礫であった。

以下、第1層g出土遺物のうち図化した41点について報告する。

①土器 (Fig.19・20・21)

No.1は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、端部が若干窪む三角形形状を呈す。口縁部は、水平に仕上げられている。口縁部外面には稜をもち、器面内外面には、工具によるナデの痕跡を確認できる。

No.2は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、端部が若干窪む三角形形状を呈す。口縁部は、水平に仕上げられている。口縁部内外面には稜をもち、器面内外面には、工具によるナデの痕跡を確認できる。



Pl.24 13トレンチ第1層g出土遺物状況写真(南側より)

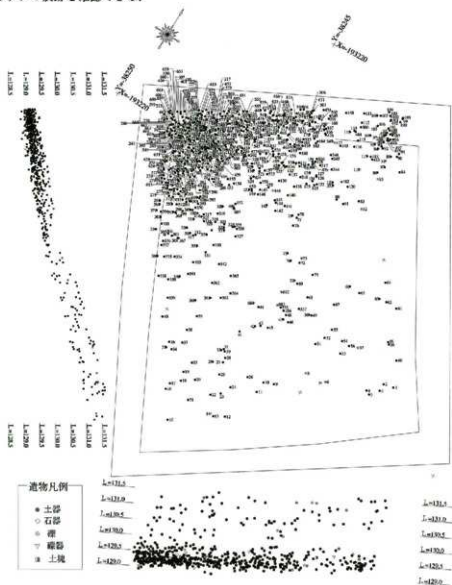


Fig.18 13トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/120)

- No.3は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部は、若干外下がりに仕上げられている。口縁部端部がわずかに窪む。
- No.4は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し端部が窪む。口縁部は、わずかに外下がりに仕上げられている。器面の外面に工具によるナデ、内面にユビオサエの痕跡が残る。
- No.5は、壺形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、わずかに外下がりに仕上げられている。口縁部と胴部との接合痕が確認できる。また、口縁部上面は若干丸みを帯び、端部は若干窪む。残存する胴部に、3条の三角突帯が確認できる。器面の内外面にハケメの痕跡が残る。
- No.6は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、口縁部端部には、工具によるキザミが施される。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられており、器面の内面には、口縁部と胴部との接合痕が確認できる。器面の外面にハケメ、内面に工具によるナデの痕跡が残る。
- No.7は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態はT字状を呈し、口縁部端部には棒状工具によるキザミが施される。口縁部は、若干外上がりに仕上げられている。器面外面に工具によるナデ、内面にユビオサエの痕跡が残る。
- No.8は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、内面にも口縁部端部が若干張り出す。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。また、器面内面には、口縁部と胴部との接合痕が確認できる。
- No.9は、口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態はT字状を呈し、口縁部上面がわずかに窪む。口縁部は、若干外下がりに仕上げられている。残存する胴部に、1条の三角突帯が確認できる。
- No.10は、壺形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態はT字状を呈し、口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。胴部には、1条の絡縄突帯が一部残存している。突帯の接線部分は片方の端部が、巻き上げられたように屈曲する。
- No.11は、壺形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。復元口径は、34.4cmを計る。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、わずかに外上がりに仕上げられている。口縁部端部には、工具によるキザミが施される。残存する胴部には、2条の三角突帯がめぐる。器面内面には、わずかにハケメの痕跡が見られる。
- No.12は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は、34.2cmを計る。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、わずかに外上がりに仕上げられている。また、口縁部上面は、丸みを帯びる。口縁部端部に、指先でつまみ断面が三角形を呈する附文が張りつけられている。器面外面には、ハケメの痕跡が、器面内面には工具によるケズリの痕跡が残る。
- No.13は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、丸みを帯びた台形を呈する。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。残存する胴部には、一条の沈線がめぐる。器面外面には、ハケメの痕跡が若干残る。また、器面内面にはミガキによって仕上げられている。
- No.14は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は楕円形を呈し、上面は丸みを帯びる。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。口縁部端部が若干窪む。器面内外面には、工具によるナデの痕跡が若干残る。
- No.15は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、T字状を呈する。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。口縁部端部の下方には、工具によるキザミが施されている。器面内面には、ハケメの痕跡が若干残る。
- No.16は、壺形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部端部の断面形態は、端部が潰れた三角形を呈する。口縁部は、若干外下がりに仕上げられている。残存する胴部には、3条の三角突帯がめぐる。器面の内面には一部ユビオサエの痕跡が残る。器面外面にはミガキが見られる。
- No.17は、壺形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部が窪む。口縁部の迫り出しは短く、端部は若干窪む。口縁部上面は下方に下がる。残存する胴部には、3条の三角突帯がめぐる。器面内面に工具によるナデの痕跡がわずかに認められる他、内面にはユビオサエの痕跡が残る。
- No.18は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部端部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部の上方には、工具によるキザミが施される。口縁部はほぼ水平に仕上げられている。残存する胴部には、1条の沈線がめぐる。器面内外面に工具によるナデの痕跡がわずかに認められる。
- No.19は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部端部の断面形態は、台形を呈する。口縁部は水平に仕上げられている。器面内外面は、ミガキによって仕上げられている。
- No.20は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈する。口縁部はほぼ水平に仕上げられている。
- No.21は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、T字状を呈し、端部は丸みを帯びる。口縁部上面は若干窪み下方に下がる。器面内外面に工具によるナデの痕跡が認められる。
- No.22は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部は丸みを帯びる。口縁部端部下方がわずかに窪む。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられており、器面内外面に工具によるナデの痕跡が認められる。
- No.23は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部は丸みを帯びる。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられており、上面は丸みを帯びる。器面内外面に工具によるナデの痕跡が認められる。
- No.24は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は23cmを計る。口縁部は「」型に外半する。器面外面に



Pl.25 13トレンチ弥生時代出土土器①写真(外面)



Pl.26 13トレンチ弥生時代出土土器①写真(内面)

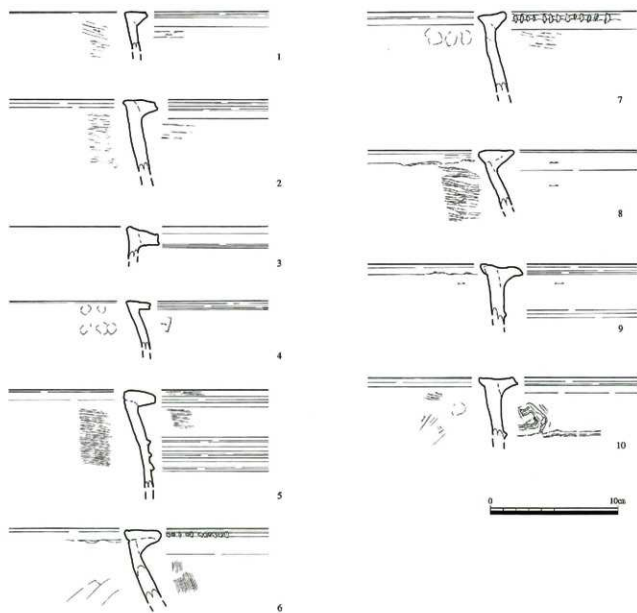


Fig.19 13トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)

ハケメの痕跡がわずかに認められる他、内面には三角突帯状の2条の段が認められる。

No.25は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は12.4cmを計る。口縁部の断面形態は、T字状を呈する。口縁部は、若干下がり仕上げられ、その端部に工具によるキザミが施されている。

No.26は、壺形土器の頸部突帯部の破片である。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐり、その上部に波状の突帯が貼り付けられている。

No.27は、壺形土器の胴部の破片である。器面に焼成後に施された補修孔と思われる直径4mmの穿孔が認められる。

No.28は、壺形土器の底部の破片である。底径は9.2cmを計る。底部は平底であるが、若干丸みを帯びているため、安定が悪い。器面外面に工具によるナアの痕跡が認められる。

No.29は、壺形土器の底部の破片である。復元底径は、7.5cmを計る。底部は平底である。

No.30は、壺形土器の底部の破片である。復元底径は、7cmを計る。底部は平底である。

No.31は、壺形土器の底部の破片である。復元底径は、8cmを計る。底部は平底である。

② 罫器 (Fig.22)

No.32は、軽石製加工品である。縦5.1cm、横6.6cm、厚さ2.7cm、重さ17.18gを計る。a、b面に凹部があり、両側から穿孔が施され、貫通している。C面は磨面となる。

No.33は、軽石製加工品である。縦11cm、横4.8cm、厚さ4.8cm、重さ80gを計る。a、b面、c面は磨面となる。

No.34は、軽石製加工品である。縦10.2cm、横6.2cm、厚さ4.9cm、重さ110gを計る。a、b面に磨面が認められる。

No.35は、軽石製加工品である。縦8.8cm、横7.2cm、厚さ3.5cm、重さ58.62gを計る。a面に凹部と溝状の切れ目が認められる。また、B面にも3条の並行した切れ目が認められる。

No.36は、軽石製加工品である。縦9cm、横8.6cm、厚さ3.9cm、重さ10.5gを計る。a、b面に磨面が認められる。

No.37は、軽石製加工品である。縦6.3cm、横5.7cm、厚さ3.4cm、重さ29.91gを計る。全面に磨面が認められる。

(文責 渡部)

③ 石器 (Fig.23)

No.38は、粘板岩製の剥片を素材とした切断剥片である。a面とb面に認められる剥離の剥離方向は、3枚とも異なっていることから、この剥片は、打面を頻りに移動しながら剥片を剥離した石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部・下端部・両側部とも1枚あるいは2枚の剥離によって切断されている。切断にともなう加撃方向は、a面右側部のみがa面側からの加撃で、他の三ヶ所はb面側からの加撃によるものである。四ヶ所の切断によって、全体の形状は、長方形を呈しているものの、その利用方法や目的については不明である。縁辺部には使用痕や切断後の調整痕などは認められない。

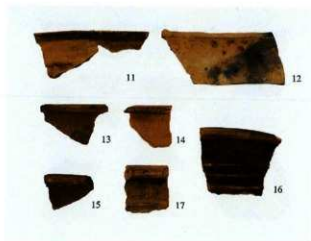
No.39は、幅広の剥片を素材とした二次加工のある剥片で、a面上端部とb面左端部に二次加工が認められる。a中央に認められる大きな剥離面の剥離方向とb面の主要剥離面に認められる剥離方向は、概ね180度異なっている。このことから、この素材剥片は、打面転移をしながら剥片を剥離する石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部は、a面上端部の二次加工によってほぼ除去されている。推測の域を出ないが、素材剥片の打面自体も、幅広で厚みのある打面ではなく、点状打面のような小さい打面であったと考えられる。a面左側部は、b面右側部で認められるように、a面側からの加撃によって切断されている。二次加工は、a面上端部とb面左端部に認められており、二次加工後の形状は概ね直角に交わる二線を呈している。

No.40は、粘板岩製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。a面とb面に認められる剥離の剥離方向は、3枚とも異なっていることから、この剥片は、打面を頻りに移動しながら剥片を剥離した石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部と下端部は切断によって整形されている。切断によって概ね平面形状が三角形を呈している。刃部は、素材剥片の縁辺の範囲で切断されていないほぼ直線的な縁辺を用いている。刃部には、刃こぼれ状の使用痕が認められる。

No.41は、砂岩を素材とした有溝砥石である。有溝部分が顕著に認められる部分は、a面左側面(c面)と、b面中央部である。a面左側面は、断面①・②で確認されるとおり、2条の溝が並列している。溝の長さは14cm前後を測り、幅は1.5～2.8cmを測る。溝の深さは最深で0.55cmと0.65cmを測る。溝の中央部分で最深を測り、溝の両端に行くに従って浅くなっている。b面中央部は、ほぼ45度のずれがある溝が切り合っている状態で2条認められる。a面中央下部の溝は、b面左端から右端へ右斜め下方方向へ延びている。長さ約11cm、幅は最大で5cm、深さは0.6cmを測る。なお、その溝の下位には、ほぼ平行する浅い溝状のものが看取できるものの、他の溝と比較すると深さは浅く、形状的には溝の両端が不整形で平行ではなく、明瞭ではない。溝状砥面の初期段階とも考えられる。b面中央上部の溝は、前述した溝によって切られているためか、長さが約6.3cmと短い。幅は約2.5cm、深さは最深で0.6cmを測る。

また、溝状は呈していないものの、部分的な断面がU字形を呈している部分が、a面下部に認められる。(c面下部・d面下部の断面図にて、その形状が確認できる。)さらに、平面的な砥面は、a面右側面全体である。すなわち、石核全体の面がほぼ砥面であり、平面的あるいは溝状を呈しているかの違いであることから、多種の道具の研磨具として利用されていたことが推測できる。

(文責 録田)



Pl.27 13トレンチ弥生時代出土土器②写真(外面)



Pl.28 13トレンチ弥生時代出土土器②写真(内面)

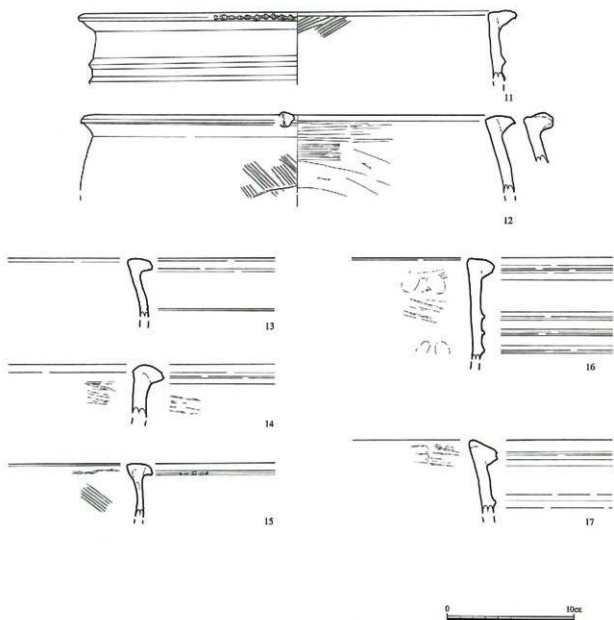


Fig.20 13トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)



Pl.29 13トレンチ弥生時代出土土器③写真(外面)



Pl.30 13トレンチ弥生時代出土土器③写真(内面)

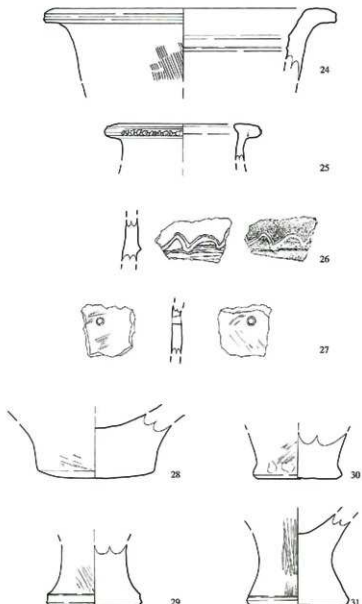
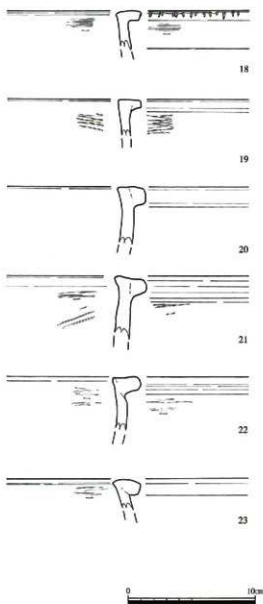


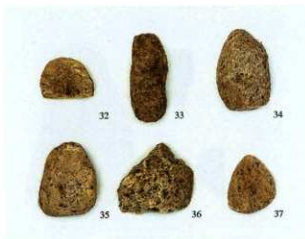
Fig.21 13トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)

図番 No.	地上げ No.	器 種	直径(径長)(cm)	部位	色 外	色 内	色 底	色 裏	出土状況	表層材	調 整	その他	出土 層位	備 考
1	400	鏡形土器	鏡片	口縁部	25YR5/1	7.5YR5/4	7.5YR4/1 5YR5/3	10R	磨砂粒・微砂粒を含む	ホセ・白・ 黒・赤	内・工具によるナナの土ナナ 外・工具によるナナの土ナナ 口縁→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
2	364	鏡形土器	鏡片	口縁部	25YR3/1	5YR5/3	7.5YR4/2 5YR5/3	2.5Y4/1	磨砂粒・微砂粒を 若干含む	ホセ・白・黒 赤	内・工具によるナナの土ナナ 外・工具によるナナの土ナナ 口縁→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
3	358	鏡形土器	鏡片	口縁部	7.5YR3/2 7.5YR2/2	7.5YR5/3	7.5R4/1 7.5YR7/2	10R 10YR7/3	磨砂粒を含む	ホセ・白・黒	内→ココナテ 外→ココナテ 口縁→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
4	401	鏡形土器	鏡片	口縁部	7.5YR5/3	7.5YR5/4	7.5YR5/4 7.5YR5/4 2.5YR4/2	10R	磨砂粒・微砂粒を 若干含む	ホセ・白・ 黒・赤	内→ミドリゴロの土ナナ 外・工具によるナナの土ナナ 口縁→ナナ ココナテ 工具による ナナの土ナナ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
5	403	鏡形土器	鏡片	口縁部→ 肩稜部	5YR4/2 10YR5/3	7.5YR5/4	7.5YR7/3	10R 8YR5/4	砂粒を含む 磨砂粒・微砂粒を含む	ホセ・白・ 黒・ 金ウツ	内・工具によるナナの土ナナハナメ の土ナナ 外→ナメの土ナナの土ナナ ココナテ 口縁→ハナメの土ナナ ココナテ ナナ 黒→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
6	223	鏡形土器	鏡片	口縁部	10YR5/3	10YR5/3	10YR6/2 10YR5/3	10R	磨砂粒を多く含む	ホセ・白・黒	内→ココナテ 工具によるナナの土 ナナを含む 外→ココナテ ナナミダのナナ 口縁→ココナテ 磨砂粒を含む	褐色斑斑 褐色良好	1g	
7	363	鏡形土器	鏡片	口縁部	7.5YR4/2 7.5YR5/1	7.5YR4/3	10YR4/2 7.5YR4/3	10R 8YR5/4 8YR5/2	砂粒を含む 磨砂粒・微砂粒を 若干含む	ホセ・白・ 黒・赤	内→ココナテ 外・工具によるナナの土ナナ 口縁→ココナテ 磨砂粒を含む	褐色斑斑 褐色良好	1g	
8	132	鏡形土器	鏡片	口縁部	7.5YR3/1	5YR4/3	7.5YR4/2	10R 7.5YR4/1 8YR5/3	磨砂粒を含む	ホセ・白・黒	内→丁寧なナナ 外→ココナテ 口縁→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	272
9	68	鏡形土器	鏡片	口縁部	5YR4/3	7.5YR5/4	7.5YR4/2 10YR5/2	10R 5YR5/4 5YR5/1	磨砂粒を若干含む	ホセ・白・黒	内→ナナ 外→ココナテ 口縁→ココナテ 黒→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
10	366	鏡形土器	鏡片	口縁部→ 肩部	7.5YR4/2 10YR5/1	5YR5/4	2.5YR4/1 5YR6/4	10R 8YR5/4	磨砂粒・微砂粒を含む	ホセ・白・ 黒・赤	内・工具によるナナの土ナナ一部 ココナテ 外・工具によるナナの土ナナ 口縁→ココナテ ナナ 工具によるナナの土ナナ 外→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
11	309	鏡形土器	鏡片 1/4破片 鏡底(厚さ4)	口縁部	7.5YR4/3 5YR3/1	10YR5/4	10YR3/1 10YR5/4	10R 10YR5/3 7.5YR7/2	磨砂粒を含む	ホセ・白・黒	内・工具によるナナの土ナナ 外→ココナテ ナナ 口縁→ココナテ キヤ 黒→ナナ	褐色斑斑 褐色良好	1g	368
12	243	鏡形土器	鏡片 1/4破片 鏡底(厚さ3)	口縁部	10YR5/3 N4-9	10YR6/3	10YR2/1 10YR6/3	10R 10YR5/3 5Y6/1	磨砂粒を含む	ホセ・白・黒	内・工具によるナナ 工具によるナナの土ナナ 外→ココナテ ハナメの土ナナ 口縁→ココナテ 磨砂粒を含む	褐色斑斑 褐色良好	1g	
13	488	鏡形土器	鏡片	口縁部	7.5YR7/2	7.5YR5/2	7.5YR5/4 5YR4/2	10R 7.5YR6/4 7.5YR4/2	砂粒を含む 磨砂粒・微砂粒を 若干含む	ホセ・白・ 黒・赤	内→ナナ 外→ココナテ ナナ 沈積 口縁→ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
14	394	鏡形土器	鏡片	口縁部	5YR4/2	5YR4/3	7.5YR4/3	10R 5YR4/2	砂粒を含む 磨砂粒・微砂粒を 若干含む	ホセ・白・ 黒・赤	内・工具によるナナの土ナナ 外・工具によるナナの土ナナ 口縁→ナナ ココナテ	褐色斑斑 褐色良好	1g	
15	365	鏡形土器	鏡片	口縁部	5YR4/1	7.5YR6/3	7.5YR4/1 5YR5/4	10R 7.5YR5/4	磨砂粒を含む	ホセ・白・ ウツ	内・工具によるナナの土ナナ ヌ ココナテ 外→ココナテ 口縁→ココナテ 磨砂粒を含む	褐色斑斑 褐色良好	1g	

Tab.18 13トレンチ出土遺物観察表①

遺物 No.	出土層 No.	器 種	残存状態 (cm)	品名	色 丹	色 内	色 角	色 数	出土数	図記号	類 型	その他	出土 層位	備 考
16	449	黄彩土器	破片	口縁部一 別標皮管部	5YR3/1	7.5YR5/3 7.5YR3/1	5YR5/3	口縁 7.5YR5/3 10YR3/1	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カキ・白 灰・金ツキ 黒	内・工具によるナアのちナア一部 ユビヤカ 外・1枚骨 口縁・ココナア 底・ココナア	磁器製陶 完成良好	1g	
17	229	黄彩土器	破片	1口縁部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	10YR5/2	1口縁 7.5YR6/4	砂粒を多く含む	カキ・白 灰・赤	内・工具によるナアのちナア ナア 外・ココナア 1口縁・ココナア 底・ココナア	磁器製陶 完成良好	1g	
18	454	黄彩土器	破片	口縁部	10YR3/1	2.5Y4/7	10YR4/1	口縁 10YR3/1	細砂粒・微砂粒を 若干含む	カキ・白 黒・他	内・工具によるナアのちナア 外・工具によるナアのちナア 成焼 口縁・ココナア 工具によるナアの ちナア 底縁・ココナアのちナア	磁器製陶 完成良好	1g	
19	590	黄彩土器	破片	口縁部	5YR4/3 10YR3/1	7.5YR4/1	7.5YR4/3	口縁 5YR5/3 2.5YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	セ・白・黒 赤・他	内・1枚骨 外・1枚骨 口縁・ユビヤカ ココナア 工具によ るナアのちナア	磁器製陶 完成良好	1g	
20	10	黄彩土器	破片	口縁部	5YR4/2	7.5YR5/4	10YR4/2	口縁 5YR4/2 5YR5/4	微砂粒を含む	カキ・白・黒	内・ナア 外・ナア 口縁・ナア	磁器製陶 完成良好	1g	
21	65	黄彩土器	破片	口縁部	5YR4/2	7.5YR5/4	7.5YR4/2	口縁 7.5Y5/4 5YR5/4	微砂粒を含む	カキ・白・黒	内・工具によるナアのちナア 外・工具によるナアのちナア 口縁・ココナア	磁器製陶 完成良好	1g	
22	68	黄彩土器	破片	口縁部	7.5YR4/1	5YR4/3	7.5YR4/2	口縁 5YR3/1 5YR4/2 7.5YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	カキ・白 黒・他	内・工具によるナアのちナア 外・工具によるナアのちナア 口縁・ココナア	磁器製陶 完成良好	1g	
23	620	黄彩土器	破片	口縁部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	7.5YR6/4	口縁 5YR3/1 10YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	カキ・白 黒・他	内・工具によるナアのちナア 外・工具によるナアのちナア 口縁・ココナア	磁器製陶 完成良好	1g	
24	255	黄彩土器	破片 1/2残存	1口縁部	5YR3/2	7.5YR4/3	7.5R5/2	1口縁 10YR4/3	微砂粒を多く含む	カキ・白 黒・他 金ツキ	内・ココナア 外・ハナア 口縁・ココナア	磁器製陶 完成良好	1g	内装面 磨2枚
25	130	黄彩土器	破片 1/4残存	1口縁部	5YR7/3	5YR7/3	5YR3/1	1口縁 5YR7/3 10YR6/3	細砂粒を若干含む	カキ・白・黒	内・工具によるナアのちナア 外・工具によるナアのちナア 口縁・ナア 底縁・ココナのちナア	磁器製陶 完成良好	1g	
26	285	黄彩土器	破片	胴部	5YR5/4 7.5YR5/3	7.5YR5/3	10YR5/2		砂粒を含む 小さな骨を含む	カキ・白・黒	内・ナア 底・ハナア 外・ナア ココナア 外・工具による成焼	磁器製陶 完成良好	1g	
27	342	黄彩土器	破片	胴部	7.5YR5/3	10YR6/3	10YR3/1	10YR7/3	細砂粒を含む	カキ・白・黒	内・ナア 外・ナア 成焼後セッコウ	磁器製陶 完成良好	1g	
28	395	黄彩土器	破片 1/3残存 底元直径6.2	底部	7.5YR6/3	7.5YR6/3	10YR3/1	底・10YR2/3 7.5YR6/3	砂粒をわずかに含む 微砂粒・微砂粒を含む	カキ・白 黒・他	内・無調整?一部ハナア 外・工具によるナアのちナア 底・ナア	磁器製陶 完成良好	1g	
29	405	黄彩土器	破片 1/2残存 底元直径7.5	底部	2.5YR4/3	—	5R4/1 5YR4/3	底・5YR4/3	砂粒をわずかに含む 微砂粒・微砂粒を含む	カキ・白 出・他	外・工具によるナアのちナア一部 ハナア残 底・無調整	磁器製陶 反転	1g	
30	195	黄彩土器	破片 1/2残存 底元直径7.0	底部	10YR4/2	—	2.5YR3/4 底・7.5YR4/3	底・7.5YR4/3	砂粒を多く含む	カキ・白・黒	外・工具によるナア 微調整 底・ナア	磁器製陶 完成良好	1g	
31	248	黄彩土器	破片 1/2残存 底元直径8.0	底部	7.5Y5/2 7.5YR5/3	10YR3/1	5YR5/4	底・10YR5/2 7.5YR4/3	砂粒を含む	カキ・白 灰・ 金ツキ	内・カーボン付調整跡不明 外・工具によるナア ハナア 底・ナア	磁器製陶 完成良好	1g	

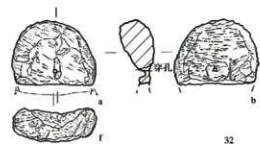
Tab.9 13トレンチ出土遺物観察表②



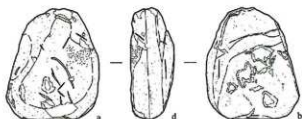
Pl.31 13トレンチ出土石器写真(表面)



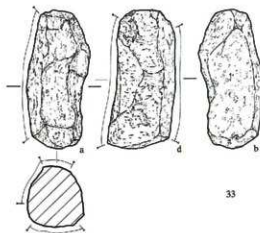
Pl.32 13トレンチ出土石器写真(裏面)



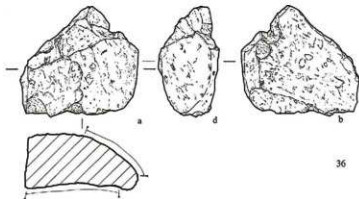
32



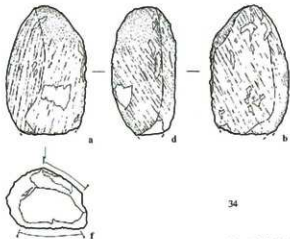
35



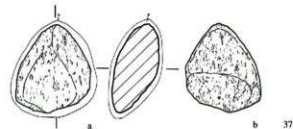
33



36



34

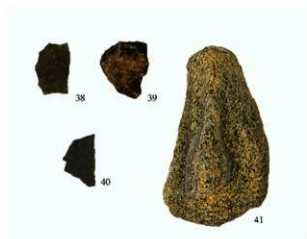


37

磨削

0 10cm

Fig.22 13トレンチ出土石器実測図(S=1/3)



PI.33 13トレンチ出土石器写真(表面)



PI.34 13トレンチ出土石器写真(裏面)

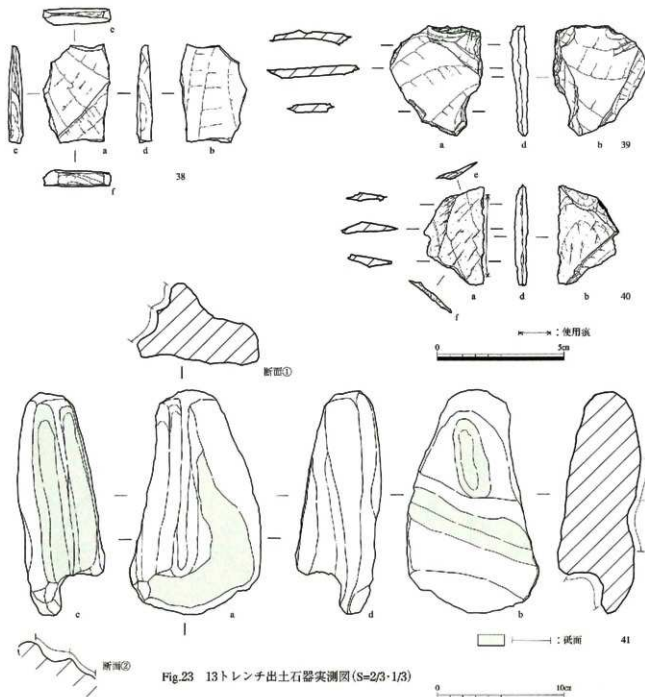


Fig.23 13トレンチ出土石器実測図(S=2/3・1/3)

No.	取上げNo.	器種	石材	流量(cm)	重量(g)	打面形状	使用痕	層	備考
32	381	軽石製加工品	軽石	最大長：6.6 最大幅：5.1 最大厚：2.7	17.18			1g	
33	402	軽石製加工品	軽石	最大長：11 最大幅：4.8 最大厚：4.8	80			1g	
34	119	軽石製加工品	軽石	最大長：10.2 最大幅：6.2 最大厚：4.9	110			1g	
35	226	軽石製加工品	軽石	最大長：8.8 最大幅：7.2 最大厚：3.5	58.62			1g	
36	286	軽石製加工品	軽石	最大長：8.6 最大幅：9 最大厚：3.9	105			1g	
37	409	軽石製加工品	軽石	最大長：6.3 最大幅：5.7 最大厚：3.4	29.91			1g	
38	511	切断剥片	粘板岩	最大長：5.2 最大幅：3.5 最大厚：0.9	18.15	切断により 不明		1g	
39	463	二次加工剥片	粘板岩	最大長：5.8 最大幅：4.9 最大厚：0.8	20.73	二次加工により 除去		1g	
40	596	使用痕のある剥片	粘板岩	最大長：5.3 最大幅：3.15 最大厚：0.7	9.16	切断により 除去	刃こぼれ状	1g	
41	569	砥石	安山岩	最大長：17.6 最大幅：9.7 最大厚：5.9	802	—		1g	

Tab.10 13トレンチ出土石器・石器観察表

私上 図面 番号	図面 番号	実測 単位	種類	部位・器名	材質	器容率 (×10 ⁻⁴ sl)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	組合	同一 別録	備考
1		1g	土器	胴部片	-						-193228.288	-38237.567	131.568			
2		1g	土器	胴部片	-						-193228.369	-38237.892	131.521			
3		1g	土器	胴部片	-						-193228.613	-38237.887	131.507			
4		1g	土器	破片	-						-193228.827	-38238.239	131.576			
5		1g	土器	破片	-						-193228.892	-38238.109	131.549			
6		1g	雫	雫	安山岩	36.9	42.4	39.9	26.1	47.25	-193229.285	-38239.496	131.337			
7		1g	雫	雫	安山岩	101.6	79.1	67	54.2	330	-193229.388	-38239.596	131.359			
8		1g	雫	雫	安山岩	9.6	69.5	62.4	33.7	70	-193229.383	-38240.170	131.326			
9		1g	土器	甍形土器胴部尖帯部片	-						-193230.221	-38240.847	131.270			
10		1g	土器	破片	-						-193230.352	-38241.156	131.202			
11		1g	土器	破片	-						-193230.724	-38241.181	131.399			
12		1g	土器	尖帯部片	-						-193231.934	-38241.612	131.494			
13		1g	土器	尖帯部片	-						-193232.110	-38241.936	131.322			
14		1g	雫	雫	軽石	44	72.8	67.1	44.6	100	-193232.083	-38242.056	131.305			
15		1g	土器	破片	-						-193232.981	-38243.106	131.248			
16		1g	土器	破片	-						-193232.181	-38243.678	130.896			
17		1g	土器	甍形土器胴部尖帯部片	-						-193231.961	-38243.663	130.907			
18		1g	土器	胴部片	-						-193231.703	-38243.413	130.891			
19		1g	土器	破片	-						-193231.420	-38243.493	130.902			
20		1g	土器	胴部片	-						-193231.437	-38243.046	130.900			
21		1g	土器	胴部片	-						-193232.098	-38242.893	131.018			
22		1g	土器	胴部片	-						-193231.582	-38242.374	131.181			
23		1g	土器	尖帯部片	-						-193231.373	-38242.121	131.345			
24		1g	土器	破片	-						-193231.041	-38241.965	131.159			
25		1g	土器	破片	-						-193230.881	-38242.478	131.104			
26		1g	土器	胴部片	-						-193230.475	-38241.676	131.030			
27		1g	土器	甍形土器胴部尖帯部片	-						-193230.490	-38242.585	130.900			
28		1g	土器	破片	-						-193230.333	-38242.600	130.808			
29		1g	土器	胴部片	-						-193230.649	-38242.873	130.887			
30		1g	土器	胴部片	-						-193230.188	-38242.727	130.789			
31		1g	土器	尖帯部片	-						-193230.130	-38242.794	130.759			
32		1g	土器	破片	-						-193230.188	-38242.842	130.707			
33		1g	土器	破片	-						-193231.028	-38243.420	130.773			
34		1g	土器	破片	-						-193231.009	-38244.197	130.589			
35		1g	土器	破片	-						-193231.046	-38244.379	130.564			
36		1g	土器	破片	-						-193230.849	-38244.383	130.472			
37		1g	土器	破片	-						-193230.849	-38244.022	130.584			
38		1g	土器	破片	-						-193230.223	-38244.114	130.483			
39		1g	土器	胴部片	-						-193229.687	-38244.075	130.465			
40		1g	土器	破片	-						-193230.279	-38244.999	130.315			
41		1g	土器	甍形土器胴部尖帯部片	-						-193229.376	-38242.666	130.647			
42		1g	土器	破片	-						-193228.974	-38242.339	130.574			
43		1g	土器	甍形土器破片	-						-193228.868	-38242.202	130.722			
44		1g	土器	甍形土器口縁部片	-						-193228.397	-38242.576	130.518			
45		1g	土器	破片	-						-193228.799	-38241.973	130.751			
46	21	○	1g	土器	甍形土器(1)破片	-					-193228.307	-38241.522	130.691			
47		1g	土器	口縁部片	-						-193228.313	-38241.700	130.642			
48		1g	土器	甍形土器胴部尖帯部片	-						-193228.150	-38241.700	130.631			
49		1g	土器	甍形土器胴部尖帯部片	-						-193227.724	-38241.003	130.827			
50		1g	土器	破片	-						-193227.750	-38241.078	130.759			

Tab.11 13トレンチ出土遺物台帳①

取上 層号	四角 番号	実測 方位	種別	部位・器種名	材質	容積率 (×10-4%)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	組合	同一 器体	備考	
51			1g	土器	破片	-					-193228.427	-38240.407	131.101				
52			1g	土器	甕形土器胴部尖等部片	-					-193228.111	-38240.365	131.072				
53			1g	土器	破片	-					-193227.702	-38240.207	130.986				
54			1g	土器	高坏胴部隆起片	-					-193227.900	-38239.740	131.130				
55			1g	土器	破片	-					-193228.368	-38239.578	131.225				
56			1g	土器	破片	-					-193227.913	-38239.468	131.201				
57			1g	土器	甕	安山岩	145.2	58.9	37.3	35.1	105	-193227.816	-38239.302	131.185			
58			1g	土器	尖等部片	-					-193227.203	-38238.420	131.235				
59			1g	土器	甕形土器胴部尖等部片	-					-193227.149	-38238.484	131.211				
60	20	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193227.506	-38237.946	131.548				
61			1g	土器	破片	-					-193226.100	-38238.830	130.911				
62			1g	土器	甕形土器胴部尖等部片	-					-193228.099	-38239.212	130.846				
63			1g	土器	破片	-					-193226.128	-38239.456	130.781				
64			1g	土器	破片	-					-193225.585	-38239.568	130.654				
65			1g	土器	破片	-					-193226.309	-38240.096	130.741				
66			1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193226.288	-38240.455	130.695				
67			1g	土器	甕形土器胴部尖等部片	-					-193227.080	-38240.577	130.805				
68	9	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193227.306	-38241.419	130.658				
69			1g	土器	破片	-					-193227.103	-38241.994	130.379				
70			1g	土器	甕	安山岩	61.8	55.5	54.4	35.1	58	-193227.065	-38242.053	130.401			
71			1g	土器	破片	-					-193226.600	-38241.655	130.474				
72			1g	土器	破片	-					-193226.503	-38242.317	130.249				
73			1g	土器	甕	安山岩	37	39.9	32.2	24.1	24.4	-193226.947	-38242.239	130.220			
74			1g	土器	破片	-					-193226.590	-38242.491	130.148				
75			1g	土器	胴部片	-					-193226.447	-38242.706	130.153				
76			1g	土器	胴部片	-					-193225.602	-38243.024	129.849				
77			1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193225.332	-38243.062	129.867				
78			1g	土器	破片	-					-193225.217	-38243.063	129.880				
79			1g	土器	破片	-					-193225.340	-38243.212	129.849				
80			1g	土器	口縁部片	-					-193224.158	-38242.292	129.873				
81			1g	土器	胴部片	-					-193224.164	-38242.041	129.908				
82			1g	土器	甕	安山岩	54.1	44.1	46.6	21.6	31.83	-193224.000	-38241.463	129.948			
83			1g	土器	破片	-					-193223.830	-38241.664	129.882				
84			1g	土器	破片	-					-193222.352	-38241.062	129.775				
85			1g	土器	破片	安山岩	183	60.9	61.8	36.4	155	-193222.909	-38241.534	129.805			受熱痕
86			1g	土器	破片	-					-193222.740	-38241.636	129.754				
87			1g	土器	破片	-					-193222.468	-38241.500	129.749				
88			1g	土器	甕	軽石	16.5	31.6	28.7	20.3	9.65	-193222.293	-38241.638	129.644			
89			1g	土器	胴部片	-					-193222.077	-38241.564	129.685			黒色り	
90			1g	土器	破片	-					-193221.977	-38241.400	129.609				
91			1g	土器	胴部片	-					-193221.863	-38241.387	129.624				
92			1g	土器	甕形土器胴部尖等部片	-					-193221.999	-38241.925	129.530				
93			1g	土器	破片	-					-193221.961	-38241.983	129.533				
94			1g	土器	甕形土器胴部尖等部片	-					-193222.079	-38242.041	129.664				
95			1g	土器	破片	-					-193222.039	-38242.207	129.494				
96			1g	土器	破片	-					-193221.573	-38241.788	129.525				
97			1g	土器	破片	-					-193221.635	-38241.964	129.526				
98			1g	土器	破片	-					-193221.495	-38242.075	129.520			黒色り	
99			1g	土器	胴部片	-					-193220.856	-38241.885	129.485				
100			1g	土器	破片	-					-193220.982	-38241.891	129.374				

Tab.12 13トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	調査 番号	実測 単位	種類	部位・部位名	材質	容積率 (X10.4 SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	検出 層位	同一 検体	
101		1g	土器	底面片	-						-193221.084	-38242.182	129.234			
102		1g	礎	礎	軽石	23.7	66.7	35.8	45.1	35.29	-193220.985	-38242.229	129.322		彩色あり	
103		1g	土器	破片	-						-193220.980	-38242.272	129.290			
104		1g	土器	壘形土器頸部夾帯部片	-						-193220.901	-38242.368	129.314			
105		1g	礎	礎	軽石	4	93.8	68	34.9	40.24	-193221.500	-38242.456	129.366			
106		1g	土器	破片	-						-193221.468	-38242.430	129.367			
107		1g	土器	破片	-						-193221.143	-38242.536	129.334			
108		1g	土器	破片	-						-193221.194	-38242.630	129.318			
109		1g	土器	壘形土器胴部片	-						-193221.845	-38242.479	129.445			
110		1g	土器	壘形土器頸部夾帯部片	-						-193221.613	-38242.093	129.444			
111		1g	土器	胴部片	-						-193221.390	-38243.014	129.243			
112		1g	土器	破片	-						-193221.648	-38242.920	129.437			
113		1g	土器	破片	-						-193222.006	-38243.086	129.426			
114		1g	土器	破片	-						-193221.989	-38242.966	129.399			
115		1g	土器	破片	-						-193222.195	-38242.717	129.490			
116		1g	土器	底部付瓦胴部片	-						-193222.429	-38242.716	129.581			
117		1g	土器	壘形土器頸部夾帯部片	-						-193222.468	-38242.211	129.574			
118		1g	土器	口縁部片	-						-193222.422	-38242.107	129.662			
119	34	○	1g	標器	軽石加工品	軽石	9.8	10.2	6.2	4.9	110	-193222.955	-38242.186	129.680		
120		1g	土器	破片	-						-193223.625	-38242.214	129.822			
121		1g	土器	胴部片	-						-193223.761	-38242.693	129.780			
122	8	○	1g	土器	壘形土器口縁部片	-					-193224.061	-38243.067	129.723	372		
123		1g	土器	壘形土器胴部片	-						-193224.149	-38243.141	129.683			
124		1g	土器	破片	-						-193224.070	-38243.257	129.621			
125		1g	土器	壘形土器胴部片	-						-193224.244	-38243.380	129.638			
126		1g	土器	胴部片	-						-193223.881	-38243.223	129.632			
127		1g	土器	胴部片	-						-193223.848	-38243.243	129.608			
128		1g	土器	壘形土器頸部夾帯部片	-						-193223.887	-38243.478	129.608			
129		1g	土器	破片	-						-193223.547	-38243.579	129.603			
130	25	○	1g	土器	壘形土器口縁部片	-					-193223.894	-38243.863	129.517			
131		1g	土器	破片	-						-193223.800	-38243.931	129.492			
132		1g	土器	破片	-						-193223.964	-38244.007	129.492			
133		1g	土器	胴部片	-						-193223.885	-38244.085	129.526			
134		1g	土器	破片	-						-193224.110	-38244.211	129.540			
135		1g	土器	壘形土器口縁部片	-						-193224.132	-38244.243	129.548			
136		1g	土器	破片	-						-193224.063	-38244.379	129.525			
137		1g	土器	底部付瓦胴部片	-						-193224.278	-38243.981	129.590			
138		1g	土器	破片	-						-193224.529	-38243.663	129.685			
139		1g	土器	破片	-						-193224.626	-38244.166	129.611			
140		1g	土器	壘形土器頸部夾帯部片	-						-193224.872	-38243.654	129.728			
141		1g	土器	胴部片	-						-193225.215	-38243.584	129.804			
142		1g	土器	底部付瓦胴部片	-						-193225.504	-38243.756	129.755			
143		1g	土器	胴部片	-						-193225.229	-38243.949	129.706			
144		1g	土器	底部付瓦胴部片	-						-193225.278	-38243.884	129.664			
145		1g	土器	胴部片	-						-193225.493	-38244.090	129.677			
146		1g	礎	礎	軽石	2.9	58.3	35.8	30.5	15	-193224.998	-38244.161	129.664		黒色あり	
147		1g	土器	胴部片	-						-193225.196	-38244.527	129.580			
148		1g	土器	壘形土器頸部夾帯部片	-						-193225.351	-38244.506	129.595			
149		1g	土器	壘形土器胴部片	-						-193225.365	-38244.730	129.616			
150		1g	土器	破片	-						-193225.314	-38244.763	129.551			

Tab.13 13トレンチ出土遺物台帳③

取上 番号	図面 番号	類別	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 (×10 ⁻⁴ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	混合 割合	同一 群体	備考
151			1g	土器	破片	-						-193225.372	-38244.818	129.545			
152			1g	土器	壺形土器腹部夾帯破片	-						-193225.989	-38244.932	129.646			
153			1g	土器	破片	-						-193225.584	-38245.439	129.689			
154			1g	土器	破片	-						-193225.463	-38245.335	129.503			
155			1g	土器	破片	-						-193225.445	-38245.574	129.504			
156			1g	土器	夾帯破片	-						-193224.777	-38245.030	129.564			
157			1g	土器	割落片	-						-193224.592	-38244.725	129.500			
158			1g	土器	壺形土器腹部夾帯破片	-						-193223.903	-38244.638	129.413			
159			1g	土器	破片	-						-193223.638	-38244.392	129.446			
160			1g	土器	破片	-						-193223.516	-38244.069	129.533			
161			1g	土器	割落片	-						-193223.186	-38244.197	129.414			
162			1g	土器	夾帯破片	-						-193222.982	-38243.809	129.434			
163			1g	土器	割落片	-						-193222.878	-38243.928	129.363			
164			1g	土器	破片	-						-193222.902	-38243.793	129.391			
165			1g	土器	破片	-						-193223.396	-38244.657	129.339			
166			1g	土器	壺形土器腹部夾帯破片	-						-193222.560	-38243.724	129.436			
167			1g	土器	夾帯破片	-						-193222.419	-38243.781	129.337			
168			1g	土器	破片	-						-193222.382	-38243.871	129.304			
169			1g	土器	壺形土器口縁部片	-						-193222.624	-38244.075	129.284			
170			1g	土器	破片	-						-193222.329	-38244.454	129.323			
171			1g	土器	壺形土器腹部片	-						-193222.352	-38244.301	129.334			
172			1g	土器	破片	-						-193222.847	-38244.144	129.336			
173			1g	土器	割落片	-						-193222.611	-38244.800	129.332			
174			1g	土器	壺形土器腹部夾帯破片	-						-193222.807	-38244.630	129.312			
175			1g	磨石	磨石加工品	磨石	19.4	74.5	39.9	39.3	36.44	-193222.688	-38244.980	129.338			
176			1g	土器	破片	-						-193222.713	-38245.158	129.382			
177			1g	土器	底部付近割落片	-						-193223.068	-38244.975	129.322			
178			1g	土器	破片	-						-193223.181	-38245.086	129.330			
179			1g	土器	破片	-						-193223.236	-38244.711	129.397			
180			1g	土器	割落片	-						-193223.408	-38244.954	129.332			
181			1g	土器	破片	-						-193223.861	-38244.894	129.386			
182			1g	土器	破片	-						-193223.923	-38245.170	129.439			
183			1g	磨石	磨石	磨石	23.7	100.8	79.2	53.4	135	-193224.038	-38244.866	129.363			
184			1g	土器	口縁部片	-						-193223.741	-38245.402	129.375			
185			1k	土器	壺形土器腹部夾帯破片	-						-193223.324	-38245.469	129.386			
186			1g	土器	割落片	-						-193223.325	-38245.598	129.348			
187			1g	土器	割落片	-						-193223.634	-38245.751	129.343			
188			1g	土器	破片	-						-193223.382	-38246.045	129.322			
189			1g	土器	割落片	-						-193223.688	-38245.456	129.328			
190			1g	土器	口縁部片	-						-193223.886	-38246.033	129.280			
191			1g	土器	破片	-						-193223.760	-38246.024	129.276			
192			1g	土器	破片	-						-193223.625	-38246.193	129.273			
193			1g	土器	破片	-						-193224.055	-38246.028	129.296			
194			1g	土器	破片	-						-193223.459	-38246.472	129.272			
195			1k	磨石	磨石	磨石	33.9	83.9	47.5	45.7	68	-193223.635	-38246.324	129.295			
196	30	○	1g	土器	壺形土器腹部片	-						-193223.770	-38246.288	129.340			
197			1g	土器	破片	-						-193223.983	-38246.303	129.359			
198			1g	土器	割落片	-						-193224.211	-38246.307	129.336			
199			1g	土器	破片	-						-193224.236	-38246.500	129.312			
200			1g	土器	口縁部片	-						-193223.987	-38245.768	129.357			

Tab.14 13トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	実測 方位	種類	部位・器種名	材質	容積率 (×10-4 SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	検合	同一 器物	備考	
301			1g	土器	胴破片	-					-193224.450	-38245.680	129.421				
302			1g	土器	胴破片	-					-193224.449	-38245.413	129.477				
303			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193224.500	-38245.517	129.418				
304			1g	土器	胴破片	-					-193224.529	-38245.837	129.434				
305			1g	陶	甕	軽石	22.9	49.2	37.1	40.5	25.83	-193224.633	-38245.905	129.438			
306			1g	土器	胴破片	-					-193224.845	-38245.892	129.428				
307			1g	土器	胴破片	-					-193225.055	-38246.026	129.379				
308			1g	土器	破片	-					-193225.000	-38246.063	129.359				
309			1g	土器	破片	-					-193224.569	-38246.230	129.332				
210			1g	土器	破片	-					-193224.776	-38246.323	129.333				
211			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193224.791	-38246.261	129.344				
212			1g	土器	口縁部片	-					-193224.686	-38246.475	129.293				
213			1g	土器	壘形土器胴破片	-					-193224.683	-38246.394	129.261				
214			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193224.800	-38246.785	129.265				
215			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193224.476	-38246.850	129.250			黒色リ	
216			1g	土器	壘形土器尖帯部片	-					-193224.193	-38247.137	129.278				
217			1g	土器	胴破片	-					-193224.024	-38246.987	129.231				
218			1g	土器	破片	-					-193223.976	-38247.219	129.271				
219			1g	土器	壘形土器尖帯部片	-					-193224.042	-38247.414	129.284				
220	17	○	1g	土器	壘形土器口縁部片	-					-193224.174	-38247.468	129.214				
221			1g	陶	甕	不明	28.9	31.1	24.5	17.6	9.14	-193224.102	-38247.567	129.359			
222			1g	土器	胴破片	-					-193224.241	-38247.464	129.202				
223	6	○	1g	土器	壘形土器口縁部片	-					-193224.373	-38247.307	129.199				
224			1g	土器	壘形土器口縁部片	-					-193224.433	-38247.041	129.226				
225			1g	土器	破片	-					-193224.489	-38247.742	129.252				
226	35	○	1g	埴器	軽石製加工品	軽石	6.3	8.8	7.2	3.5	58.62	-193224.563	-38247.358	129.202			
227			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193224.736	-38247.533	129.274				
228			1g	土器	破片	-					-193224.796	-38247.432	129.282				
229			1g	土器	破片	-					-193224.847	-38247.550	129.242				
230			1g	土器	壘形土器口縁部片	-					-193225.629	-38247.265	129.279				
231			1g	土器	尖帯部片	-					-193224.881	-38247.443	129.247				
232			1g	陶	甕	軽石	22.5	82.2	48.9	35.5	40.05	-193224.058	-38247.470	129.245			
233			1g	土器	胴破片	-					-193224.998	-38247.391	129.223				
234			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193225.043	-38247.307	129.324				
235			1g	土器	胴破片	-					-193225.065	-38247.228	129.325				
236			1g	土器	破片	-					-193224.869	-38247.810	129.200				
237			1g	土器	胴破片	-					-193224.912	-38248.008	129.253				
238			1g	土器	壘形土器尖帯部片	-					-193224.972	-38247.908	129.316				
239			1g	土器	尖帯部片	-					-193224.233	-38247.332	129.202				
240			1g	陶	甕	軽石	70.3	85.7	60.3	27.9	70	-193225.002	-38248.060	129.224			
241			1g	土器	尖帯部片	-					-193224.882	-38248.238	129.218				
242			1g	土器	破片	-					-193224.919	-38248.301	129.207				
243	12	○	1g	土器	壘形土器口縁部片	-					-193225.038	-38247.827	129.224				
244			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193225.262	-38248.085	129.303				
245			1g	土器	尖帯部片	-					-193225.104	-38247.751	129.249				
246			1g	土器	破片	-					-193225.199	-38247.834	129.202				
247			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193225.251	-38247.884	129.255				
248	31	○	1g	土器	壘形土器底部片	-					-193225.376	-38247.985	129.237				
249			1g	土器	胴破片	-					-193225.536	-38247.664	129.273				
250			1g	土器	壘形土器頸部尖帯部片	-					-193225.766	-38247.732	129.376				

Tab.15 13トレンチ出土遺物台帳⑤

出土 層位 番号	実測 層位	種類	部位・部名称	材質	帯幅中 (×10-4.5%)	決量長 (mm)	決量幅 (mm)	決量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	結合	同一 層位	備考
251	1g	土器	破片	-						-10225.470	-38247.247	129.264			
252	1g	土器	破片	-						-10225.259	-38247.180	129.272			
253	1g	土器	底部分瓦破片	-						-10225.166	-38247.200	129.268			
254	1g	土器	破片	-						-10225.196	-38247.020	129.269			
255	1g	土器	破片	-						-10225.303	-38246.961	129.272			
256	1g	土器	破片	-						-10225.060	-38246.782	129.253			
257	1g	土器	破片	-						-10224.960	-38246.669	129.258			
258	1g	土器	破片	-						-10225.200	-38246.443	129.256			
259	1g	土器	破片	-						-10225.249	-38246.269	129.264			
260	1g	土器	破片	-						-10225.360	-38246.371	129.256			
261	1g	土器	底部付瓦破片	-						-10225.447	-38246.660	129.215			
262	1g	土器	破片	-						-10225.772	-38247.119	129.321			
263	1g	土器	破片	-						-10225.875	-38246.803	129.264			
264	1g	土器	胴部片	-						-10225.996	-38246.903	129.420			
265	1g	土器	胴部片	-						-10226.060	-38246.882	129.427			
266	1g	土器	胴部片	-						-10225.840	-38246.584	129.456			
267	1g	土器	底部付瓦破片	-						-10226.170	-38247.102	129.264			
268	3	○	1g 土器	甕形土器口縁部片	-					-10226.160	-38246.994	129.278			
269	1g	土器	破片	-						-10226.430	-38247.268	129.424			
270	1g	土器	胴部片	-						-10226.513	-38247.289	129.453			
271	1g	土器	破片	-						-10226.244	-38246.805	129.453			
272	1g	土器	胴部片	-						-10226.254	-38246.961	129.405			
273	1g	土器	胴部片	-						-10226.850	-38247.297	129.266			
274	1g	土器	胴部片	-						-10226.597	-38247.190	129.401			
275	1g	土器	底部付瓦破片	-						-10226.649	-38247.082	129.416			
276	1g	土器	底部分瓦破片	-						-10226.726	-38247.052	129.447			
277	1g	土器	胴部片	-						-10226.723	-38246.963	129.461			
278	1g	土器	口縁部片	-						-10226.832	-38246.943	129.447			
279	1g	土器	破片	-						-10226.689	-38246.913	129.433			
280	1g	土器	胴部片	-						-10226.583	-38246.783	129.474			
281	1g	土器	破片	-						-10226.582	-38246.645	129.496			
282	1g	土器	破片	-						-10227.066	-38246.666	129.553			
283	1g	土器	破片	-						-10226.573	-38246.453	129.473			
284	1g	土器	胴部片	-						-10226.772	-38246.207	129.507			
285	1g	土器	破片	-						-10226.171	-38246.448	129.428			
286	36	○	1g 雑器	軽石鉄加工品	軽石	36.4	8.6	9	3.9	105	-10225.743	-38246.342	129.431		
287	1g	土器	甕形土器尖部部片	-						-10225.661	-38246.485	129.278			
288	26	○	1g 土器	甕形土器胴部片	-					-10225.782	-38246.078	129.437			
289	1g	土器	甕形土器胴部尖部部片	-						-10225.710	-38246.629	129.527			
290	1g	雑器	軽石鉄加工品	軽石	6.6	35.5	21.7	20.9	4.17	-10226.096	-38246.848	129.266			
291	1g	土器	破片	-						-10226.389	-38246.017	129.505			
292	1g	雑	竈	安山岩	26.3	36.3	22.4	11.9	12.74	-10226.354	-38245.753	129.598			
293	1g	土器	胴部片	-						-10226.618	-38245.953	129.566			
294	1g	土器	破片	-						-10227.283	-38246.991	129.444			
295	24	○	1g 土器	甕形土器口縁部片	-					-10227.184	-38247.044	129.453			内面(鉄線)
296	1g	土器	胴部片	-						-10227.463	-38246.829	129.473			
297	1g	土器	底部分瓦	-						-10227.267	-38246.487	129.486			
298	1g	土器	甕形土器底部尖部部片	-						-10227.236	-38246.426	129.578			
299	1g	土器	胴部片	-						-10227.080	-38246.247	129.522			
300	1g	土器	尖部部片	-						-10226.884	-38245.998	129.531			

Tab.16 13トレンチ出土遺物台帳⑤

取上 番号	図面 番号	実測 単位	編年	部位・器種名	材質	標高甲 (X10-4SI)	法線長 (m)	法線幅 (m)	法線厚 (m)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	組合	同一 器体	備考
301		1g	土器	腰形土器胴部尖帯部片	-					-193226.675	-38246.137	129.502				
302		1g	土器	底碎片	-					-193227.610	-38246.752	129.472				
303		1g	土器	胴片	-					-193227.780	-38246.603	129.576				
304		1g	土器	胴部片	-					-193228.020	-38246.660	129.586				
305		1g	土塊	土塊	-					-193228.027	-38246.334	129.606				
306		1g	土器	盆形土器尖帯部片	-					-193227.933	-38246.254	129.626				
307		1g	土器	破片	-					-193227.932	-38246.124	129.640				
308		1g	土器	胴部片	-					-193227.809	-38245.926	129.707				
309	11	○	1g	土器	腰形土器口縁部片	-				-193227.460	-38245.853	129.606	368			
310		1g	土器	破片	-					-193227.532	-38245.674	129.642				
311		1g	土器	盆形土器胴部尖帯部片	-					-193227.564	-38245.546	129.669				
312		1g	土器	胴部片	-					-193227.505	-38245.495	129.663				
313		1g	土器	破片	-					-193227.116	-38245.814	129.638				
314		1g	土器	胴部片	-					-193226.887	-38245.811	129.563				
315		1g	土器	尖帯部片	-					-193226.915	-38245.645	129.644				
316		1g	土器	破片	-					-193226.902	-38245.500	129.670				
317		1g	土器	破片	-					-193226.813	-38245.622	129.606				
318		1g	土器	胴部片	-					-193226.820	-38245.181	129.658				
319		1g	土器	破片	-					-193226.532	-38245.261	129.672				
320		1g	土器	破片	-					-193226.276	-38245.246	129.633				
321		1g	土器	腰形土器胴部尖帯部片	-					-193226.730	-38244.900	129.712				
322		1g	土器	腰形土器胴部尖帯部片	-					-193226.827	-38244.858	129.688				
323		1g	土器	尖帯部片	-					-193226.809	-38244.804	129.708				
324		1g	土器	底部片	-					-193226.660	-38244.630	129.688				
325		1g	土器	破片	-					-193226.625	-38244.284	129.679				
326		1g	土器	盆形土器胴部尖帯部片	-					-193226.643	-38244.485	129.680				
327		1g	土器	胴部片	-					-193226.871	-38244.304	129.767				
328		1g	土器	破片	-					-193227.108	-38245.138	129.738				
329		1g	土器	胴部片	-					-193227.308	-38245.196	129.727				
330		1g	土器	破片	-					-193227.475	-38244.836	129.786				
331		1g	土器	破片	-					-193227.807	-38244.919	129.821				
332		1g	土器	破片	-					-193227.777	-38245.268	129.763				
333		1g	土器	破片	-					-193228.287	-38245.052	129.890				
334		1g	土器	胴部片	-					-193228.452	-38245.694	129.768				
335		1g	土器	破片	-					-193228.627	-38245.972	129.785				
336		1g	土器	破片	-					-193228.224	-38246.269	129.671				
337		1g	土器	口縁部片	-					-193228.361	-38246.245	129.727				
338		1g	土器	破片	-					-193229.241	-38245.794	129.868				
339		1g	土器	口縁部片	-					-193229.176	-38245.474	130.000				
340		1g	土器	胴部片	-					-193228.903	-38245.221	130.050				
341		1g	土器	腰形土器口縁部片	-					-193228.690	-38245.034	129.963				
342	27	○	1g	土器	腰形土器胴部片	-				-193227.901	-38244.365	130.041				胴部片有
343		1g	土器	腰形土器尖帯部片	-					-193222.637	-38243.101	129.575				
344		1g	土器	胴部片	-					-193223.427	-38242.934	129.653				
345		1g	土器	底部片	-					-193223.125	-38243.105	129.598				
346		1g	土器	胴部片	-					-193223.044	-38243.203	129.530				
347		1g	甕	甕	安山岩	72.1	51	36.2	16.2	44.96	-193222.652	-38243.399	129.347			
348		1g	土器	胴部片	-					-193221.646	-38243.508	129.240				
349		1g	土器	口縁部片	-					-193221.909	-38243.888	129.260				
350		1g	土器	胴部片	-					-193222.425	-38244.183	129.255				

Tab.17 13トレンチ出土遺物台帳⑦

取上 品目 番号	回数 番号	次順	層位	種類	部位・器種名	材質	等細率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量尺 (mm)	法量端 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X線精	Y線精	Z線精	混合 試体	備考
351			1g	土部	銅箔片	-						-193222.617	-38344.288	129.274		
352			1g	土部	銅箔片	-						-193223.835	-38342.633	129.694		
353			1g	土部	銅箔片	-						-193224.574	-38347.112	128.228		
354			1g	礎	礎	安山岩	7.7	39.4	30.8	17.9	36.24	-193224.668	-38347.212	129.221		
355			1g	土部	破片	-						-193228.028	-38341.967	130.564		
356			1g	土部	銅箔片	-						-193228.070	-38341.834	130.691		
357			1g	土部	破片	-						-193227.759	-38341.452	130.639		
358			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193224.994	-38344.633	129.541		
359			1g	土部	突起帯破片	-						-193229.681	-38343.176	130.177		
360			1g	土部	破片	-						-193229.280	-38344.287	130.216		
361			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193228.963	-38344.028	130.266		
362			1g	土部	漆器片	-						-193228.525	-38344.233	130.154		
363			1g	土部	破片	-						-193228.784	-38343.745	130.267		
364			1g	土部	底部付瓦銅箔片	-						-193228.698	-38343.562	130.209		
365			1g	土部	漆器片	-						-193228.019	-38343.846	130.128		
366			1g	土部	破片	-						-193228.726	-38346.168	129.713		
367			1g	土部	破片	-						-193227.888	-38345.903	129.622		
368	11	○	1g	土部	半月土部口縁破片	-						-193227.251	-38346.394	129.699	309	
369			1g	土部	銅箔片	-						-193228.914	-38346.066	129.489		
370			1g	土部	破片	-						-193226.768	-38345.902	129.510		
371			1g	土部	銅箔片	-						-193227.501	-38346.970	129.430		
372	8	○	1g	土部	半月土部口縁破片	-						-193227.002	-38346.528	129.429	122	
373			1g	土部	半月土部銅箔片	-						-193228.775	-38346.442	129.441		
374			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193226.865	-38346.735	129.402		
375			1g	土部	銅箔片	-						-193226.901	-38346.877	129.384		
376			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193226.569	-38347.116	129.368		
377			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193226.331	-38347.159	129.317		
378			1g	土部	銅箔片	-						-193226.134	-38347.293	129.310		
379			1g	土部	銅箔片	-						-193226.044	-38347.566	129.238		
380			1g	土部	銅箔片	-						-193225.691	-38347.869	129.212		
381	32	○	1g	礎	軽石製加工品	軽石	3.4	6.6	5.1	2.7	17.18	-193225.785	-38346.585	129.318		
382			1g	土部	破片	-						-193225.774	-38346.680	129.332		
383			1g	土部	破片	-						-193225.634	-38346.544	129.294		
384			1g	土部	破片	-						-193225.661	-38346.935	129.288		
385	15	○	1g	土部	半月土部口縁破片	-						-193225.749	-38347.002	129.254		
386			1g	土部	突起帯破片	-						-193225.627	-38347.112	129.264		
387			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193225.566	-38347.315	129.239		
388			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193225.285	-38347.038	129.246		
389			1g	土部	口縁破片	-						-193225.254	-38347.144	129.231		
390			1g	土部	漆器片	-						-193225.331	-38347.365	129.221		
391			1g	土部	破片	-						-193225.136	-38347.339	129.201		
392			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193225.248	-38347.546	129.206		
393			1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193225.131	-38347.559	129.179		
394			1g	土部	漆器片	-						-193225.094	-38347.633	129.164		
395			1g	土部	破片	-						-193225.284	-38347.788	129.184		
396	28	○	1g	土部	半月土部突起帯破片	-						-193225.251	-38347.923	129.162		
397			1g	土部	突起帯破片	-						-193225.178	-38348.041	129.141		
398			1g	土部	突起帯破片	-						-193224.896	-38347.983	129.168		
399			1g	礎	礎	軽石	14.9	30.9	24.2	18.2	6.13	-193224.927	-38347.880	129.194		
400	1	○	1g	土部	半月土部口縁破片	-						-193224.880	-38347.802	129.173		

Tab.18 13トレンチ出土遺物台帳⑧

出土 図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	撮合 番号	備考	
401		1g	土器	胴部片	-					-193224.773	-38247.840	129.207			
402	33	○	1g	磨器	粒石製加工品	粒石	6.6	11	4.8	4.8	80	-193224.730	-38247.872	129.166	
403	5	○	1g	土器	底部上部口縁部片	-				-193224.617	-38247.700	129.159			
404		1g	土器	破片	-					-193224.777	-38248.083	129.166			
405	29	○	1g	土器	底部土器底部片	-				-193224.684	-38248.104	129.163			
406		1g	土器	破片	-					-193224.648	-38248.262	129.149			
407		1g	土器	突帯部片	-					-193224.481	-38248.086	129.155			
408		1g	土器	破片	-					-193224.343	-38247.893	129.157			
409	37	○	1g	磨器	粒石製加工品	粒石	9.8	6.3	5.7	3.4	29.91	-193224.244	-38247.728	129.156	
410		1g	土器	突帯部片	-					-193224.071	-38247.320	129.165			
411		1g	土器	破片	-					-193223.939	-38247.337	129.290			
412		1g	土器	胴部片	-					-193224.358	-38247.085	129.140			
413		1g	土器	胴部片	-					-193224.389	-38247.285	129.168			
414		1g	土器	底部土器胴部突帯部片	-					-193224.474	-38247.442	129.179			
415		1g	土器	底部付近胴部片	-					-193224.140	-38247.255	129.186			
416		1g	磨	磨盤削片	粒石	5.6	27.4	26.2	13.7	2.75	-193224.465	-38247.164	129.204		
417		1g	土器	底部土器口縁部片	-					-193224.422	-38247.101	129.194			
418		1g	土器	胴部片	-					-193224.464	-38247.083	129.204			
419		1g	土器	突帯部片	-					-193224.530	-38247.051	129.215			
420		1g	土器	破片	-					-193224.676	-38247.118	129.211			
421		1g	土器	突帯部片	-					-193224.873	-38247.062	129.222			
422		1g	土器	破片	-					-193225.228	-38246.777	129.259			
423		1g	土器	破片	-					-193225.170	-38246.767	129.263			
424		1g	土器	破片	-					-193224.985	-38246.749	129.257			
425		1g	土器	胴部片	-					-193224.938	-38246.618	129.253			
426		1g	土器	胴部片	-					-193225.361	-38246.573	129.207			
427		1g	土器	破片	-					-193225.226	-38246.505	129.209			
428		1g	土器	胴部片	-					-193225.129	-38246.426	129.226			
429		1g	土器	破片	-					-193225.161	-38246.165	129.327			
430		1g	土器	破片	-					-193225.310	-38246.081	129.357			
431		1g	土器	破片	-					-193225.708	-38246.002	129.416			
432		1g	土器	破片	-					-193225.781	-38245.907	129.424			
433		1g	土器	胴部片	-					-193224.444	-38246.660	129.211			
434		1g	土器	胴部片	-					-193223.814	-38246.803	129.189			
435		1g	土器	胴部片	-					-193224.603	-38246.176	129.356			
436		1g	土器	破片	-					-193224.463	-38246.067	129.270			
437		1g	土器	口縁部片	-					-193224.573	-38245.810	129.315			
438		1g	土器	胴部片	-					-193224.475	-38245.803	129.320			
439		1g	土器	底部土器突帯部片	-					-193224.394	-38245.706	129.293			
440		1g	土器	破片	-					-193223.810	-38246.282	129.253			
441		1g	土器	突帯部片	-					-193223.794	-38246.174	129.237			
442		1g	土器	底部付近胴部片	-					-193223.773	-38246.101	129.237			
443		1g	土器	破片	-					-193223.704	-38245.933	129.250			
444		1g	土器	胴部片	-					-193223.445	-38245.851	129.245			
445		1g	土器	底部土器底部突帯部片	-					-193223.027	-38245.860	129.268			
446		1g	土器	破片	-					-193223.290	-38245.543	129.312			
447		1g	土器	胴部片	-					-193223.247	-38245.414	129.260			
448		1g	土器	底部土器胴部突帯部片	-					-193223.501	-38245.467	129.319			
449	16	○	1g	土器	底部土器口縁部片～ 胴部突帯部片	-				-193223.559	-38245.298	129.289			
450		1g	土器	口縁部片	-					-193223.732	-38245.385	129.287			

Tab.19 13トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	図面 番号	実測 単位	種類	部位・器種名	材質	器径 平均 (×10-4 SI)	法身長 (mm)	法身幅 (mm)	法身厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	組合 同一 製作	番号	
451		1g	土器	破片	-						-193224.219	-38245.138	129.382			
452		1g	土器	胴部片	-						-193224.621	-38245.191	129.380			
453		1g	土器	破片	-						-193224.619	-38244.910	129.431			
454	18	○	1g	土器	菱形土器口縁部片	-					-193224.946	-38244.929	129.454			
455		1g	土器	胴部片	-						-193224.982	-38244.338	129.551			
456		1g	土器	破片	-						-193224.210	-38244.423	129.476			
457		1g	土器	菱形土器突帯部片	-						-193224.098	-38244.302	129.452			
458		1g	土器	破片	-						-193224.130	-38244.303	129.485			
459		1g	土器	胴部片	-						-193223.279	-38244.126	129.344			
460		1g	土器	破片	-						-193223.443	-38244.318	129.374			
461		1g	土器	破片	-						-193223.380	-38244.303	129.324			
462		1g	土器	突帯部片	-						-193223.445	-38244.489	129.326			
463	39	○	1g	石器	二次加工刮片	粘板岩	1.0	5.8	4.9	0.8	30.73	-193223.308	-38244.562	129.314		
464		1g	土器	破片	-						-193223.190	-38244.689	129.324			
465		1g	土器	胴部片	-						-193223.051	-38244.865	129.256			
466		1g	土器	破片	-						-193223.008	-38245.269	129.238			
467		1g	土器	破片	-						-193222.787	-38245.166	129.235			
468		1g	土器	破片	-						-193222.481	-38245.040	129.279			
469		1g	土器	胴部片	-						-193222.679	-38244.831	129.230			
470		1g	土器	胴部片	-						-193222.789	-38244.710	129.239			
471		1g	土器	胴部片	-						-193222.379	-38244.412	129.318			
472		1g	土器	胴部片	-						-193222.569	-38244.310	129.251			
473		1g	土器	底部付立刺部片	-						-193222.637	-38244.138	129.274			
474		1g	土器	突帯部片	-						-193221.950	-38244.168	129.348			
475		1g	土器	破片	-						-193222.469	-38243.819	129.254			
476		1g	土器	破片	-						-193222.585	-38243.689	129.335			
477		1g	漆	椀	不明	23.5	22.2	13.6	15.6	3.41	-193222.652	-38243.314	129.340			
478		1g	土器	胴部突帯部片	-						-193223.486	-38243.511	129.511			
479		1g	漆	椀	凝灰岩	1.2	25.1	22.4	15.3	10.85	-193223.256	-38243.518	129.524			
480		1g	土器	胴部片	-						-193223.609	-38243.540	129.537			
481		1g	土器	胴部片	-						-193223.698	-38243.690	129.482			
482		1g	粘土塊	粘土塊	-						-193223.692	-38242.465	129.620			
483		1g	土器	胴部片	-						-193222.470	-38242.018	129.539			
484		1g	土器	胴部片	-						-193221.956	-38242.936	129.377			
485		1g	土器	破片	-						-193221.706	-38241.929	129.519			
486		1g	土器	胴部片	-						-193221.620	-38241.864	129.482			
487		1g	土器	破片	-						-193221.463	-38241.881	129.463			
488	13	○	1g	土器	菱形土器口縁部片	-					-193221.568	-38242.068	129.411			
489		1g	土器	胴部片	-						-193221.481	-38241.959	129.414			
490		1g	土器	胴部片	-						-193221.381	-38242.043	129.397			
491		1g	土器	破片	-						-193221.353	-38242.196	129.333			
492		1g	土器	破片	-						-193221.111	-38242.173	129.346			
493		1g	土器	胴部片	-						-193220.820	-38241.890	129.489			
494		1g	土器	破片	-						-193224.930	-38247.333	129.197			
495		1g	土器	突帯部片	-						-193225.625	-38247.296	129.230			
496		1g	土器	胴部片	-						-193226.128	-38244.928	129.560			
497		1g	土器	胴部片	-						-193221.684	-38241.887	129.486			
498	22	○	1g	土器	菱形土器口縁部片	-					-193221.678	-38241.935	129.419			
499		1g	土器	胴部片	-						-193221.803	-38242.009	129.344			
500		1g	土器	破片	-						-193221.787	-38242.871	129.159			

Tab.20 13トレンチ出土遺物台帳⑩

取上 番号	図面 番号	実測 単位	種類	部位・器種名	材質	容積率 (×10-4%)	法量長 (m)	法量幅 (m)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	組合	同一 器物	備考	
501		1g	土器	破片	-						-193222.086	-38243.878	129.199				
502		1g	甕	甕	磁石	21.3	66.6	40.9	24.4	28.12	-193222.247	-38244.054	129.180			遺存あり	
503	7	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193222.259	-38244.132	129.163				
504		1g	土器	胴部片	-						-193222.466	-38244.271	129.199				
505		1g	土器	破片	-						-193222.246	-38244.442	129.101				
506		1g	土器	甕形土器胴部内帯部片	-						-193222.166	-38244.445	129.203				
507		1g	甕	甕	磁石	2.9	55.3	47.5	17.5	8.90	-193222.116	-38244.414	129.206				
508		1g	土器	破片	-						-193222.275	-38244.709	129.130				
509		1g	土器	胴部片	-						-193222.337	-38244.795	129.202				
510		1g	土器	胴部片	-						-193222.506	-38244.839	129.210				
511	38	○	1g	石器	切剥片	粘板岩	68.9	5.2	3.5	0.9	18.15	-193222.678	-38244.839	129.207			
512		1g	土器	胴部片	-						-193222.834	-38244.796	129.088				
513		1g	土器	胴部片	-						-193222.608	-38244.582	129.231				
514		1g	土塊	土塊	-						-193222.664	-38244.544	129.229				
515		1g	土器	口縁部片	-						-193223.086	-38244.214	129.241				
516		1g	土器	破片	-						-193223.394	-38243.519	129.383				
517		1g	土器	破片	-						-193223.504	-38243.315	129.461				
518		1g	土器	胴部片	-						-193224.164	-38243.653	129.488				
519		1g	土器	破片	-						-193224.005	-38244.771	129.317				
520		1g	土器	破片	-						-193223.935	-38244.832	129.282				
521		1g	土器	胴部片	-						-193224.109	-38244.977	129.327				
522		1g	土器	甕形土器胴部内帯部片	-						-193224.645	-38244.602	129.337				
523		1g	土器	胴部片	-						-193224.703	-38244.850	129.422				
524		1g	土器	胴部片	-						-193225.037	-38244.900	129.632				
525		1g	土器	胴部片	-						-193224.697	-38245.127	129.370			遺存あり	
526		1g	土器	胴部片	-						-193224.683	-38245.314	129.348			沈没あり	
527		1g	土器	胴部片	-						-193224.381	-38245.326	129.277			黒色あり	
528		1g	土器	胴部片	-						-193224.535	-38245.485	129.280				
529		1g	土器	破片	-						-193223.377	-38244.643	129.283				
530		1g	土器	破片	-						-193222.905	-38244.930	129.183				
531		1g	土器	破片	-						-193222.881	-38244.976	129.178				
532		1g	土器	底形破片	-						-193222.767	-38245.127	129.200				
533		1g	欠片	-	-						-193222.611	-38245.240	129.121				
534		1g	土器	破片	-						-193222.877	-38245.566	129.171				
535		1g	土器	胴部片	-						-193222.944	-38245.563	129.074				
536		1g	土器	破片	-						-193222.960	-38245.441	129.167				
537		1g	土器	破片	-						-193222.915	-38245.338	129.173				
538		1g	土器	甕形土器胴部内帯部片	-						-193223.084	-38245.338	129.140				
539		1g	土器	胴部片	-						-193223.058	-38245.295	129.184				
540		1g	土器	胴部片	-						-193223.053	-38245.213	129.194				
541		1g	土器	胴部片	-						-193223.003	-38245.196	129.214				
542		1g	土器	破片	-						-193223.067	-38245.653	129.218				
543		1g	土器	底部片	-						-193223.337	-38245.564	129.119				
544		1g	土器	胴部片	-						-193223.899	-38245.508	129.263				
545		1g	土器	破片	-						-193223.582	-38245.834	129.274				
546		1g	土器	胴部片	-						-193223.981	-38245.480	129.196				
547		1g	土器	胴部片	-						-193224.031	-38245.808	129.130				
548		1g	土器	破片	-						-193223.876	-38245.967	129.185				
549		1g	土器	破片	-						-193223.777	-38245.932	129.222				
550		1g	土器	甕形土器胴部片	-						-193223.792	-38245.871	129.224				

Tab.21 13トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	材質	形状	種類	部位・部名称	材質	容積率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法直径 (mm)	法厚 (mm)	法重量 (mg)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	結合	同一 個体	番号	
351		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.581	-38246.035	129.216				
352		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.532	-38246.967	129.176				
353		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.972	-38246.098	129.147			刷削あり	
354		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.345	-38246.087	129.090				
355		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.286	-38246.203	129.122				
356		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.333	-38246.307	129.121				
357		1g	土器	刷削片	-	安山岩	129.1	46.6	31.5	25.3	72	-19223.307	-38246.273	129.144				
358		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.511	-38246.373	129.131				
359		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.620	-38246.238	129.892				
360		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.653	-38246.510	129.144				
361		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.751	-38246.311	129.177				
362		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.589	-38246.704	129.092				
363		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.684	-38246.706	129.194				
364	2	○	1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-19223.776	-38246.711	129.178				
366	10	○	1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-19223.680	-38246.837	129.191				
366		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.947	-38246.517	129.185				
367		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.881	-38246.568	129.110				
368		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.909	-38246.464	129.165				
369	41	○	1g	土器	刷削片	-	安山岩	54.9	17.6	9.7	5.9	802	-19223.729	-38246.949	129.175			
370		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.849	-38246.794	129.093				
371		1g	土器	刷削片	-	礫石	2.8	79.7	60.6	35.7	34.89	-19223.859	-38246.841	129.182				
372		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.028	-38246.875	129.134				
373		1g	土器	刷削片	-	不明	18.5	22	16.1	13.9	4.24	-19224.011	-38246.867	129.112				
374		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.082	-38246.841	129.096				
375		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19223.912	-38247.146	129.156				
376		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.167	-38247.357	129.139				
377		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.141	-38247.422	129.132				
378		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.199	-38247.157	129.132				
379		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.431	-38247.128	129.031				
380		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.409	-38247.035	129.128				
381		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.473	-38247.011	129.169				
382		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.436	-38246.894	129.173				
383		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.318	-38246.739	129.105				
384		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.238	-38246.896	129.147				
385		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.444	-38246.687	129.171				
386		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.430	-38246.636	129.194				
387		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.663	-38246.625	129.229				
388		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.779	-38246.600	129.228				
389		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.706	-38246.535	129.188				
390		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.392	-38246.466	129.231				
391		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.837	-38246.420	129.197				
392		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.940	-38246.630	129.233				
393		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.948	-38246.673	129.229				
394	14	○	1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-19225.019	-38246.689	129.229				
395		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.955	-38246.745	129.215				
396	40	○	1g	土器	刷削片	-	砂岩	43.8	5.3	3.15	0.7	9.16	-19224.745	-38246.345	129.046			
397		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19225.160	-38246.531	129.117				
398		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19225.166	-38246.368	129.207				
399	19	○	1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-19225.100	-38246.292	129.296				
400		1g	土器	刷削片	-	-	-	-	-	-	-	-19224.763	-38246.832	129.284				

Tab.22 13トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	図面 番号	高野	層位	種類	部位・器名	材質	器高率 (X10.4 SI)	法身長 (m)	法量軸 (cm)	法量厚 (m)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 器体	備考
601			1g	埴	破損筒	安山岩	2.7	27.6	58.6	11.2	13.66	-193224.872	-38243.942	129.299			
602			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193225.803	-38246.171	129.312			
603			1g	土器	口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193225.831	-38246.290	129.299			
604			1g	土器	甕形土器胴部片	-	-	-	-	-	-	-193225.566	-38246.462	129.318			
605			1g	埴	破石	軽石	19	33.1	46.5	36.1	32.28	-193225.982	-38246.098	129.279			
606			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.224	-38246.140	129.323			
607			1g	土塊	土塊	-	-	-	-	-	-	-193226.150	-38244.903	129.442			
608			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.447	-38246.015	129.261			
609			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.462	-38246.085	129.410			
610			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193226.896	-38246.228	129.409			
611			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193226.682	-38246.641	129.326			
612			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.470	-38246.621	129.269			
613			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.625	-38246.855	129.247			
614			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.688	-38246.829	129.288			
615			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.236	-38246.862	129.224			
616			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.315	-38246.916	129.246			
617			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193226.040	-38246.628	129.224			
618			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193225.944	-38246.515	129.241			
619			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193225.944	-38246.769	129.274			
620			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193226.097	-38247.037	129.262			
621	4	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193226.074	-38247.095	129.255			
622			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.029	-38247.102	129.259			
623			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193225.778	-38246.988	129.232			
624			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.200	-38247.220	129.154			
625			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193226.545	-38247.377	129.220			
626			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193226.279	-38247.460	129.282			
627			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193226.246	-38247.483	129.270			
628			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193226.153	-38247.592	129.228			
629			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193225.994	-38247.531	129.221			
630	23	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193225.663	-38247.501	129.131			
631			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193225.617	-38247.508	129.142			
632			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193225.586	-38247.464	129.120			沈没あり
633			1g	土器	底部付土器片	-	-	-	-	-	-	-193225.552	-38247.015	129.227			
634			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193225.497	-38246.701	129.237			
635			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193225.430	-38246.730	129.219			
636			1g	土器	甕形土器胴部破片	-	-	-	-	-	-	-193225.441	-38246.622	129.222			
637			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193225.346	-38246.383	129.286			
638			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193225.285	-38247.020	129.220			
639			1g	雜器	軽石加工品	軽石	23.7	56.8	44.3	51.8	43.7	-193225.120	-38246.830	129.168			
640			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193225.030	-38246.820	129.088			
641			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193224.978	-38247.137	129.183			
642			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193224.870	-38247.085	129.125			
643			1g	土器	底部付土器片	-	-	-	-	-	-	-193224.936	-38247.322	129.119			
644			1g	土器	甕形土器胴部破片	-	-	-	-	-	-	-193225.060	-38247.518	129.114			
645			1g	土器	甕形土器胴部破片	-	-	-	-	-	-	-193224.391	-38247.124	129.091			
646			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193224.611	-38247.292	129.159			
647			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193224.710	-38247.487	129.085			
648			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193224.622	-38247.509	129.053			
649			1g	土器	割破片	-	-	-	-	-	-	-193224.794	-38247.666	129.118			
650			1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193224.652	-38247.695	129.108			

Tab.23 13トレンチ出土遺物台帳⑬

取土 層位 番号	層位 番号	層位 名	種類	部位・部類名	材質	容積率 (×10-4%)	法量長 (m)	法量幅 (m)	法量厚 (m)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	集合 番号	同一 層位 番号
651	1g	土層	破片	-	-	-	-	-	-	-	-193224.518	-38347.472	129.153		
652	1g	石層	破片	頁岩	頁岩	0.2	11.3	19.5	2.9	0.75	-193224.498	-38347.492	129.164		
653	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.478	-38347.677	129.048		
654	1g	土層	破片	-	-	-	-	-	-	-	-193224.536	-38347.856	129.022		
655	1g	土層	破片	-	-	-	-	-	-	-	-193224.481	-38347.961	129.025		
656	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.427	-38347.988	129.030		
657	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.796	-38347.938	129.137		
658	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.761	-38348.009	129.147		
659	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.756	-38348.135	129.106		
660	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.639	-38348.171	129.097		
661	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.568	-38348.291	129.089		
662	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.780	-38348.399	129.157		
663	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.631	-38348.318	129.923		
664	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.955	-38348.051	129.114		二重丸
665	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193225.062	-38347.963	129.141		
666	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193225.088	-38348.061	129.131		
667	1g	土層	破片	庭前付近破片	軽石	15.6	40.6	36.3	21	30.76	-193225.127	-38347.927	129.154		
668	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193225.079	-38347.899	129.058		
669	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193225.068	-38347.596	129.050		
670	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193225.496	-38347.728	129.095		
671	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193222.129	-38344.434	129.191		
672	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193222.593	-38344.334	129.150		
673	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193223.100	-38346.372	129.107		
674	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193222.935	-38346.638	129.146		
675	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193222.960	-38345.748	129.033		
676	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.277	-38346.104	128.934		
677	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.041	-38346.879	129.030		
678	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193224.056	-38344.742	129.059		
679	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193225.013	-38346.694	129.155		
680	1g	土層	破片	庭前付近破片	砂岩	5.9	23.1	15.9	11.9	3.73	-193225.183	-38346.009	129.006		
681	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-193225.187	-38347.923	128.970		
682	9	土層	破片	庭前付近破片	火山岩	23.8	29.1	24	12.9	8.19	-193227.600	-38342.210	126.984		
683	9	土層	破片	庭前付近破片	不明	0.6	43.1	35.7	23.7	43.34	-193228.027	-38342.095	126.982		
684	9	土層	破片	庭前付近破片	頁岩	0.6	27.4	17.6	7.7	4.96	-193228.383	-38342.778	126.101		
685	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
686	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
687	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
688	1g	土層	破片	庭前付近破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

Tab.24 13トレンチ出土遺物台帳④

第5節 14トレンチの調査

遺跡の広がりを確認するために、第1調査区の南西側、約130mの地点に12×12mのトレンチを設定し、確認調査を実施した。

本地点では、後期旧石器時代の遺構群が、西側にとこまで、広がっているかを確認する必要があったため、段掘りを繰り返して、第11層までを確認した。第11層検出時点で、現地表下約6.5mに達していたため、記録措置後、埋め戻し原状に復した。

(1) 層位 (Fig.26)

第1層、第1層g、第2層a～e、第3層、第4層、第5層、第6層、第7層、第8層、第9層、第10層、第11層を確認した。第2層上面は、北側方向へ浸食され、南側から北側に向けて傾斜しているため、その後堆積した上位層も同様の堆積状況を示す。しかしながら、第3層以前は、概ね水平堆積を示しており、旧地形と現況地形とが大きく異なることが



PL.35 14トレンチ完掘状況写真(南側より)

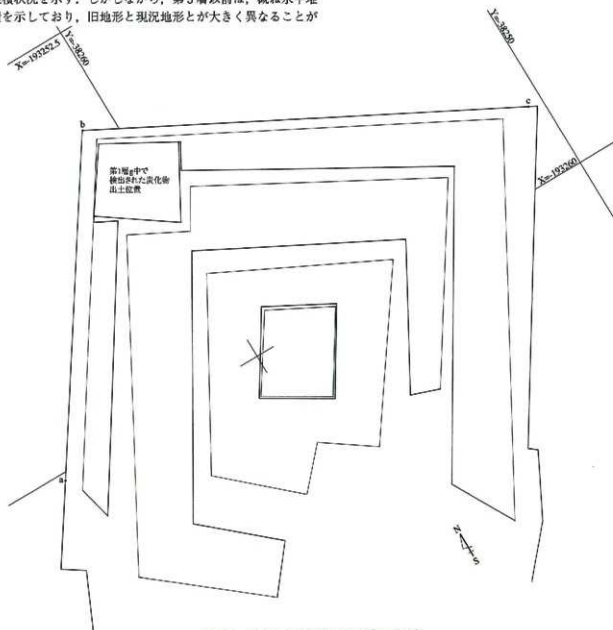


Fig.24 14トレンチ完掘状況図(S=1/100)



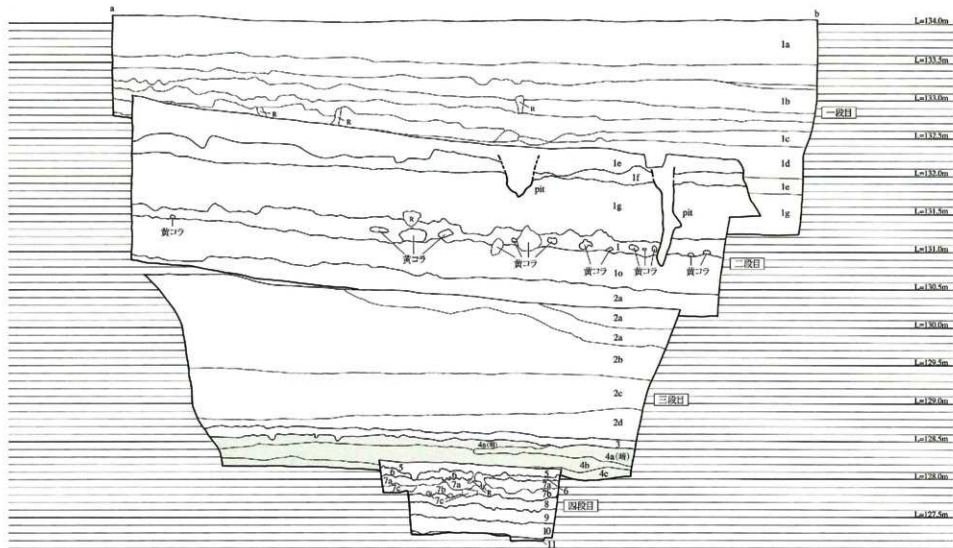


Fig.25 14トレンチ西壁層位断面図 (S=1/50)

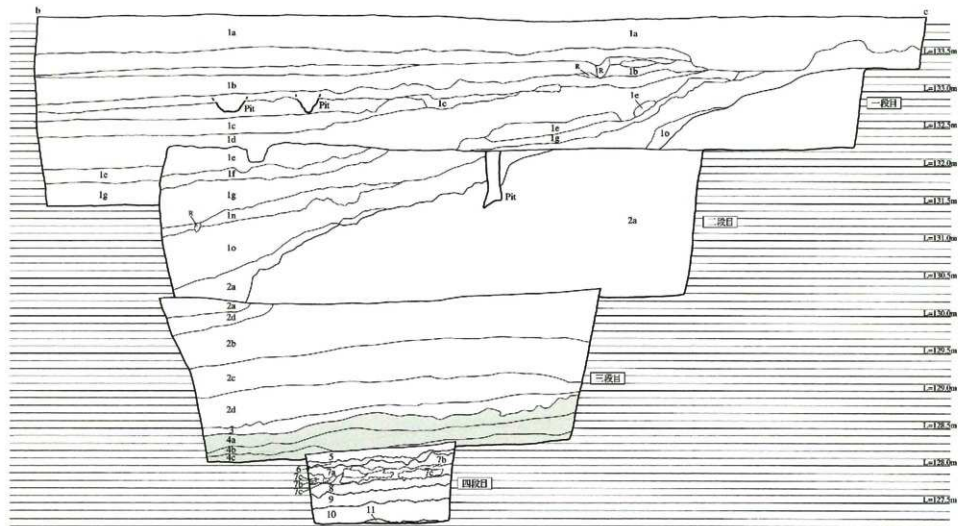


Fig.26 14レンチ北壁層位断面図(S=1/50)



PL36 14トレンチ東壁層位断面(一〜三段目)状況写真①



PL37 14トレンチ東壁層位断面(一〜二段目)状況写真②



PL38 14トレンチ北壁層位断面(一〜三段目)状況写真①



PL39 14トレンチ北壁層位断面(四段目)状況写真②

確認できた。第4層は、層厚約50cmで、第5層を直接被覆している。第7層は、層厚約20cmで、第8層を被覆している。第8層は、層厚約10cmで比較的安定して堆積している。第9,10層はともに層厚約20~25cmを測り、A,T,あるいは岩本火山灰を起源とするブロックが混在する。

(2) 遺構

①第1層dの遺構 (Fig.26~29)

第1層g上面において、第1層dを埋土とするピット17基を確認した。また西壁断面において2基確認した。ピットは、埋土から、中世の時期のものと考えられる。確認した範囲では、埋土中に遺物は見られなかった。ピットの詳細はTab.28の通りである。

②第1層gの遺構 (Fig.30~34)

i) ピット

第1層o上面または、2層a上面において、第1層gを埋土とするピット25基を確認した。ピットは、第1層gから第2層に対して掘り込まれていた。ピットは、埋土から、弥生時代中期に帰属するものと考えられる。ピットの詳細はTab.29の通りである。

ii) 炭化物 (Fig.35)

第1層gの遺物を取り上げ、第2層を平面的に検出する段階において、トレンチ北隅から炭化物が検出された。炭化物は、西壁・北壁内に延びる状況から、炭化物の全体的な検出を行うため、第1層gの掘削範囲を拡張した。炭化物はその形状から、板状のものと細い枝状のものであり、何らかの加工材であることも考えられた。板状の炭化物と枝状の

炭化物の周辺に細かな炭化物が散在しており、これらの炭化物がなぜこのような場所から検出されたのかという理由を探る上で参考になると思われる。炭化物の周辺では焼土や変色した土壤は認められなかった。

板状の炭化物は、欠損があるものの、最大長約260cm、最大幅約48cm、最大厚約3.5cmで平均約2cmを測る。断面観察から看取できるように、土圧のためか歪曲している。加工痕ではないかと想定できる部分は、側面展開図で看取できるように凸状になっている。また、中央付近に長さ7.5cm、幅6.5cmのほぼ長方形の穴が認められる。直径4cm前後の枝状の炭化物は、検出範囲の左隅で2本、中央下に1本確認された。炭化物は、自然化学分析・年代測定用のサンプルを採集後、埋め戻しを行い現地保存を行った。

(文責 鎌田)

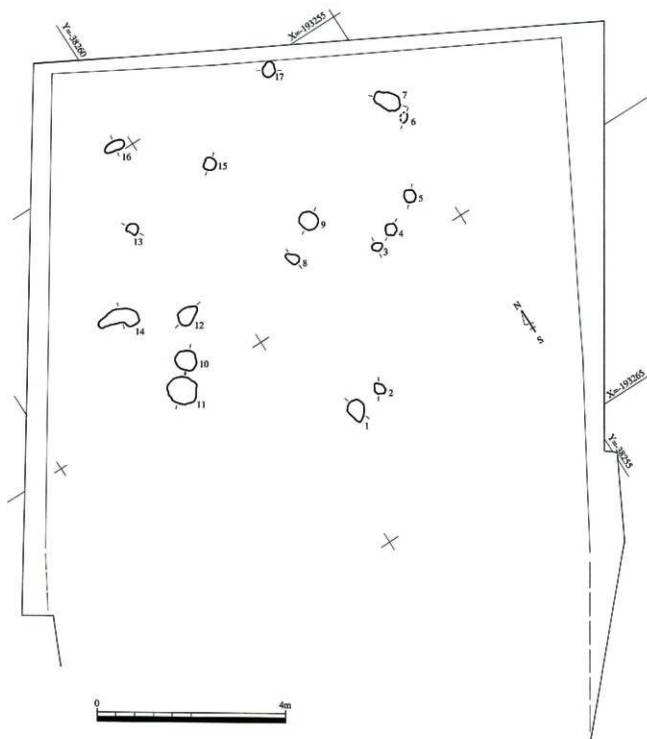


Fig.27 14トレンチ中世ピット検出状況図 (S=1/80)

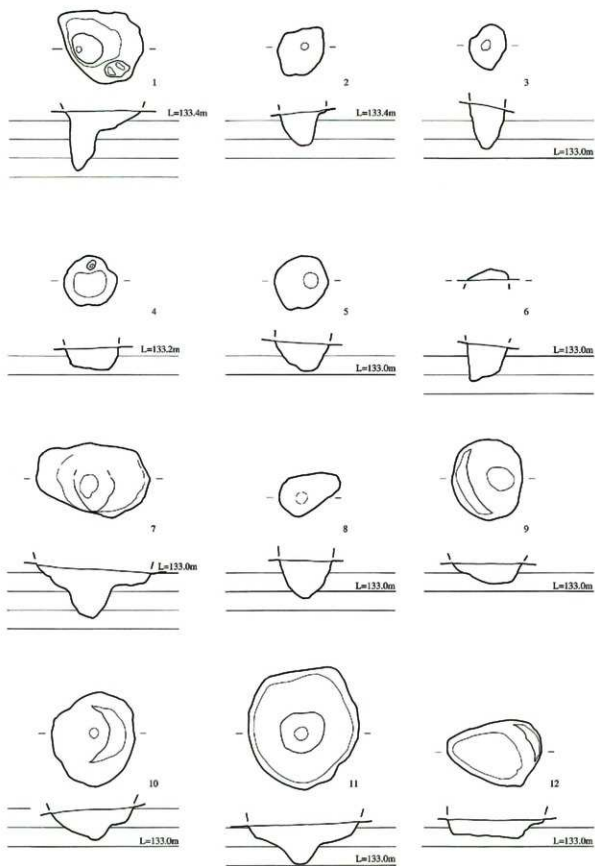


Fig.28 14トレンチ中世ビット平面・断面図①(S=1/20)

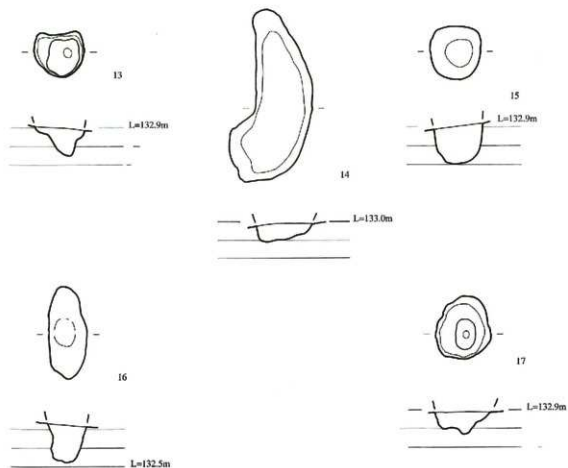


Fig.29 14トレンチ中世ビット平面・断面図②(S=1/20)

ビットNo.	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
1	49	22	31.5
2	31	22	17.5
3	22.5	17	23.5
4	28	26.5	11.3
5	31.5	21.5	15
6	21.5+ α	5.5+ α	19.5
7	60	36.5	26
8	34	20.5	20
9	43	37.5	10.5
10	49.5	43.5	16.5
11	63.5	38	21
12	50	34.5	8.5
13	23	21.5	15
14	90.5	30	9.5
15	28	27	21
16	49	20.5	20
17	34.5	29	11.5

Tab.25 14トレンチ中世ビット法量表



Pl.40 14トレンチ中世ビット6号検出状況写真①



Pl.41 14トレンチ中世ビット17号検出状況写真②



Pl.42 14トレンチ中世ビット10-11号検出状況写真③



Pl.43 14トレンチ中世ビット15号検出状況写真④

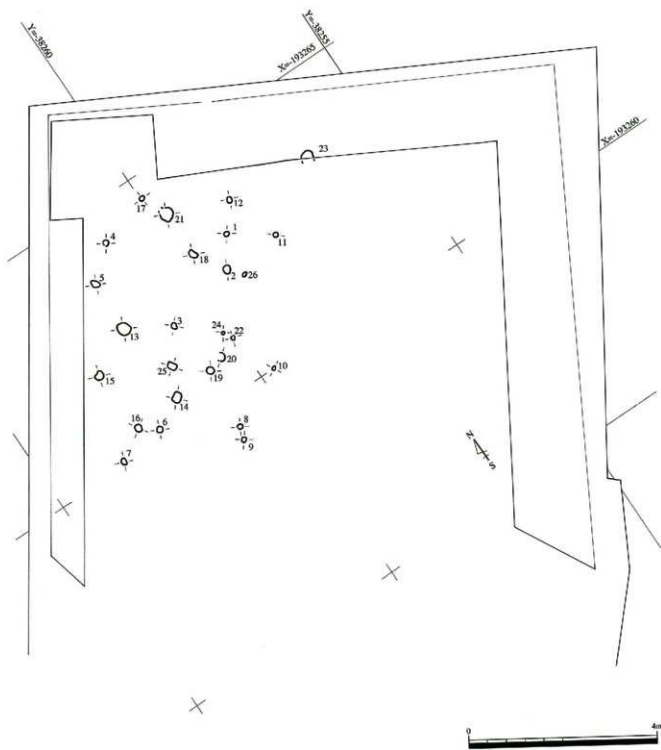


Fig.30 14トレンチ弥生時代ピット検出状況図(S=1/80)

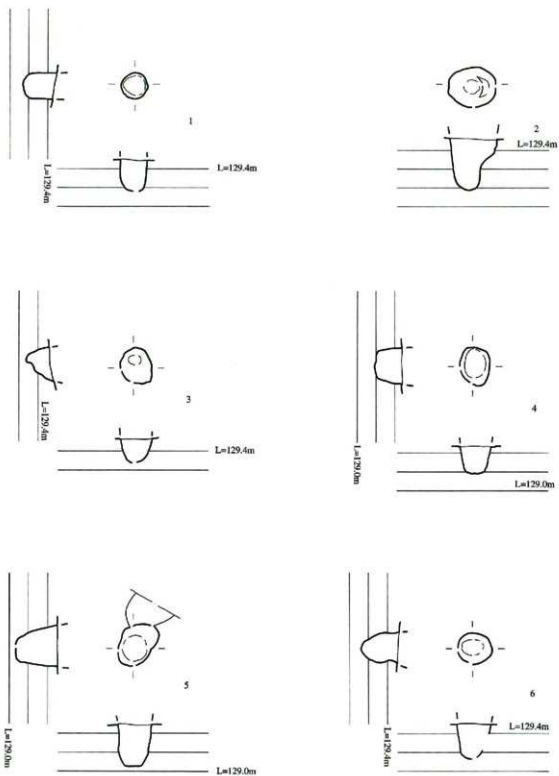


Fig.31 14トレンチ第1層g掃試ビット平面・断面図①(S=1/20)

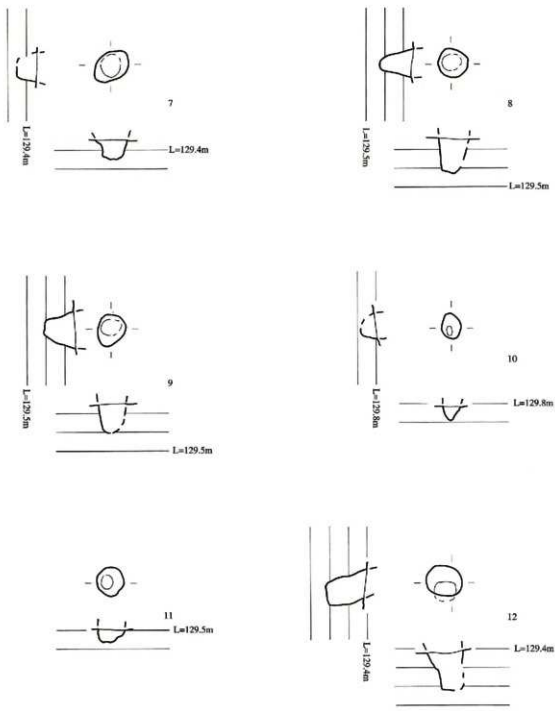


Fig.32 14トレンチ第1層g層風のビット平面・断面図②(S=1/20)

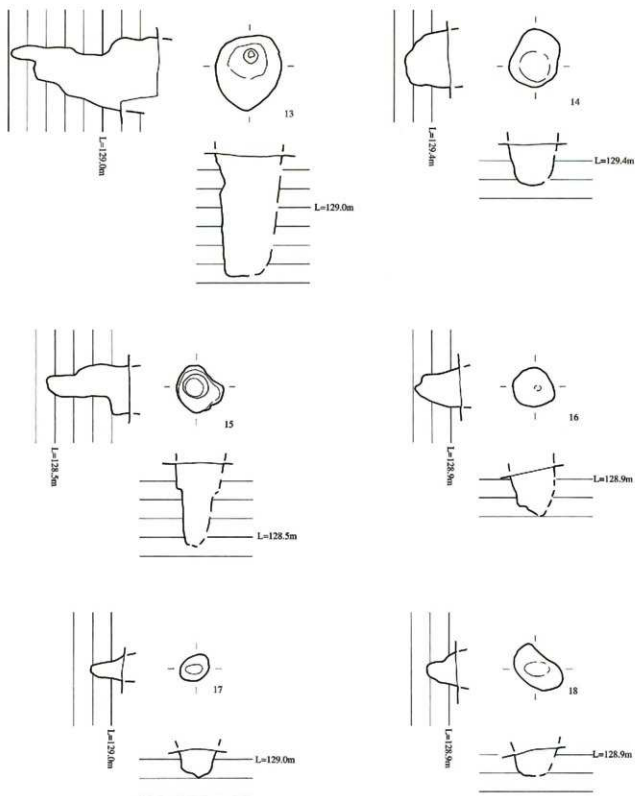


Fig.33 14トレンチ第1層g層腐のビット平面・断面図③(S=1/20)

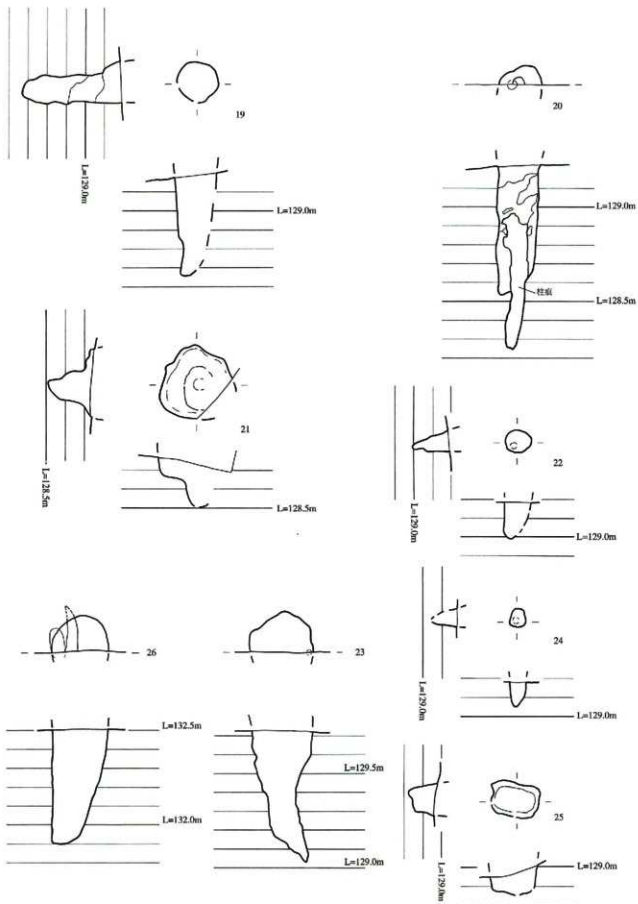


Fig.34 14トレンチ第1層g層のビット平面・断面図④(S=1/20)

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	15	14	17
2	25	21.5	27.5
3	21.5	16.5	12
4	21.5	16.5	15
5	26.5	17	22
6	19	17	19.5
7	21.5	15.5	10.5
8	16	16	14.5
9	18	14.5	16
10	14	11	7.5
11	16	15	6.5
12	19	16	21
13	40	34.5	78
14	31	25.5	22.5
15	25	25	43.5
16	22.5	20	24
17	17	13	17
18	29	17.5	16
19	22	22	52.5
20	23± <i>e</i>	9± <i>e</i>	97
21	41	30± <i>e</i>	19.5
22	14	12	19.5
23	34	21± <i>e</i>	69
24	10	9	13
25	25	13	14

Tab.26 14トレンチ弥生時代ピット法量表



Pl.44 14トレンチ弥生時代ピット13号検出状況写真



Pl.45 14トレンチ弥生時代ピット4号検出状況写真



Pl.46 14トレンチ弥生時代ピット20号検出状況写真



Pl.47 14トレンチ弥生時代ピット26号検出状況写真



Pl.48 14トレンチ弥生時代ビット15号検出状況写真



Pl.49 14トレンチ弥生時代ビット14号検出状況写真



Pl.50 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真①



Pl.51 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真②



Pl.52 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真③



Pl.53 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真④



Pl.54 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑤



Pl.55 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑥

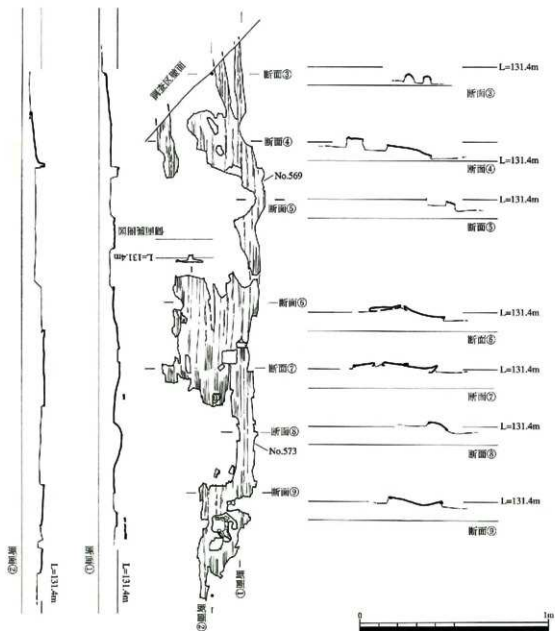


Fig.35 14トレンチ弥生時代炭化物平面・断面図(S=1/20)

(3) 遺物

14トレンチからは、第1層dより3点、第1層gからは、弥生時代中期に該当すると思われる合計545点の遺物が出土した。遺物の種類別の内訳は土器424点、石器3点、硃漆7点、礫41点、炭67点、土塊2点、鉄塊と考えられる3cm角程度の塊（但し、メタルチェッカーでの反応はない）1点等である。なお、41点の礫の中には、石器素材や自然礫等が含まれている可能性がある。

遺物は、旧地形の谷部の傾斜面に散在した状態で、谷部に廃棄された可能性と上位の平垣面にあったものが流れ込んだ可能性の2通りが考えられる。



PI.56 14トレンチ弥生時代遺物出土状況写真(北東側より)

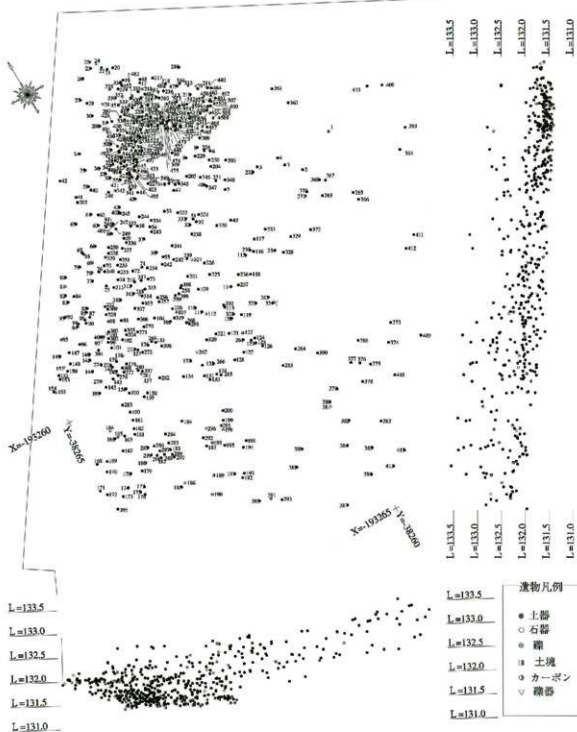
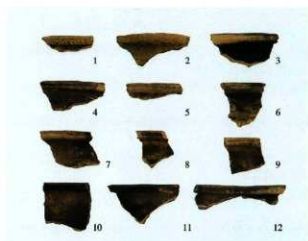


Fig.36 14トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1,80)



Pl.57 14トレンチ弥生時代出土土器①写真(外面)



Pl.58 14トレンチ弥生時代出土土器①写真(内面)

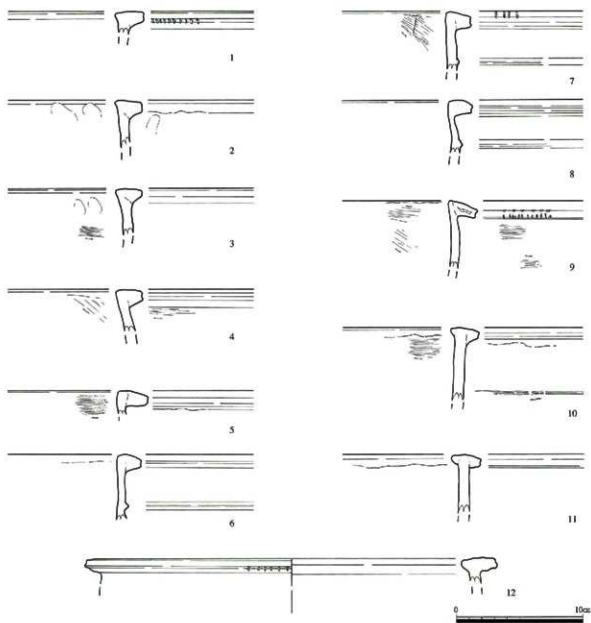


Fig.37 14トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)

①土器

No.1は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部端部の下方には、工具によるキザミが施される。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。

No.2は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、やや外下がり仕上げられている。器面内外面には、ユビオサエの痕跡が認められる。

No.3は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は、やや外下がり仕上げられている。

No.4は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。器面内外面には、工具によるナデの痕跡が残る。

No.5は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は、やや外下がり仕上げられている。

No.6は、壺形土器の口縁部～胴部突起部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外下りに仕上げられ、口縁部上面は丸みを帯びる。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐる。

No.7は、壺形土器の口縁部～胴部突起部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外下りに仕上げられ、口縁部端部上方には、工具によるキザミが施される。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐる。器面内面には、ハケメの痕跡が認められる。

No.8は、壺形土器の口縁部～胴部突起部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部端部は若干外下りに仕上げられている。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐる。器面内面には、工具によるナデの痕跡が認められる。

No.9は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は外下りに仕上げられ、端部には工具によるキザミが施されている。器面外面には、ハケメの痕跡が若干残る。

No.10は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、T字状を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外下りに仕上げられている。残存する胴部には2条の沈線がめぐる。

No.12は、壺形土器の口縁部の破片である。復元口径は、32.6cmを計る。口縁部の断面形態は、T字状を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外上りに仕上げられ、端部下方には工具によるキザミが施されている。

No.13は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈し、口縁部は若干外上りに仕上げられている。器面内面には工具によるナデの痕跡が残る。

No.14は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部はほぼ水平に仕上げられ、器面内面にはユビオサエの痕跡が、外面には工具によるナデの痕跡が認められる。

No.15は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈する。口縁部は外下がり仕上げられ、器面内面にはユビオサエの痕跡が残る。

No.16は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部は外下がり仕上げられている。

No.17は、壺形土器の口縁部～胴部突起部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈し、口縁部上面が若干窪み、外下がり仕上げられている。残存する胴部には、1条の三角突帯がめぐる。器面内面は、口縁部と胴部と接合痕が残る。

No.18は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、端部付近に段を有する。口縁部は外下がり仕上げられている。口縁部端部には工具によるキザミが施されている。器面内外面にハケメの痕跡が残る。外面にはカーボンの付着が見られる。

No.19は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部が若干窪む。口縁部は外下がり仕上げられている。器面内面は、工具によるナデの痕跡が残る。

No.20は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は外下がり仕上げられ、上面にはキザミ状の沈線が施されている。

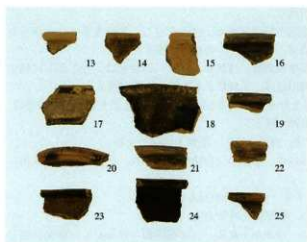
No.21は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は外下がり仕上げられている。

No.22は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、外側への迫り出しが短い。口縁部端部は窪む。口縁部は外下がり仕上げられている。

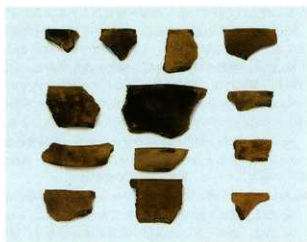
No.23は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部はほぼ水平に仕上げられている。

No.24は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部は水平に仕上げられている。器面内面にはハケメの痕跡が若干残る。

No.25は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部が若干窪む。口縁部は若干外下



PL59 14トレンチ弥生時代出土土器②写真(外面)



PL60 14トレンチ弥生時代出土土器②写真(内面)

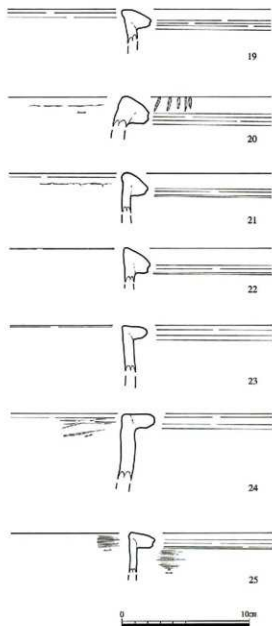
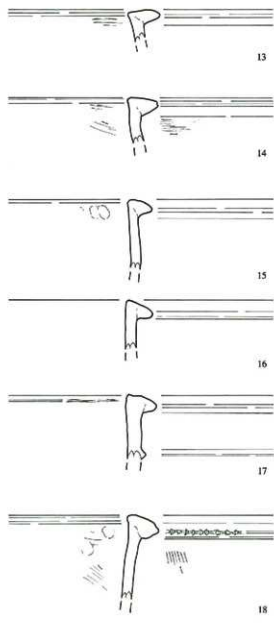


Fig.38 14トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)

がりに仕上げられている。器面内面には工具によるナデの痕跡が残る。

No.26は、壺形土器の口縁部～胴部突起部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、ほぼ水平に仕上げられている。残存する胴部には、1条の絨状突起がめぐる。器面内面は、ユビオサエの痕跡が残る。

No.27は、壺形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部は、外下がりに仕上げられ、端部には、棒状工具によるキザミが施されている。器面内面は、工具によるナデの痕跡が残る。

No.28は、壺形土器の口縁部の破片である。復元口径は、32cmを計る。口縁部の断面形態は、舌状を呈し、口縁部は、外上がりに仕上げられている。器面内面は、工具によるナデの痕跡が残る。

No.29は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、跳ね上げ状となる。

No.30は、壺形土器の胴部突起部の破片である。残存する胴部には、1条の三角突起がめぐる、その上方に焼成後に穿孔が施されている。補修孔の可能性がある。

No.31は、壺形土器の底部の破片である。器面内外面には工具によるナデの痕跡が残る。

No.32は、壺形土器の底部の破片である。底径は、9.1cmを計る。底部は平底である。

No.33は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は、13.8cmを計る。口縁部内面に段を有し、器面外面には、縦方向の暗文が施されている。

No.34は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は、19cmを計る。口縁部は外反し、断面形態は台形を呈する。また、端部が窪む。頸部の外面には、ハケメの痕跡が若干残る。

No.35は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は、19.2cmを計る。口縁部は外反し、頸部の内面には、工具によるナデの痕跡が残る。

No.36は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反し、端部が若干窪む。

No.37は、壺形土器の肩部突起部の破片である。残存する頸部には4条の三角突起がめぐる。

No.38は、壺形土器の肩部突起部の破片である。残存する肩部には4条の三角突起がめぐる。最下部の突起の接続部分は、片方の端部が大きくカーブしている。

No.39は、壺形土器の肩部突起部の破片である。残存する肩部には4条の三角突起がめぐる。

No.40は、壺形土器の肩部突起部の破片である。残存する肩部には2条の沈線がめぐる。

No.41は、壺形土器の肩部突起部の破片である。残存する肩部には1条の三角突起がめぐる。

No.42は、壺形土器の底部の破片である。復元底径は、6.2cmを計る。底部は平底である。

No.43は、壺形土器の底部の破片である。底部は平底である。

No.44は、鉢形土器の口縁部の破片である。器面内外面には工具によるナデの痕跡が残る。 (文責 渡部)

②石器

No.45は、頁岩製の平基式の石鏃である。a面・b面とも調整が著しいため、素材剥片の剥離面は認められない。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。まず、b面左側縁において、a面側からの加撃によって周辺加工が施されている。その後は、概ね次のような工程と考えられる。a面右側縁→a面左側縁→b面右側縁→a面基部→b面基部の順で調整が施されている。

a面・b面の両側縁は、調整段階の押圧剥離によって鋸歯状を呈している。

先端部は、やや丸みを帯びており、鋭利性が乏しい。

No.46は、頁岩製の凹基式の石鏃である。平面形態的には、先端部の中心線と基部の中心を結ぶと、a面右角が同面左角より若干短くなっている。短くなっている理由は、使用による欠損ではなく、調整段階によるものと考えられる。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。a面右側縁→b面左側縁→b面右側縁→a面左側縁→b面基部→a面基部へと、概ね調整工程が考えられる。

③礫器

No.47は、半円形を呈した軽石製加工品である。a面中央部に凹部が認められる。凹部の平面形は、約3.5cm×約2.2cmを測り不整形を呈し、深さは約1.8cmを測る。凹部は、c面の観察からも判断できるように、軽石断面の半分ほどで留まっており、意図された穿孔なのかあるいはその目的性については不明である。e面やb面の一部には、磨面が認められることから、何らかの工具あるいは、ある目的を持って加工されたものであると考えられる。

(文責 鎌田)



Pl.61 14トレンチ弥生時代出土土器③写真(外面)



Pl.62 14トレンチ弥生時代出土土器③写真(内面)

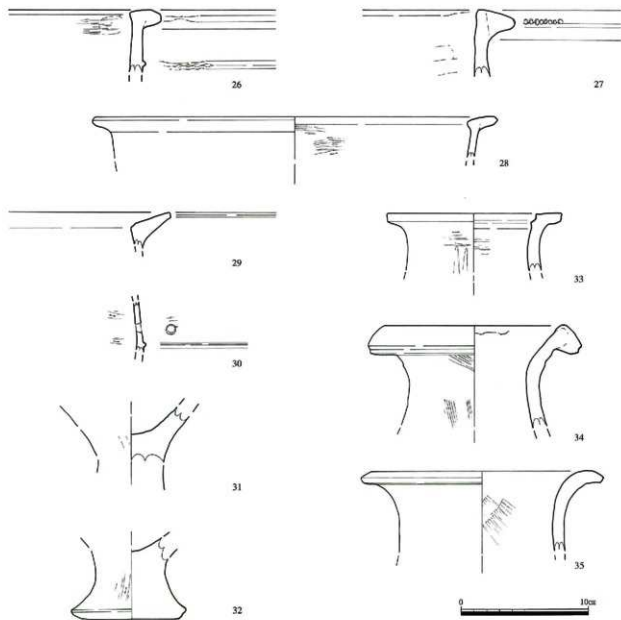
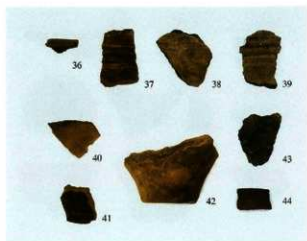


Fig.39 14トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)



PL.63 14トレンチ弥生時代出土土器③写真(外面)



PL.64 14トレンチ弥生時代出土土器③写真(内面)

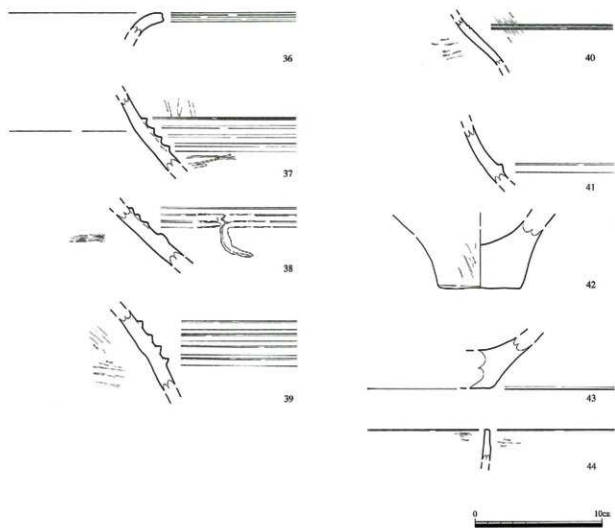


Fig.40 14トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)

調査No.	取上げNo.	器種	残存遺体(cm)	素材	色	外	色	内	色	色	色	集	取上げ時	底面材	調査	その他	出土層位	組合	
1	179	甕形土器	破片	口縁部	75YR4/2	75YR4/3	75YR4/1		口縁	75YR6/6	75YR5/3		磁砂粒・磁砂粒を若干含む	カセ白・黒・黄	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 縁部・コソナアの若干	磁土層間 底成良好	1g		
2	103	甕形土器	破片	口縁部	75YR4/2	10YR5/3	25Y4/1		口縁	10YR5/3			磁砂粒・磁砂粒をわずかに含む	カセ白・黒・黄	内・ニビヤキエスのナデ 外・ナデ・ニビヤキエ 口縁・コソナ	磁土層間 底成良好	1g		
3	220	甕形土器	破片	口縁部	25Y4/1	75YR5/3	75YR2/1		口縁	75YR5/3	75YR4/1		磁砂粒・磁砂粒を若干含む	カセ白・黒・黄	内・ナデ 外・二層に2層ナアのナデ 口縁・コソナ 二層に2層ナアのナデ	磁土層間 底成良好	1g		
4	228	甕形土器	破片	口縁部	75YR2/1	75YR4/1	75YR6/4		口縁	75YR4/2	5YR5/3		磁砂粒をわずかに含む 磁砂粒・磁砂粒を含む	カセ白・黒・金ツク 赤	内・二層に2層ナアのナデ 外・二層に2層ナアのナデ 口縁・二層によるナアのナデ コソナ	磁土層間 底成良好	1g		
5	461	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	75YR5/4	10YR4/2		口縁	5YR5/3			磁砂粒を含む 磁砂粒を含む	カセ白・ウツモ	内・コソナ 外・二層に2層ナアのナデ 口縁・コソナ 二層に2層ナアのナデ	磁土層間 底成良好	1g	461	
6	452	甕形土器	破片	口縁部	75YR4/2	75YR4/3	10YR6/3		口縁	25Y4/1	75YR5/3		磁砂粒を若干含む	カセ白・灰	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 縁部に芭蕉 葉の痕跡	磁土層間 底成良好	1g	461	
7	370	甕形土器	破片	口縁部	75YR5/2	10YR4/1	10YR5/3		口縁	75YR5/3	25Y3/1		磁砂粒を含む	白・黒・赤 金ツク	内・二層に2層ナアのナデ 外・ナデ 口縁・コソナ 口縁 黒部・赤化層 赤化層付	磁土層間 底成良好	1g		
8	221	甕形土器	破片	口縁部	25YR4/1	75YR5/3	75YR2/6		口縁	5YR5/3			磁砂粒・磁砂粒を若干含む	カセ白・黒・黄	内・二層に2層ナアのナデ 外・二層に2層ナアのナデ 口縁・コソナ 二層に2層ナアのナデ 外・コソナ	磁土層間 底成良好	1g		
9	341	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	5YR6/6	75YR2/6		口縁	5YR6/6			磁砂粒を多く含む	カセ白・金 ツク	内・二層に2層ナアのナデ 外・二層に2層ナアのナデ 口縁・コソナ 二層に2層ナアのナデ 口縁 黒部・赤化層 赤化層付	磁土層間 底成良好	1g		
10	271	甕形土器	破片	口縁部	75YR4/2	75YR4/3	25YR4/1		口縁	10YR5/3	10YR4/1	75YR4/1		磁砂粒を多く含む	カセ白・灰	内・ナデ 外・コソナ 口縁・コソナ 口縁	磁土層間 底成良好	1g	
11	361	甕形土器	破片	口縁部	75YR3/1	10YR3/1	75YR2/1		口縁	25Y3/1	75YR2/4	10YR4/1		磁砂粒を含む	カセ白・黄	内・コソナ 外・コソナ 口縁・コソナ 縁部にカーボン付 着	磁土層間 底成良好	1g	
12	275	甕形土器	破片	口縁部	10YR3/1	75YR5/3	75YR4/1		口縁	10YR5/3	25Y4/1	10YR5/2		磁砂粒を含む	カセ白	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 縁部に赤化層	磁土層間 底成良好	1g	333
13	214	甕形土器	破片	口縁部	75YR5/4	10YR5/1	10YR4/1		口縁	75YR5/3	75YR4/3	75R2/1		磁砂粒を若干含む 磁砂粒・磁砂粒を含む	カセ白・黒・黄	内・二層に2層ナアのナデ 外・ナデ 口縁・コソナ ナデ	磁土層間 底成良好	1g	
14	111	甕形土器	破片	口縁部	10YR4/2	10YR4/1	5Y5/1		口縁	10YR5/3			磁砂粒・磁砂粒を若干含む	カセ白・黒・黄	内・二層に2層ナアのナデ ニビヤキエスのナデ 外・二層に2層ナアのナデ 口縁・ナデ コソナ	磁土層間 底成良好	1g		
15	67	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	10YR5/3	10YR4/1		口縁	75YR6/4	10YR5/3	75YR5/4		磁砂粒をわずかに含む 磁砂粒・磁砂粒を多く含む	カセ白・黒・黄	内・ナデ ニビヤキエスのナデ 外・ナデ 口縁・コソナ	磁土層間 底成良好	1g	
16	427	甕形土器	破片	口縁部	5YR5/3	75YR5/3	10YR6/3		口縁	75YR5/3	10YR4/2		磁砂粒を含む	カセ白・灰	内・ナデ 外・コソナ 口縁・コソナ	磁土層間 底成良好	1g	429	

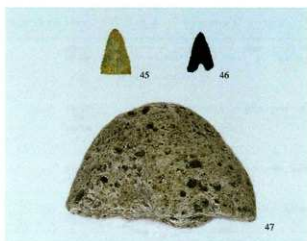
Tab.27 14トレンチ弥生時代出土遺物観察表①

図録No.	出土層No.	種別	残存法長(cm)	標記	色	外	色	内	色	内	色	胎	胎上層	図柄付	調査	その他	出土層状況	数	合
17	236	鏡形土器	破片	口縁部 7SYR5-2 2SY4/1	10YR5-2	5P05/1	10YR5-2	5P05/1	10YR5-2	5P05/1	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	5P05/1	内・ナア 外・コナア 口縁・コナア 突・コナア	破片残照 完成良好		1	
18	305	鏡形土器	破片	口縁部 7SYR4-2 10YR4/1	7SYR5-1	10YR4-2	7SYR5-1	10YR4-2	7SYR5-1	10YR4-2	7SYR5-1	10YR4-2	7SYR5-1	10YR4-2	内・工具に沁みナアのちナア 一帯に沁みナア 外・工具に沁みナアのちナア 口縁・ナア 器底にコナアのちナア	破片残照 完成良好	1		
19	215	鏡形土器	破片	口縁部 7SYR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	内・工具に沁みナアのちナア 外・ナア 口縁・コナア	破片残照 完成良好	1		
20	402	盤形土器	破片	口縁部 5YR4-2	5YR5-3	2SY4/1	1線	7SYR5-3	2SYR5/6	2SYR5/6	2SYR5/6	2SYR5/6	2SYR5/6	内・ナア 外・ナア 口縁・ナア 底縁文 器底に器底	破片残照 完成良好	1			
21	302	鏡形土器	破片	口縁部 7SYR4-2	7SYR5-2	2SYR6/2	1線	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	内・ナア 外・ナア 口縁・ナア 器底に器底	破片残照 完成良好	1			
22	014	鏡形土器	破片	口縁部 5YR5-2	7SYR5-1	10YR5-2	1線	7SYR5-1	7SYR5-1	7SYR5-1	7SYR5-1	7SYR5-1	7SYR5-1	内・ナア 外・ナア 口縁・ナア 器底に器底	破片残照 完成良好	1			
23	7	鏡形土器	破片	口縁部 5YR4-2	7SYR5-3	2SYR1/1	1線	5YR5-3	2SYR1/1	2SYR1/1	2SYR1/1	2SYR1/1	2SYR1/1	内・ナア 外・ナア 1線・工具に沁みナアのちナア コナア	破片残照 完成良好	1			
24	312	盤形土器	破片	口縁部 5YR4-2	7SYR5-3	7SYR5/4	1線	7SYR5-3	7SYR5/4	7SYR5/4	7SYR5/4	7SYR5/4	7SYR5/4	内・工具に沁みナアのちナア 外・工具に沁みナアのちナア 口縁・コナア 工具に沁みナアの ちナア 器底縁文	破片残照 完成良好	1			
25	506	鏡形土器	破片	口縁部 5YR4-2	7SYR5-4	10YR6/2	1線	7SYR5-3	7SYR5-3	7SYR5-3	7SYR5-3	7SYR5-3	7SYR5-3	内・ナア 外・ナア 口縁・ナア	破片残照 完成良好	1			
26	514	鏡形土器	破片	口縁部 10YR2-1	7SYR4-2	10YR2-1	1線	7SYR4-2	7SYR4-2	7SYR4-2	7SYR4-2	7SYR4-2	7SYR4-2	内・器底に沁みナアのちナア 外・ナア 口縁・ナア 突・ナア はり付	破片残照 完成良好	1			
27	451	盤形土器	破片	口縁部 10YR4-1	7SYR5-2	2SY4/2	1線	10YR5-2	2SY4/2	2SY4/2	2SY4/2	2SY4/2	2SY4/2	内・工具に沁みナアのちナア 外・ナア 口縁・ナア 器底にナ ア	破片残照 完成良好	1			
28	320	鏡形土器	破片 1/4残照 復元口縁部	口縁部 10YR4-1	2SYR1/1	10YR5-1	1線	10YR5-1	10YR5-1	10YR5-1	10YR5-1	10YR5-1	10YR5-1	内・沁みナア 工具に沁みナアの ちナア 外・工具に沁みナアのちナア コ ボン付着 口縁・コナア 工具に沁みナアの ちナア コボン付着	破片残照 完成良好	1	300		
29	440	鏡形土器	破片	口縁部 10YR3-1	5YR5/4	7SYR6/2	1線	7SYR5-1	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	10YR5-2	内・工具に沁みナア 外・工具に沁みナアのちナア コ ボン付着 口縁・ナア	破片残照 完成良好	1			
30	14	鏡形土器	破片	器底縁部 7SYR5-2	7SYR5-2	5Y5/1	1線	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	7SYR5-2	内・工具に沁みナアのちナア 外・工具に沁みナアのちナア 突・コナア	破片残照 完成良好	1	破断孔		
31	34	鏡形土器	破片 1/2残照	口縁部 7SYR5-2	7SYR4-2	5YR4-2	1線	7SYR5-2	7SYR4-2	7SYR4-2	7SYR4-2	7SYR4-2	7SYR4-2	内・工具に沁みナアのちナア 外・工具に沁みナアのちナア	破片残照 完成良好	1			
32	154	鏡形土器	破片 1/4残照 復元器底部	器底 2SYR6-0	10YR4/1	5YR4/4	1線	5YR4/4	5YR4/4	5YR4/4	5YR4/4	5YR4/4	5YR4/4	内・工具に沁みナア 外・工具に沁みナアのちナア コ ナア 突・ナア	破片残照 完成良好	1			
33	421	盤形土器	破片 1/3残照 復元口縁部	口縁部 7SYR5-2	5YR5-4	10YR7/4	1線	5YR5-4	5YR5-4	5YR5-4	5YR5-4	5YR5-4	5YR5-4	内・コナア 内面に器底 外・ナア表面底文 口縁・コナア	破片残照 完成良好	1			

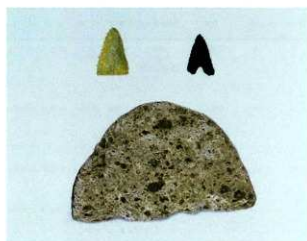
Tab.28 14トレンチ弥生時代出土遺物観察表②

図録No.	表上げNo.	器種	共存位置(cm)	部位	色	外	内	色	内	色	底	胎土質	混入材	高 度	その他	出土層位	検 合	
34	441	底部土器	破片 1/4残存 底径10.5	口縁部	5YR4/3	5YR4/1	5YR4/3	7.5YR5/1	口縁	7.5YR5/4	5YR5/4	赤粒・緑砂粒・黒砂粒 を多く含む	セ・白・灰 赤のクモ	片・ナア 外・ハケムロシナア ナア青陶のハケムロシナア セ・コナア 赤・クモシナア 1層・コナア 黒部・沈着	褐色黒陶 焼成良好	1 g		
35	258	底部土器	破片 1/4残存 底径10.5 高さ3	口縁部	5YR5/4	5YR5/4	10YR5/3	口縁	5YR5/4	5YR5/4	赤粒・緑砂粒・黒砂粒 をわずかに含む	白・赤・赤 セ 赤のクモ	片・ナア 外・コナア 1層・ナア コナア	褐色赤土 陶質 焼成良好	1 g			
36	176	底部土器	破片	口縁部	7.5YR4/2	5YR5/4	2.5YR5/6	黒砂粒・緑砂粒を含む	セ・白・白 赤・赤・黒	片・ナア 1層・コナア	片・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g					
37	209	底部土器	破片	胴部上半	5YR4/2	2.5YR5/4	2.5YR5/4	砂粒を多く含む	セ・セ・白 赤・ナア 赤のクモ	片・ナア 赤・ナア	片・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g					
38	256	底部土器	破片	胴部上半	10YR5/3	10YR6/3	2.5Y2/1	砂粒を含む	セ・セ・白 赤	片・ナア 外・ナア 2層付付	片・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g					
39	43	底部土器	破片	胴部上半	10YR5/2	10YR6/3	2.5Y4/2	7.5YR7/3	砂粒をわずかに含む 緑砂粒・黒砂粒を若干 含む	セ・セ・白 赤・赤	片・ナア 外・ナア 赤・コナア	片・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g				
40	8	底部土器	破片	胴部	7.5YR5/4	10YR6/3	10YR6/3	7.5YR4/1	砂粒をわずかに含む 緑砂粒・黒砂粒を若干 含む	セ・セ・白 赤・赤	片・ナア 外・ナア 外・工具に2層ナアのナア 外・工具に2層ナアのナア 沈着	片・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g				
41	52	底部土器	破片	胴部上半	7.5YR4/1	5YR5/4	5YR5/4	5YR5/4	砂粒をわずかに含む 緑砂粒・黒砂粒を含む	セ・セ・白 赤・赤	片・ナア 外・ナア ナア 赤・コナア	片・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g				
42	22	底部土器	破片 1/2残存 底径10.5	底面	5YR5/3	7.5YR4/1	5YR4/3	7.5YR4/1	7.5YR5/3	10YR4/1	底	砂粒を若干に含む 赤粒・緑砂粒を含む	セ・セ・白 赤・赤	片・ナア 外・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g		
43	45	底部土器	破片	底面	10YR4/1	2.5YR4/1	7.5YR4/1	10YR4/1	底	10YR4/1	底	緑砂粒・黒砂粒を含む	セ・セ・白 赤・赤	片・ナア 外・ナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g		
44	226	底部土器	破片	口縁部	5YR5/3	2.5Y4/1	5YR5/3	2.5Y4/1	5YR5/3	5YR5/3	底	緑砂粒・黒砂粒を若干 含む	セ・セ・白 赤・赤	片・ナア 外・工具に2層ナアのナア 外・工具に2層ナア 1層・コナア	褐色黒陶 焼成良好	1 g		

Tab.29 14トレンチ弥生時代出土遺物観察表③



Pl.65 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(表面)



Pl.66 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(裏面)

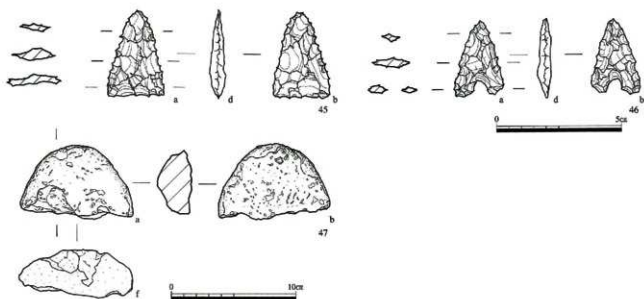


Fig.41 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器実測図(S=1/1,S=1/2)

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打削形状	調整・加工	使用痕	層	備考	接合
45	300	打製石鏃	白色頁岩	最大長: 2.3 最大幅: 1.5 最大厚: 0.4	1.26	—	両面		1g		
46	365	打製石鏃	頁岩	最大長: 2.0 最大幅: 1.3 最大厚: 0.3	0.7	—	両面		1g		
47	438	礫石製加工品	礫石	最大長: 6.1 最大幅: 10.0 最大厚: 3.9	61	—	研削		1g		460

Tab.30 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器観察表

机上加振 番号	国産	単位	種類	部位・部名	材質	骨組中 (×10-4 SI)	法線長 (mm)	法線幅 (mm)	法線厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	混合	同一 個体	備考
1		1g	砂	砂	安山岩		60.9	65.4	54.2	45.4	150	-193257.464	-38257.217	132.656		
2		1g	土器	胴部尖帯部片	-						-193257.884	-38258.089	132.598			
3		1g	土器	破片	-						-193257.606	-38258.366	132.434			
4		1g	土器	破片	-						-193257.404	-38258.421	132.416			
5		1g	土器	胴部片	-						-193257.349	-38258.888	132.692			
6		1g	土器	破片	-						-193256.565	-38259.568	131.901			
7	23	1g	土器	腹部土器口縁部片	-						-193257.422	-38259.708	132.113			
8	40	○	1g	土器	腹部土器唇部片	-					-193256.366	-38259.761	131.911			
9		1g	磨石	軽石製加工品	-	4.2	84	60.3	26.5	28	-193256.438	-38260.072	132.031			
10		1g	土器	破片	-						-193256.199	-38260.273	131.916		高倉り	
11		1g	土器	尖帯部片	-						-193255.703	-38259.788	131.901			
12		1g	土器	胴部片	-						-193255.427	-38260.087	131.916			
13		1g	土器	胴部片	-						-193255.026	-38259.966	131.771			
14		1g	土器	破片	-						-193255.032	-38260.323	131.876			
15		1g	土器	胴部片	-						-193255.441	-38260.393	131.876			
16		1g	土器	破片	-						-193255.361	-38260.875	131.907			
17		1g	土器	破片	-						-193254.588	-38260.117	131.776			
18		1g	土器	腹部土器頸部尖帯部片	-						-193254.530	-38260.071	131.741			
19		1g	土器	胴部片	-						-193254.361	-38260.391	131.741			
20		1g	土器	破片	-						-193254.031	-38260.445	131.816			
21		1g	土器	破片	-						-193253.999	-38260.562	131.666		欠番	
22	42	○	1g	土器	腹部土器底部片	-					-193253.905	-38260.650	131.656			
23		1g	土器	破片	-						-193253.807	-38260.853	131.681			
24		1g	磨	軽石	軽石	4.3	56	50.6	32.5	22.2	-193253.784	-38260.700	131.671			
25		1g	炭	炭	-						-193253.682	-38260.806	131.606			
26		1g	土器	尖帯部片	-						-193253.912	-38261.101	131.666			
27		1g	土器	破片	-						-193254.275	-38261.375	131.810			
28		1g	土器	破片	-						-193254.403	-38261.287	131.686			
29		1g	磨	軽石	軽石	22.8	55.1	52.9	29.3	38.79	-193254.581	-38261.013	131.753			
30		1g	土器	胴部片	-						-193254.684	-38261.327	131.786			
31		1g	土器	尖帯部片	-						-193254.963	-38261.124	131.769			
32		1g	土器	尖帯部片	-						-193255.503	-38261.190	131.801			
33		1g	土器	腹部土器頸部尖帯部片	-						-193255.502	-38261.344	131.736			
34	31	○	1g	土器	腹部土器底部片	-					-193255.240	-38261.961	131.753			
35		1g	土器	破片	-						-193255.598	-38262.030	131.812			
36		1g	土器	破片	-						-193255.713	-38261.753	131.771			
37		1g	土器	腹部土器底部片	-						-193255.876	-38261.699	131.784			
38		1g	土器	胴部片	-						-193255.998	-38261.658	131.796			
39		1g	土器	破片	-						-193255.928	-38262.145	131.736		二重沈殿あり	
40	39	○	1g	土器	腹部土器頸部尖帯部片	-					-193256.016	-38262.138	131.811			
41		1g	土器	腹部土器頸部尖帯部片	-						-193255.990	-38262.486	131.885			
42		1g	土器	尖帯部片	-						-193255.524	-38262.604	131.861			
43		1g	土器	破片	-						-193256.627	-38261.807	132.020			
44		1g	土器	口縁部片	-						-193256.553	-38261.316	131.973			
45	43	○	1g	土器	腹部土器底部片	-					-193256.645	-38261.430	131.876			
46		1g	土器	破片	-						-193256.720	-38260.654	131.956			
47		1g	土器	破片	-						-193256.898	-38260.640	131.956			
48		1g	土器	破片	-						-193257.119	-38260.030	131.986		黒倉り	
49		1g	土器	腹部土器口縁部片	-						-193258.036	-38259.930	132.288			
50		1g	土器	胴部片	-						-193257.702	-38260.568	132.092			

Tab.31 14トレンチ出土遺物台帳①

表土層序 番号	式例	部位	種類	部位・部名称	材質	容積率 (×10 ⁻⁴ SL)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	同一 層内	備考	
51		1g	土器	胴部片	-						-193257.620	-38280.596	132.670		二重沈積あり	
52	41	○	1g	土器	壺形土器腰部尖帯部片	-					-193257.692	-38280.713	132.064			
53			1g	土器	蓋片	-					-193257.176	-38261.034	131.906			
54	30	○	1g	土器	壺形土器腰部尖帯部片	-					-193257.304	-38261.430	132.021			
55			1g	土器	壺形土器口縁部片	-					-193257.987	-38261.537	132.046			
56			1g	土器	蓋片	-					-193257.837	-38261.611	131.993			
57			1g	土器	胴部片	-					-193257.462	-38261.697	132.006			
58			1g	土器	胴部片	-					-193257.158	-38261.678	131.921			
59			1g	土器	壺形土器腰部尖帯部片	-					-193257.329	-38262.003	132.021			
60			1g	土器	胴部片	-					-193257.026	-38262.226	131.906			
61			1g	土器	蓋片	-					-193256.863	-38262.094	131.904			
62			1g	土器	蓋片	-					-193256.543	-38262.270	131.956			
63			1g	土器	胴部片	-					-193256.733	-38262.378	131.896			
64			1g	土器	破片	-					-193256.458	-38262.395	131.783			
65			1g	土器	胴部片	-					-193256.475	-38262.771	131.782			
66			1g	土器	蓋片	-					-193257.078	-38262.651	131.954			
67	15	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-					-193257.050	-38262.964	132.011			
68			1g	土器	破片	-					-193257.285	-38262.951	131.989		他形あり	
69			1g	礎	礎	安山岩	1.1	28.5	25.5	20.8	13.41	-193257.351	-38262.877	131.841		
70			1g	土器	蓋片	-					-193257.525	-38262.609	131.981			
71			1g	土器	破片	-					-193257.950	-38262.031	132.066			
72			1g	土器	破片	-					-193257.922	-38262.237	132.044			
73			1g	土器	蓋片	-					-193258.229	-38262.044	132.056			
74			1g	土器	胴部片	-					-193257.926	-38262.509	131.953			
75			1g	土器	破片	-					-193257.915	-38262.873	132.021			
76			1g	土器	口縁部片	-					-193257.579	-38262.880	131.977			
77			1g	土器	胴部片	-					-193257.681	-38263.072	132.026			
78			1g	礎	礎	安山岩	14.1	21.3	20.8	20.2	9.44	-193257.522	-38262.904	131.986		
79			1g	土器	蓋片	-					-193257.288	-38263.157	131.986			
80			1g	土器	壺形土器腰部尖帯部片	-					-193257.329	-38263.525	132.036			
81			1g	礎	基石	基石	25.1	66.3	48.3	40.3	52.35	-193257.490	-38263.627	131.998		
82			1g	土器	蓋片	-					-193257.659	-38263.718	132.071			
83			1g	土器	蓋片	-					-193257.806	-38263.742	131.989			
84			1g	土器	蓋片	-					-193257.761	-38263.573	132.033			
85			1g	土器	蓋片	-					-193258.119	-38263.458	132.021			
86			1g	土器	蓋片	-					-193258.182	-38263.314	131.926			
87			1g	土器	壺形土器腰部尖帯部片	-					-193258.305	-38263.506	132.054			
88			1g	土器	胴部片	-					-193258.697	-38262.972	131.993			
89			1g	土器	胴部片	-					-193258.309	-38263.621	132.056			
90			1g	土器	蓋片	-					-193258.377	-38263.636	132.011			
91			1g	土器	蓋片	-					-193258.307	-38263.785	132.053			
92			1g	礎	礎	不明	23.8	23.7	25.4	17	9.01	-193258.049	-38263.037	132.046		
93			1g	土器	蓋片	-					-193258.049	-38263.970	131.934			
94			1g	土器	蓋片	-					-193258.351	-38263.821	132.026			
95			1g	礎	基石	基石	3.1	46.2	25.4	23.5	5.60	-193258.413	-38264.262	131.992		
96			1g	土器	蓋片	-					-193258.691	-38263.978	131.971			
97			1g	礎	基石	基石	16.1	47.8	26.7	20.6	9.33	-193258.812	-38263.460	132.006		
98			1g	礎	鉄板礎	安山岩	34	32.3	21.7	18.3	13.97	-193258.581	-38263.213	131.981		
99			1g	土器	口縁部片	-					-193258.056	-38263.438	132.676		内面に尖帯あり	
100			1g	礎	礎	安山岩	18.6	21	18	11.4	3	-193258.791	-38263.567	132.012		

Tab.32 14トレンチ出土遺物台帳②

瓦土調査 番号・番号	英漢	単位	種類	部位・器種名	材質	管径中 (×10-4.8) (mm)	法線長 (mm)	法線幅 (mm)	重量 (g)	X線標	Y線標	Z線標	測合 同一 個体	備考	
101	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.092	-38263.434	132.046			
102	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.060	-38263.154	132.043			
103	2	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-	-	-	-	-193258.611	-38262.396	132.664			
104	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.005	-38262.343	132.701			
105	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.235	-38262.000	132.588			
106	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.027	-38261.919	132.121			
107	1g	硝	硝石	硝石	硝石	19.1	31.4	22.8	19	8.49	-193259.131	-38261.882	132.544		
108	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.700	-38261.511	132.256			
109	1g	土器	壺形土器腹部夾帯部片	-	-	-	-	-	-	-193258.945	-38261.244	132.316			
110	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.250	-38261.496	132.546			
111	14	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-	-	-	-	-193259.291	-38261.422	132.306			
112	1g	硝	硝	安山岩	安山岩	71.5	46.2	38.3	26.3	36.91	-193259.472	-38261.363	132.328		
113	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.547	-38260.962	132.446			
114	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.242	-38260.627	132.416			
115	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.826	-38260.034	132.483			
116	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.841	-38259.848	132.479			
117	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.626	-38259.707	132.446			
118	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.220	-38260.145	132.376			
119	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.858	-38260.739	132.546			
120	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.821	-38260.954	132.496			
121	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.066	-38261.162	132.544			
122	1g	土塊	土塊	-	-	-	-	-	-	-193260.200	-38260.910	132.521			
123	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.423	-38260.835	132.676			
124	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.423	-38260.746	132.596			
125	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.519	-38260.783	132.583			
126	1g	土器	壺形土器腹部夾帯部片	-	-	-	-	-	-	-193260.645	-38260.687	132.728			
127	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.564	-38261.095	132.602			
128	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.608	-38261.340	132.623			
129	1g	土器	口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193260.675	-38261.815	132.531			
130	1g	土器	壺形土器腹部夾帯部片	-	-	-	-	-	-	-193260.705	-38261.994	132.480			
131	1g	土器	壺形土器腹部夾帯部片	-	-	-	-	-	-	-193260.579	-38262.053	132.492			
132	1g	土器	口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193260.363	-38261.979	132.421			
133	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.163	-38262.142	132.336			
134	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193260.371	-38262.439	132.326		黒塗り	
135	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.458	-38262.580	132.217			
136	1g	土器	壺形土器頸部片	-	-	-	-	-	-	-193259.428	-38262.751	132.065			
137	1g	土器	夾帯部片	-	-	-	-	-	-	-193259.406	-38262.981	132.036			
138	1g	硝	硝	安山岩	安山岩	77.4	44.3	33.6	30.3	47.09	-193259.354	-38263.323	132.128		
139	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.281	-38263.493	132.106			
140	1g	土器	口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193259.569	-38263.597	132.236			
141	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.480	-38263.627	132.007			
142	1g	土器	壺形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193259.673	-38263.738	132.083			
143	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.747	-38263.954	132.152			
144	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.316	-38264.028	132.061			
145	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.086	-38263.961	131.996			
146	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.975	-38263.900	132.008		黒塗り	
147	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.730	-38264.258	132.172			
148	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.945	-38264.335	132.021			
149	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193258.700	-38264.466	132.031			
150	1g	土器	破片	-	-	-	-	-	-	-193259.049	-38264.481	132.046			

Tab.33 14トレンチ出土遺物台帳③

出土回数 番号	区画 番号	基層	層位	被測	部位・部位名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X線標	Y線標	Z線標	綜合 測分	備考
151			1g	埋部	粘土製加工品	粘土	23.7	73.3	53.4	39.8	49.46	-193258.945	-38294.511	132.142		
152			1g	土部	漆部付瓦破片	-						-193259.034	-38294.689	132.046		
153			1g	土部	破片	-						-193259.116	-38294.704	132.046		
154	32		1g	土部	漆部土器底破片	-						-193259.279	-38294.949	131.936		
155			1g	埋	粘土	粘土	15.3	114.7	73.5	51.9	87	-193259.311	-38294.919	131.961		
156			1g	土部	陶器片	-						-193259.386	-38293.612	132.073		
157			1g	欠部	-	-						-193260.039	-38293.289	132.166		
158			1g	土部	陶器片	-						-193260.285	-38293.265	132.271		
159			1g	土部	陶器片	-						-193260.321	-38293.260	132.691		
160			1g	土部	陶器破片	-						-193260.450	-38293.782	132.712		
161			1g	土部	破片	-						-193260.626	-38293.817	132.171		
162			1g	鉄塊	-	-						-193260.701	-38293.888	132.226		
163			1g	土部	破片	-						-193260.826	-38294.135	132.211		
164			1g	埋	粘土	粘土	16.5	74.7	46.7	31.4	26.26	-193260.579	-38294.246	132.180		
165			1g	埋	粘土	粘土	29.6	82.2	78.9	64.5	141	-193260.773	-38294.270	132.172		
166			1g	土部	破片	-						-193260.773	-38294.340	132.158		
167			1g	土部	破片	-						-193261.078	-38294.323	132.218		
168			1g	土部	陶器片	-						-193261.049	-38294.934	132.163		
169			1g	土部	陶器片	-						-193261.102	-38294.722	132.189		
170			1g	土部	陶器片	-						-193261.200	-38294.834	132.263		
171			1g	土部	陶器破片	-						-193261.266	-38293.163	132.189		照像り
172			1g	土部	陶器片	-						-193261.707	-38293.069	132.301		
173			1g	土部	破片	-						-193261.907	-38294.904	132.315		
174			1g	土部	陶器片	-						-193261.801	-38294.616	132.286		
175			1g	土部	陶器片	-						-193262.007	-38294.440	132.269		
176	35		1g	土部	漆部土器口縁部片	-						-193262.101	-38294.387	132.393		
177			1g	土部	破片	-						-193261.854	-38294.317	132.309		
178	1		1g	土部	漆部土器口縁部片	-						-193261.572	-38294.423	132.428		
179			1g	土部	破片	-						-193261.645	-38294.188	132.246		
180			1g	土塊	土塊	-						-193261.531	-38294.041	132.251		
181			1g	土部	陶器片	-						-193260.902	-38293.935	132.114		
182			1g	土部	破片	-						-193261.607	-38293.706	132.356		照像り
183			1g	土部	漆部土器口縁部片	-						-193261.554	-38293.453	132.473		
184			1g	土部	陶器片	-						-193261.161	-38292.942	132.386		
185			1g	土部	口縁部片	-						-193262.253	-38293.647	132.458		
186			1g	埋	粘土	粘土	27.7	30.1	18.3	9.2	2.32	-193262.212	-38293.541	132.491		
187			1g	土部	陶器片	-						-193261.672	-38292.760	132.779		
188			1g	埋	-	安山岩	72.3	24.5	25.5	25.4	18.78	-193261.872	-38292.625	132.546		
189			1g	土塊	土塊	-						-193262.477	-38292.942	132.713		
190			1g	埋	埋	不明	49.9	32.2	30.8	25.3	18.63	-193262.806	-38293.171	132.723		
191			1g	土部	破片	-						-193262.671	-38292.548	132.815		
192			1g	土部	陶器片	-						-193262.624	-38292.448	132.843		
193			1g	土部	陶器片	-						-193262.759	-38292.372	132.876		
194			1g	土部	破片	-						-193262.283	-38292.113	132.833		
195			1g	土部	破片	-						-193262.048	-38292.425	132.671		
196			1g	土部	陶器破片	-						-193262.189	-38291.990	132.712		
197			1g	欠部	-	-						-193262.071	-38291.749	132.712		
198			1g	埋	粘土	粘土	17.7	53.2	31.8	27.3	15.02	-193261.748	-38292.290	132.656		
199			1g	土部	破片	-						-193261.578	-38292.190	132.629		
200			1g	土部	陶器片	-						-193261.402	-38292.090	132.602		

Tab.34 14トレンチ出土遺物台帳④

出土 図面 番号 番号	英訳	單位	種類	部位・名称	材質	容積率 (×10 ⁻⁴ %)	重量 (g)	法長 (mm)	法厚 (mm)	重量 (g)	X線	Y線	Z線	総合	同一 部位	備考
201	1g	土器	尖舌部片	-	-	-	-	-	-	-	-193258.599	-38261.303	132.141			
202	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.099	-38262.513	131.736			
203	1g	土器	口縁部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.778	-38260.260	131.916			
204	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.852	-38259.721	131.976			
205	1g	土器	底片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.894	-38259.386	132.026			
206	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.496	-38259.670	131.926			黒色あり
207	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193254.988	-38260.827	131.711			
208 18	○	1g	土器	腹形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193254.950	-38261.300	131.695			
209	1g	土器	腹形土器胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.219	-38259.617	131.991			
210	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193254.717	-38259.244	131.746			
211	1g	磁器	絵石製加工品	絵石	9	126.3	57.7	46.6	79	-	-193255.334	-38258.957	131.729			
212	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193255.333	-38259.327	131.653			
213	1g	磁器	絵石製加工品	絵石	3.8	81.6	62.3	29.1	25	-	-193255.472	-38259.493	131.630			
214 13	○	1g	土器	尖舌土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193255.817	-38259.846	131.698			
215 19	○	1g	土器	尖舌土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193255.822	-38259.982	131.720			
216	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193254.987	-38259.775	131.643			
217	1g	土器	尖舌部片	-	-	-	-	-	-	-	-193254.637	-38259.831	131.621			
218	1g	磁	絵石	絵石	25.6	73.2	43	35.2	28.84	-	-193254.728	-38260.132	131.661			
219	1g	土器	底部付底片	-	-	-	-	-	-	-	-193255.074	-38260.200	131.622			
220 3	○	1g	土器	腹形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193255.144	-38260.371	131.623			
221 8	○	1g	土器	腹形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193255.224	-38260.433	131.613			
222	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193255.467	-38260.349	131.671			
223	1g	土器	底片	-	-	-	-	-	-	-	-193255.857	-38261.232	131.624			
224	1g	土器	腹形土器胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193255.851	-38261.312	131.617			
225	1g	土器	尖舌部片	-	-	-	-	-	-	-	-193255.780	-38261.463	131.581			
226 44	○	1g	土器	鉢形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193256.212	-38261.319	131.680			
227	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.502	-38261.033	131.671			
228 4	○	1g	土器	腹形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193256.806	-38260.553	131.774			
229	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.501	-38259.892	131.791			
230	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.718	-38259.682	131.767			
231	1g	土器	底片	-	-	-	-	-	-	-	-193257.162	-38259.780	131.758			
232	1g	土器	底片	-	-	-	-	-	-	-	-193257.397	-38259.018	131.577			
233	1g	土器	尖舌部片	-	-	-	-	-	-	-	-193258.562	-38259.404	132.166			
234	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193259.047	-38259.431	132.293			
235	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193258.780	-38259.901	132.124			
236 17	○	1g	土器	腹形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-193259.098	-38260.369	132.119			
237	1g	土器	腹形土器口縁部片	-	-	-	-	-	-	-	-193259.288	-38260.479	132.140			
238	1g	土器	尖舌部片	-	-	-	-	-	-	-	-193257.881	-38260.779	131.898			
239	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193258.269	-38261.125	131.858			二重沈みあり
240	1g	土器	腹形土器胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193258.147	-38261.374	131.833			
241	1g	土器	底片	-	-	-	-	-	-	-	-193257.880	-38261.257	131.816			
242	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193258.114	-38261.631	131.777			
243	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193257.411	-38261.482	131.726			
244	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193257.012	-38261.545	131.676			
245	1g	土器	尖舌部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.747	-38261.851	131.670			
246	1g	土器	腹形土器胴部尖舌部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.244	-38261.841	131.610			
247	1g	磁	磁	安山岩	26.6	110.6	86.5	36.9	545	-	-193256.892	-38262.112	131.614			
248	1g	土器	底片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.848	-38262.254	131.639			
249	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193256.985	-38262.099	131.654			
250	1g	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-	-193257.241	-38262.425	131.680			

Tab.35 14トレンチ出土遺物台帳⑤

出土位置 番号	図面 番号	英稱	層位	種類	部位・器名	材質	容積率 (×10-4%)	質量長 (mm)	質量幅 (mm)	質量厚 (mm)	質量 (g)	X線標	Y線標	Z線標	総合 個体	備考
251			1g	土器	破片	-						-193257.583	-35262.340	131.703		
252			1g	土器	破片	-						-193258.276	-35263.118	131.851		
253			1g	土器	胴部片	-						-193257.655	-35262.451	131.718		
254			1g	土器	胴部片	-						-193258.018	-35261.941	131.753		
255			1g	土器	胴部片	-						-193257.793	-35262.503	131.828		二重比較あり
256	35	○	1g	土器	甕形土器胴部上半部片	-						-193258.668	-35262.089	131.918		
257			1g	土器	甕形土器胴部片	-						-193258.757	-35262.086	131.932		
258	33	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193258.734	-35261.500	131.905		
259	37	○	1g	土器	甕形土器胴部上半部片	-						-193258.818	-35261.726	131.883		
260			1g	土器	胴部片	-						-193259.497	-35260.980	132.086		
261			1g	土器	胴部片	-						-193260.330	-35260.975	132.307		
262			1g	土器	胴部片	-						-193259.827	-35260.066	132.271		
263	46	○	1g	石器	打製石鏃	頁岩	0.1	2	1.3	0.3	0.7	-193261.220	-35260.523	132.433		
264			1g	土器	胴部片	-						-193261.050	-35260.122	132.580		
265			1g	土器	破片	-						-193260.735	-35261.747	132.212		
266			1g	土器	胴部片	-						-193260.447	-35261.762	132.136		
267			1g	石器	刮片	砂岩	0.4	38.2	34.4	1.5	45.5	-193260.075	-35261.932	132.185		
268			1g	土器	球形土器	-						-193259.426	-35261.812	131.993	291,340	
269			1g	土器	胴部尖部部片	-						-193259.399	-35262.645	131.901		
270			1g	土器	胴部尖部部片	-						-193259.050	-35262.655	131.810		
271	10	○	1g	土器	美形土器口縁部片	-						-193259.077	-35262.796	131.806		
272			1g	土器	破片	-						-193259.500	-35262.923	131.944		
273			1g	土器	胴部片	-						-193259.364	-35263.029	131.834		
274			1g	土器	甕形土器胴部向部部片	-						-193259.293	-35263.805	131.758		
275	12	○	1g	土器	美形土器口縁部片	-						-193259.399	-35263.656	131.766	333	
276			1g	土器	胴部片	-						-193259.540	-35263.337	131.907		
277			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193259.661	-35263.471	131.788		
278			1g	土器	甕形土器胴部向部部片	-						-193259.659	-35263.613	131.760		
279			1g	礎	礎	安山岩	60.1	53.3	40.8	16.9	45.95	-193259.591	-35263.979	131.876		
280			1g	土器	破片	-						-193259.782	-35263.196	131.889		
281			1g	礎	礎石	礎石	27.6	63.4	54.2	30.8	49.05	-193259.879	-35263.174	131.984		
282			1g	土器	胴部片	-						-193260.142	-35262.584	132.024		
283			1g	土器	胴部尖部部片	-						-193260.243	-35263.847	131.886		
284			1g	土器	破片	-						-193261.222	-35263.376	132.018		
285			1g	土器	甕形土器胴部片	-						-193261.416	-35263.411	132.096		
286			1g	土器	甕形土器胴部向部部片	-						-193261.319	-35263.708	132.073		
287			1g	土器	破片	-						-193261.282	-35263.838	131.992	299	
288			1g	土器	破片	-						-193261.579	-35263.610	132.041	297	
289			1g	土器	胴部片	-						-193261.663	-35263.467	132.058		
290			1g	土器	破片	-						-193261.730	-35263.461	132.119		
291			1g	土器	破片	-						-193259.483	-35261.775	131.983	268,340	
292			1g	土器	破片	-						-193261.687	-35262.734	132.166		
293			1g	土器	破片	-						-193263.638	-35261.965	132.720		
294			1g	土器	破片	-						-193258.266	-35261.144	131.692		
295			1g	礎	礎	-						-193261.654	-35262.285	132.254		
296			1g	礎	礎石	礎石	23.1	56.4	44.3	34.4	32.96	-193261.551	-35262.584	132.109		
297			1g	土器	破片	-						-193261.467	-35263.656	131.992	288	
298			1g	土器	破片	-						-193261.519	-35263.732	131.972		
299			1g	土器	胴部片	-						-193261.452	-35263.833	131.961	287	
300	45	○	1g	石器	打製石鏃	白色頁岩	0.2	2.3	1.5	0.4	1.26	-193260.097	-35263.594	131.787		

Tab.36 14トレンチ出土遺物台帳⑤

取上部位 番号	実測 番号	形状	種類	部位・部位名	材質	骨組字 (×10-4 SI)	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	X線探	Y線探	Z線探	接合	河一 個体	備考
301		1g	土器	胴部片	-						-193259.967	-39263.437	131.758			
302		1g	土器	底片	-						-193258.891	-39263.392	131.683			
303		1g	土器	胴片	-						-193258.771	-39263.330	131.588			
304		1g	土器	胴片	-						-193259.012	-39263.028	131.758			
305		1g	土器	胴部片	-						-193258.919	-39263.001	131.736			
306		1g	土器	甍形土器胴部尖唇部片	-						-193258.853	-39262.643	131.764			
307		1g	土器	底部片	-						-193258.621	-39262.596	131.676			
308		1g	土器	胴片	-						-193258.432	-39263.181	131.625			
309		1g	土器	胴部片	-						-193258.330	-39263.093	131.791			
310		1g	土器	胴部尖唇部片	-						-193258.319	-39262.785	131.695			
311		1g	土器	口縁部片	-						-193258.022	-39262.735	131.691			
312	24	○	1g	土器	甍形土器口縁部片	-					-193258.340	-39262.462	131.571			
313		1g	土器	底片	-						-193258.174	-39262.428	131.711			
314		1g	土器	尖唇部片	-						-193258.471	-39262.334	131.734			
315		1g	土器	甍形土器胴部尖唇部片	-						-193258.380	-39262.209	131.628			
316		1g	土器	胴部片	-						-193258.138	-39262.322	131.638			
317		1g	土器	底片	-						-193258.182	-39262.186	131.662			
318		1g	石器	軽石製加工品	軽石	1.8	67.8	33.1	22.3	11	-193258.413	-39262.388	131.749			
319		1g	土器	甍形土器胴部片	-						-193259.213	-39261.981	131.882			
320		1g	土器	底片	-						-193259.940	-39261.633	131.999			
321		1g	土器	底片	-						-193259.940	-39261.435	132.025			魚群あり
322		1g	土器	尖唇部片	-						-193258.764	-39260.876	132.102			
323		1g	土器	尖唇部片	-						-193259.801	-39260.337	132.061			
324		1g	土器	胴部片	-						-193259.977	-39260.043	132.191			黒縁あり
325		1g	土器	胴部片	-						-193258.736	-39260.886	131.924			
326		1g	土器	甍形土器胴部尖唇部片	-						-193258.333	-39260.839	131.881			
327		1g	磨	軽石	軽石	5.7	69	49.2	30.4	28.79	-193258.343	-39261.048	131.734			
328		1g	土器	底片	-						-193259.175	-39259.314	132.304			
329	28	○	1g	土器	甍形土器口縁部片	-					-193258.969	-39259.017	132.336	390		
330		1g	土器	甍形土器胴部尖唇部片	-						-193257.986	-39260.241	131.901			
331		1g	土器	底片	-						-193257.399	-39260.445	131.630			
332		1g	土器	底片	-						-193257.539	-39260.723	131.730			
333	12	○	1g	土器	甍形土器口縁部片	-					-193257.344	-39260.806	131.666	275		
334		1g	土器	底部分造破片	-						-193257.202	-39261.366	131.825			
335		1g	土器	胴部片	-						-193257.092	-39261.799	131.592			
336		1g	土器	尖唇部片	-						-193257.340	-39262.054	131.592			
337		1g	土器	胴部片	-						-193257.399	-39262.186	131.602			注線あり
338		1g	土器	胴部片	-						-193257.547	-39262.487	131.551			
339		1g	磨	軽石	軽石	26.7	50.6	50.9	31.3	33.46	-193257.286	-39262.585	131.623			
340		1g	土器	鉢形土器口縁部片	-						-193257.637	-39262.752	131.632	268,291		
341	9	○	1g	土器	甍形土器口縁部片	-					-193256.434	-39261.415	131.554			
342		1g	炭	炭	-						-193256.282	-39261.704	131.530			
343		1g	土器	底片	-						-193255.947	-39260.989	131.586			
344		1g	土器	底片	-						-193256.692	-39260.738	131.650			
345		1g	土器	甍形土器胴部尖唇部片	-						-193256.833	-39260.476	131.763			
346		1g	土器	甍形土器口縁部片	-						-193256.938	-39260.023	131.734			
347		1g	土器	胴部片	-						-193257.167	-39260.003	131.839			
348		1g	土器	胴部片	-						-193257.245	-39259.608	131.798			
349		1g	土器	底片	-						-193256.694	-39260.120	131.621			
350		1g	土器	底片	-						-193256.513	-39260.097	131.592			

Tab.37 14トレンチ出土遺物台帳⑦

瓦上 部出 番号 番号	英訳	地味	種類	部位・器種名	材質	問題中 (×10-4.5)	長さ (m)	法線幅 (m)	法線厚 (m)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	整合 層名	同一 層床	備考
351	1g	土部	破片	-	-						-103255.575	-38259.083	131.605			
352	1g	土部	破片	-	-						-103255.227	-38260.329	131.508			
353	1g	土部	網砂片	-	-						-103256.204	-38261.022	131.522			
354	1g	土部	菱形土器腹部夾帯破片	-	-						-103255.212	-38261.021	131.539			
355	1g	土部	破片	-	-						-103254.733	-38260.238	131.550			
356	1g	土部	破片	-	-						-103254.383	-38260.458	131.514			
357	1g	礫	礫	不明	不明	2	16.8	9.3	6.4	1.00	-103254.656	-38260.578	131.563			
358	1g	炭	炭	-	-						-103254.387	-38260.731	131.459			
359	1g	炭	炭	-	-						-103254.601	-38260.719	131.468			
360	1g	土部	底部付瓦破片	-	-						-103255.008	-38259.924	131.597			
361	11	○	1g	土部	菱形土器口縁破片	-					-103256.089	-38257.792	131.888			
362	21	○	1g	土部	菱形土器口縁破片	-					-103256.516	-38257.843	131.976			
363	1g	土部	突帯破片	-	-						-103258.194	-38255.795	132.785			
364	1g	土部	破片	-	-						-103258.541	-38256.126	132.730			
365	1g	土部	網砂片	-	-						-103258.829	-38257.422	132.441			
366	1g	土部	破片	-	-						-103259.009	-38257.397	132.594			
367	1g	土部	網砂片	-	-						-103258.314	-38257.790	132.411			
368	1g	土部	突帯破片	-	-						-103258.244	-38257.801	132.364			
369	1g	土部	菱形土器胴部夾帯破片	-	-						-103258.064	-38258.008	132.440			
370	7	○	1g	土部	菱形土器口縁破片	-					-103258.328	-38258.244	132.357			
371	1g	炭	炭	-	-						-103258.389	-38258.320	132.307			
372	1g	土部	菱形土器腹部夾帯破片	-	-						-103259.055	-38258.579	132.528			
373	1g	土部	破片	-	-						-103261.276	-38258.128	133.014			
374	1g	土部	菱形土器腹部夾帯破片	-	-						-103261.913	-38258.376	133.130			
375	1g	土部	破片	-	-						-103262.118	-38258.932	133.143			
376	1g	土部	破片	-	-						-103261.987	-38259.107	133.098			
377	1g	土部	菱形土器口縁破片	-	-						-103261.886	-38259.264	133.019			
378	1g	土部	網砂片	-	-						-103262.251	-38259.256	133.111			
379	1g	土部	突帯破片	-	-						-103262.217	-38259.793	132.858			
380	1g	土部	網砂片	-	-						-103262.377	-38260.038	132.904			
381	1g	礫	礫片	安山岩	安山岩	139.4	65.4	69.3	28.5	143	-103262.468	-38260.103	132.888			
382	1g	土部	破片	-	-						-103262.912	-38259.912	133.159			
383	1g	土部	菱形土器口縁破片	-	-						-103263.259	-38259.346	133.238			
384	1g	土部	菱形土器胴部夾帯破片	-	-						-103263.349	-38260.207	133.136			
385	1g	土部	菱形土器胴部夾帯破片	-	-						-103263.649	-38259.787	133.287			
386	1g	土部	網砂片	-	-						-103264.126	-38260.083	133.226			
387	1g	土部	菱形土器腹部夾帯破片	-	-						-103264.431	-38260.837	132.824			
388	1g	土部	口縁破片	-	-						-103263.209	-38261.330	132.931			
389	1g	土部	破片	-	-						-103262.936	-38261.061	132.935			
390	28	○	1g	土部	菱形土器口縁破片	-					-103261.390	-38259.767	132.782	329		
391	1g	礫	礫	安山岩	安山岩	116.4	32.7	42.4	27.3	61	-103263.302	-38262.135	132.300			
392	1g	土部	網砂片	-	-						-103263.421	-38262.390	132.608			
393	1c	土部	底部付瓦破片	-	-						-103259.788	-38264.128	132.394			
394	1c	土部	破片	-	-						-103258.986	-38263.700	132.378			
395	1g	土部	破片	-	-						-103262.077	-38265.035	131.967			
396	1g	土部	破片	-	-						-103261.258	-38258.900	132.882			
397	1g	土部	網砂片	-	-						-103259.840	-38263.128	131.839			
398	1g	土部	破片	-	-						-103259.585	-38262.509	131.746			
399	1g	土部	網砂片	-	-						-103258.822	-38261.645	131.825			
400	1g	土部	菱形土器胴部夾帯破片	-	-						-103258.789	-38263.499	131.903			

Tab.38 14トレンチ出土遺物台帳⑧

取上 四角 番号	天周 番号	単位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI) (au)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X線標	Y線標	Z線標	総合 評価	備考
401		1g	礫	礫石	礫石		23.1	45.6	36	35	21.44	-193256.892	-38262.149	131.555	
402		1x	土器	口縁部片	-						-193256.716	-38261.865	131.639		
403		1g	土器	胴部片	-						-193256.203	-38261.181	131.577		
404		1g	礫	礫石	礫石	15.3	47.2	42.1	40.7	55.21	-193255.141	-38261.228	131.599		
405		1g	土器	夾帯部片	-						-193255.652	-38260.417	131.480		
406		1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.193	-38260.488	131.593		
407		1g	土器	口縁部片	-						-193255.582	-38260.031	131.554		
408		1g	土器	口縁部片	-						-193255.813	-38259.856	131.589		
409		1g	土器	胴部片	-						-193257.182	-38255.767	132.500		
410		1x	土器	破片	-						-193257.047	-38256.044	132.500		
411		1g	土器	胴片	-						-193260.232	-38256.779	133.153		
412		1g	土器	胴部片	-						-193260.397	-38257.061	133.096		
413		1g	土器	胴部片	-						-193264.208	-38259.595	133.551		
414		1d	土器	底面片	-						-193263.471	-38258.868	133.410		
415		1g	土器	破片	-						-193264.033	-38259.230	133.398		
416		1d	土器	底片	-						-193262.931	-38258.540	133.360		
417		1d	土器	底片	-						-193262.841	-38258.540	133.356		
418		1g	土器	破片	-						-193262.568	-38258.608	133.285		
419		1g	土器	鉢形土器口縁部片	-						-193262.126	-38257.715	133.308		
420		1g	土器	破片	-						-193256.214	-38261.261	131.800		
421 33	○	1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193256.153	-38261.276	131.800		
422 6	○	1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193256.099	-38261.31	131.620		
423		1g	土器	胴部片	-						-193256.05	-38261.108	131.710		
424 22	○	1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.631	-38261.226	131.650		
425		1g	土器	口縁部片	-						-193255.691	-38260.917	131.730		
426		1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.612	-38260.821	131.730		
427		1g	土器	胴部片	-						-193255.551	-38260.877	131.680		
428		1g	礫	礫石	礫石	15.2	62.5	44.6	33.2	28.1	-193255.38	-38260.976	131.630		
429		1g	土器	底面付瓦破片	-						-193254.993	-38261.029	131.780		
430		1g	礫	礫石	礫石	19.4	57.1	52.6	28.3	22.86	-193255.169	-38260.923	131.610		
431		1g	礫	礫石	礫石	10.2	33	29.8	22.2	7.89	-193255.381	-38260.633	131.600		
432		1g	礫	礫石	礫石	5.3	83.2	56.6	38.2	35	-193255.134	-38260.743	131.600		
433		1g	土器	破片	-						-193255.447	-38260.395	131.630		
434		1g	土器	口縁部片	-						-193254.963	-38260.516	131.610		
435		1g	土器	破片	-						-193255.545	-38260.167	131.720		
436		1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.797	-38259.833	131.730		
437 16	○	1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.636	-38259.36	131.820		
438 47	○	1g	礫	礫石製加工品	礫石	23.8	6.1	10	3.9	61	-193255.42	-38259.642	131.620		
439		1g	土器	胴部片	-						-193255.309	-38259.13	131.740		
440 29	○	1x	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.394	-38258.945	131.820		
441 34	○	1g	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.381	-38260.689	131.620		
442		1g	灰	灰	-						-193255.728	-38260.821	131.710		
443		1x	灰	灰	-						-193255.813	-38260.853	131.610		
444		1g	灰	灰	-						-193255.835	-38260.818	131.610		
445		1g	土器	胴部片	-						-193256.049	-38261.052	131.380		
446		1g	灰	灰	-						-193255.941	-38261.231	131.640		
447		1g	土器	胴片	-						-193255.832	-38261.288	131.650		
448		1g	灰	灰	-						-193255.719	-38260.094	131.640		
449		1g	土器	夾帯部片	-						-193255.747	-38259.926	131.680		
450		1x	礫	礫	安山岩	51.3	50.9	41.3	28.5	30.56	-193253.181	-38261.183	131.630		

Tab.39 14トレンチ出土遺物台帳⑨

取上・四角 番号・番号	表裏	部位	物類	部位・器種名	材質	帯曲率 ($\times 10^{-4}$ SD)	法直径 (mm)	法直径 (mm)	法直径 (mm)	重量 (g)	X線標	Y線標	Z線標	総合	同一 器体	備考	
451	27	○	1g	土器	裏形土器口縁破片	-					-193254.705	-38390.738	131.630				
452			1g	土器	裏形土器頸部突起部片	-					-193254.445	-38390.468	131.680				
453			1g	土器	底彫付瓦破片	-					-193254.881	-38390.258	131.580				
454			1g	灰	灰	-					-193255.327	-38390.715	131.620				
455			1g	灰	灰	-					-193256.874	-38259.17	131.540				
456			1g	土器	頸部片	-					-193255.793	-38259.196	131.570				
457			1g	土器	頸部片	-					-193255.634	-38259.048	131.550				
458			1g	灰	灰	-					-193255.507	-38259.114	131.600				
459			1g	土器	口縁破片	-					-193255.599	-38259.163	131.600				
460			1g	灰	灰	-					-193255.747	-38258.999	131.600				
461	5	○	1g	土器	裏形土器口縁部片	-					-193255.661	-38258.915	131.530				
462			1g	灰	灰	-					-193255.627	-38259.027	131.560				
463			1g	灰	灰	-					-193255.563	-38258.976	131.580				
464			1g	土器	裏形土器頸部突起部片	-					-193255.435	-38258.88	131.570				
465			1g	土器	破片	-					-193256.116	-38259.5	131.600				
466			1g	土器	破片	-							131.560				
467			1g	土器	突起部片	-					-193256.097	-38259.368	131.610				
468			1g	灰	灰	-					-193256.039	-38259.451	131.550				
469			1g	灰	灰	-					-193255.72	-38259.571	131.550				
470			1g	標	横線標	安山岩	76.3	30.3	27.7	26.1	31.55	-193255.498	-38259.797	131.530			
471			1g	灰	灰	-					-193255.714	-38259.905	131.540				
472			1g	灰	灰	-					-193255.696	-38259.956	131.540				
473			1g	灰	灰	-					-193255.734	-38259.974	131.530				
474			1g	灰	灰	-					-193255.683	-38260.082	131.530				
475			1g	灰	灰	-					-193255.621	-38260.122	131.530				
476			1g	土器	破片	-					-193255.557	-38260.246	131.550				
477			1g	標	横線標	安山岩	24.5	33.8	18.9	16.8	12.82	-193255.529	-38260.238	131.540			
478			1g	灰	灰	-					-193255.254	-38260.099	131.520				
479			1g	土器	突起部片	-					-193255.039	-38259.475	131.600				
480			1g	灰	灰	-					-193254.919	-38259.714	131.570				
481			1g	灰	灰	-					-193254.947	-38259.88	131.550				
482			1g	灰	灰	-					-193254.742	-38260.265	131.610				
483			1g	灰	灰	-					-193254.952	-38260.619	131.570				
484			1g	土器	裏形土器頸部突起部片	-					-193254.846	-38260.142	131.600				
485			1g	土器	口縁部片	-					-193255.004	-38260.731	131.550				
486			1g	土器	破片	-					-193255.256	-38260.65	131.560				
487			1g	灰	灰	-					-193256.348	-38260.529	131.580				
488			1g	土器	裏形土器頸部片	-					-193255.493	-38260.869	131.550	491			
489			1g	灰	灰	-					-193255.773	-38260.782	131.530				
490			1g	土器	破片	-					-193255.751	-38261.237	131.510				
491			1g	土器	裏形土器頸部片	-					-193255.647	-38261.065	131.590	488			
492	20	○	1g	土器	裏形土器口縁部片	-					-193255.603	-38261.211	131.520				
493			1g	土器	胴部片	-					-193256.118	-38261.137	131.560				
494			1g	土器	胴部片	-					-193256.997	-38261.413	131.530				
495			1g	土器	胴部片	-					-193256.109	-38261.256	131.580				
496			1g	灰	灰	-					-193256.164	-38261.075	131.530				
497			1g	土器	胴部片	-					-193256.003	-38261.006	131.520				
498			1g	土器	破片	-					-193255.927	-38261.047	131.600				
499			1g	土器	破片	-					-193255.776	-38260.911	131.550				
500			1g	土器	破片	-					-193254.769	-38260.432	131.570				

Tab.40 14トレンテ出土遺物台帳③

取上回数 番号 番号	実測	層位	種類	部位・附録名	材質	物置中 (×10 ⁻⁴ SD)	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	X線照	Y線照	Z線照	接合	同一 個体	備考
501		1g	炭	炭	-						-193255.071	-38260.224	131.550			
502		1g	磨砕	軽石製加工品	軽石	36.8	95.8	64.5	54.8	156						
503		1g	磨	軽石	軽石	36.2	81.6	82.5	50.8	142						
504		1g	炭	炭	-						-193255.056	-38259.057	131.530			
505		1g	炭	炭	-						-193255.996	-38259.168	131.470			
506		1g	炭	炭	-						-193255.765	-38258.944	131.470			
507		1g	炭	炭	-						-193255.674	-38259.025	131.580			
508		1g	炭	炭	-						-193255.73	-38259.139	131.580			
509		1g	土器	刷毛片	-						-193255.749	-38259.086	131.620			
510		1g	土器	尖帯部片	-						-193255.781	-38259.348	131.580			
511		1g	炭	炭	-						-193255.942	-38259.509	131.580			
512		1g	炭	炭	-						-193255.466	-38259.556	131.450			
513		1g	炭	炭	-						-193255.435	-38259.58	131.420			
514	26	○	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.76	-38259.592	131.480			
515		1g	炭	炭	-						-193255.146	-38259.274	131.470			
516		1g	土器	尖帯部片	-						-193255.021	-38259.403	131.470			
517		1g	土器	破片	-						-193255.32	-38259.65	131.500			
518		1g	土器	尖帯部片	-						-193254.878	-38259.66	131.470			
519		1g	炭	炭	-						-193255.25	-38259.858	131.480			
520		1g	炭	炭	-						-193255.511	-38259.965	131.480			
521		1g	炭	炭	-						-193255.78	-38259.945	131.460			
522		1g	炭	炭	-						-193255.831	-38259.931	131.470			
523		1g	炭	炭	-						-193255.749	-38260.045	131.470			
524		1g	炭	炭	-						-193255.615	-38260.069	131.460			
525		1g	土器	変形土器頸部尖帯部片	-						-193255.557	-38260.126	131.440			
526	26	○	土器	変形土器口縁部片	-						-193255.318	-38260.279	131.460			
527		1g	炭	炭	-						-193255.611	-38260.289	131.490			
528		1g	炭	炭	-						-193255.213	-38260.028	131.480			
529		1g	炭	炭	-						-193255.452	-38260.418	131.410			
530		1g	炭	炭	-						-193255.522	-38260.506	131.460			
531		1g	炭	炭	-						-193255.276	-38260.464	131.450			
532		1g	炭	炭	-						-193254.868	-38260.253	131.500			
533		1g	炭	炭	-						-193254.773	-38260.449	131.520			
534		1g	土器	底部片	-						-193254.471	-38260.573	131.440			
535		1g	土器	破片	-						-193254.944	-38260.609	131.490			
536		1g	炭	炭	-						-193255.098	-38260.783	131.400			現地にて保存
537		1g	炭	炭	-						-193255.547	-38260.696	131.480			
538		1g	炭	炭	-						-193255.676	-38260.738	131.450			
539		1g	炭	炭	-						-193255.838	-38260.796	131.500			
540		1g	土器	口縁部片	-						-193255.395	-38261.284	131.490			
541		1g	土器	尖帯部片	-						-193255.74	-38261.385	131.460			
542		1g	炭	炭	-						-193255.781	-38261.527	131.460			
543		1g	炭	炭	-						-193255.721	-38260.867	131.430			現地にて保存
544		1g	炭	炭	-						-193255.816	-38261.064	131.480			
545		1g	炭	炭	-						-193255.852	-38261.012	131.470			
546		1g	炭	炭	-						-193255.91	-38261.022	131.480			
547		1g	炭	炭	-						-193255.522	-38259.584	131.460			現地にて保存
548		1g	炭	炭	-						-193255.552	-38259.783	131.450			
549		1g	炭	炭	-						-193256.126	-38261.149	131.460			
550		1g	土器	刷毛片	-						-193256.138	-38261.496	131.480			

Tab.41 14トレンチ出土遺物台帳①

第6節 11トレンチの調査

(1) 調査の経緯

後期旧石器時代の遺構群の広がりや内容確認を目的として、第1調査区の南西側、約20mの地点に調査区を設定して、平成13・14年度と2ヶ年の継続した確認調査を実施した。以下、平成13年度と平成14年度毎に確認調査の経緯と成果の概要について記す。

平成13年度調査

平成13年度は、約2.4m×約7mの規模の調査区を設定した。11トレンチの範囲の概ね北側半分にあたる。

表土層である畑地の耕作土を除去すると、第2層が認められた。第2・3層と4層上半分までは重機を用いて除去した。4層上半分までの深さは、現地表面から約3.3mであり、2段の段差を設けて掘り下げた。第4層下半分の除去作業から作業員による手掘りに切り替えた。調査区西側部分の第5層上面において、鬼界カルデラ噴火に伴う幸屋火砕流（第4層c）による横転が確認された。横転部分に先行トレンチを設定し観察した結果、第5層から第7層部分までが影響を受けており、主に第5・6層が横転していることが確認された。

第5・6層からは、縄文時代早期の遺物が出土した。第7層からも若干ながら遺物が出土した。第9層からは黒曜石・頁岩製の石器が出土した。第10層面で遺構探索した結果、遺構と考えられる土色が異なる範囲を検出した。遺構と考えられる土色の異なる範囲の平面形状は、方形プランを呈していた。先行トレンチを設定し、立ち上がりの有無や底面の形状について確認を行なったが、期間的な制約もあり、詳細な記録については次年度とした。

平成14年度調査

平成14年度は、平成13年度に遺構と考えられる土色の異なる範囲を確認していたため、同様の状況が広がっている可能性を考慮し、調査区の南側を拡張した。拡張した結果、第4層以下を掘り下げた広さは、約7.2m×約5.2mとなった。しかし、火山灰等の層厚が厚く後期旧石器時代の包含層までが深かったため段掘りを余儀なくされた結果、後期旧石器時代の遺構探索を行なえたのは、約3.4m×約2.4mの範囲で、面積的には11トレンチ全体の約20%弱に留まる。

なお、11トレンチの東側半分は、調査区全体が深くなるためスロープをつけて排土置き場として用いた。最終的には、最深部で現地表より約4.8mの深さとなった。

14年度調査区の西隣付近の第5層上面において、13年度調査区同様、鬼界カルデラ噴火に伴う幸屋火砕流（第4層c）による横転が確認された。横転の規模は、13年度に検出したものより大きく、部分的には第11層まで影響を受けている。また、横転によって出来た窪みの部分には、幸屋火砕流（第4層c）と降下軽石（第4層b）が入り込んでいた。平成13・14年度に検出された横転については、Fig.47に図示している。また、平成14年度の横転による地層の乱れについては、Fig.43の三段目南半分とFig.44の三段目西半分を図示している。横転範囲の周辺でも地層が沈みこんでいる部分も見られることから、図示した横転範囲の周辺にも、横転の影響が及んだと考えられる。

第5・6層からは、縄文時代早期の遺物が出土した。特に、北壁付近では、黒曜石製の剥片・破片が比較的多く出土している。また、平成13年度調査区から出土した土器と同一個体のものも出土している。

第7層からも若干ながら遺物が出土した。第9層からは黒曜石製や頁岩製の石器が出土している。

第10層上面で遺構探索した結果、平成13年度と同様に、土色が異なる範囲を数ヶ所確認したが（東西ベルトより南側）、期間的な制約もあり検出段階で掘り下げを止め、平成13年度に検出した土色の異なる範囲（東西ベルトより北側）の調査を優先した。結果として、この範囲に複数の遺構があることが確認されたが、その詳細については、後述する。



Pl.67 11トレンチ調査終了時状況写真(南側より)

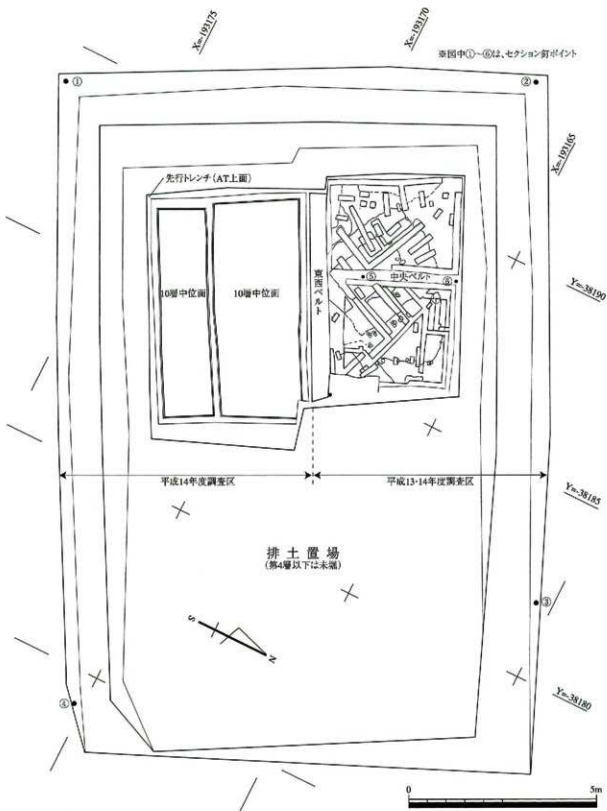


Fig.42 11トレンチ調査終了時状況図・セクション釘位置図(S=1/100)

(2) 層位

11トレンチでは、下記の層位を確認することができた。

地層の堆積状況は、Fig.43～45を参照すると、概ね次のような内容になる。

11トレンチで最も層厚が厚いのは、第2層であり、約4mを測る。全体としては、北東から南西方向へ緩やかに傾斜している。Fig.43・44の第2層上部の観察から、第2層は、北東から南西方向へ向かって侵食されており、その上に第1層が堆積している。第1章でもふれたが、11トレンチや第I調査区・西側拡張区周辺の地形は、もともと丘状を呈しており後世の削平によって平坦地になっていることが確認できた。なお、9トレンチの東壁地層断面でも第2層の北側の侵食が確認されている。

—第1層—

現在の耕作土である第1層 a 以下、第1層 f・第1層 g・第1層 h・第1層 i・第1層 m・第1層 o を確認した。耕作土である第1層 a は 1 a-②、③の3層に細分でき、水田土壌のようなグライ土壌を呈している。遺物は出土していない。第1層 g からは、12・13・14トレンチと同様に弥生時代中期に該当する土器片が出土しているが、層厚が薄いため、出土点数も少ない。

—第2層—

約5,500年前に池田カルデラから噴出された火山灰や軽石、二次堆積層で構成されている火山性噴出物堆積層である。先述したとおり、11トレンチで最も層厚が厚い。第2層の最深部に堆積している池崎火山灰には、炭化した植物が混在している部分も確認できた。

第2層の下位には、第3層・第4層・第5層・第6層・第7層・第8層・第9層・第10層・第11層を確認した。第2層以下の地形の傾斜方向は、基本的には北東方向から南西方向で、その傾斜勾配は、下層にいくに従って緩やかになっていく。

—第3層—

第2層の池田カルデラ火山性噴出物堆積層と第4層の鬼界カルデラ火山性噴出物堆積層の間に堆積している黒色の腐土である。無遺物層である。

—第4層—

第4層は、鬼界カルデラの火山性噴出物堆積層であり、基本層序と同じように、傘屋火砕流・降下軽石・アカホヤ火山灰に細分が可能である。傘屋火砕流に含まれる細粒は、第5層上部に混在している部分も認められる。

—第5層—

第5層は、縄文時代早期遺物包含層である。明るい褐色を呈し、10～20cm程度の層厚を測る。

—第6層—

第5層と同じく縄文時代早期遺物包含層である。第5層と比較して褐鉄鉱床のような黒褐色あるいは褐色を呈した部分が認められる。『水辺遺跡I』で記しているとおり、第5層と第6層の遺物出土状況から、本来は同質層であったと考えられる。

—第7層—

第7層は、サツマ火山灰層である。テフラが密に堆積しプライマリーな状態を呈していると考えられる部分をしてる部分を第7層 b、その上位のルーズな堆積となっている部分を第7層 a とした。

—第8層—

第8層は、黒色の無遺層であり、土色とその混在物の有無から a・b・c に細分が可能である。第8層 a は、黒色を呈し土層本体は8層土であるが、上層に堆積しているサツマ火山灰やそれに伴う軽石片が若干混在している地層である。第8層 b は、第7層の火山灰や軽石が混在していない地層である。第8層 c は、b に比べ淡い色調を呈す。

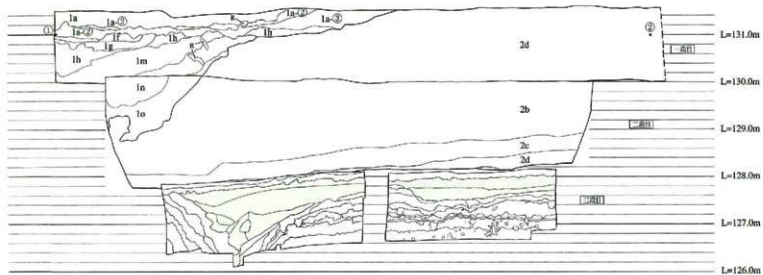
—第9層—

第9層の堆積状況は、北東から南西方向へ緩やかに傾斜している。遺構が検出されなかった範囲での層厚は平均して約25cm程度である。

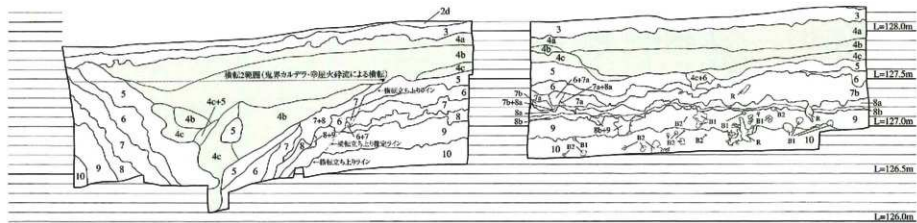
第9層には薄い色のブロック「B1」が含まれ、第10層 b には黄色いブロック「B2」が含まれている。理化学分析の結果、「B1」には岩本火山灰起源の火山ガラスが、「B2」にはA T 起源の火山ガラスがそれぞれ含まれることが明らかになった。ところで、第9層中に含まれる「B1」は厳密には単一色ではなく、薄い色から明るい色まで様々な色合いがあり、「B2」に類似したものもある。11トレンチセクション図の注記は、肉眼観察でブロックを判別し記載したものであり、全てのブロックについて内容物の分析を行なった結果ではないことを断っておく。

なお、11トレンチでは、今回報告したもの以外に遺構の可能性が想定された部分があった。具体的には上層断面において、「岩本火山灰中の白色粒」が第10層に落ち込む部分や、「B2」が第9層に上がっている部分である。しかしながら、時間的な制約で、十分な検証に至らなかったことから、断面図や平面図には特に明示していない。

Fig.43 11トロンチ西端層位断面図(S=1/80~1/40)



【一段目～三段目層位断面図】



【三段目層位断面図】

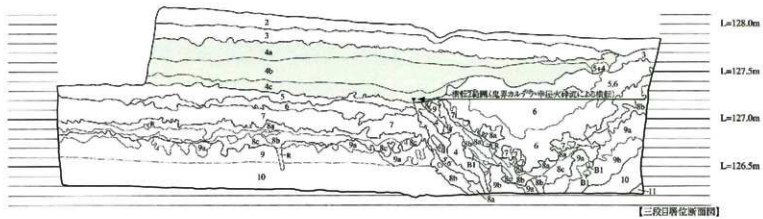
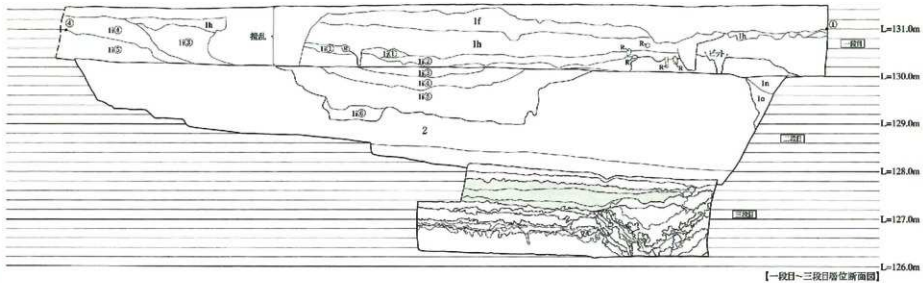
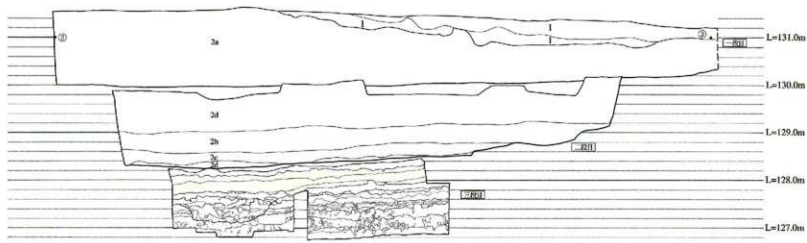
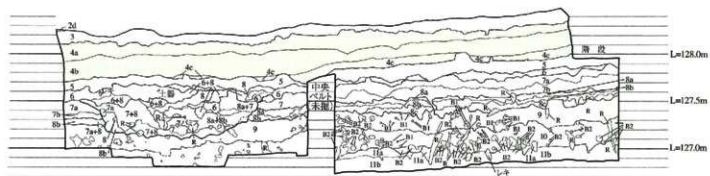


Fig.44 11トレンチ東端層位断面図(S=1/80, 140)



【一段目～三段目層位断面図】



【三段目層位断面図】

Fig.45 11号パイプ北側層位断面図(S=1/80・1/40)

—第10層—

第10層も基本的には、第9層同様な堆積状況であり、層厚は平均して約30cm程度である。

第9層には岩本火山灰を起源とする薄い色のブロック「B1」が混在している。第10層下位（第10層b）には、第11層を起源とする黄色のブロック（「B2」）が混在している。11トレンチの第10層からは、割片などの遺物が出土しているが、第10層上面で遺構を検出し、記録保存をしている関係上、第10層を完掘してはいない。よって、今回第10層から出土した遺物全てが、第10層石器群の様相を表しているものではない。

—第11層—

第11層は、始良カルデラ噴出物堆積層である。11トレンチでは、堆積状態が良好と考えられる。第11層は、上部に堆積している入戸火鉢道と、下部に堆積している大隅降下軽石層に細分が可能である。前者を第11層aと後者を第11層bと呼称している。第9層から掘り込まれている遺構は、第11層aに達している。よって、第11層aまで面的に下げると、遺構の平面ラインをより明瞭に確認することができる。

11トレンチでは、後期旧石器時代の遺構探査面が第10層上面または第10層b面であり、先行トレンチも第11層の大隅降下軽石層中ほどで止めている。よって、11トレンチでは、第12・13層のA T下位の後期旧石器時代の遺物包含層や、第14層の宿利原火山灰ローム層は未検出である。

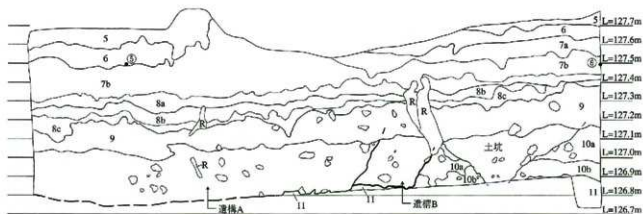


Fig.46 11トレンチ中央ベルト層位断面図(S=1/20)



PL68 11トレンチ北壁・西壁層位断面状況写真
(平成13年度・東側より)



PL69 11トレンチ西壁・南壁層位断面状況写真
(平成14年度・北側より)



PL70 11トレンチ南壁層位断面(一段目)状況写真



PL71 11トレンチ西壁層位断面(一段目)状況写真



PL72 11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真



PL73 11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真



Pl.74 11トレンチ南壁層位断面(三段目)状況写真



Pl.75 11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真①



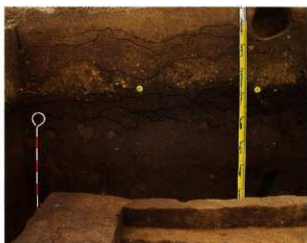
Pl.76 11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真②



Pl.77 11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真①



Pl.78 11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真②



Pl.79 11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真③

(3) 横転

11トレンチでは、2ヶ所の横転を確認している。経緯については、先に記したとおりである。

確認された横転は、いずれも第4層の鬼界カルデラの火山性噴火に伴うもので、第4層aに細分された幸熾火砕流により樹木が倒れた結果であると考えられる。

規模的には、北側（平成13年度調査）のものより南側（平成14年度調査）のものが大きい。

横転に伴って、第5層以下、第6層・第7層・第8層までが影響を受けており、南側の横転では、第11層まで影響があることが認められる。

横転の範囲から出土した遺物については、その旨を台帳で明記している。



PL80 11トレンチ横転1 検出状況写真(東側より)



PL81 11トレンチ横転2 検出状況写真(北側より)

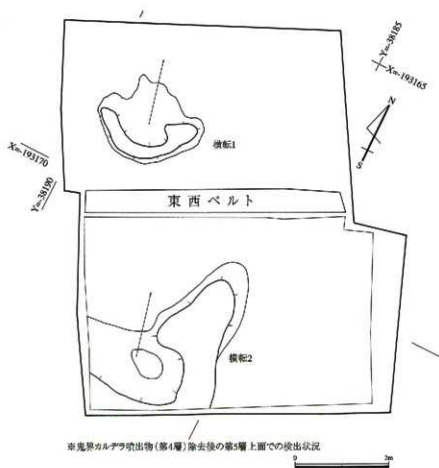


Fig.47 11トレンチ横転1・2 検出状況位置図(S=1/80)

(4) 縄文時代(第5・6層)の遺物

①分布状況

11トレンチの第5層と第6層から出土した遺物は、総点で145点である。内訳は、土器片37点、石器79点、礫29点である。145点の遺物の取り上げ層位は、「第5層」・「第6層」・「第5・6層」の3種類である。

なお、遺物が含まれている層位が、第5層と第6層であるものの、先に記した横転の範囲内出土遺物は含めていない。なお、横転範囲の第5・6層から出土したものは12点である。内訳は、土器3点、石器5点、礫4点である。

遺物の分布状況は、横転範囲を含めずにと考えると、概ね散在している状況といえる。その中でも、縄文土器片の掲載番号4、6、7は、平成13・14年度調査区の北側(北壁付近)からお互い隣接した状態で見出している。

また、平成14年度調査区の南側付近では、黒曜石を素材として剥片・砕片が比較的多く出土した。製品はあまり見られなかったが、掲載番号20や23のような比較的大きな剥片や微細な砕片があることから、石核やハンマーなどの関連遺物や、全体像が明らかではないものの、黒曜石を素材とした石器製作を行なった場であると想定できよう。



Pl.82 11トレンチ第5-6層出土遺物状況写真(東側より)

②土器 (Fig.48~50)

No1は、岩本式土器の口縁部片である。口唇部の断面形状は、内面に稜を有し三角形を呈し、工具によるキザミが認められる。口縁部直下には、貝殻縁線部による横位の連続する刺突が2条施されている。口唇部には器厚は6mmを測る。

No2からNo7とNo10からNo13の10点は、貝殻文系円筒形土器の破片である。外面に施文されている文様を、便宜上、下記①~⑥の属性に分け、その属性の組み合わせ毎に観察していく。

- ①縦位の押し引き文：No2の外面のみに認められるもので、長さ約1cm、幅約1.3cmを測り、6本の貝殻縁線部が確認できる。
- ②縦位の刺突文：No3やNo4などで認められるようなもので、貝殻縁線部を縦位に連続する刺突によるものである。間隔が1mm程度と狭いものや5mm程度の広いものが確認できる。
- ③斜位の刺突文：No2で認められるようなもので、貝殻縁線部押圧による連続する刺突によって施されている。概ね2.5cmの長さを測り、間隔も0.5~2cm程度である。
- ④横位の刺突文：No4の上部で認められるようなものである。⑥の羽状文や縦位の刺突文と斜位の刺突文の文様帯を区分する目的で施された可能性がある。
- ⑤刺突による縹杉文：No7やNo10で認められるようなもので、斜位の刺突文の組み合わせによって施文されている。右位に頂点がかかるものと左位に頂点がかかるものがあり、その両者のものもある。
- ⑥へら等の工具による羽状文：No4やNo6で認められるようなもので、カタカナの「ハ」の字、あるいは上下逆さまの「ハ」の字を呈している。概ね、土器の口縁部から底部に向かって施されている。

まずは、①~⑥で単独の文様属性の土器片を見ていく。単独で施文されているものは⑤のみである。

⑤(刺突による縹杉文)のみは、No7・No10・No11・No13の4点である。

No7は、外面中央部で縹杉文の>が認められる。連続した斜位の刺突文の切り合い関係によると、右斜め下方向の刺突(∧)が施されてから、左斜め下方向の刺突(∨)が施されている。内面は、混和材の石英や白色粒が顕著に認められるためか、横位方向のナダが施されているものの剥落が認められる。

No10は、4点の資料の内、最も器厚が厚い土器片である。最大厚の部分で1.4cmを測り、底部付近の可能性もある。外面文様は、縹杉文の>と<が認められる。斜位の刺突の切り合い関係を見ると、口縁部側から底部に向かって文様が施されている。この器体の外面文様は、少なくとも2条の縹杉文が観察される。内面には、棒状の工具あるいは指による丁寧なナダが施されている。

No11は、基本的な文様施文方法は、No10と同じである。少なくとも2条の縹杉文が観察される。器厚は、4点の中で比較すると最も薄く7mmを測る。

No13は、底部と底部付近の割部片が接合したものである。縹杉文は、>のみ確認できる。底部との接合から、外面底部端から胴部に向かって2~3cmの範囲は、文様が施文されておらず、丁寧なナダが施されているのみである。底部外面も丁寧なナダが施されているのみである。推定復元による底部での直径は、約14.6cmを測る。また、底部中央付近の器厚は、1.7~1.85cmを測るが、底部から胴部への立ち上がり部分での器厚は、0.6~0.7cmと薄く仕上げられている。

次に、①~⑥の文様で、複数の文様属性の組み合わせによって構成される土器片を見ていく。

②+⑤(縦位の刺突文+刺突による縹杉文)は、No5である。



Pl.83 11トレンチ縄文時代出土土器①写真(外面)



Pl.84 11トレンチ縄文時代出土土器①写真(内面)

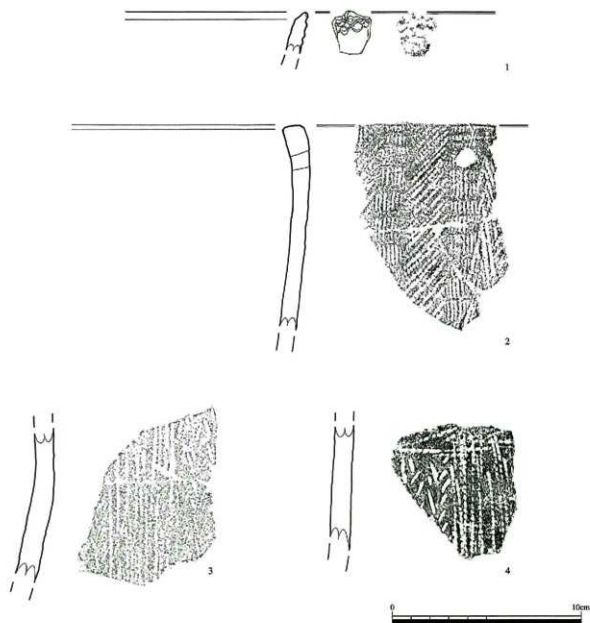


Fig.48 11トレンチ縄文時代出土土器実測図①(S=1/2)

No5は、胴部片であり、残存する外面の文様の基本構成は、縦杉文と縦位の刺突文である。外面右半分が認められる縦杉文が外面左半分に移るにつれ、右斜め下方向の刺突（＼）と左斜め下方向の刺突（／）が接する角度が鋭角になる。この縦杉文を施す前に、縦位の刺突文が幅1.2cmほど施されている。文様の2mmは、縦杉文と縦位の刺突文の切り合いであるが、基本的な文様構成は、先述した⑤（刺突による縦杉文）のみで構成されているものと同じであると考えられる。

②+⑥（縦位の刺突文+ヘラ等の工具による羽状文）は、No3とNo6の2点である。

No3は、並行する羽状文との間に、縦位の刺突が施されている土器片である。羽状文は、カタカナの「ハ」の字状を呈し、長さ約5mm、幅約1mm未満で浅く細いもので、長さ約1.2cm、幅約2mmで深く大きなものが認められる。羽状文は、口縁部から底部へ向って施されている。羽状文の施し方は、No6のものより密である。縦位の刺突文の施されている範囲の幅は、約3.5cmを測る。羽状文の施されている範囲は、少なくとも2.5cm以上はあったと窺える。

No6は、縦位の刺突との間に、羽状文が施されている文様構成をもつ。縦位の刺突部分を観察すると、直線的な刺突とやや円弧状を呈した刺突によって構成されている。羽状文は、縦位の刺突文と比較すると広くみえる。羽状文の施されている範囲の幅は約3cmで、縦位の刺突文の施されている範囲の幅は、少なくとも4cm以上であることが窺え、羽状文の範囲より広いことが判る。内面は、No10のように丁寧なナデが施されている。

①+②+③（縦位の押し引き文+縦位の刺突文+斜位の刺突文）は、No2である。

No2は、口縁部片である。口唇部は肥厚された上で平坦に整え、丁寧にナデ調整が施されている。外面の文様構成は、左側より斜位の刺突文-押し引き文-斜位の刺突文-押し引き文-斜位の刺突文+縦位の刺突文である。基本的には、斜位の刺突文と押し引き文が交互に施されているものと考えられる。文様帯の幅は、約2cm間隔であり、規格に基づいて施文されていると考えられる。刺突文も押し引き文も緻密に施されている。口唇部から1.1cmほど下に、補修孔が認められる。補修孔は、ドリル状の道具を用いて、外面・内面の両面側から穿孔している。外面での補修孔の直径は、長軸1.2cm、短軸1cmで楕円形を呈している。それに比べ内面での補修孔の直径は小さく、長軸0.7cm、短軸0.6cmを測る。補修孔の内径は、長軸0.5cm、短軸0.4cmであり、横方向に若干長い楕円形を呈している。

②+③+④+⑤（縦位の刺突文+斜位の刺突文+横位の刺突文+刺突による縦杉文）は、No4とNo12である。

No4は、胴部片である。外面に残されている文様は、中央付近から下部では、左側から縦位の刺突文-羽状文-縦位の刺突文が施されており、それらの上位には、連続した横位の刺突が施されている。その上位には、斜位の刺突文が施されている。横位の刺突文を挟んで上下の文様が異なっていることから、横位の刺突文は、文様帯の区分のためと考えられる。文様の切り合い関係は、横位の刺突文が施された後で、羽状文が施され、その後外面右半分にある縦位の刺突文が施されていることが取取できる。なお、各文様帯の幅は、羽状文の幅が約2~2.3cm、縦位の刺突文が3.5cm以上を測る。なお、内面は、丁寧なナデ調整が施されている。

No12は、胴部片で、残存している文様構成は、基本的にはNo4と同じである。約5mm程度の間隔を持って、横位の刺突文が施されている。その上位では、斜位の刺突が施されている。下位では、羽状文と縦位の刺突文が施されている。切り合い関係がない為、施文の前後関係は不明である。なお、各文様帯の幅は、羽状文の幅が約1.4cm以上、縦位の刺突文が4.7cm以上を測る。なお、内面は、丁寧なナデ調整が施されている。基本的な文様構成や内面調整のあり方は同じであるが、内・外面の色調で別個体と考えられる。ただし、混和材は石英や白色粒が顕著に認められることが類似している。

以上、第5・6層から出土した10点の貝殻系円筒形土器を文様属性毎に6つに細分した。各土器片の文様属性の組み合わせは5種類であった。組み合わせを主たる文様構成で見ると、3つに集約できよう。

・A：主たる文様構成が、刺突による縦杉文で構成されるもの：No5・No7・No10・No11・No13

・B：主たる文様構成が、縦位の刺突文+ヘラ等の工具による羽状文で構成され、部位によっては横位の刺突文で区画し、斜位の刺突文が追加されるもの：No3・No4・No6・No12

・C：主たる文様構成が、押し引き文と斜位の刺突文で構成されているもの：No2

これらの分類によると、AやBは、辻タイプと呼称されるものに、Cは下刺釜式土器に含まれると考えられる。よって、これらの遺物は、縄文時代早期中葉に位置づけられるものと考えられる（註）。

No8は、いわゆる山形押型文の土器片である。指宿市内での押形文土器の発見例としては小牧ⅢA遺跡に次いで2例目であり、指宿地域も他地域と同様に押形文土器の影響を受けていたことが窺える。これと共存する土器を特定することで、南九州においてこのような山形押型文土器を受け入れた段階の時期を語る上で貴重な資料と成りえるだろう。

No9は、胴部から底部付近の破片である。外面は摩滅により有文なのか無文なのか不明である。内面には斜め方向のナデが認められる。内面の形状は底部付近のため弧状を呈し、推定される内面の直径は約6.4cmを測る。また、器厚を換算すると外面での直径は約9.6cmを測るものと考えられる。水迫遺跡の第1調査区や第1トレンチの第5・6層出土の底部直径を見ると、7.6~10.7cmを測り遜色は感じない。No13と比較すると、直径が小さいと言える。

（文責 鎌田）

（註）今回、11トレンチから出土して土器については、新築第一、前迫第一、桑畑前、黒川忠広、金丸武司、遠部館の各語式からご教示を頂いた。また、下記文献を参考とした。南九州縄文研究会「南九州貝殻系土器Ⅰ-鹿児島県-」2002



Pl.85 11トレンチ縄文時代出土土器②写真(外面)



Pl.86 11トレンチ縄文時代出土土器②写真(内面)

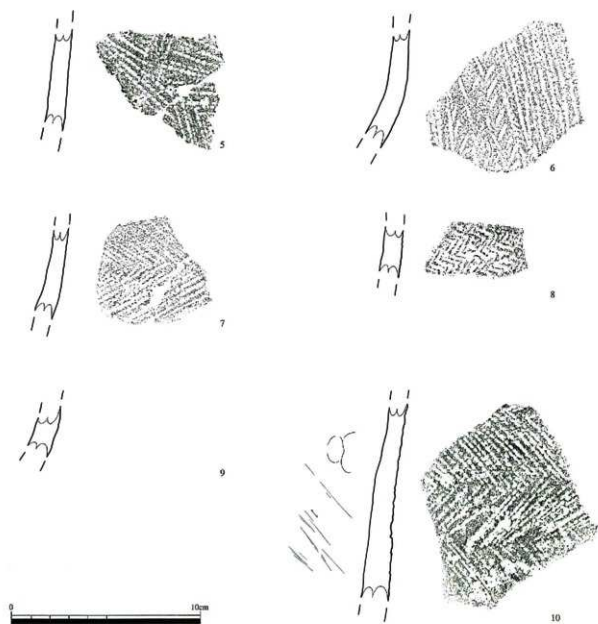


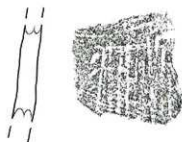
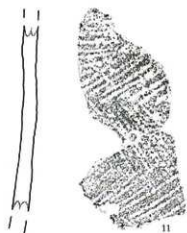
Fig.49 11トレンチ縄文時代出土土器実測図②(S=1/2)



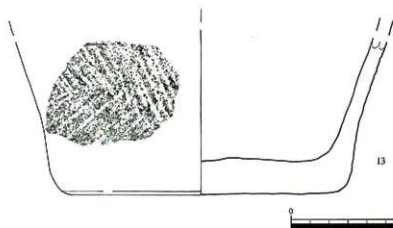
PL87 11トレンチ縄文時代出土土器③写真(外面)



PL88 11トレンチ縄文時代出土土器③写真(内面)



12



13



Fig.50 11トレンチ縄文時代出土土器実測図③(S=1/2)

調査No.	出土層No.	器種	残存法量(cm)	器位	色	外	色	内	色	内	色	数	出土層	原料材	用途	その他	出土層位	調査
1	21	縄文土器(印本式土器C群)	破片	口縁部	75YR5/3	75YR5/3	75YR4/1	75YR5/3	口縁部	縁部数を若干含む	白-黒-黄	内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ 口縁-ナテ	焼き黒陶 焼成良好	5				
2	140	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	口縁部	75YR4/2	75YR4/2	75YR3/1	75YR3/1	口縁部	砂粒をわずかに含む 縁部数を多く含む	白-赤-白 黒-黄	内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ 口縁-ナテ	焼き黒陶 焼成良好	5	150			
3	170	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	75YR5/3	75YR4/1	10YR3/1	2.5Y6/1		砂粒を含む 灰を含む	縁部-黄 赤-白 黒-黄	内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ ツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	5-6	171 172			
4	26	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	10YR5/2	75YR4/2	75YR3/1	75YR4/2	5YR4/1	砂粒をわずかに含む 灰-縁部数を多く含む	縁部-白-赤 黒-黄	"内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ ツマツキ ヘラ状工具による圧痕の調査	焼き黒陶 焼成良好	6				
5	166	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	75YR4/2	75YR3/1	75YR4/1	75YR4/1		砂粒をわずかに含む 灰-縁部数を多く含む	縁部-白-赤 黒-黄	内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	5-6	243			
6	27	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	10YR5/2	10YR4/1	10YR3/1	75YR3/1	75YR5/3	砂粒をわずかに含む 灰-縁部数を多く含む	縁部-白-赤 黒-黄	内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ ツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	6				
7	30	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	75YR5/2	5YR5/3	10YR5/3	75YR4/2	75YR3/1	砂粒を含む 灰を含む	縁部-白-赤 黒-黄	内-ナテ ツマツキ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	6				
8	258	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	10YR5/2	10YR5/2	2.5Y7/1	5YR5/6	5YR6/6	砂粒をわずかに含む 灰-縁部数を多く含む	縁部-白-赤 黒-黄	"内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ ツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	5-6				
9	223	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部-灰 胴付底	75YR5/3	75YR5/2	5YR4/1	10YR3/4		砂粒をわずかに含む 灰-縁部数を多く含む	縁部-白-赤 黒-黄	内-ナテ 外-ツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	5-6				
10	5	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	75YR5/3	10YR4/1	75YR3/1	2.5Y4/1	5YR5/3	砂粒をわずかに含む 灰-縁部数を多く含む	縁部-白-赤 黒-黄	内-ナテ-黒 ツマツキ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	5				
11	180	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	75YR7/3	75YR4/1	10YR3/1	10YR5/2	75YR6/2	砂粒を若干含む 灰-縁部数を多く含む	縁部-白-赤 黒-黄	内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	5-6	201			
12	46	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片	胴部	75YR5/3	10YR4/1	5A/0			砂粒を含む 灰を含む	縁部-白-赤 黒-黄	内-ツマツキ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ	焼き黒陶 焼成良好	5				
13	27	縄文土器(印本式系内筒形土器)	破片 1/4割等 焼成温度 140	胴部	10YR5/2	75YR5/2	75YR4/1	10YR4/1	5YR5/6	75YR5/3	75YR4/2	75YR4/2	砂粒を含む 灰-縁部-黒 赤-白 黒-黄	内-ナテ 外-月形線部には副位の明瞭なツマツキ ツマツキ 内-ナテ	焼き黒陶 焼成良好	6	35 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000	

Tab.42 11 トレンチ縄文時代出土土器観察表

③石器 (Fig.51~53)

11トレンチの第5層・第6層から出土した石器は79点である。石器組成は、尖頭状石器、石鏃、使用痕のある剥片、スクレイパー、剥片、砕片、石核などである。石材は黒曜石が66点と最も多く、頁岩9点、赤色頁岩3点、瑪瑙1点である。黒曜石の大部分は、11トレンチの南側付近から出土したものが大部分を占めており、肉眼観察から同一個体のものと考えられる。ただし、接合はできなかった。

尖頭状石器 (Fig.51)

No14は、頁岩製の尖頭状石器である。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から尖頭状石器への調整過程が推定できる。まず、複剥離打面を有する幅広の剥片が素材として獲得されている。

まず、素材剥片のa面全域に調整が施され、全体的な形状の整形がされている。調整は、素材剥片の中央部まで伸びるものではなく、縁辺周辺に留まっている。a面の調整は、奥行き1cmのものと奥行き0.3~0.5cm程の細かなものとの2種類が認められる。切り合い的には、まず前者の調整が施され、大まかな形状の整形がなされている。その後、後者の調整によって縁辺が整えられている。

a面での調整後、b面左側縁上部と下部に調整が施されている。a面・b面では、先端部や基部を意識した細かな調整が認められず、形状を三角形に整形しているのみと判断することもできることから、未製品とも考えられる。

打製石鏃 (Fig.51)

No15は、平基式の石鏃である。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。厚みのある素材剥片を用いて、まずa面の縁辺に周辺から調整を施している。その後、b面のほぼ全周に調整が施されている。石鏃の両側縁は円弧状を呈している。先端部は、b面に認められるように一枚の剥離によって整形されているが、鋭利ではない。

No16は、基部がやや丸みを持つ石鏃である。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。まず、b面に周辺から調整が施されている。b面右側面下部に、素材剥片の剥離面が認められる。b面に施されている調整は、b面中央部付近まで延びている幅広の調整である。その後、a面において周辺から全体的な形状整形を目的とした調整が施されている。a面の周辺調整後、再度b面左側縁上部において調整が施されている。基部の調整は、両側縁での調整後に施されているが、やや丸みを帯びた凸状に整形されている。先端部は若干欠損しているが、使用時による欠損なのか、あるいは整形段階でのものなのかは不明である。

使用痕のある剥片 (Fig.51-52)

No17は、打面部と下端部、左側縁を切断した剥片を用いた使用痕のある剥片である。素材剥片の打面部は、主要剥離面側(b面)からの最低2回の加撃によって切断している。下端部は、左側部からの加撃によって切断している。また、左側部は、主要剥離面側からの加撃によって切断している。その切断面の一部を、使用部として用いている。使用痕には、4枚ほどの微細な小剥離痕が認められる。

No18は、黒曜石製の縦長剥片を用いた使用痕のある剥片である。素材剥片は、a面の剥離面の状況から、素材剥片と同様な縦長剥片を数枚剥離した石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部の一部は、主要剥離面と接する部分において少なくとも2枚の剥離によって除去されている。素材剥片の下端部は使用部として用いられ、b面側からの加撃による微細な使用痕が認められる。

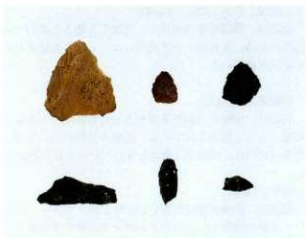
Fig.52のNo20は、頁岩製の幅広の剥片を用いた使用痕のある剥片である。a面の剥離痕の状況から、この剥片を剥離した石核では、同様な剥片を少なくとも5枚は剥離していると想定できる。素材剥片の打面部は、a面側からの加撃によって作出された単剥離打面である。a面上端部には、少なくとも4枚の頭部調整痕が認められる。使用痕は、a面下端部の同端部にわずかに認められる。

スクレイパー (Fig.51)

No19は、頁岩製のスクレイパーである。素材剥片の打面部を将来のスクレイパーの刃部側に設定し、周辺に調整を施している。剥離面の切り合い関係から、次のような整形工程が想定できる。素材剥片の下端部は、e面・b面上部で認められるような切断によって整形されている。a面右側部は、d面でも確認できるように平面的な調整によって整形されており、その調整痕は素材剥片の中央部まで伸びている。a面左側部は、b面側からの加撃によって整形されており、少なくとも2枚の調整痕が認められる。c面上部には、e面で行われた素材剥片の下端部の切断痕が伸びている。スクレイパーの刃部は、素材剥片の打面部に設定されており、b面側からの加撃によって作出されている。作出された刃部は、幅約1.2cm、奥行き3.5cmを測る。刃部を作出する際の調整痕は、幅が短く長さが長いものである。刃部には、微細な使用痕が認められる。



Pl.89 11トレンチ縄文時代出土石器①写真(表面)



Pl.90 11トレンチ縄文時代出土石器①写真(表面)

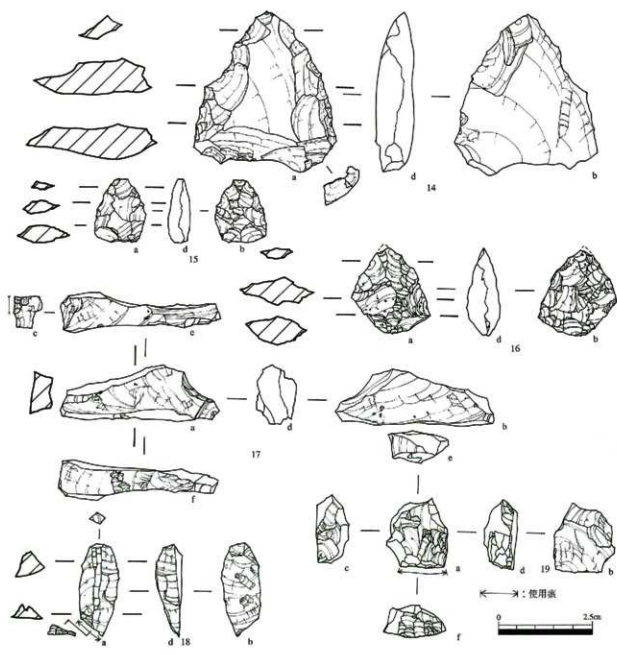


Fig.51 11トレンチ縄文時代出土石器実測図①(S=1/1)

二次加工のある剥片 (Fig.52)

No21は、黒曜石製の剥片に二次加工を施したものである。素材剥片の打面は、点状打面であり、顕著な頭部調整痕が認められる。素材剥片の下端部には、a面左側面方向からの加撃による切断が行なわれている。その後、細かな二次加工が施されている。

切断剥片 (Fig.52)

No22は、黒曜石の剥片を素材とした切断剥片である。c面とd面が切断面である。素材剥片の打面も、この段階の切断によって除去されている。切断の目的については、利器の製作に伴うものと考えられるが、特定はできない。比較的厚みがあり、断面が三角形を呈していることに特徴が見出せる。

剥片 (Fig.53)

No23は、黒曜石製の大型不定形剥片であり、最大厚が2.4cmを測る。石器製作に伴う二次加工や切断は認められない。a面の観察から、これを石核から剥離する以前に、多方向からの加撃によって多くの剥片が剥離されていることが看取できる。すなわち、打面を複数保持する大型な石核から剥離されたものと考えられる。

No24は、頁岩製の剥片である。厚みが薄く、打面部と下端部が欠損している。a面の観察によると、多方向からの加撃による剥離痕が認められることから、打面を複数保持する石核から剥離されたものと考えられる。

No26は、横転範囲の第6・8・9層の混在する地層から出土したものである。帰属時期は不明であるが、最も新しい時期の第6層として、ここで掲載する。形状は、束細り状を呈した剥片である。打面には、a面側からの加撃による打面調整が顕著に認められる。断面は、三角形を呈して縁辺もほぼ直線的であるが、肉眼観察による使用痕は認められない。

石核 (Fig.53)

No25は、上下に打面を設定し、2面の剥片剥離作業面を有する石核である。a面の剥片剥離作業面には、3枚の剥片の剥離痕が、また、b面には2枚の剥離痕が認められる。いずれもf面側の打面を用いたものである。f面の打面は、面としては残存していない。e面には、a面からの加撃によって作出した打面と打面調整痕が認められる。しかし、a面とb面の剥片剥離作業面には、e面の打面を用いた剥片の剥離痕は認められない。石核の作業面長は2cm、幅は1.5cmを測ることから、剥離された剥片も小形であると考えられる。

水迫遺跡の第5・6層出土の石器組成について

水迫遺跡の第1調査区、西側拡張区、1トレンチの第5・6層からは、縄文時代早期初頭に位置付けられている岩板式土器が出土している。11トレンチからは、縄文時代早期中葉に位置付けられている下剥式土器と、辻タイプが出土している。また、第II調査区からは礫式土器も出土している。これらのことから、水迫遺跡の第5・6層は、縄文時代早期初頭から後葉にかけての遺物包含層であることが確認されている。

ここで、岩板式土器段階の石器組成について、若干、概観を述べておく。これまで第5・6層の岩板式土器段階においては、打製石鏃、槍先形尖頭器、(局部) 磨製石斧、打製石斧、スクレイパー、剥片、石核、台石、石皿、磨石、蔽石、ハンマーなどの石器類が出土している。他の時期の型式土器に比べて、石器組成もバラエティーに富み、点数的にも比較的まとまって出土している。

打製石鏃

打製石鏃については、石材と形態について概観してみる。指宿市小牧に所在する岩本遺跡や小牧3A遺跡では、縄文時代早期初頭の岩板式土器に伴い磨製石鏃が出土しているが、水迫遺跡では未だ出土例がない。磨面のある剥片や磨製石斧が組成中に含まれていることから、技術的には磨製技術を保持しており、本来の石器組成中には、磨製石鏃の存在も想定できよう。打製石鏃の素材剥片の石材は、頁岩と黒曜石が主体を占めており、1点であるが姫島産黒曜石製の石鏃がある。岩板式土器段階に生活を営んでいた集団が製作していた石鏃の形態は、大きく3つに分けることが可能である。

- ①両面加工品で、いわゆる平基式に近い基部に若干抉りが入る形態のもの。
- ②両面加工品で、凹基式のもの。
- ③整形が素材剥片の縁辺のみに僅かに施されているのみの、いわゆる剥片鏃のもの。

なお、姫島産黒曜石製の石鏃は、抉りが深い基部を有しており、製作工程も含めても他の石鏃と異なる。推測の域を出ないが、他の集団により製作された石鏃が製品の形として持ちこまれた搬入品と考えられる。石鏃の長幅比や詳細な製作工程の違いについては、「水迫遺跡II」を参照願いたい。

槍先形尖頭器

先端部と基部が欠損し全体的な形態を留めていないが、岩本遺跡などで出土している木葉形の尖頭器とほぼ同じ形態のものが出土している。ハリ賀安山岩製の剥片を素材としている。その石材は、他の石器素材としては用いられておらず、他集団あるいは別の生活空間からの搬入品と考えられるものである。



Pl.91 11トレンチ縄文時代出土石器②写真(表面)



Pl.92 11トレンチ縄文時代出土石器②写真(裏面)

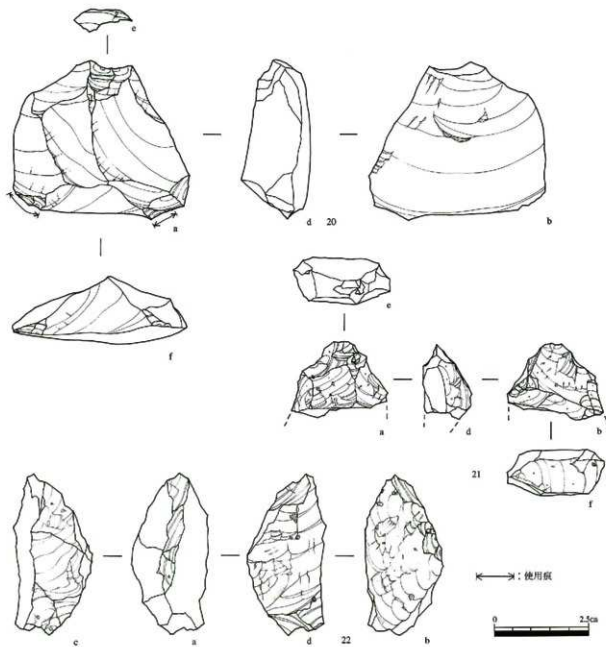


Fig.52 11トレンチ縄文時代出土石器実測図②(S=1/1)

石斧

第1調査区・西側拡張区内からは、磨製石斧3点、打製石斧1点の合計4点出土している。

磨製石斧は、いわゆる全面研磨ではなく、基部・縁辺を除いた両面で、特に刃部側に顕著に研磨が施されている。これを踏まえれば、局部磨製石斧と呼称したほうが良いかもしれない。3点の磨製石斧は、研磨後の使用に伴う再調整が著しいため、本来の研磨範囲の全ては残存していない。また、同一層から磨製石斧から剥落したと考えられる「磨面をもつ剥片」があることから、集落内で石斧を利用したか、あるいは、石斧の刃部再生を行なったと考えられる。このことから、磨製石斧は、使用していく中で再整形・刃部再生を繰り返し施され、形態や大きさが変化していったことが推定できる。

上記した主要な石器の他に、台石、石皿、磨石、蔽石などの雑核石器なども、第5・6層の岩本式土器段階の石器組成中に含まれている。

11トレンチの第5・6層出土石器

11トレンチの第5・6層出土の土器型式から、土器とはほぼ同レベルから出土している石器類は、縄文時代早期中葉に帰属するものと考えられる。先述したとおり、製品としては、尖頭状石器、石鏃、スクレイパー、使用痕のある剥片、二次加工剥片、切断剥片、分割剥片も認められる。また、石核、剥片、砕片もほぼ同レベルから出土している。これらのことから、11トレンチでは石器製作に伴う、石核整形作業・剥片剥離作業・石器製作作業（剥片を切断・分割、二次加工）の一連の作業が行なわれていたと推測することができる。特に、11トレンチ南半分の調査区東側では黒曜石製の剥片、砕片、分割剥片などがまとめて出土していることから、石器製作の「場」としての空間利用状況が推測できる。

11トレンチの縄文時代早期中葉に位置づけられる石器群の石器組成は、出土点数が少ないため、その全容は不明である。今後、指宿地区内での追加資料によって、当該時期の石器組成の様相をより詳細に分かることができよう。

(文責 録田)

No.	取上げNo.	器種	石材	法量 (cm)	重量 (g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
14	15	先頭状石器	頁岩	最大長: 4.3 最大幅: 2.8 最大厚: 1.03	12	板状	両面	不明	5	
15	213	打製石鏃	赤色頁岩	最大長: 1.7 最大幅: 1.4 最大厚: 0.6	1.01	-	両面	不明	6	平基式
16	22	打製石鏃	黒曜石	最大長: 2.35 最大幅: 2.1 最大厚: 0.95	2.98	-	両面	使用痕欠損	5	
17	230	使用痕のある剥片	黒曜石	最大長: 1.5 最大幅: 4.3 最大厚: 1.1	2	-	切断	小割痕	5-6	
18	232	使用痕のある剥片	黒曜石	最大長: 2.5 最大幅: 1.1 最大厚: 0.7	1.23	準板状	片面上辺	微凹	5-6	
19	178	スクレイパー	黒曜石	最大長: 1.9 最大幅: 1.6 最大厚: 0.9	2.65	-	a面	微凹	5	
20	216	使用痕のある剥片	頁岩	最大長: 4.3 最大幅: 4.7 最大厚: 1.9	25	準板状	-	小割痕	5	
21	49	二次加工のある剥片	黒曜石	最大長: 2.9 最大幅: 1.5 最大厚: 1.3	3	点状	調整	-	5	
22	107	切断剥片	黒曜石	最大長: 4.3 最大幅: 2.9 最大厚: 1.5	12	-	調整	-	5	
23	108	剥片	黒曜石	最大長: 6.6 最大幅: 6.7 最大厚: 2.4	72	点状	-	-	5-6	
24	175	剥片	頁岩	最大長: 1.7 最大幅: 1.4 最大厚: 0.3	0.52	-	-	-	5-6	
25	109	石核	黒曜石	最大長: 2.3 最大幅: 1.7 最大厚: 0.9	2.48	板状	打面調整	-	5-6	
26	205	剥片	チャート	最大長: 1.35 最大幅: 1.0 最大厚: 0.65	0.51	準板状	打面調整	-	5-6(別録範囲)	

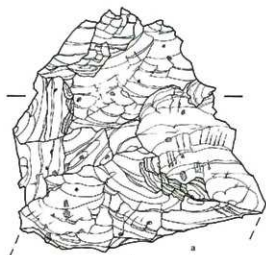
Tab.43 11トレンチ縄文時代出土石器観察表



Pl.93 11トレンチ縄文時代出土石器③写真(表面)



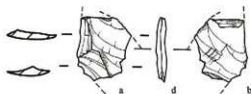
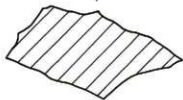
Pl.94 11トレンチ縄文時代出土石器③写真(裏面)



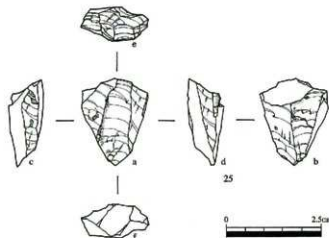
23



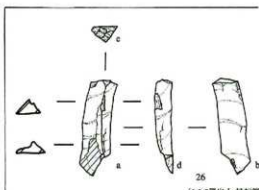
b



24



25



(6-9-9出土・横断面図)

26

Fig.53 11トレンチ縄文時代出土石器実測図③(S=1/1)

(5) 後期旧石器時代の遺構

平成13年度の調査において、11トレンチの第10層上面付近で、第10層とは異なる土色の範囲が複数あることが認識された。このため、遺構の可能性を考慮し、それぞれについて調査を実施した。調査方法は、平面形状の確認と記録の後、先行トレンチを複数設け、断面形状を確認した。この際、複数の先行トレンチの断面において、立ち上がりの形状が相互に規格性を有するかどうかを確認しようとした。同時に、下位層である第11層上面に、第10層上面付近で検出された土色の異なる範囲と対応する部分があるか否かを確認しようとした。その作業の結果、第10層上面付近において検出された土色の異なる範囲は、遺構の可能性が高いと考えられるものがあることが明らかになってきた。

平成14年度においては、平成13年度に検出された、遺構の可能性の高い土色が異なる範囲の広がりを確認するために、11トレンチを南側に拡張した。11トレンチの南側拡張部分では、第11層に達する横転が検出されたが、プライマリな包含層も半分以上の範囲で残っていた。第10層上面付近においては、異なる土色の範囲が複数あるように見えた。これに対して、先行トレンチを複数箇所設け、平面と断面、そして下位層上面（第11層上面）においても土色の異なる範囲が検出されるかどうかの確認作業を実施した。結果的にかなり多数の遺構が存在するとともに、相互に切り合っている可能性が考えられた。遺構の可能性のある部分すべての掘り下げは、調査の日程上困難であったため、平成13年度に検出された遺構の可能性のある部分の掘り下げを先行させ、遺構か否かの確認を調査の最優先事項とした。

本書は、検出された遺構と考えられるものに関して、できるだけ詳細な情報を提示することが刊行の目的でもあるので、記述にあたり、検出された遺構と考えられるものを、まず下記のように平面形状に従い分類し、それぞれについて詳述していく。その上で、それぞれの遺構と考えられるものに関しては、遺構としての認定根拠や、場合によってはその機能に関して各項で述べていきたい。

11トレンチ北側において検出された土色が異なる範囲は、その平面形状から以下のように分類できる。

- (1) 他の調査区で発見された「竪穴建物跡」の竪穴に平面形状が類似する。つまり、直線的な

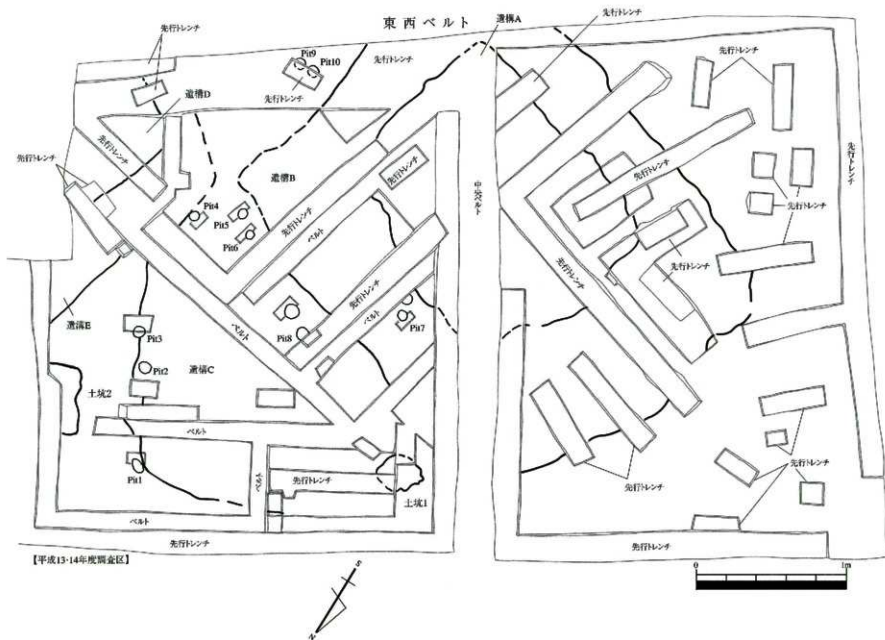


PL95 11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真①



PL96 11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真②

Fig. 54 11トレンチ後期旧石器時代の遺構配置図(S=125)



【平成13・14年度調査区】

ラインと直角に近いコーナーにより構成された「方形」平面を呈するもの、またはその一部と考えられるもの

(2) 円形・楕円形・隅丸方形などで最大径が概ね1m程度のももの

(3) 平面形が概ね円形を呈し、最大径が10cm前後のもの

上記のそれぞれについては、以下のように仮称して報告していく。

(1) については、遺構A～遺構E、(2) については、土坑①、土坑②、(3) については1号ピット～10号ピット。

①遺構A

調査内容の詳述に先立ち明記すべき事項がある。11トレンチの調査は、平成11年度に検出された後期旧石器時代の遺構群の広がりとその内容を確認することを目的として行なった。特に、平成12年度に実施された、西側拡張区における調査結果では、各遺構の平面形の把握は第9層下面から第10層の上面付近で行なわれていた(指宿市教育委員会2001)。このことから第10層上面付近においては、常に土色の変化に注意が払われ調査が実施された。同時に、「方形または、それに類した平面形を呈する土色の異なる範囲」や、その一部と考えられるものが検出された場合は、「堅穴建物跡」である可能性を考慮し、従来検出された「堅穴建物跡」との類似点があるか否かを確認していった。確認する点は以下のようである。なお、水迫Ⅰ・Ⅱで提示した各仮説との関係は()内のようになり、各項目の確認の方法は水迫Ⅰ・Ⅱで提示した方法論で行なった。

- ・落ち込みと自然堆積層または、切り合い関係にある落ち込みと埋土との遺構境界面があるか(仮説A)(仮説G)
- ・埋土は自然堆積層と異なる堆積状況であるか(仮説B)
- ・底部に掘削痕跡と見せる部分があるか(仮説C)
- ・埋土は同一の層から落ち込んでいるか(仮説D)
- ・平面形が方形と言える形状であるのか、つまり直線的な4辺と4コーナーを持つ形態と見られるか(仮説E)
- ・立ち上がり形状が、落ち込みの複数箇所で見られるという規格性を有するか(仮説F)
- ・堅穴の底面のレベルがある程度そろっており平坦に近い形状をなすか(仮説I)
- ・堅穴の平面から規則性のある距離をもってピットが検出されるか(仮説J)

水迫Ⅰ・Ⅱでは、上記に加え、遺構の切り合いの認定のための仮説も提示した。その中の「遺構が切り合っているなら、・・・(中略)・・・遺構の底面の高さは異なることがある」という仮説については(仮説H)、検出状況を述べているものであることから、切り合い関係を裏付ける必要十分条件とはならないと考えられ、これを喜愛した。

さて、11トレンチ北側には、平面が方形と見られる落ち込みが検出された。これらは、遺構A～遺構Eと呼称した。それぞれの位置関係はFig.54に示した。5基検出された落ち込みは、AとB、DとEとが切り合い関係にある。また、CはBによって切られていると考えられる。AとB、DとEとはそれぞれ軸がほぼ揃っており、「AとB」と「DとE」とはそれぞれに軸が揃っている。

遺構A平面 (Fig.55, Pl.95, Pl.96)

遺構Aは、11トレンチ北側の中央付近で、周囲の遺構B埋土より黒味が強い土色の範囲として認識された。中央ベルトの東側では、第10層上面付近で検出された平面ラインが、局所的な土色の変異ではないことを確認しようとした。このために、複数のベルトを残しながら埋土と周辺の第10層を第11層上面付近まで平面的に掘り下げた。この結果、第10層上面付近で確認した平面ラインに対応する土色の異なる範囲が第11層の上面付近でも確認できた。つまり、土色差の範囲は第11層上面に達するまでの一定の深さを持っていたことが明らかとなった。第11層上面での検出状況は、Pl.97のようである。このことで特に重要なのは、土色が異なって見える範囲がまず平面上で確認され、同一位置の下位に掘り下げてもなお、土色の変異が連続する点である。このことは、土色が異なる立体的な範囲が、11トレンチ北側に存在し、その垂直分布範囲は、少なくとも第10層上面付近から、第11層上面付近であるということを示している。



Pl.97 遺構A東辺検出状況スナップ写真

さて、土色の異なる範囲の平面形は、略東西南北の4辺を有し、4コーナーを有すると見られる。南辺と西辺はほぼ直線的な形状であり、北辺と東辺はやや膨らみを持つ形状となる。北辺と西辺が作るコーナーの角度は113°であり(コーナー角度の計測方法は、指宿市教育委員会 2001, P283を参照)、西辺と南辺が形成するコーナーの角度は103°である。

遺構Aの法量は、長軸最大1.80m、短軸最大1.46mとなる。次から、上記のように平面上で検出されたものの断面形状の詳細について記述する。遺構Aにおいては8本の先行トレンチと1ヶ所のベルトで断面を確認し、記録作業を実施した。

(文獻) 指宿市教育委員会 2001 『水迫遺跡Ⅰ』

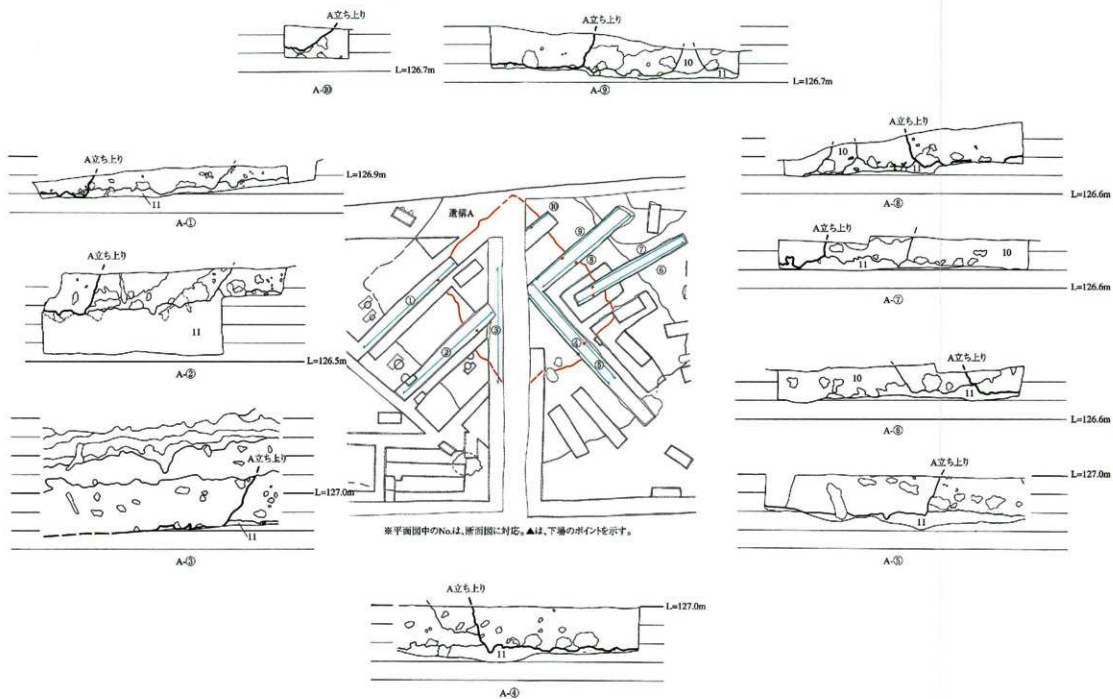


Fig.55 選標A全体図・インデックス (Section:S=1/20, 中央平面図:S=1/40)

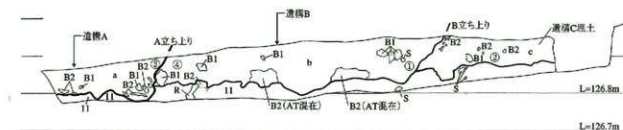


Fig.56 遺構A-①層位断面図(S=1/10)



Pl.98
遺構A-①層位断面写真

遺構A先行トレンチ①断面 (Fig.56, Pl.98, Tab.44)

平面的に検出された土色差がある範囲の断面を確認するために設けた先行トレンチの北側断面である。Aの埋土は第11層上面に達しており、第11層上面は落ち窪んでいる。埋土色はPl.98に見えるように、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できる。埋土Aは遺構Bの埋土を切り、第11層に達する。遺構B埋土との土色差は、測色データにおいてもL値の差となって表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から23°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.83mに揃っている。

経緯名称	土層名称	色票位置	L	a	b
A-①断面	b	①	29.3	4.6	8.3
	c	②	28.5	5.1	9.1
	a	③	27.5	5.2	8.7
	a'	④	29.1	6.4	11.2
	b'	⑤	29.1	6.4	11.2

Tab.44 遺構A-①測色データ

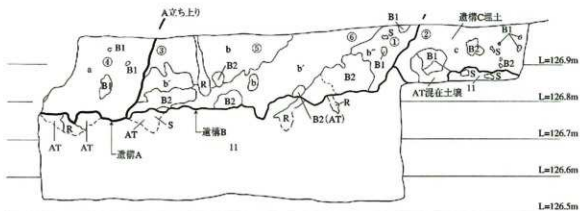


Fig.57 遺構A-②層位断面図(S=1/10)



Pl.99 遺構A-②層位断面写真

遺構A先行トレンチ②断面 (Fig.57, Pl.99, Tab.45)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。先行トレンチの断面においては、Pl.99に見えるように、A内部と外部においての土色差があり、黒味が周囲より強い。これは、測色データにも現れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた土色のブロック「B1」が混入している。「B1」は「B2」と比較して、暗い色である。ブロックの混入量は少量であるため、埋土の上下に関らず土色は黒く見える。埋土中には「岩木火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から21°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80m～129.83mに揃っている。

断面名称	土層名称	色調位置	L	s	b
A-②断面	b'	①	36.5	3.4	8.6
	c	②	35.7	3.9	8.4
	b	③	31.9	2.4	4.9
	a	④	31.0	1.7	3.7
	b	⑤	33.5	2.1	5.3
	b'	⑥	34.5	4.3	6.0

Tab.45 遺構A-②測色データ

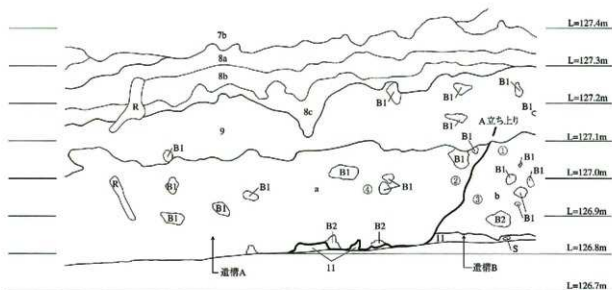


Fig.58 遺構A-③層位断面図(S=1/10)



Pl.100 遺構A-③層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-③新層	b	①	29.8	2.3	3.5
	a	②	29.2	2.6	3.9
	b	③	31.4	2.8	4.6
	a	④	29.2	2.3	3.0

Tab.46 遺構A-③測色データ

遺構A中央ベルト③断面 (Fig.58, Pl.100, Tab.46)

平面的に検出された土色差がある範囲の連続性を中央ベルトの東面で確認した。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強い。ベルトの断面においては、Pl.100に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見え、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが若干混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第1層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第1層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.77m～126.82mの範囲に入るが、底部は南に向かってやや傾斜している。立ち上がり角度は鉛直から39°振れている。

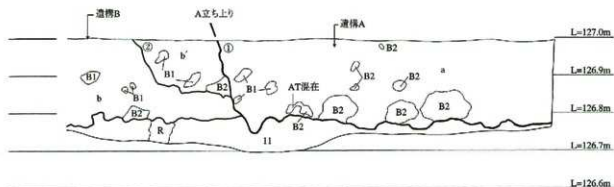


Fig.59 遺構A-④層位断面図(S=1/10)



Pl.101 遺構A-④層位断面写真

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
A-④断面	a	①	29.7	2.5	3.6
	b'	②	33.4	4.4	4.6

Tab.47 遺構A-④面色データ

遺構A先行トレンチ④断面 (Fig.59, Pl.101, Tab.47)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの西側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。ベルトの断面においては、Pl.101に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見え、調色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第1層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。各ブロックの内、「B1」がの包含量が少ない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から39° 振れている。底部は第1層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.77m~126.79mに達する。

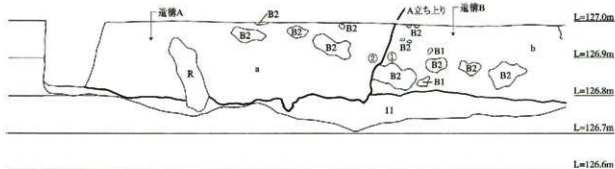


Fig.60 遺構A-⑤層位断面図(S=1/10)



Pl.102 遺構A-⑤層位断面写真

遺構A先行トレンチ⑤断面 (Fig.60, Pl.102, Tab.48)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。断面においては、Pl.102に見えるように、A埋土はB埋土より土色がやや暗く見え、測色データのL値にもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入しているものもある。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ、立ち上がり角度は鉛直から23°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。

断面名称	土層名称	色別位置	L	a	b
A-⑤断面	b	①	31.1	3.3	4.0
	a'	②	30.4	2.8	3.9

Tab.48 遺構A-⑤測色データ

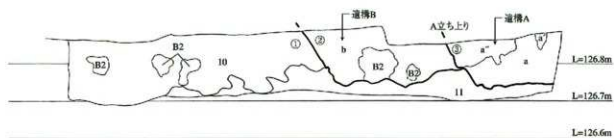


Fig.61 遺構A-⑥層位断面図 (S=1/10)



Pl.103 遺構A-⑥層位断面写真

断面名称・土層名称	色測位置	L	a	b	
A-⑥断面	10	①	29.6	4.3	4.4
	b	②	31.6	4.1	4.2
	a''	③	30.6	4.5	4.9

Tab.49 遺構A-⑥測色データ

遺構A先行トレンチ⑥断面 (Fig.61, Pl.103, Tab.49)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Aの埋土色は、Pl.103に見えるように、B埋土より土色が暗く見え、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には、「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり部分で底部が一旦若干くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から23°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は1cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.75mに揃っている。

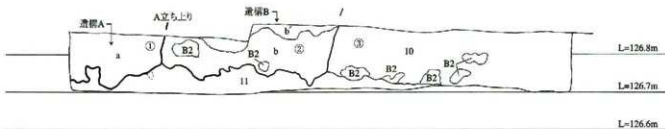


Fig.62 遺構A-⑦層位断面図 (S=1/10)



Pl.104 遺構A-⑦層位断面写真

遺構A先行トレンチ⑦断面 (Fig.62, Pl.104, Tab.50)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Aの埋土色は、Pl.104に見えるように、B埋土より土色の黒味が強くなり、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には「岩木火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は、他の断面と若干異なり立ち上がり直下の窪みはない。立ち上がり角度は鉛直から11°振れている。底部は第11層に接して凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.77mに達する。

断面名称	土層名称	色別位置	L	a	b
A-⑦断面	a	①	30.3	4.0	2.2
	b	②	31.1	3.5	3.1
	⑩	③	28.8	4.0	3.3

Tab.50 遺構A-⑦測色データ

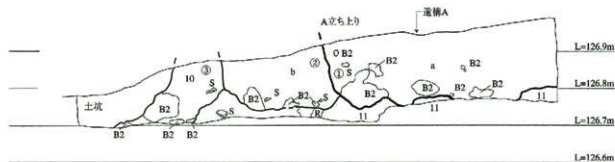


Fig.63 遺構A-⑧地層位面図(S=1/10)



Pl.105 遺構A-⑧層位断面写真

断面名称	土層名称	色相位置	L	a	b
A-⑧断面	a	①	30.1	2.2	1.6
	b	②	29.4	2.5	2.0
	10	③	32.7	2.1	1.8

Tab.51 遺構A-⑧測色データ

遺構A先行トレンチ⑧断面 (Fig.63, Pl.105, Tab.51)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。先行トレンチの断面においては、Pl.105に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見える。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態のものもある。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり部分で底部が一旦若干ほむ。立ち上がり角度は鉛直から50°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。

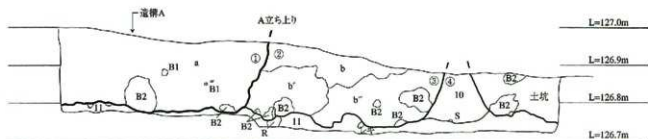


Fig.64 遺構A-⑨層位断面図(S=1/10)



Pl.106 遺構A-⑨層位断面写真

断面名称	土層名称	色別位置	L	a	b
A⑨断面	a	①	30.0	2.8	1.2
	b	②	30.6	2.9	2.1
	b''	③	31.1	2.4	1.4
	10	④	28.0	3.6	2.1

Tab.52 遺構A-⑨測色データ

遺構A先行トレンチ⑨断面 (Fig.64, Pl.106, Tab.52)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。先行トレンチの断面においては、Pl.106に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見え、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している、それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第1層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全体的にブロックは細かく砕けたような状態のものがある。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり部分で底部が一旦若干くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から27°振れている。底部は第1層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は1cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.79m～126.80mに揃っている。

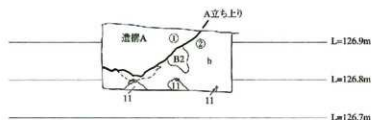


Fig.65 遺構A-①地層断面図(S=1/10)



Pl.107 遺構A-①層位断面写真

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
A-①断面	a	①	29.7	8.7	1.7
	b	②	26.4	2.9	2.6

Tab.53 遺構A-①測色データ

遺構A先行トレンチ①セクション (Fig.65, Pl.107, Tab.53)

平面的に検出された土色差がある範囲である遺構Aに設けた先行トレンチの南側断面である。Pl.107に見えるように、遺構Aの土色は肉眼視でもB埋土よりも明るく、また、土質も粘性が高かった。測色データもAとBの土色差を示し、Bの埋土がより暗いことを示す。

遺構Aの埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。底部は標高126.83mに達する。立ち上がり角度は鉛直から55°振れている。

遺構Aのまとめ

遺構境界面の有無

肉眼観察によってAの埋土とBの埋土の平面と断面における遺構境界面が確認できた。肉眼観察での土色差の認識については、各先行トレンチ及び中央ベルトにおいて測色計を用い肉眼観察の結果を佐证した。

自然堆積層と異なる埋土状況

第9層中の岩布火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に、層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層とは異なる状況と言える。

平面プランにおける規格性の有無

遺構Aはコーナーを4ヶ所持つ方形プランを呈する。コーナーの角度計測値は、113°、103°となり、概ね100°に近似した角度であり、規格性があると考えられる。

落ち込みの層属層位

各先行トレンチ及びベルトで検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に第9層で特徴的な岩布火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

立ち上がり形状における規格性の有無

立ち上がり角度は23°・21°・39°・39°・23°・23°・11°・50°・27°・55°と概ね相互に近似した値を示すものが9ヶ所ある。また、立ち上がり直下の形状を確認した10ヶ所のうち7ヶ所について直下にくぼみがあり、形状には規格性があると判断できる。

掘削痕の有無

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められた。ただし、断面形状が尖底状になる凹凸は、①②④⑤断面で認められた。

ピットが共存するか

ピットと堅穴の平面ラインとの位置関係から、遺構Aと関連すると考えられるピットは、7号ピットの1基のみである。ピットの検出は、遺構Bの埋土除去後第11層上面で行なわれた。これはピットの埋土と遺構Bの埋土との土色差が微妙であったためと考えられる。中央ベルトの西側については、遺構Bの埋土を除去していないため、他にも検出される可能性も考えられる。

平坦に近い底面であるか

遺構Aの底面は概ね126.80m±3cmの範囲に収まっており、概ね平坦であると考えられる。

以上のことから、遺構Aと仮称して調査を実施した土色差のある範囲に関しては、平面と断面の形状において規格性を持ち、底部の形状は若干の凹凸を持ちつつ、平坦に近い形状を呈し、規格性があると考えられる。これらのことから、人為的に掘削された遺構とするのに矛盾はないと考えられる。

また、埋土色は第9層よりは暗く、第10層により近くなるが、第9層の構成物である岩布火山灰中の白色粒や薄い色のブロックであるB1が混入するなど、第10層と異なる特徴が見てとれる。さらに、遺構Bの頂でも触れるが、全般的に第10層よりも埋土色が暗い特徴が見られる。同時に、第10層の下位に堆積している第10層b中に包含されるブロック「B2」が上位に上がるなど、自然堆積層とするには不自然な点が多い。このことは、Aの埋土が周囲の第10層とは異なる堆積環境で形成された可能性が考えられる。

なお、遺構Aについては、上部構造が構築されたことを示すピットが共存する可能性が考えられること、底面が平坦である点から考慮すると、「水迫遺跡Ⅰ」「水迫遺跡Ⅱ」で示した、堅穴建物跡の要件に近いものであると言える。ここでは、ピットの全てが検出されていないために、形状的に第Ⅰ調査区・西側拡張区で検出された堅穴建物跡と類似した遺構との記述に止めたい。

Pit No.	関連する遺構	堅穴からの距離 (cm)
1	遺構C	5
2	遺構C	-10
3	遺構C	0
4	遺構D	5
5	遺構B	13
6	遺構B	14
7	遺構A	18
8	遺構B	18
9	遺構B	22
10	遺構B	28

Tab.54 ピットと平面ラインとの距離

② 遺構B

遺構B平面 (Fig.66, Pl.95, Pl.96)

遺構Bは、11トレンチ東西ベルト北側の中央付近で検出された。当初、周囲の第10層と土色が異なる範囲として認識された。同時に、埋土は第10層よりも粘性が高い範囲であることが特徴であった。

遺構Bは略東西南北の4辺を有し、4コーナーを有する。東辺と西辺はほぼ直線的な形状であり、北辺はやや膨らみを持つ形状となる。北辺と西辺が作るコーナーの角度は113°であり、東辺と南辺が形成するコーナーが作り出す角度は108°と近似した角度となる。これらのことから、遺構Bの平面形は方形であると言える。遺構Bの法量は、長軸最大3.00m、短軸最大2.41mとなる。

中央ベルトの東側では、第10層上面付近で検出された平面ラインが、局所的な土色の変異ではないことを確認するために、埋土及びその外側の第10層を第11層上面付近まで掘り下げた。この結果、第10層上面付近で確認した平面ラインに対応する土色の異なる範囲が第11層の上面付近でも確認することができた。つまり、第10層上面で確認した土色差は、第10層中に連続して存在し、第11層上面まで達するという一定の深さを持っていたことが明らかとなった。

特に重要と考えられるのは、土色が異なって見える範囲がまず平面で確認され、同一位置で下位に掘り下げても、土色の違いが連続することである。このことは、土色が異なる範囲は、シミなどではなく、立体的な範囲であることを示している。また、土色が異なる範囲は、少なくとも第10層上面付近から、第11層上面付近までの範囲に広がっているということである。

通常の遺構検出は、平面形の確認と断面形の確認のみで行なわれるが、今回は平面と断面に加えて、下位の平面形状も確認し、肉眼で確認したものに有意性があるか否かを確認しようとした。同時に多数のベルトを残し、断面形はもろんのこと、第10層上位において検出された平面ラインをベルト上面に残そうとした。

さて、遺構Bについては、遺構の可能性が強いと考えられたため、遺構の要件を満たすか否かの確認を行なう目的から、7本の先行トレンチと5ヶ所のベルトで断面を確認し、記録作業を実施した。

次から、断面の詳細を記述する。

遺構B東西ベルト①断面 (Fig.67, Pl.108, Pl.109, Tab.55)

遺構Bの南側コーナーは東西ベルトの更に南側に位置すると考えられ、平面的に検出されたラインは東西ベルトに伸びる。東西ベルトではBの立ち上がりが2ヶ所検出されている。位置関係から東立ち上がりとし西立ち上がりと呼ぶ。Pl.108に見えるように、東立ち上がりは、第10層aと第10層bを切っている。特に、第10層bはより明瞭に断絶している。測色データでは、埋土bと第10層土とのb値における相違が出ている。東立ち上がり周辺のデジタル画像を画像解析すると、第10層bが断絶し埋土が入り込む様子が更に明らかに示せた (Pl.109)。

西立ち上がりは第10層を切っている。土色は埋土が明るい。Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが若干混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は概ね標高126.75m近くになるものと考えられる。立ち上がり角度は、左側で鉛直から40°、右側で30°振れている。

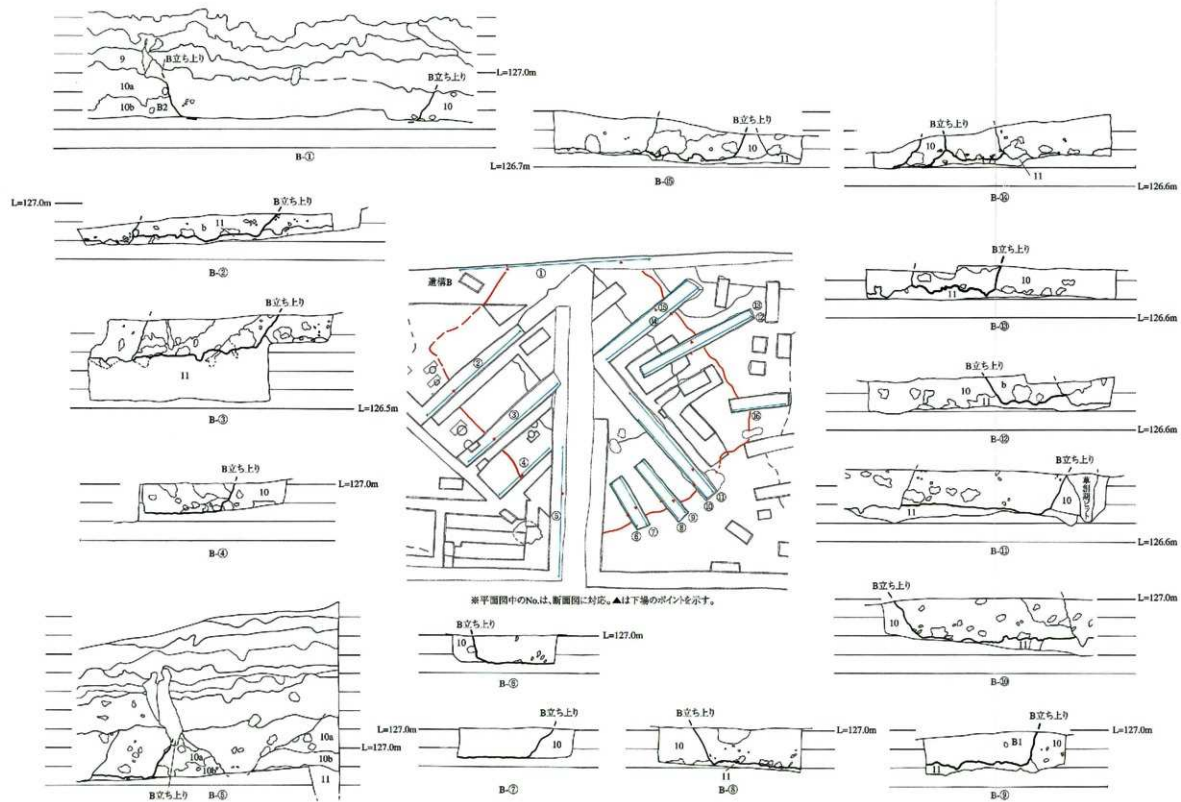


Fig.66 壑穴建物跡B全体図・インデックス (Section : S=1/20, 中央平面図 : S=1/40)

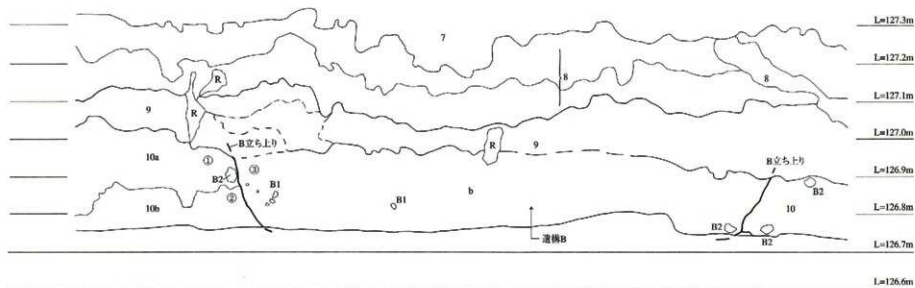


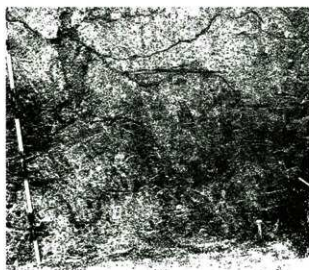
Fig.67 遺構B-①層位断面図(S=1/10)

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
B-①断面	10a	①	26.1	2.6	3.8
	10b	②	29.9	2.3	3.8
	b	③	28.6	2.8	4.6

Tab.55 遺構B-①測色データ



Pl.108 遺構B-①層位断面写真
(左は東立ち上り, 右は西立ち上り)



PL109 遺構B-①層位断面解析画像

左の写真はPL108に見える遺構Bの東立ち上り部分の解析画像である。画像解析はimage++2.60を用い、デジタルカメラで撮影した画像をトリミングし、カラー抽出を実施した。カラーモデルは「RGB」を選択、抽出したのはRed115-184, Green119-255, Blue0-255の範囲である。抽出結果はマスク画像（8ビット）で出力した。これを見ると、肉眼で認識した、第10層aと第10層bが断絶して落ち込みが明瞭に表れている。特に、第10層bの断絶は明瞭であり、自然堆積層と異なる土壌が画像右側にあることが示されている。



PL110 遺構B-②層位断面写真

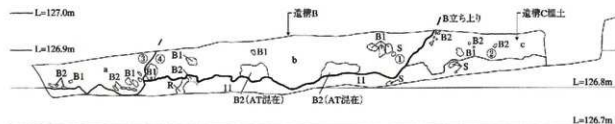


Fig.68 遺構B-②層位断面図(S=1/10)

遺構B先行トレンチ②断面 (Fig.68, PL110, Tab.56)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、PL110に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは遺構Cの埋土を切り入り込み、第11層にも達している。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にB1は細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から44°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.84mに揃っている。

断面名称	土層名称	色別位置	L	a	b
B-②断面	b	①	29.3	4.8	8.3
	c	②	28.5	5.1	9.1
	s	③	27.5	5.2	8.7
	b'	④	29.1	6.4	11.2

Tab.58 遺構B-④測色データ

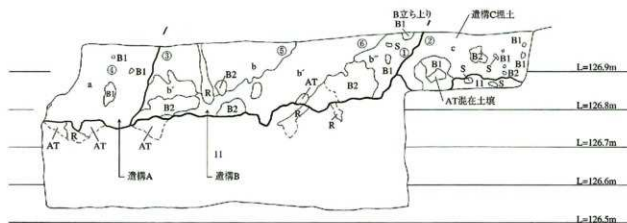


Fig.69 遺構B-③層位断面図 (S=1/10)



Pl.111
遺構B-③層位断面写真

遺構B 先行トレンチ③断面 (Fig.69, Pl.111, Tab.57)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、Pl.111に見えるように全体的に肉眼でも周辺よりも茶色が強く見える。この差は、測色データにも見える。

埋土bは遺構Cの埋土を切り入り込み、第11層にも達している。埋土は土色によって3層 (b・b'・b'') に分層した。埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。また、「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にB1の混入量は少ないが、混入したものは何れも長径5cmに満たない小形のものである。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

落ち込みの底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、概ね標高126.80mと126.78mほばに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から36°振れている。

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
B-③断面	b''	①	36.5	3.4	8.6
	c	②	33.7	3.9	8.4
	b	③	31.9	2.4	4.9
	a	④	31.0	1.7	3.7
	b	⑤	33.5	2.1	5.3
	b'	⑥	34.5	4.3	6.0

Tab.57 遺構B-③測色データ

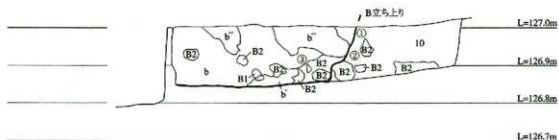


Fig.70 遺構B-④層位断面図 (S=1/10)



Pl.112
遺構B-④層位断面写真

遺構B先行トレンチ④断面 (Fig.70, Pl.112, Tab.58)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、Pl.112に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。埋土は土色によって3層 (b・b'・b'') に分層した。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。B1の混入量は少ない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、概ね標高126.85mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から22°振れている。

断面名称	土層名称	色別位置	L	a	b
B-④断面	10	①	31.6	3.5	7.4
	10	②	31.8	3.7	7.6
	b	③	32.8	3.7	7.4

Tab.58 遺構B-④測色データ

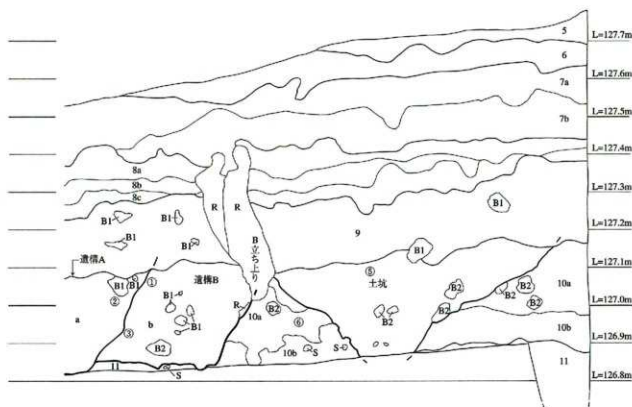


Fig.71 遺構B-⑤層位断面図 (S=1/10)



Pl.113 遺構B-⑤層位断面写真

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
B-⑤断面	b	①	29.8	2.3	3.5
	a	②	29.2	2.6	3.9
	b	③	31.4	2.8	4.6
	土坑埋土	④	31.4	2.9	3.9
	10a	⑤	32.4	3.4	4.7

Tab.59 遺構B-⑤測色データ

遺構B中央ベルト⑤断面 (Fig.71, Pl.113, Tab.59)

平面的に検出された土色差がある範囲の連続性を中央ベルトの東面で確認した。Bの埋土色は、Pl.113に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層 a と第10層 b を切り入り込み、第11層にも達している。特に、第11層の漸移層と考えられる第10層 b が、明確に切れる層位境界線が見られた。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが若干混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は数cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.85mに揃っている。

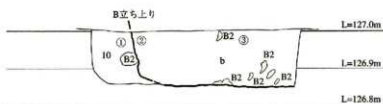


Fig.72 遺構B-⑥層位断面図 (S=1/10)



Pl.114 遺構B-⑥層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑥断面 (Fig.72, Pl.114, Tab.60)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの東側断面である。Bの埴土色は、Pl.114に見えるように、内眼でも第10層よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埴土Bは第10層を切り入り込んでいる。

Bの埴土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B2」と呼称した。また、埴土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接してやや凹凸を見せるが、概ね標高126.85mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から11°振れている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑥断面	10	①	32.7	3.2	3.6
	b	②	30.8	4.1	6.1
	b	③	31.8	3.6	4.2

Tab.60 遺構B-⑥測色データ

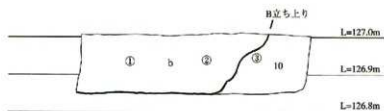


Fig.73 遺構B-⑦層位断面図(S=1/10)



PL.115
遺構B-⑦層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑦断面 (Fig.73, PL.115, Tab.61)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの西側断面である。Bの埋土色は、PL.115に見えるように、肉眼でも第10層よりも黄色味が弱く見える。この差は、測色データのb値の相違となっている。埋土Bは第10層Cに切り入り込んでいる。

埋土中には「岩ね火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は概ね標高126.85mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から35°振れている。

層位名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑦断面	b	①	28.7	4.2	5.5
	b	②	29.3	4.4	5.6
	10	③	29.5	5.0	7.1

Tab.61 遺構B-⑦測色データ

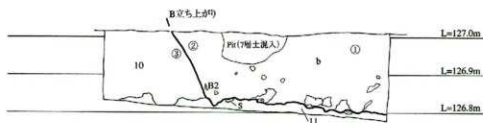


Fig.74 遺構B-⑧層位断面図 (S=1/10)



Pl.116
遺構B-⑧層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑧断面 (Fig.74, Pl.116, Tab.62)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの東側断面である。Bの埋土色は、Pl.116に見えるように、内眼でも第10層よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色の小ブロックが混入している。図面に「B2」と明記したものなどである。全般的にB2は細かく砕けたような状態で混入し、形状があまり明瞭ではない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から37°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せる。凹凸の頂部は概ね標高126.83mに揃い、落ち込み内側に向けて3cm程落ち込む。

遺構B埋土上面に、ピットが見られる。このピット内部にはサツマ火山灰が混入することから、第7層に爆属するピットであると考えられる。

断面名称	土層名称	測色位置	L	a	b
B-⑧断面	b	①	30.4	4.6	6.6
	b	②	31.1	3.1	7.5
	10	③	28.4	4.2	5.5

Tab.62 遺構B-⑧測色データ

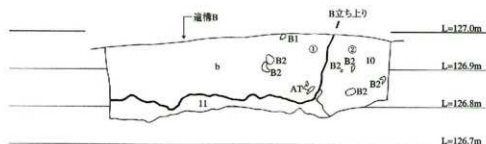


Fig.75 遺構B-⑨層位断面図 (S=1/10)



Pl.117
遺構B-⑨層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑨断面 (Fig.75, Pl.117, Tab.63)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの東側断面である。Bの埋土色は、Pl.117に見えるように、肉眼でも第10層よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色の小ブロックが混入している。図面に「B1」「B2」と明記したものである。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。また、「B2」は第11層の蛤良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。このような明るい色のブロックは埋土中には極めて少なく、第10層中により多く含まれている。

立ち上がり形状は底部において一旦ややくぼむ。立ち上がり角度は鉛直から15°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せる。凹凸の頂部は概ね標高126.83mに揃う。

断面名称	土層名称	色度位置	L	a	b
B-⑨断面	b	①	30.7	4.7	6.2
	10	②	29.5	5.0	7.1

Tab.63 遺構B-⑨測色データ

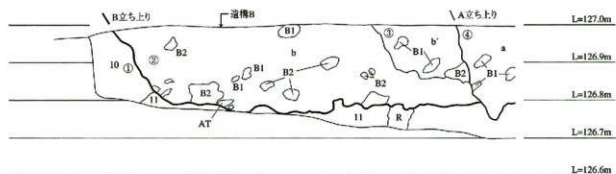


Fig.76 遺構B-⑩層位断面図(S=1/10)



Pl.118
遺構B-⑩層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑩断面 (Fig.76, Pl.118, Tab.64)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの両側断面である。Bの埋土色は、Pl.118に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデア噴出物層に土質が類似する。全般的にB1の混入量は少ない。また、第11層のブロックも混入している。これは土色からB2とは区別できる。埋土中には「岩火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から41°振れている。

断面名称	土層名称	色調記号	L	a	b
B-⑩断面	10	①	33.0	3.6	3.2
	b	②	32.2	3.8	3.9
	b'	③	28.3	2.2	3.4
	a	④	29.7	2.5	3.6

Tab.64 遺構B-⑩測色データ

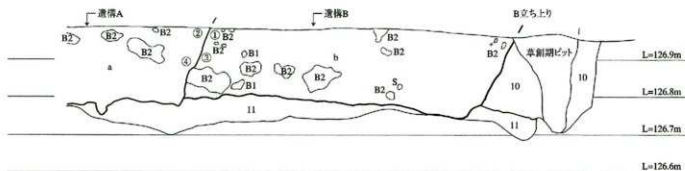


Fig.77 遺構B-①層位断面図 (S=1/10)



Pl.119
遺構B-①層位断面写真

遺構B先行トレンチ①断面 (Fig.77, Pl.119, Tab.65)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの西側断面である。Bの埋土色は、Pl.119に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。測色データでは、L値に若干の差があり、埋土bがより明るいことを示している。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。Bの立ち上がりの一部は、第7層を埋土とするピットの一部を切られている。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の給良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にB1は細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から34°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-①断面	b	①	30.7	2.5	3.5
	a	②	30.2	2.4	3.2
	b	③	31.1	3.3	4.0
	a	④	30.4	2.8	3.9

Tab.65 遺構B-①測色データ

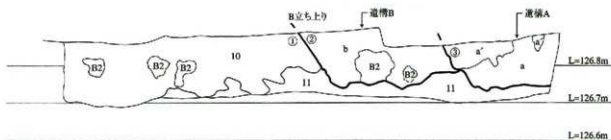


Fig.78 遺構B-⑫層位断面図(S=1/10)



Pl.120
遺構B-⑫層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑫断面 (Fig.78, Pl.120, Tab.66)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Bの埋土色は、Pl.120に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも切り込み入り込んでいる。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から40°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.75mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑫断面	10	①	29.6	4.3	4.4
		②	31.6	4.1	4.2
		③	30.6	4.5	4.9

Tab.66 遺構B-⑫測色データ

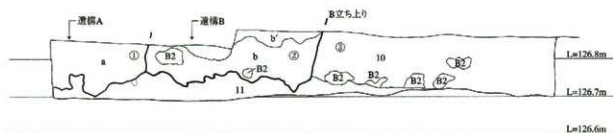


Fig.79 遺構B-③層位断面図 (S=1/10)



Pl.121 遺構B-③層位断面写真

遺構B先行トレンチ③断面 (Fig.79, Pl.121, Tab.67)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、Pl.121に見えるように、内眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも切り込み入り込んでいる。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が若干混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から13°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.75mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-③断面	a	①	30.3	4.0	2.2
	b	②	31.1	3.5	3.1
	10	③	28.8	4.0	3.3

Tab.67 遺構B-③測色データ

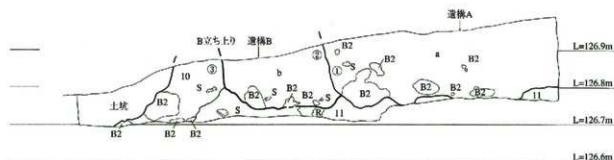


Fig.80 遺構B-④層位断面図 (S=1/10)



Pl.122 遺構B-④層位断面写真

断面名称	土層名称	色相位置	L	a	b
B-④断面	a	①	30.1	2.2	1.6
	b	②	29.4	2.5	2.0
	10	③	32.7	2.1	1.8

Tab.68 遺構B-④測色データ

遺構B先行トレンチ④断面 (Fig.80, Pl.122, Tab.68)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Bの埋土色は、Pl.122に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層に達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、概ね標高126.78m程度となる。立ち上がり角度は鉛直から36°振れている。

遺構B先行トレンチ⑤断面 (Fig.81, Pl.123, Tab.69)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Bの埋土色は、Pl.123に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が若干混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。埋土は、土色差から3層に細分した (b・b'・b'')。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.78m程度となる。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。



Fig.81 遺構B-⑤層位断面図(S=1/10)



Pl.123 遺構B-⑤層位断面写真



Pl.124 遺構B-⑤層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑤断面	a	①	30.0	2.8	1.8
	b	②	30.6	2.9	2.1
	b''	③	31.1	2.4	1.4
	10	④	28.0	3.6	2.1

Tab.69 遺構B-⑤測色データ

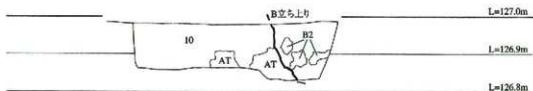


Fig.82 遺構B-⑤層位断面図(S=1/10)

遺構B先行トレンチ⑤断面 (Fig.82, Pl.124)

平面的に検出された土色差がある範囲の断面形状を確認するために設けた先行トレンチの北断面である。Bの埋土色は、Pl.124に見えるように、肉眼でも第10層よりもやや黒味が強く見える。埋土bは第10層と第11層を切り入り込んでいる。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

先行トレンチでは、第11層まで掘り抜いていないが、第11層上面にも落ち込みの平面ラインが確認されている。立ち上がり角度は鉛直から35°振れている。

遺構Bのまとめ

遺構境界面の有無

肉眼観察によって遺構Bの埋土と第10層との平面と断面における遺構境界面が確認できた。肉眼観察での土色差の認識については、各先行トレンチ及び中央ベルトにおいて測色計を用い肉眼観察の結果を追証した。また、画像解析によって肉眼観察の結果を追証した。

自然堆積層と異なる埋土状況

第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に、層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層と異なる状況と言える。

平面プランにおける規格性の有無

遺構Bはコーナーを4ヶ所持つ方形プランを呈する。コーナーの角度計測値は、113°、108°となり、概ね100°に近似した角度であることが判明し、規格性があると判断できる。

落ち込みの帰属層位

各先行トレンチ及びベルトで検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に第9層で特徴的な岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

立ち上がり形状における規格性の有無

立ち上がり角度は40°・30°・44°・36°・22°・24°・11°・35°・37°・15°・41°・34°・40°・13°・36°・24°と概ね全ての立ち上がりが40°以内となり、また、立ち上がり直下の形状を確認した15ヶ所のうち7ヶ所について直下にくぼみがあり、形状には規格性があると判断できる。

掘削痕の有無

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められた。ただし、断面形状が尖底状になる凹凸は、③⑧⑨⑫⑬断面で認められた。

ビットが共伴するか

ビットと堅穴の平面ラインとの位置関係から、遺構Bに関連すると考えられるビットは、5号ビット・6号ビット・8号ビット・9号ビット・10号ビットの5基である。Tab.54で堅穴の平面ラインからビットへの最短距離を示した。この結果、遺構Bに関連すると考えられるビットは、堅穴から概ね30cm以内に位置するものであることが判明した。

ビットの検出は、遺構Bの埋土除去後第11層上面で行なわれた。ビットの埋土と第10層との土色差が微妙であったためと考えられる。

平坦に近い底面であるか

遺構Bの底面は、第11層上面となっている。底面は若干の凹凸を見せるが、概ね126.80m±5cmの範囲に収まっている。中央ベルトにおける第9層と第8層の層理境界面やさらに上層の層理境界面を見ると、北から南に向けて15cm～20cmほど傾斜をもって堆積し、遺構B周辺の地形が南方向に傾斜していることがわかる。一方、遺構Bの底面は、自然地形と異なる形状を呈しており、平坦な形状であると言える。

以上のことから、遺構Bと仮称して調査を実施した土色差のある範囲に関しては、平面と断面の形状において規格性が認められ、底部も若干の凹凸を持ちつつ、平坦に近い形状を呈し、規格性があると考えられる。これらのことから、人為的に掘削された遺構とするのに矛盾はないと考えられる。

また、埋土色は第9層よりは暗く、第10層により近い土色ではあるが、第9層の構成物である岩本火山灰中の白色粒や薄い色のブロックであるB1が混入し、第10層の下位に堆積している第10層b中に包含されるブロック「B2」が上位に上がるなど自然堆積層と異なる特徴がある。さらに、全般的に第10層よりもさらに暗い土色であるとともに、第10層より粘性が高いという特徴があることから、遺構境界面を境に10層が断絶していると言える。土色が異なることや、土質が異なることは、Bの埋土が周囲の第10層とは異なる堆積環境で形成された可能性が考えられる。

なお、遺構Bについては、上部構造が構築されたことを示すビットが共伴する可能性が高いことと、底面が平坦である点から考慮すると、「水迫遺跡Ⅰ」「水迫遺跡Ⅱ」で示した、堅穴建物跡の要件に近いものであると言える。ここでは、ビットの全てが検出されていないために、堅穴建物跡の可能性が高い遺構と記述するに止めるが、形状的には第Ⅰ調査区・西側拡張区で検出された堅穴建物跡と酷似している。

③遺構C

遺構Cの検出は、第10層の下位から第11層上面付近を探索している段階で行なわれた。平面ラインは、第10層の下位の黄色味が強くなる部分において、暗い土色の範囲として認識したものである。断面形状を確認したところ第10層を切り立ち上がる状況が確認できた。検出状況では、遺構A・Bは第10層上面において土色差があることが把握されていたが、遺構Cの平面は第10層上面レベルでは十分把握されず、第10層下部、つまり黄色味の強い第14層への漸移層付近で把握された。この検出状況は、西側拡張区のベルトB南側においては、遺構の平面を第10層上面で把握したのと状況が類似している。以下遺構Cのまとめを述べた後に、平面・断面の詳細を述べる。

遺構C まとめ

遺構境界面の有無

肉眼観察によって遺構Cの平面と断面における遺構境界面が確認できた。肉眼観察での土色差の認識については、各先行トレンチにおいて割合計と画像解析とによって肉眼観察の結果を追証した。

自然堆積層と異なる埋土状況

第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に、層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層と異なった状況である。

平面プランにおける規格性の有無

直線的な2辺と、それらが直角に近い角度で交わるコーナーで形成される。コーナーの角度は115°と遺構A・Bに類似しているため、方形と考えられ、平面形状に規格性があると考えられる。

落ち込みの裾裾層位

埋土中に第9層で特徴的な岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層の可能性がある。

立ち上がり形状における規格性の有無

立ち上がり角度は39°・24°・39°と概ね近似した値を示すものがある。また、立ち上がり直下の形状を確認した4ヵ所のうち2ヶ所について直下にははみがあり、形状には規格性があると考えられる。

掘削痕の有無

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められたが、尖底断面のものは、③④断面でのみ認められた。

ビットが共存するか

Tab.54で堅穴の平面ラインからビットへの最短距離を示した。遺構C付近に見られるビットは、平面ライン上または平面ラインの内側に位置するものがあり、ビットと遺構Cとが切り合い関係にある可能性を示している。

平坦に近い底面であるか

底部は標高126.93m±3cmであり、平坦な形状を呈していると考えられる。遺構Cが検出された中央ベルト東側地点の第11層上面の形状は、東西3mの範囲で約15cm程度の傾斜を持って西へ傾いている。遺構C底部のレベルは、上述のように、東西方向の自然地形の傾斜と無関係な形状となっており、自然地形とは異なる。またこのことは、遺構Cが自然地形の傾斜に伴い第10層土が残ったものではないことも示している。

遺構Cと仮称して調査を実施した土色差のある範囲に関しては、平面と断面の形状において規格性が認められ、底部も若干の凹凸を持ちつつ、平坦に近い形状を呈し、規格性があると考えられる。これらのことから、人為的に掘削された遺構とするのに矛盾はないと考えられる。

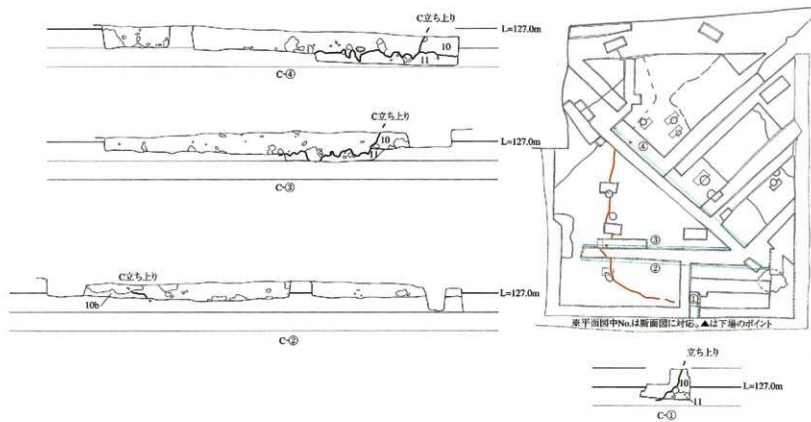
また、埋土には第9層よりは暗く、第10層より近い土色ではあるが、第9層の構成物である岩本火山灰中の白色粒や薄い色のブロックであるB1及び、第10層b中に包含されるブロック「B2」が混在するなど、自然堆積層と異なる特徴がある。さらに、埋土は全般的に第10層よりさらに暗い土色であるという特徴があることから、遺構境界面を境に10層が断絶していると言える。土色が異なることは、Bの埋土が周囲の第10層とは異なる堆積環境で形成された可能性を示すものとする。

遺構Cの用途に関しては、堅穴建物跡の要件である平坦な床面を持つことは満たしているが、上部構造を構築するためのビットが伴うとは断言できないため、堅穴建物跡に類似するものであると述べるに止めた。

遺構C平面 (Fig.83, P1.95)

平面形状は直線的な2辺（北辺と東辺）と、それらが直角に近い角度で交わるコーナーで形成される。コーナーの角度は115°と遺構A・Bに類似しているため、方形と考えられる。南側の辺は遺構Bとの切り合いによって失われたものと考えられる。また、西辺については十分確認できていないが、Cを斜めに横切る小ベルトの④断面に立ち上がりの可能性がある部分が見えており (Fig.87)、この部分が西辺であるとする、東西約1.4mとなる。また、南辺は遺構Bによって切られているため、最低でも南北1.8m以上と考えられる。法量では第I調査区検出の1号堅穴建物跡に近いと考えられる。

Fig.83 運糧C全体図・オンテラス(S=1/20, 平面図:S=1/40)



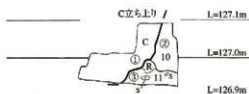


Fig.84 遺構C-①層位断面図 (S=1/10)



Pl.125 遺構C-①層位断面写真

遺構C先行トレンチ①断面 (Fig.84, Pl.125, Tab.70)

平面的に検出された土色差がある範囲が、11トレンチ北壁に入り込む手前で断面を捉えるために設けた先行トレンチの西側断面である。第10層と第11層の一部が途切れて埋土cが入りこんでいる状況が検出された。Cの埋土色は、Pl.125に見えるように、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが認識される。これは、測色データにもL値の違いとなって表れている。

立ち上がりの一部の検出であり、断面形状の全体的な特徴はつかめないが、立ち上がり角度は鉛直から39°振れている。また、立ち上がりの底部は標高126.93mに達している。

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
C-①断面	c	①	38.6	3.1	5.8
	10	②	40.1	4.5	7.9
	11	③	45.7	7.3	14.1

Tab.70 遺構C-①測色データ

遺構C先行トレンチ②断面 (Fig.85, Pl.126, Tab.71)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた小ベルトの北側断面である。南側断面(③断面)では明瞭に立ち上がりが確認されたため、北側断面でも確認を行なった。立ち上がりの上半には樹根があるため、全体形状は明瞭ではない。下半部では、第10層bが切れて埋土が入り込む状況が観察できた。第10層bと埋土の土色差は、測色データにも現れている。

Cの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的に「B1」は細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は概ね標高126.95mに達する。立ち上がりに段がある形状で③断面と類似している。

遺構C先行トレンチ③断面 (Fig.86, Pl.127・128, Tab.72)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた小ベルトの南側断面である。Cの埋土色はPl.127に見えるように、第10層よりも黒味が強い。これは、測色データにも現れている。Pl.127について画像解析を実施した。これを見ると埋土と第10層との境界線が表れている。画像解析はimage++2.60を用い、デジタルカメラで撮影した画像をトリミングし、カラー抽出を実施した。カラーモデルは「RGB」を選択、抽出したのはRed0-255, Green0-93, Blue0-106の範囲である。抽出結果はマスク画像(8ビット)で出力した。

Cの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.95mに揃っている。

遺構C先行トレンチ④断面 (Fig.87, Pl.129, Tab.73)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた小ベルトの南側断面である。Cの埋土色は、Pl.129に見えるように、第10層よりも黒味が強いことが確認できた。これは、測色データにも現れている。

Cの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。「B1」は含量が少ない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から39°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.90m程度である。

Fig.87左側には茶褐色のブロックが見える。このブロックは急に断絶しており、その形状も対面の立ち上がりに類似した形状である。このため、遺構Cの西側の立ち上がりになる可能性も考慮する必要がある。

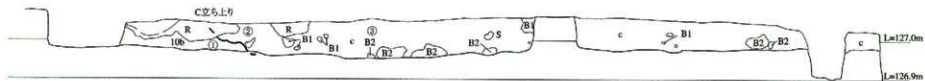


Fig.85 遺構C-②断面図 (S=1/10)

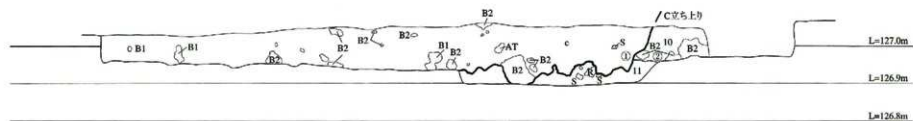


Fig.86 遺構C-③断面図 (S=1/10)

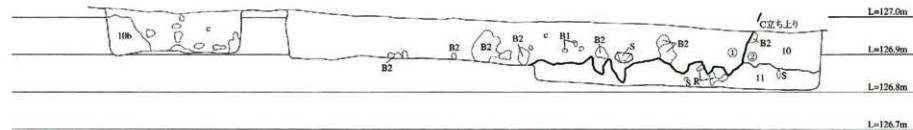


Fig.87 遺構C-④断面図 (S=1/10)



Pl.126 遺構C-②層位断面写真



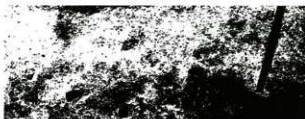
Pl.127 遺構C-③層位断面写真



Pl.129 遺構C-④層位断面写真

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
C-②断面	10s	①	36.4	4.8	10.2
		②	32.6	2.3	5.2
		③	34.2	2.8	6.3

Tab.71 遺構C-②測色データ



Pl.128 遺構C-③解析画像

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
C-③断面	c	①	30.7	4.0	6.9
		②	32.0	4.2	7.2

Tab.72 遺構C-③測色データ

断面名称	土層名称	色調位置	L	a	b
C-④断面	10	①	29.3	5.1	7.8
		②	31.6	4.6	7.0

Tab.73 遺構C-④測色データ

④ 遺構D

遺構D平面 (Fig.88, Pl.95)

11トレンチ南東隅において検出された、土色の異なる範囲の検出は、第10層上面で行なわれている。遺構Dは11トレンチ南東隅で検出された土色の異なる範囲の中で、更に土色が異なっていることから平面的に分離した2基（遺構Dと遺構E）の1つである。

平面形状は直線的に走る2辺（北辺と西辺）と、それらが直角に近い角度で接するコーナーで形成される形状と考えられる。コーナーの角度は105°と復元でき、遺構A・Bに類似しており、方形と考えられるが、検出された2辺ともに東西ベルトと東壁に入り込むため全体の形状は不明である。遺構Dには共存する可能性のあるピットは検出されていない。遺構Eとの切り合い関係があり、また土色差が微妙であるため、ピットが検出されていないことも考えられる。

遺構Dは平面、断面においてE埋土との遺構境界面が確認された。これは肉眼観察で行なったが、各先行トレンチにおいて測色計を用い肉眼観察の結果を追証した。また、第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混在していることが認められた。これらは、埋土中に層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層にない特徴を有する。

各断面で検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

確認した立ち上がり角度は、19°・22°と概ね近似した値を示すため、形状には規格性があると判断できる。

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められた。いずれも断面形状は尖底状であり、掘削痕跡の可能性も考えられる。

2ヶ所の断面で確認したところ、底面は126.80mに揃っているため、水平に近い底面であると考えられ、底面形状に規格性が認められる。

このように遺構Dについては、平面形状や断面形状からは形状に規格性があると考えられ、遺構の可能性が高いと考えられるが、用途に関しては堅穴建物跡に類似しているとの記述するに止めたい。

遺構D東西ベルト①断面 (Fig.88, Pl.130, Tab.74)

平面的に検出された土色差が東西ベルトに入り込んだ部分の北断面である。Dの埋土色は、Pl.130に見えるように、肉眼でも遺構Eの埋土よりも黒味が強く見える。この差は、測色データのL値にも見える。埋土dはE埋土を切り、第11層にも入り込んでいる。Dの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B1」が混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。立ち上がり角度は鉛直から19°振れている。底部は概ね標高126.80mに達する。

遺構D東壁②断面 (Fig.88, Pl.130-2, Tab.74)

平面的に検出された土色差が11トレンチ東壁に入り込んだ部分の東断面である。Dの埋土色は、肉眼でも遺構Eの埋土よりも黒味が強く、測色データのL値の差異となって表れている。埋土DはE埋土を切り、第11層にも入り込んでいる。Dの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。立ち上がり角度は鉛直から22°振れている。底部は概ね標高126.80mに達する。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
D-①断面	d	①	28.8	2.6	1.9
E-②断面	e	②	29.6	2.5	3.0
	e	③	30.6	2.9	3.6
	10	④	30.3	2.1	3.3
	11	⑤	39.4	7.1	13.4

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
D-②断面	e	①	30.3	2.3	3.5
	d	②	29.2	2.1	2.1

Tab.74 遺構D-①②・E-①測色データ

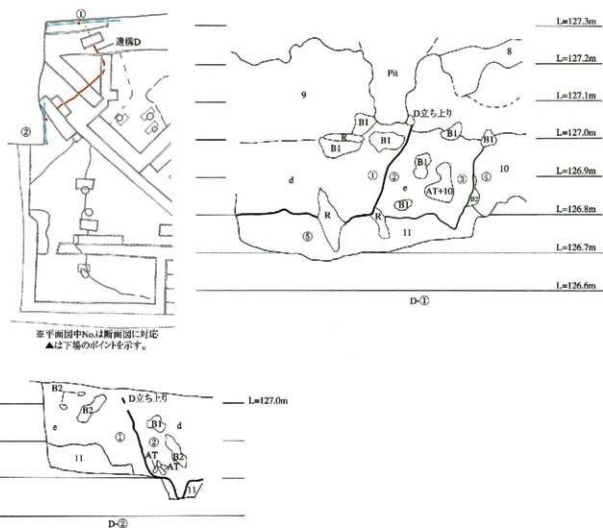


Fig.88 遺構D全体図・インデックス・各断面図 (Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)



Pl.130 遺構D-①層位断面写真



Pl.130-2 遺構D-②層位断面写真

⑤ 遺構E

遺構E平面 (Fig.89, Pl.95)

11トレンチ南東隅において検出された。この部分での土色の異なる範囲の検出は、第10層上面の検出時点で行なわれている。遺構Eは11トレンチ南東隅で検出された土色の異なる範囲の中で、更に土色が異なっていることから平面的に分離した2基（遺構Dと遺構E）の1つである。

平面形は直線的に走る2辺（北辺と西辺）と、それらが接するコーナーで形成される。コーナーの角度は125°であり、遺構Dと比較してやや開いたコーナーとなる。検出された2辺ともに東西ベルトと東壁に入り込むため全体の形状は不明である。

遺構Eの外辺には、遺構Eに共伴する可能性のあるピットが1基検出されている（4号ピット）。

遺構Eは平面、断面において遺構境界面が確認できる。これは肉眼観察で行なったが、各断面において測色計を用いた肉眼観察の結果を追証した。また、第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層にない特徴を有する。

各断面で検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

確認した立ち上がり角度は、40°・24°となる。

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められたが、断面形状は尖底状のものを含めて様々であり、掘削痕跡か否かは不明である。

2ヶ所の断面で底面のレベルを確認したところ、①断面では126.80m、②断面では126.90mにそれぞれ揃っている。Fig.88では、第11層上面が段落ちしている状況が見られる。このため、底面が全体的に水平な形状であるとは言えない。

以上のことから、遺構Eは第9層の構造物が混在した埋土を持ち、ピットを伴う落ち込みであるものの、遺構A～遺構Dとは同列に扱い難いことから、ここでは擬似遺構（下山2000）として取り扱っておく。

(文献)

下山 寛 2000 「西多摩ヶ道遺跡における伊弉の可能性があるものについて-臨跡擬似遺構の事例をととして-」『水道遺跡からのメッセージ-日本集落の源流をさぐる-』指宿市教育委員会

遺構E東西ベルト①断面 (Fig.89, Pl.131, Tab.74)

平面的に検出された土色差のある範囲が東西ベルトに入り込んだ部分の北断面である。Eの埋土色は、Pl.131に見えるように、肉眼でも第10層の埋土よりも暗く見える。この差は、測色データのb値にも見え、第10層の方が黄色味が強いことが分かる。埋土Dは第10層を切り入り込み、第11層にも切り込み入り込んでいる。



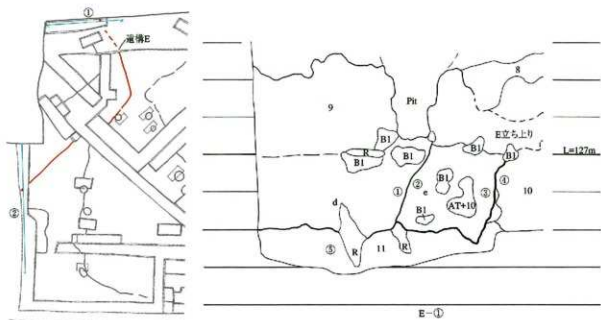
Pl.131 遺構E-①層位断面写真



Pl.132 遺構E-②層位断面写真

断面名称	土層名称	色別位置	L	a	b
B-②南面	土坑埋土	①	30.1	2.3	2.9
		②	29.9	2.7	3.3
		③	28.6	3.0	3.6

Tab.75 遺構E-②測色データ



※平面図中No.は断面図e対応。
▲は下地のポイントを示す。

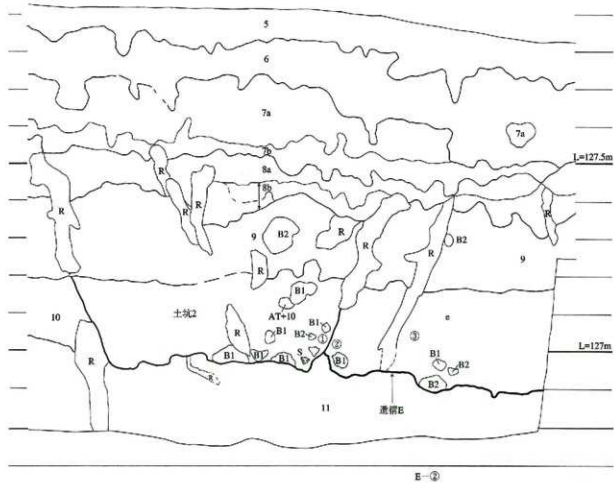


Fig.89 遺構E全体図・インデックス・各断面図 (Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)

Eの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B1」が混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。また、埋土中には第11層と第10層が混入したブロックも見られる。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。底部は標高126.80mに達する。

遺構E東壁②断面 (Fig.89, Pl.132, Tab.75)

平面的に検出された土色差のある範囲が11トレンチ東壁に入り込んだ部分の東断面である。土色の異なる範囲の平面ラインから、東壁における立ち上りを探索したところ、土坑2と切り合い関係にあった。この部分でのEの立ち上がりは、底部の一部を残して全体的に残っていない。埋土色は、肉眼でも土坑2の埋土よりも黒味が強く見える。この差は、色差データのL値にも見える。

Dの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B1」「B2」が混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。立ち上がり角度は鉛直から40°振れている。底部は概ね標高126.90mに達する。

(文責 中摩)

⑥ピット (Fig.90)

11トレンチの北側半分(平成13年度調査区)においては、第10層上面の精査時点でピットの可能性がある土色の異なる範囲がいくつか検出されていた。同時に第10層上面付近で検出された遺構が「下位層に落ち込んだものかどうかを確認するため、中央ベルト東側を全体的に第11層上面付近まで掘削した。この時点で、第11層上面あるいは遺構範囲内においてピットを10基検出した。

ピットの認定は、「水迫遺跡II」で提示したが、「断面形状が不整形であるもの、断面形状が曲がるものと樹根形状に又分かれるもの、形状にかかわらず埋土が崩れやすいもの」についてはピットから除外することとした。遺構Cの北辺には断面が曲がり、埋土が崩れやすいものが2基検出されたため樹根と判断し除外している。

検出されたピットの平面形状は、円形もしくは楕円形を呈するが、10号ピットのみが不整形を呈している。ピットの断面形状は、尖底のもの・尖底だが底部形状がやや丸みを呈しているもの、逆台形のものがある。尖底のものには、1号ピット、2号ピット、7号ピット、8号ピットがある。また、尖底であるものの底部形状が丸みを呈しているものは、3号ピット、4号ピット、6号ピット、9号ピットがある。また、逆台形のものには5号である。最も深いものは、2号ピットで検出面から15.7cmを測るが、本来はさらに深かったものと考えられる。

ピットの埋土は、堅穴建物跡と考えられる遺構と同様に、第9層あるいは第10層に類似した土壌が混入している。

ピットは、遺構の平面ラインとの位置関係から、概ね以下のように5ヶ所に偏在しているように看取できる。

- ・遺構Cの東辺ラインに一部重なりながら並行しており、1号、2号、3号が該当する。
- ・遺構Bの北東辺ラインに隣接しており、遺構Cの埋土中に位置している。5号、6号、8号が該当する。
- ・遺構Bの南東辺ラインに隣接するもので、9号、10号が該当する。
- ・遺構Aの北東辺ラインに隣接するもので、遺構Bの埋土中に位置している。7号が該当する。
- ・遺構Dの北西辺ラインに隣接するもので、4号が該当する。

遺構の平面ラインとピットとの関連については、中央ベルト東側で広く第11層上面を露出させたにもかかわらず、検出されたピットは遺構のライン周辺に偏在している状況がある。このことから、遺構とピットは高い相関関係にあると考えられる。11トレンチのピットの検出は、中央ベルト東のみで行なわれている。中央ベルト東側の第10層を大部分除去したため、第11層上面での検出が容易になったためであろう。中央ベルト西側でも第11層上面まで掘削した場合ピットが検出される可能性が考えられる。

※図中では、○号ピットは「Pit○」と表記している。写真では、○号ピットで表記している。

(文責 中摩)

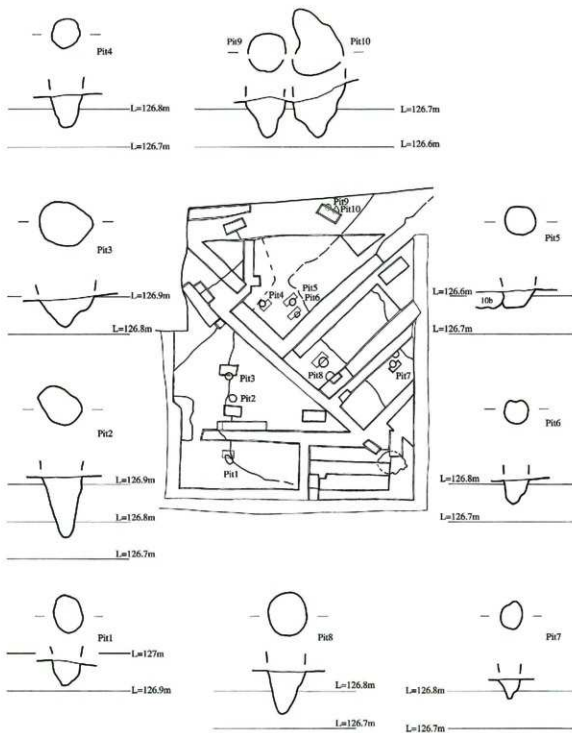


Fig.90 11トレンチピット平面・断面図(S=1/10)



Pl.133 1号ビット断面写真



Pl.134 2号ビット断面写真



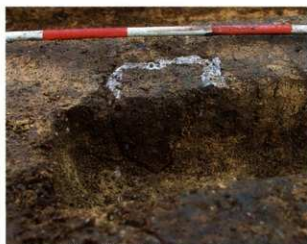
Pl.135 3号ビット断面写真



Pl.136 4号ビット断面写真



Pl.137 5号ビット断面写真



Pl.138 6号ビット断面写真



Pl.139 7号ピット断面写真



Pl.140 8号ピット断面写真



Pl.141 9号ピット断面写真

ピットNo.	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)
1	10.0	7.4	6.8±e
2	11.6	8.6	15.7±e
3	14.2	11.2	7.2±e
4	7.7	7.2	8.6±e
5	8.0	7.4	4.6±e
6	6.3	3.7	6.2±e
7	7.0	3.6	5.2±e
8	11.3	10.1	11.0±e
9	10.0	10.0	10.5±e
10	17.9	13.7	9.5±e

Tab.76 ピット法量表

②土坑

(i) 土坑① (Fig.91, Pl.142, Pl.143)

土坑①は、トレンチ北側の中央ベルト東壁付近の第10層中で検出し、4分の1つ2ヶ所を11層上面まで掘り下げたところ、第11層上面においても平面ラインが検出された。平面は楕円形を呈し、長径31c m、短径24c m、検出面からの深さは最大15c mを測る。埋土は、周辺の第10層土に比べて黒味が強く、B2のブロックが含まれている。遺構Aと重なるものと推定されるが、遺構Aとの関連は不明である。

(文責 渡部)

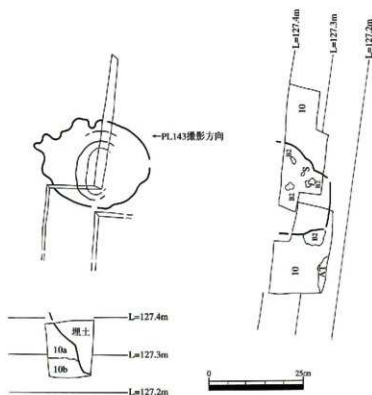


Fig.91 土坑①平面・断面図(S=1/10)

(ii) 土坑② (Fig.92, Pl.144)

土坑②は、トレンチ北側の東壁付近の第11層上面でその一部を検出した。平面は、検出した範囲では隅丸方形を呈す。東側の土層断面を精査したところ、平面に対応する位置に立ち上がりの可能性のある土色差を認識した (Fig.92)。

断面形状は逆台形を呈し、底面は第11層上面に達している。土坑の底面は概ね平坦である。

遺構Eと切り合い関係にあり、土坑②の南側立ち上がりは遺構Eの立ち上がりを切っている。また、土坑②の北側立ち上がりでは、埋土と第10層との土色差は確認できたが、立ち上がり上部が樹根跡と重なっていることから第9層からの掘削かどうかは判断できない。ただ、遺構Eとの切り合い関係からは遺構E埋没後に掘削されたものと考えられる。埋土中には11層 (A T) のブロックと B 1, B 2 のブロックが含まれる。

(文責 渡部)

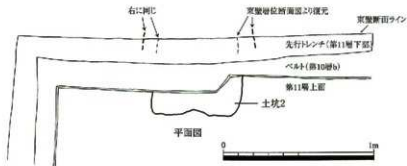
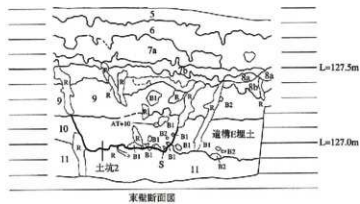


Fig.92 土坑②平面・断面図 (S=1/25)



Pl.142 土坑①平面写真



Pl.143 土坑①断面写真(東側より)



Pl.144 土坑②平面写真(東壁断面)

土坑No.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	51.0	22.0	14.0 _{±0.5}
2	70.0	50.0 _{±0.5}	27.0

Tab.77 土坑①・②法量表

(6) 後期旧石器時代の遺物

①第9層出土遺物

(i) 分布状況 (Fig.93)

11トレンチにおける第9層出土遺物の平面・垂直分布状況は次のとおりである。

平面分布状況は、平成13・14年度調査の調査区北半分のほぼ全体と、平成14年度調査の調査区南半分の北側に散在している状態である。調査区南半分の南側に遺物分布が少ない理由のひとつとしては、第4層の幸屋火砕流による横転の影響のためである。横転範囲内でも第9層中に含まれているものは、横転遺物として取上げている。剥片や二次加工剥片、切断剥片は、調査区北半分に散在して分布している。細石刃核ブランクのNo32 (取上げ番号76) は、調査区北半分付近で出土しており、その周辺で同質の細石刃・細石刃核が出土していないことから、将来的に細石刃製作の場として用いた可能性もあったであろう。

第I調査区や西側拡張区の第9層の石器群の平面分布と比較すると少ないが、「場」の機能を考えていく上で遺物の分布状況の差異は、遺物群との関連を考える際に重要な資料を提供するものと考えられる。

礫・分割礫・礫片は、調査区南半分に比較的まとまって分布しているように看取できる。

北西-東南方向の垂直分布図 (Fig.93の右端の垂直分布図) によると、11トレンチの第9層出土遺物は、北西方向から東南方向へのゆるやかな傾斜をもって堆積していることが看取できる。北東-南西方向の垂直分布図によると、若干、右側から左側へ傾斜して分布していることが看取できる。この両垂直分布図は、11トレンチでの各地層断面で確認できた第9層の堆積状況とはほぼ同じである。

(ii) 石器組成 (Tab.78)

11トレンチの第9層から出土した遺物は、129点である。石器組成は、次のとおりである。

使用痕のある剥片1点、二次加工のある剥片2点、分割剥片1点、切断剥片2点、細石核ブランク1点、剥片21点、砕片6点などである。また、礫24点、礫片66点、分割礫2点も確認できる。

これまでの水迫遺跡の発掘調査によって、第9層に含まれている石器群の組成は下記のとおりである。第9層に含まれている石器群には、大きく2つの様相が認められている。ひとつは、細石刃文化期に帰属するもので、細石刃、細石刃核と細石刃剥離作業に伴う打面再生剥片や作業面のある剥片の出土である。ふたつめは、ナイフ形文化に帰属するもので、小形ナイフ形石器と台形石器の出土である。含まれている主要な石器の素材や形態から、第9層は、ナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期にかけての遺物包含層であると判断できる。

11トレンチの第9層からは、上記した主要な石器は出土していないものの、細石刃核ブランクが出土していることから、基本的な帰属時期は同じものと判断できる。

(iii) 石材組成 (Tab.78)

11トレンチから出土した遺物の石材組成は、次のとおりである。

129点の内、石器組成的に礫、礫片等が第9層出土遺物総点数の約71%を占める関係上、礫や礫片などの素材となっている砂岩が38点と最も多い。次いで、頁岩30点、安山岩28点、黒曜石11点である。点数的には少ないが、粘板岩、凝灰岩、軽石も石材組成中に認められる。



Pl.145 11トレンチ第9層出土状況写真①



Pl.146 11トレンチ第9層出土状況写真②

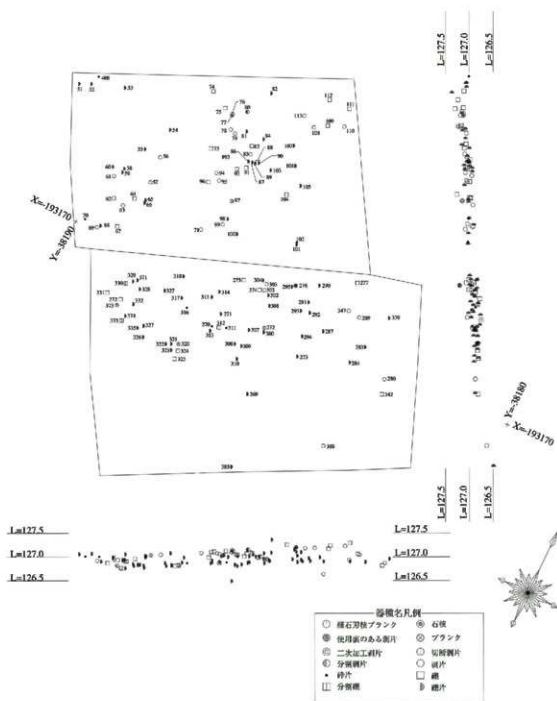


Fig.93 11トレンチ第9層石出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)

(iv) 石器

二次加工のある剥片 (Fig. 94)

No27は、砂岩製の剥片を素材とした二次加工のある剥片である。二次加工のある部位は、a面左側縁と下端部・右側縁下半分である。二次加工は、大まかな剥離によって施されている。素材剥片は不定形剥片であり、その打面は欠損、あるいは意図的な切断によって除去されているものと考えられる。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核や、剥片剥離技術が想定できる。a面に残されている剥離痕の剥離方向は、素材剥片の剥離方向とは別で左右約90度ずれていることが認められる。このことから、素材剥片を剥離したと考えられる石核は、複数の打面を保持していたと想定できる。

また、このような石核を用いて、打面を頻繁に転移しながら、求心状に剥片を剥離している剥離技術が想定できる。素材剥片を剥離した際の打面調整や頭部調整については、打面が欠落しているため不明である。

No29は、黒曜石の剥片を素材とした二次加工のある剥片である。二次加工のある部位は、a面右側縁とb面左側縁上部である。素材剥片の打面は、単剥離打面であり、剥離痕はb面側(石核の背面側)からの加撃によるものである。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面に認められる数枚の剥離痕の加撃方向は、e面の打面が位置する方向からの加撃のみである。これらのことから、素材剥片を剥離した石核は、少なくとも単一方向に打面を保持している石核と想定できる。また、このような石核を用いて、打面調整と頭部調整をしながら剥片を剥離する剥片剥離技術が想定できる。

b面に認められる素材剥片の主要剥離面は、ポジティブではなく、b面左側面からの加撃によるネガティブな面と、二次加工による剥離痕によって形成されている。推測の域は出ないが、b面の大部分を占めているネガティブな剥離面は、石核から素材剥片が剥離された際にポジティブな剥離面の剥落によるものか、あるいは、二次加工段階において、b面に残されている一枚の小剥離痕と同様に、二次加工による剥離面と考えることもできる。その場合、素材剥片の厚みを減らす目的があるものと想定できる。

なお、この石器の表裏面全体的に風化が認められ、稜線や縁辺も丸みを帯びており、鋭利性に乏しい。

使用痕のある剥片 (Fig. 94)

No28は、頁岩製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。使用痕のある部位は、a面下端部より認められる。

使用痕は、刃こぼれ状を呈している。使用痕のある部位のb面側には、幅広い剥離痕が認められ、推測の域を出ないが、使用による剥落と考えることができる。素材剥片の形状は、幅広い寸詰まりの剥片である。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。素材剥片の打面は、a面側からの加撃による複剥離打面である。a面の剥離痕の剥離方向は、素材剥片の剥離方向と比較すると左右約90度と180度ずれているものが認められる。特に、a面右側面にある剥離痕の一部は階段状剥離を呈している。また、その剥離した際に用いた打面が、a面右側縁の一部に残されている。その打面は単剥離打面である。

a面の剥離痕の切り合い関係から、素材剥片を剥離した石核は、複数の打面を保持している石核と想定できる。また、このような石核を用いて、打面を頻繁に約90度転移しながら剥片を剥離する剥離技術が看取できる。

また、a面左側面に、自然面が認められることから、石核の素材は自然礫を用いた可能性が考えられる。

剥片 (Fig. 94)

No30は、頁岩製の剥片で、形状は不定形を呈している。剥片の打面は認められない。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面上部には、三枚の剥離痕が認められ、b面の剥離方向と同じ加撃方向によって剥離されている。このことから、この剥片とa面に認められる剥離痕は、石核の同一打面を用いて剥離されたものと考えられる。また、a面下端部には自然面が残されており、その表面の形状は曲面を呈していることから、この剥片を剥離した石核の素材が、円礫を用いていると考えられる。

使用痕あるいは二次加工は認められない。

No31は、安山岩製の剥片で、形状は不定形を呈している。剥片の打面はa面側からの加撃によって作出された単剥離打面である。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面に認められる剥離面は、多方向からの加撃によって剥片が剥離された剥離痕である。このことから、この剥片は、複数の打面を有する石核から剥離されていることが考えられる。剥離角は約120度を測り鈍角である。

剥片の形状あるいは剥離面の状態から、なんらかの周辺加工石器を製作する段階で剥離された調整剥片の可能性が考えられる。

また、a面右下端部はb面側からの加撃によって剥落あるいは欠損している。



Pl.147 11トレンチ第9層出土石器①写真(表面)



Pl.148 11トレンチ第9層出土石器①写真(表面)

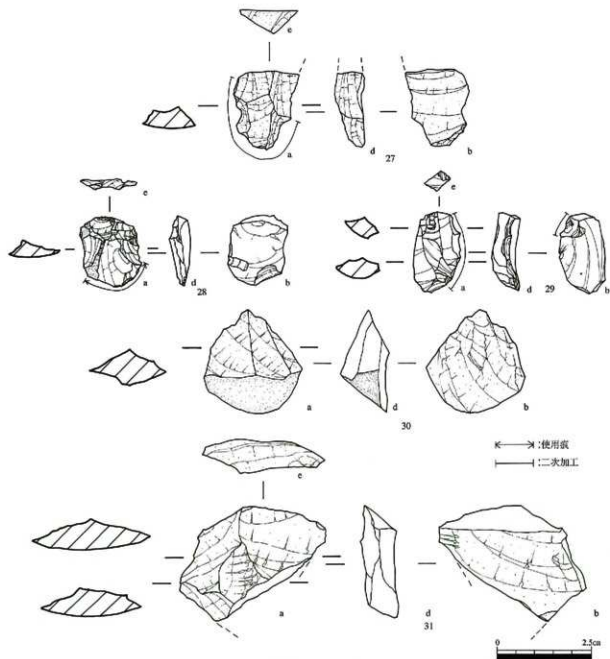


Fig.94 11トレンチ第9層出土石器実測図①(s=1/1)

細石刃核ブランク (Fig. 95)

No32は、黒曜石製の剥片を素材とした細石刃核ブランクである。細石刃核ブランクの両側面(c・d面)には、素材剥片の表面と裏面が残されている。各面の剥離面の剥離方向などから石核の素材獲得、剥片剥離技術について次のように看取できる。

(素材獲得)

細石刃核ブランクの素材は、少なくとも上下両端に打面が設定されている石核から剥離された剥片を素材としている。細石刃核ブランクの打面部を素材剥片の下端部に設定している。また、将来の細石刃剥離作業面を素材剥片の側面に設定している。

(細石刃核ブランク整形)

素材剥片の下端部に設定された細石刃核ブランクの将来の打面部は、将来の細石刃剥離作業面(a面)側からの加撃によって、素材剥片の下端部を切断することで作出されている。打面の切断・作出後、a面側からの加撃によって、さらに打面調整が行われていることが看取できる。

細石刃核ブランクの背面(b面)は、先に作出された打面からの加撃による数枚の剥離によって整形されている。

将来の細石刃剥離作業面を観察すると、打面側からの加撃によって2枚の剥離痕が認められる。これらの剥離痕は、将来の細石刃剥離作業面の調整・整形を目的としたものと想定できる。また、いずれの剥離痕も、細石刃を剥離した剥離痕とは判断できないことから、細石刃核ブランクと器種認定を行った。

調整・整形された将来の細石刃剥離作業面の長幅は、長さ1.5cm、幅0.9cmを測る。このことから、この細石刃核ブランクから剥離されるであろう細石刃も、これらの大きさを超えるものでない。よって、仮に、細石刃が剥離した時点では、比較的小形な細石刃が剥離されたと推定できる。

なお、細石刃核ブランクの表面の風化状態から、素材として用いられている黒曜石は、上午鼻産のものと考えられる。

石核 (Fig. 95)

No33は、黒曜石を素材とした石核である。各面に残されている剥離面などから、石核の素材獲得、剥片剥離技術について次のように看取できる。

(素材獲得)

石核の打面(e面)と背面(b面)側に、黒曜石の自然面が認められる。その自然面の形状などから、この石核は、角礫の分割面を素材としていることが考えられる。自然面は、ほぼ90度に近い角を有しており、その角は、将来の石核の打面と背面の境界部分となっている。

(石核整形)

分割面の分割面を将来の剥片剥離作業面に設定している。石核素材に残されている自然面は、打面部と背面に位置している。石核の調整痕は、整形後の剥片剥離作業が進んでいるため、石核の下端部(f面)と右側面(d面)にわずかに残存している程度である。その剥離痕から鑑みると、自然面である背面側からの加撃によって、石核の右側の縁辺を整形していることが窺える。また、準備された剥片剥離作業面長は、約1.9cmであり、作業面長としては比較的短いものが、確保できたと考えられる。

打面調整は、将来の剥片剥離作業面側からの加撃によって、数枚認められる。

(剥片剥離)

自然面打面と剥片剥離作業面側からの加撃による複剥離打面を用い、剥片剥離作業面(a面・c面・d面)から剥片を剥離している。剥片剥離作業面に残されている剥離痕を観察すると、長さ約1.5cmの寸詰まりの剥片が剥離されていることが看取できる。

剥片剥離作業に伴う打面・頸部調整は、認められる部分と認められない部分があり、状況に合わせて、打面・頸部調整を行っていたと考えられる。

d面の下端部に認められる小剥離痕は、石核から剥片を剥離する際に石核を固定した痕跡と考えられる。

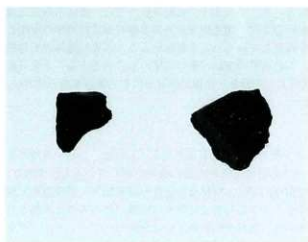
(v) 第9層の石器群について

これまでの水迫遺跡の第1調査区・西側拡張区・11トレンチの発掘調査によって、第9層から出土した石器群の様相を垣間見ることができた。11トレンチの狭い範囲での確認調査では、時期を特定する定形石器は出土していない。よって、平成11年度から実施した水迫遺跡の確認調査・発掘調査の成果から、水迫遺跡の第9層から出土した石器類について概要をまとめる。

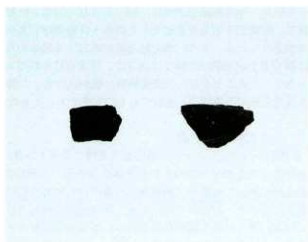
第1調査区・西側拡張区の発掘調査の成果によると、水迫遺跡の第9層からは、下記のような2つの石器群が検出されている。

・細石刃文化期

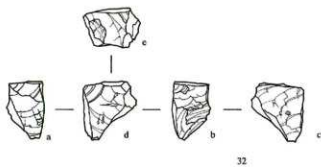
第9層から出土した細石刃文化期に帰属する遺物は、細石刃・細石刃核・打面再生剥片・作業面のある剥片である(Fig.102参照)。細石刃核は、黒曜石の小礫を素材とした野歯・休場型細石刃核が主体を占めている。これまでの数多くの遺跡の発掘調査成果と研究者の羅年試案などによって、南九州においては、九州の他地域と同様に、黒曜石を素材と



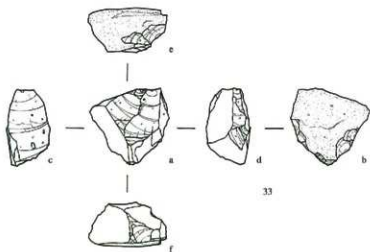
Pl.149 11トレンチ第9層出土石器②写真(作業面)



Pl.150 11トレンチ第9層出土石器②写真(打面)



32



33



Fig.95 11トレンチ第9層出土石器実測図②(S=1/1)

する野岳・休場型細石刃核は、細石刃文化の初期に位置づけられている。これまで、鹿児島県内では、鹿屋市西丸尾遺跡で、黒曜石と水晶を素材とした野岳・休場型細石刃核の出土が報告され、南九州を代表する細石刃文化初期の所産と評価されている。また、西丸尾遺跡が所在する地域の地元石材を利用していることを考慮すると、西丸尾遺跡の石器群は細石刃文化初期の段階ではあるが、地元石材を利用するなど、石材選択の規制が無い段階のものとも考えることも可能である。このことから、水迫遺跡第9層から出土した黒曜石を素材とした野岳・休場型細石刃核を主体とする石器群は、西丸尾遺跡の石器群より先行するものとも考えることも可能である。

・ナイフ形石器文化期

第9層から出土したナイフ形石器文化期に帰属する遺物は、ナイフ形石器・台形石器である。石材は、頁岩・黒曜石を素材としたもので小形のものが多い。九州におけるナイフ形石器文化終末期の様相を呈しているものであり、南九州においても概ね、同時期に位置づけられるものである。指宿市内では、同様な石器群が昭和54年に露重遺跡で検出されている。宮田栄二氏により、露重遺跡で検出された石器群をナイフ形石器文化終末に位置づけるものと評価されている。ナイフ形石器や台形石器は、不定形な剥片を素材としており、素材を切断あるいは分割し、ブランディングを比較的大まかに施すのみである。特に、台形石器は、いわゆる幾何学形を呈しており、九州におけるナイフ形石器文化終末の様相のひとつである、小形化・幾何学化の要素が看取できる。

ナイフ形石器文化終末期の研究について若干、振り返ってみる。

九州におけるナイフ形石器文化の終末期の様相については、数多くの研究者によって、様々な視点で検討されてきている。中でも、「小形化」・「幾何学化」・「細石器化」などの視点から、当該時期の特徴を抽出し、編年案が提示されている。これまでの九州のナイフ形石器文化研究によって、各研究者が提示している九州におけるナイフ形石器文化終末期の様相は、大きく2つに分けることができよう。

a. これまでの調査でナイフ形石器と細石刃・細石刃核の共存事例は無く、小形のナイフ形石器が主体を占める石器群を代表とする様相。

b. 共存事例を積極的に評価し、ナイフ形石器と細石刃文化の過渡期を一時期設定したことによる、ナイフ形石器と細石刃・細石刃核が共存する石器群を代表とする様相。

a・bの石器群の様相を踏る上で提示される石器群としては、大分県前田Ⅲ遺跡第Ⅹ層石器群・ⅩⅡ層石器群、岩戸遺跡第6層上部石器群、長崎県壱牟田遺跡第Ⅳ文化層石器群、鹿児島県露重遺跡、床並B遺跡などが挙げられている。これらの地域の石器群の中で確認されるナイフ形石器文化終末期のナイフ形石器は、素材剥片の形状やブランディングのあり方が異なっていると考えられる。

大分県や長崎県などの北九州や東九州地域でのナイフ形石器文化終末期のナイフ形石器は、末細りの縦長剥片を素材とした基部加工や部分加工を施したものである。鹿児島県などの南九州でのナイフ形石器は、不定形な剥片を素材とした基部加工、部分加工、二側辺加工を施したものである。このことは、ナイフ形石器文化終末期の地域性とも言える。

南九州におけるナイフ形石器文化期の終末の様相や、細石刃文化初期への変遷についての編年案については、宮田栄二をはじめ、木崎康弘、桑波田武志、鎌田などの各諸氏が提示している。

これらの研究成果やナイフ形石器文化終末期と評価されている各遺跡の石器群の様相と比較すると、先述したとおり、第9層から出土したナイフ形石器は、ナイフ形石器文化終末期の所産のものであると言える。このことから、水迫遺跡第9層石器群は、ナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期への文化的変遷を研究する上で貴重な資料になると考えられる。(文責 鎌田)

	使用面のある剥片	二次加工剥片	分断剥片	短形剥片	細石刃核ブランク	石核	ブランク	残片	終片	他	残片	分断片	欠片	合計
黒曜石	1	1			1	1	1	6	1		1			11
頁岩	1			1				12		1	14	1		30
雲母岩								3		11	14			28
砂岩	1			1				4	1	5	20			26
粘板岩								1	1	1	2			5
凝灰岩											3			3
燧石										1				1
不明										4	7		2	13
合計	1	2	1	2	1	1	1	20	6	24	65	2	2	129

Tab.78 11トレンチ第9層出土石器組成表

No.	収上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	期	備考
27	273	二次加工のあみ網片	砂岩	最大径：205 最大幅：17 最大厚：0.8	230	-	▲打面調整・ 下縁部・ 右縁部が平分	-	9	
28	276	後製成のあみ網片	頁岩	最大径：19 最大幅：14 最大厚：0.55	130	無調整	-	左こじり	9	
29	37	二次加工のあみ網片	燧石	最大径：21 最大幅：12 最大厚：0.75	150	無調整	▲左右縁部・ 幅取直調整	-	9	
30	250	網片	頁岩	最大径：28 最大幅：24 最大厚：1.5	3	-	-	-	9	
31	36	網片	安山岩	最大径：21 最大幅：18 最大厚：0.95	9	準調整	-	-	9	
32	76	燧石厚板アワシ	燧石	最大径：1.05 最大幅：1.4 最大厚：1.0	227	無調整	-	-	9	
33	77	石核	燧石	最大径：20 最大幅：21 最大厚：12	422	自然面・無調整	調整	-	9	

Tab.79 11トレンチ第9層出土石器観察表

②遺構埋土層出土遺物

(i) 分布状況

11トレンチの北側半分では、第10層bまたは第11層上面で後期旧石器時代に帰属すると考えられる遺構が検出されている。遺構を検出後に、その遺構埋土中から出土した遺物については「遺構埋土」内として取り上げた。また、南半分では同様な遺構を検出したが、期間的な制約もあり遺構確定作業まで至らなかった。しかしながら、上記と同じ状況で遺物が出土したため、「遺構埋土」内での出土遺物として取り上げた。

(ii) 石器

使用痕のある剥片 (Fig. 97)

No34は、頁製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。使用痕のある部位は、a面下端部 (f面) とb面右側縁に認められる。いずれの使用痕も刃はれ状を呈している。

a面・b面の剥離痕の状況から、素材剥片の剥離された工程が次のように想定できる。

まず、使用痕のある剥片の素材剥片は、その形状とa面に認められる剥離痕の状況から、何らかの製品を製作する段階での調整剥片と推定できる。これまでに水迫遺跡での第9層ならびに遺構埋土 (第10層も含む) から出土した製品の中で、調整剥片と関連のある石器としては、ナイフ形石器や三稜尖頭器が想定できる。素材剥片が調整剥片であることから、素材剥片の打面は、石核から剥離された剥片の主要剥離面と考えられる。また、打面の幅は、素材剥片の最大幅とほぼ同じであり、b面右側面上部から下部に認められる。

素材剥片のa面には、この剥片が剥離される以前に剥離された調整痕と微細な剥離痕が認められる。想定するに、a面の大部分は、素材剥片が剥離された剥片の側面に残されていた調整痕で構成されているものと考えられる。

また、a面下端部 (f面右側部) には、自然面が認められる。このことから、製品の素材剥片を剥離した石核の剥片剥離作業面に自然面が残されていたと考えられることから、ある程度初期段階に剥離されたものと考えられる。

剥片 (Fig. 97)

No35は、黒曜石製の幅広い剥片である。打面は、遺物出土段階において欠損しているため、詳細は不明である。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。a面に認められる剥離痕はこの剥片が剥離された方向とはほぼ90度異なっていることから、打面を移動しながら剥片を剥離する剥離技術を用い、打面が複数面ある石核から剥離されたものと考えられる。

b面に認められる主要剥離面の形状は四面を呈している。推測の域を出ないが、アクシデントによって石核から剥落した可能性も棄却できない。

No37は、黒曜石製の剥片である。a面の大部分は、素材の黒曜石の自然面によって構成されている。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。

a面に残されている自然面は、ネガティブ面であり放射状裂痕が認められる。このことから、河川などに転落している黒曜石を素材としていると思われる。打面は、点状打面であるため、この剥片を剥離した石核の打面形状や剥離の状況については、全く不明である。

a面は、素材である黒曜石の自然面と、打面方向とは概ね130度や230度異なる方向からの加撃による剥離痕が2枚認められる。これらのことから、推測の域を出ないものの、石核の整形段階である打面作出段階か、あるいは、剥片剥離作業面の作出段階のものかもしれない。いずれにしろ、素材の石核から比較的早い段階で剥離された剥片と考えられる。

b面の観察では、打瘤が発達しており、d面でもその様相が看取できる。なお、b面下端部に認められる横位方向からの剥離痕は、打点が認められるが、意図された二次加工による剥離痕なのか、この剥片が剥離された際にアクシデントで剥落したものかについては不明である。

No38は、砂岩製の剥片である。a面で認められるように、両側縁はほぼ平行に伸びており、剥片の下端部ではノの字状に未端りになっている。また、下端部には自然面が認められる。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。

a面には、頭部調整と考えられる剥離痕以外に三枚の剥片を剥離したと考えられる剥離痕が認められる。三枚の剥離痕の加撃方向は、その剥離された軸は若干異なるものの、概ね打面がある方向からの加撃であることが窺える。また、剥片の打面 (e面) は、a面側からの加撃によって作出された単剥離打面であり、打面調整は認められない。

これらのことから、この剥片は、自然礫を素材とし、打面を一面のみに設定した石核から剥離されたものと考えられ



PL151 11トレンチ遺構埋土層出土状況写真

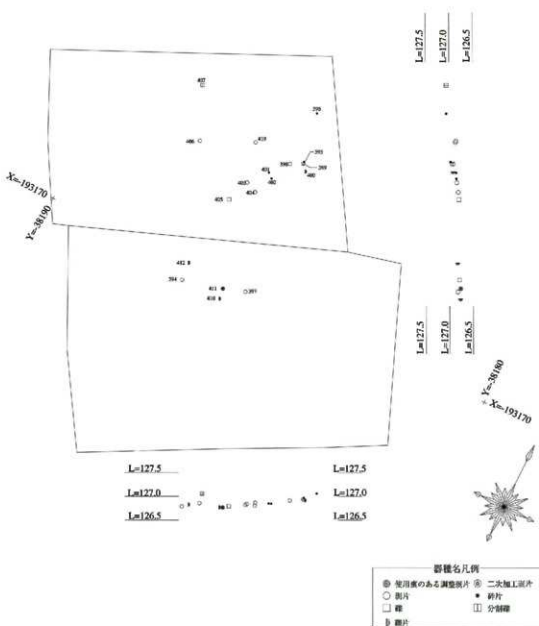


Fig.96 11トレンチ遺構埋土層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)

る。また、剥片を剥離する際には、頭部調整は施すものの、打面調整は施さない剥片剥離技術から剥離されたと考えられる。また、a面に残されている剥片の剥離痕から、概ね3.5から4cm以上の剥片を連続して剥離されていることが窺える。なお、b面の主要剥離痕の状態から、推測の域を出ないものの、b面右側面は、剥片が剥離した際に剥落したものと考えられる。

二次加工剥片 (Fig. 97)

No36は、黒曜石製の二次加工剥片である。平面形状は逆ノの字形を呈しており、断面形状は三角形を呈している。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。a面に認められる剥離痕は、b面の主要剥離面側からの加撃による二次加工段階の剥離面であり、素材剥片を剥離した段階の剥離痕は認められない。しかしながら、a面下端部に認められる幅の狭い剥離面は、主要剥離面の加撃方向とは約180度異なっている。このことから、少なくとも上下に打面を複数保有している石核から剥離されたものと考えられる。また、剥片剥離技術も、上下に打点を移動しながら片を剥離する技術が想定できる。また、剥片の打面部の観察では、単剥離打面で打面調整などは認められない。さらに、素材剥片の打面に認められる剥離痕の加撃方向は、a面左側面側からの加撃であることから、上記したような上下に打面を保持している以上に、打面を保有している石核から剥離されたと考えることもできる。

素材剥片の剥離後、主要剥離面側からの加撃によって、二次加工が施されている。d面では、大きな一枚の剥離痕が認められる。また、a面左側面では、少なくとも三枚の二次加工の剥離痕が認められる。二次加工によって、剥片自体の段面形状は三角形を呈することとなる。二次加工の最終的な目的については、二次加工段階が途中であることと、石器自体が未製品であることなどから、推測の域を出ないものの、西側拡張区の第10層から出土している三稜尖頭器の製作途中の未製品とも想定できる。

(文責 鎌田)

	化石痕のある調整剥片	二次加工剥片	剥片	鈔片	鏃	鏃片	合製鏃	合計
黒曜石			3	4				7
頁岩	1		3				2	6
燧石片					1		1	2
砂岩片		1						1
砂岩			1			1		2
合計	1	1	7	4	1	3	1	18

Tab.80 11トレンチ埋土層出土石器組成表

No.	取上げNo.	器種	石材	法量 (cm)	重量 (g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
34	411	調整痕のある調整剥片	頁岩	最大長：1.3 最大幅：1.1 最大厚：0.8	0.93	単側面	—	刃こぼれ状	層土・10	素材は調整剥片
35	406	剥片	黒曜石	最大長：0.9 最大幅：1.7 最大厚：0.03	1.05	複側面	—	—	層土	
36	399	二次加工のある剥片	黒曜石	最大長：1.8 最大幅：1.6 最大厚：1.23	2.77	単側面	a面調整痕	—	層土	
37	394	剥片	黒曜石	最大長：1.85 最大幅：2.55 最大厚：0.95	3.19	凸状	—	—	層土・10	
38	403	鏃片	砂岩	最大長：4.35 最大幅：2.6 最大厚：1.5	9	単側面	—	—	層土・10	

Tab.81 11トレンチ遺構埋土層出土石器観察表



PL.152 11トレンチ遺構埋土層出土石器写真(表面)



PL.153 11トレンチ遺構埋土層出土石器写真(裏面)

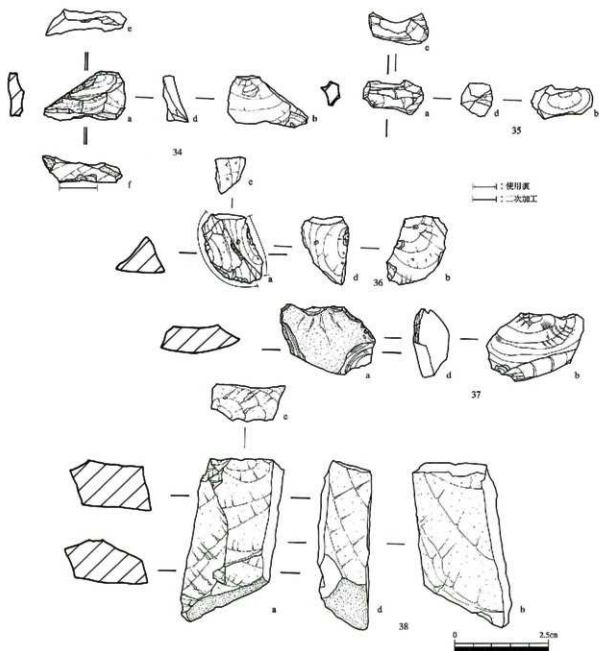


Fig.97 11トレンチ遺構埋土層出土石器実測図(S=1/1)

③第10層出土遺物 (Fig.98・99)

(i) 分布状況 (Fig.98)

11トレンチの第10層出土遺物は、調査区北側半分の北東よりと、調査区南半分の北側付近に分布している。偏在しながら分布しているものの、礫片などは南側に多く認められる。

(ii) 石器組成 (Tab.82)

11トレンチの第10層から出土した遺物は、76点である。石器組成は、次のとおりである。

使用痕のある剥片1点、二次加工のある剥片2点、石核1点、剥片13点、砕片2点、礫12点、礫片41点などである。

これまでの水迫遺跡の第1調査区・西側拡張区の第10層から出土した石器群の石器組成は下記のとおりである

石器組成は、ナイフ形石器、台形石器、三稜尖頭器、両面加工尖頭器、彫器、剥片、砕片、石核などである。剥片尖頭器が組成中に含まれないこと、ナイフ形石器と台形石器の形態と素材剥片の形状、三稜尖頭器の大きさと調整のあり方などから、ナイフ石器文化後半期と位置づけられる。さらに、A T降灰以降の石器群で、剥片尖頭器が消滅し石器組成中から姿を消した時期のものと考えられている。

11トレンチの発掘調査では、時期を確定できるような主要石器は出土していない。

(iii) 石材組成 (Tab.82)

11トレンチの第10層から出土した遺物の石材組成は、次のとおりである。

76点の内、最も組成の割合が高いのは、礫の素材となっている砂岩27点である。次いで、安山岩20点、頁岩15点、黒曜石6点である。また、点数的には少ないが、粘板岩3点、石英1点も石材組成の中に認められる。使用痕のある剥片の石材は石英であり、11トレンチ内からは同質の石材が出土していない。このことから、別の地点からの当地点に持ち込まれたものと考えられる。

(iv) 石器 (Fig. 99)

使用痕のある剥片

No39は、石英製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。使用痕のある部位は、a面左側縁から下端部にかけてである。使用痕は、刃こぼれ状を呈している。使用痕のある剥片の素材は、不定形剥片である。その打面はわずかに認められるのみだが、打面調整の有無については不明である。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面に残されている剥離痕の剥離方向は、素材剥片の剥離方向と同一方向のもので約180度異なるものが認められる。前者の剥離痕は素材剥片の上半分、後者の剥離痕は素材剥片の下半分と左側面に認められる。このことから、上下に複数の打面を有する石核から打面を頻繁に転移しながら、剥片を剥離する剥離技術が想定できる。

b面中央部には石材の節理があるため、主要剥離の打撃があまり発達しておらず、部分的には凹面になっているところもある。

二次加工のある剥片

No40は、頁製の剥片を素材とした二次加工のある剥片である。二次加工のある部位は、a面上端部とb面上端部に認められる。

素材剥片の打面部と側面が切断によって除去されているため、素材剥片の形状や打面の形状・調整の有無については不明である。また、b面の右側下部には打面を除去した際の剥離面が二枚認められる。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。

a面とb面に認められる剥離面の剥離方向を比較すると、約90度異なっている。石核の打面の位置は、概ね同じ面であるとされるが、加撃方向が異なっているものと考えられる。

このことから、複数の打面を有する石核から頻繁に打面を約90度転移しながら剥片を剥離する剥離技術が看取できる。

石核

No41は、頁岩製の石核である。各面の剥離面などから石核の素材獲得、剥片剥離技術について次のように看取できる。

(素材獲得)

石核の打面部(e面)と下端部(f面)に認められる大きな剥離痕は、全て剥片剥離作業面側からの加撃によるものである。石核の打面部と下端部の剥離痕は、ポジティブな面である。また、石核の厚みが薄いことを踏まえると、推測の域をでないものの、石核の素材には、分割剥片を用いていると考えられる。

(石核整形)

素材である分割剥片の剥離面を将来の石核の下端部と打面部に設定している。また、その打面部を加撃点として、b面全体とc面左側面に認められる石核の側面の剥離痕は、明確な打点を確認できないことから、素材獲得段階ですでに

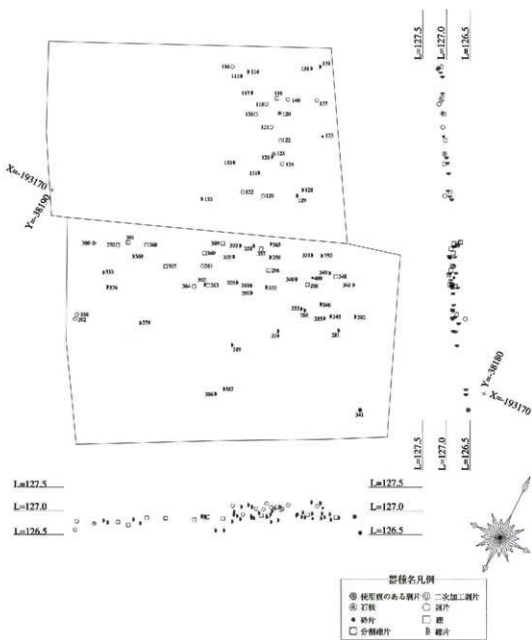


Fig.98 11トレンチ第10層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)

存在していた可能性も考えられる。もしくは、打面再生が行なわれたことによって、石核の側面に認められる剥離痕の打点が除去されているとも考えられる。どちらにしろ、この側面の剥離痕によって、石核の背面（剥片剥離作業面の反対面）の形状が束縋り状を呈している。

また、準備された剥片剥離作業面長は、約1.44cmであり、作業面長としては比較的短いものと考えられる。

（剥片剥離）

a面の剥片剥離作業面の観察から、少なくとも3枚の剥片が剥離されていることが看取できる。剥片の剥離痕から剥離された剥片を想定すると、最後に剥離された剥片は、長さ約1.27cm、幅約1.37cmと寸詰まりの幅広の剥片が剥離されていることが分かる。

打面調整は剥片剥離作業面側からの加撃によって、少なくとも5枚認められる。顕著に施されていることが看取できる。また、頭部調整の有無については、明確なものが剥片剥離作業面に認められないことから不明である。

石核の観察から、打面転移や剥片剥離作業面の転移は行なわれていないものと考えられる。

剥片剥離作業に伴う打面調整は、a面と接するe面端部には顕著に認められるが、c面とd面の剥片剥離作業面と接しているe面には認められない。

また、頭部調整は、d面上端部には認められるものの、a面とc面右側部には認められない。このようなことから、打面・頭部調整は、状況に合わせて行われていたものと考えられる。

なお、推測の域を出ないが、e面上端部に認められる小剥離痕は、石核から剥片を剥離する際に石核を固定した痕跡とも考えることが可能であろう。

（文責 録田）

	使用痕のある剥片	二次加工剥片	石核	剥片	砕片	礫	礫片	分割礫片	欠片	合計
黒曜石		1		3	2					6
頁岩		1	1	4		2	7			15
石英	1									1
安山岩				1		7	12			20
砂岩				4		3	19	1		27
粘板岩				1			2			3
不明							1		3	4
合計	1	2	1	13	2	12	41	1	3	76

Tab.82 11トレンチ第10層出土石器組成表

No.	取上げNo.	母核	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
39	341	使用痕のある剥片	頁岩	最大径：2.3 最小径：2.3 最大厚：0.8	3.56	単面剥離	-	刃こぼれ状	10	
40	390	二次加工のある剥片	頁岩	最大径：1.8 最小径：1.5 最大厚：1.0	2.17	-	a面下調整	-	10	
41	120	石核	頁岩	最大径：1.7 最小径：2.7 最大厚：2.8	10	後調整	打面調整	-	10	

Tab.83 11トレンチ第10層出土石器観察表



PL.154 11トレンチ第10層出土石器写真(表面・作業面)



PL.155 11トレンチ第10層出土石器写真(裏面・打面)

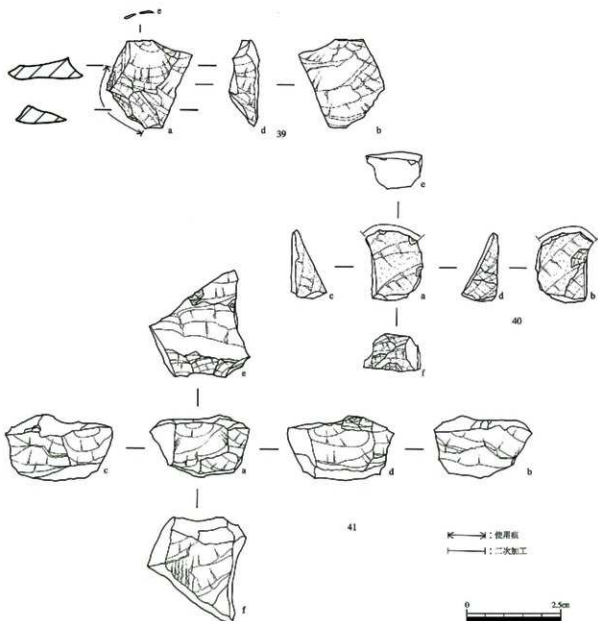


Fig.99 11トレンチ第10層出土石器実測図(S=1/1)

取上 番号	国庫 番号	種類	部位	器種	器種名	材質	容積率 (×10 ⁻⁴ %)	重量 (g)	直径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	X線機	X線機	Z線機	Z線機	総合 判定	同一 層位 番号	
1		5	石器	碎片	黒曜石	0.5	9.5	6.5	3.4	0.2	-193166.036	-38185.590		127.896				
2		5	石器	碎片	黒曜石	0.2	6.3	3.9	1.8	0.05	-193166.299	-38185.626		127.871				
3		5	石器	鏃	安山岩	28	31.4	29.1	17.6	11.73	-193165.159	-38186.286		127.923				
4		5	石器	割部片	-	-	-	-	-	-	-193165.504	-38186.688		127.858				
5	10	○	5	石器	割部片	-	-	-	-	-	-193165.236	-38186.651		127.862				
6		5	石器	割片	黒曜石	0.9	8.7	17.8	6.6	0.64	-193165.365	-38186.734		127.846				
7		5	石器	碎片	黒曜石	0.3	5.5	5.8	1.9	0.04	-193166.683	-38185.389		127.814				
8	13	○	5	石器	底部	-	-	-	-	-	-193166.656	-38185.261		127.777		37,38,222		
9		5	石器	割片	黒曜石	2.2	16.5	14.8	4.3	0.89	-193168.028	-38185.154		127.709				
10		5	石器	碎片	黒曜石	0.5	10.4	4.3	2.8	0.1	-193167.770	-38184.825		127.715				
11		5	石器	碎片	黒曜石	0.3	5.9	4.6	1.6	0.04	-193168.267	-38185.709		127.706				
12		5	石器	碎片	-	-	-	-	-	-	-193167.957	-38185.441		127.657				
13		5	石器	碎片	-	-	-	-	-	-	-193167.906	-38185.732		127.698				
14		5	石器	鏃	安山岩	14.4	20.5	17.3	11.2	2.75	-193167.256	-38184.969		127.687				
15	14	○	5	石器	尖頭状石器	頁岩	0.3	43	38	10.5	13.71	-193167.882	-38185.957		127.768			
16		5	石器	鏃	緑石	31.5	-	-	-	-	-193167.398	-38186.061		127.714				
17		5	石器	碎片	黒曜石	0.5	7.3	8.2	2.8	0.15	-193167.286	-38185.842		127.765				
18		5	石器	割部片	黒曜石	0.9	10.9	9.4	3.2	0.39	-193167.086	-38185.949		127.803				
19		5	石器	鏃片	-	-	-	-	-	-	-193167.639	-38186.866		127.721				
20		5	石器	鏃	安山岩	56.2	44.7	35.3	26.9	60.95	-193168.847	-38186.870		127.651				
21	1	○	5	石器	口縁部片	-	-	-	-	-	-193168.649	-38187.404		127.689				
22	16	○	5	石器	石鏃	黒曜石	1.7	23.5	21	9.5	2.98	-193168.689	-38189.933		127.612			
23		5	石器	鏃片	安山岩	75.8	90.5	47.4	25.7	71.5	-193167.679	-38190.956		127.662				
24		5	石器	割片	頁岩	3.7	15	18.9	2.7	0.68	-193168.354	-38188.488		127.867				
25		5	石器	割片	頁岩	0.1	12.2	17.9	2.9	0.65	-193168.458	-38188.676		127.722				
26	4	○	6	土器	割部片	-	-	-	-	-	-193167.111	-38190.244		127.635				
27	6	○	6	土器	割部片	-	-	-	-	-	-193167.170	-38190.525		127.675				
28	7	○	6	土器	割部片	-	-	-	-	-	-193167.258	-38190.368		127.594				
29		5	石器	碎片	黒曜石	0.7	20.4	8.6	7	1.21	-193168.784	-38187.494		127.557				
30		5	石器	碎片	黒曜石	0.3	7.8	5	5.2	0.24	-193169.051	-38187.132		127.590				
31		6	石器	割片	赤色頁岩	0	21	11.2	4.2	0.82	-193168.172	-38186.986		127.642				
32		6	石器	鏃	安山岩	99.4	78	48.6	39.6	210	-193167.938	-38185.948		127.623			受熱痕	
33		6	土器	碎片	-	-	-	-	-	-	-193167.765	-38185.613		127.627				
34		6	土器	鏃片	緑石	5.1	24.2	16.1	12.1	1.68	-193167.135	-38185.338		127.695				
35		6	石器	碎片	黒曜石	0.1	5.4	3	1.4	0.02	-193167.613	-38184.789		127.567				
36		6	土器	鏃	安山岩	96.2	176	125	96	2250	-193166.863	-38185.508		127.784				
37	13	○	6	土器	底部片	-	-	-	-	-	-193166.931	-38185.828		127.749		38,222	8	
38	13	○	6	土器	底部片	-	-	-	-	-	-193166.187	-38185.890		127.775		37,222	8	
39		6	土器	鏃片	安山岩	142.4	143.5	68.2	49.8	570	-193166.043	-38186.136		127.794				
40		6	土器	鏃片	安山岩	19.2	15.4	13.1	11.4	3.08	-193165.637	-38186.085		127.824				
41		6	石器	割片	黒曜石	0.6	13.9	10.2	2.1	0.26	-193165.701	-38186.907		127.833				
42		6	土器	鏃片	安山岩	68.8	94.7	77.8	61.8	250	-193165.393	-38186.776		127.834				
43		6	土器	鏃	安山岩	82.9	97.2	71.2	42.7	235	-193165.575	-38187.425		127.778				
44		6	土器	鏃	凝灰岩	110.9	175	149	91	2275	-193165.782	-38187.829		127.825				
45		6	土器	鏃	安山岩	0.2	18	13.8	11.5	4.36	-193169.543	-38188.952		127.470				
46	2	○	5	土器	割部片	-	-	-	-	-	-193165.067	-38186.174		127.893				
47		5	土器	鏃片	凝灰岩	193.4	133.3	104.9	53.6	890	-193164.962	-38186.043		127.904			受熱痕	
48		5	石器	碎片	黒曜石	0.3	6.4	6.3	5.8	0.21	-193168.024	-38185.148		127.698				
49	21	○	5	石器	二次加工部片	黒曜石	4.8	20	15	1.3	5.26	-193167.815	-38184.850		127.696			
50		6	石器	碎片	黒曜石	0.3	9.2	6.7	2.4	0.17	-193166.667	-38185.321		127.766				

Tab.84 11トレンチ出土遺物台帳①

表上 国 番号	洞 番号	夫 番号	層 位	設 機	部 名	材 質	当 面 積 ($\times 10^{-4}$ ㎡)	法 長 (m)	法 幅 (m)	法 厚 (m)	重 量 (g)	X 線	Y 線	Z 線	同 一 個 体	備 考
51	9	9	9	9	9	安山岩	50.7	45.4	20.4	19.1	21.81	-193167.393	-38191.293	127.059		
52	9	9	9	9	9	砂岩	0.1	20.4	19.9	6.1	2.21	-193167.274	-38191.062	127.069		
53	9	9	9	9	9	安山岩	0.6	38.9	27.2	19.5	18.55	-193167.021	-38190.399	127.059		
54	9	9	9	9	9	頁岩	0.4	40.8	20.6	13	11.01	-193167.365	-38189.140	127.081		
55	9	9	9	9	9	砂岩	2.1	43	21.9	17	16.64	-193167.973	-38189.423	126.997		
56	9	9	9	9	9	頁岩	0.3	11.7	25.5	10	2.19	-193167.969	-38189.043	127.049		
57	9	9	9	9	9	砂岩	0.4	30.6	9.1	9	3.26	-193168.535	-38188.984	127.043		
58	9	9	9	9	9	不明	0.9	23.7	19.3	16	6.69	-193168.545	-38189.621	126.945		
59	9	9	9	9	9	安山岩	0.4	16.4	16	9.4	2.24	-193168.631	-38189.622	126.927		
60	9	9	9	9	9	凝灰岩	3.1	20.6	21.5	16.5	5.6	-193168.619	-38189.852	126.992		
61	9	9	9	9	9	安山岩	8.1	21.1	15.9	13.8	5.5	-193168.773	-38189.728	126.947		
62	9	9	9	9	9	安山岩	97.3	40.3	36.4	18.5	26.22	-193169.193	-38189.516	126.987		
63	9	9	9	9	9	砂岩	3.6	17.4	24.7	4.9	1.92	-193169.335	-38189.270	126.922		
64	9	9	9	9	9	安山岩	38.7	28.4	21.9	20.1	11.77	-193168.993	-38189.125	126.961		
65	9	9	9	9	9	不明	0.7	31.3	25	17.6	15.13	-193168.927	-38188.911	127.020		
66	9	9	9	9	9	凝灰岩	0.4	24.6	17.8	7.2	2.93	-193168.984	-38188.906	127.015		
67	9	9	9	9	9	安山岩	76.2	115	116	70	780	-193169.686	-38189.174	126.939		
68	9	9	9	9	9	砂岩	0.5	46	23	15.4	14.22	-193169.842	-38189.504	126.905		
69	9	9	9	9	9	頁岩	0.8	18.1	25.3	7.1	3.96	-193169.899	-38189.548	126.921		
70	9	9	9	9	9	黒曜石	0.1	6.4	5.4	4.1	0.12	-193169.863	-38189.850	127.011		
71	9	9	9	9	9	頁岩	0.5	19.5	8.6	6.8	1.53	-193168.929	-38187.577	127.084		
72	8	9	9	9	9	凝灰岩	1.4	50.5	25.8	13.8	17.89	-193167.484	-38188.154	127.273		
73	9	9	9	9	9	黒曜石	31.1	21.5	22.8	20.9	13.15	-193167.312	-38188.181	127.104		
74	9	9	9	9	9	砂岩	0.9	39.8	25.8	17.4	20.31	-193166.215	-38188.691	127.112		
75	9	9	9	9	9	凝灰岩	51.3	23.5	17.4	7.9	4.52	-193166.414	-38188.306	127.124		
76	32	○	9	9	9	黒曜石	3.1	15.5	14	10	2.27	-193166.452	-38188.110	127.123		
77	33	○	9	9	9	砂岩	2.9	20	21	12	4.23	-193166.492	-38188.108	127.123		
78	9	9	9	9	9	頁岩	1.2	28.3	27.7	10.2	7.64	-193166.761	-38187.989	127.093		
79	9	9	9	9	9	頁岩	0.1	12.7	22.8	4.3	1	-193166.795	-38187.874	127.059		
80	9	9	9	9	9	黒曜石	1	9.1	11.3	8.7	0.68	-193166.208	-38187.855	127.159		
81	9	9	9	9	9	砂岩	0.3	38.8	35.3	14	19.59	-193166.650	-38187.687	127.142		
82	9	9	9	9	9	砂岩	0.8	29	11.5	9.4	3.35	-193165.695	-38187.601	127.366		受熱痕
83	9	9	9	9	9	安山岩	67.3	39.8	22.3	20.1	22	-193166.833	-38187.456	127.110		
84	9	9	9	9	9	頁岩	8.5	42.6	21.6	15.4	10.74	-193166.631	-38187.298	127.078		
85	9	9	9	9	9	砂岩	8.9	18.9	23.2	4	1.84	-193167.034	-38187.381	127.096		
86	9	9	9	9	9	不明	0.5	20.9	12.8	13.8	2.46	-193167.193	-38187.362	127.013		
87	9	9	9	9	9	凝灰岩	0.4	26.4	8	8.7	23.9	-193167.173	-38187.281	127.050		
88	9	9	9	9	9	砂岩	0.1	24.5	17.5	11.9	4.03	-193167.074	-38187.191	127.026		
89	9	9	9	9	9	不明	9.2	18	17.1	10.1	3.35	-193167.169	-38187.218	127.009		
90	9	9	9	9	9	安山岩	8.8	14	15.5	6.9	1.4	-193167.121	-38187.155	127.006		
91	9	9	9	9	9	不明	35.9	29.1	24.2	21.9	16.9	-193167.326	-38187.331	127.073		
92	9	9	9	9	9	不明	0.2	22.9	25.7	7.8	3.47	-193167.443	-38187.494	127.046		
93	9	9	9	9	9	砂岩	0.2	27.9	25.2	13	11.17	-193167.357	-38187.883	127.037		
94	9	9	9	9	9	頁岩	0.3	15	14.3	3.8	0.75	-193167.716	-38187.836	127.078		
95	9	9	9	9	9	頁岩	0.1	18.9	10.6	4.7	0.88	-193167.832	-38187.711	127.059		
96	9	9	9	9	9	砂岩	0.3	22.4	15.8	12.3	5.42	-193167.965	-38187.902	126.991		
97	29	○	9	9	9	黒曜石	0	21	12	7.5	1.55	-193168.094	-38187.272	127.148		
98	9	9	9	9	9	砂岩	1.1	24.1	18.1	10.7	6.29	-193168.476	-38187.191	127.003		
99	31	○	9	9	9	安山岩	0.3	31	38.5	9.5	8.88	-193168.618	-38187.218	127.037		
100	9	9	9	9	9	砂岩	1.5	33.7	30.4	22.3	23.65	-193168.667	-38186.868	127.020		受熱痕

Tab.85 11トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	図面 番号	高麗	短尺	器種	器種名	材質	容積率 (×10.4%)	法差長 (cm)	法差幅 (cm)	法差厚 (cm)	重量 (g)	X線標	Y線標	Z線標	統合	同一 部位 番号
101		9	■	■	磨片	砂岩	12.8	37.5	23.9	16.3	10.48	-193168.281	-38185.690	127.027		
102		9	石部	■	砂片	砂岩	0.2	13	3.7	3	0.18	-193168.229	-38185.653	127.028		
103		9	■	■	磨片	安山岩	0.6	40	26.3	11.6	9.38	-193167.140	-38186.861	127.092		
104		9	■	■	■	不明	71.9	40.4	31.8	32.3	27.65	-193167.437	-38186.315	127.259		
105		9	■	■	磨片	不明	0.4	28.2	10.1	9.8	3.72	-193167.142	-38186.146	127.101		
106		9	■	■	磨片	砂岩	0.1	12.3	22.5	6.2	1.58	-193166.819	-38186.437	127.109		
107		9	■	■	磨片	不明	56.4	32.8	21.9	22.2	16.98	-193166.455	-38186.666	127.158		
108		9	石部	■	磨片	安山岩	0.7	26.5	22.5	11.8	6.55	-193165.910	-38186.454	127.190		
109		9	■	■	■	-	0.6	36.2	27.2	11.8	12.98	-193165.748	-38186.213	127.171		
110		9	石部	■	磨片	頁岩	0.3	34.1	25.4	12.4	10.48	-193165.602	-38185.895	127.230		
111		9	■	■	■	安山岩	38.3	44.8	31.1	22.9	30.24	-193165.222	-38185.976	127.298		
112		9	■	■	■	安山岩	74.3	41.8	25.2	16.1	14.94	-193165.245	-38186.430	127.238		
113		9	石部	■	磨片	頁岩	0.1	17.9	7.7	2.6	0.29	-193165.786	-38186.749	127.184		
114		10	■	■	磨片	安山岩	32.9	24	15.5	9.6	2.4	-193165.875	-38187.506	127.123		
115		10	■	■	磨片	安山岩	34.7	25.6	24.5	13.7	9.21	-193166.024	-38187.592	127.087		
116		10	石部	■	磨片	安山岩	3.6	18	23.1	7.4	3.73	-193165.926	-38187.838	127.106		
117		10	■	■	磨片	安山岩	76.9	28	21.6	13.3	7.82	-193166.231	-38187.233	127.084		
118		10	石部	■	磨片	頁岩	0.5	12.1	22.7	4.6	1	-193166.299	-38186.637	127.156		
119		10	■	■	■	安山岩	1.1	34.8	23.1	12.8	16.22	-193166.083	-38186.691	127.086		
120	41	○	10	石部	石核	頁岩	0.4	17	27	28	11.33	-193166.342	-38186.500	127.079		
121		10	石部	■	磨片	頁岩	0.4	30.8	16.7	10.3	4.29	-193166.685	-38186.522	127.076		
122		10	石部	■	磨片	頁岩	0.8	19.6	11.6	9.6	2.1	-193166.836	-38186.218	127.034		
123		10	石部	■	砂片	黒曜石	0.1	2.8	2.8	1.7	0.02	-193166.357	-38185.471	127.059		
124		10	石部	■	磨片	黒曜石	2.2	21.1	12.7	9.5	2.14	-193167.262	-38185.957	127.042		
125		10	石部	二次加工	磨片	黒曜石	1.8	14.7	11	9.5	1.3	-193167.159	-38186.213	127.037		
126		10	■	■	磨片	頁岩	0.6	35.2	23.2	12.5	9.66	-193167.239	-38186.229	126.996		
127		10									-193167.278	-38186.152	126.941			
128		10	■	■	磨片	砂岩	0.3	25	9.7	9.1	3.27	-193167.560	-38185.333	126.965		
129		10	■	■	磨片	安山岩	51.6	54.5	44.3	31.4	70	-193167.720	-38185.375	126.926		
130		10	石部	■	磨片	頁岩	0.1	21.4	9.7	4.4	0.76	-193168.050	-38186.000	127.031		
131		10	■	■	磨片	砂岩	0.4	21.7	15.9	8.5	2.04	-193167.666	-38186.318	126.954		
132		10	石部	■	磨片	黒曜石	2.4	16.1	18	5.5	1.73	-193168.174	-38186.421	126.924		
133		10	■	■	磨片	安山岩	0.4	33.3	21.6	10.5	6.99	-193168.711	-38187.127	126.888		
134		10									-193169.043	-38187.014	126.915			
135		10	■	■	磨片	砂岩	18.5	22.4	26.4	6.4	3.19	-193167.715	-38186.883	126.980		
136		10	石部	■	磨片	砂岩	2.8	18.3	14.3	8.8	1.69	-193166.588	-38186.936	127.045		
137		10	石部	■	磨片	砂岩	0.5	30	23.8	11.6	11.28	-193165.733	-38185.930	127.102		
138		10	■	■	磨片	砂岩	0.4	35.7	31.6	13.9	20.83	-193165.198	-38186.357	127.183		
139		10	■	■	磨片	砂岩	1.6	20.3	21	7.8	4.19	-193165.078	-38186.209	127.163		
140		10	石部	■	磨片	砂岩	5.5	29.7	18.4	4.4	3.03	-193166.002	-38186.478	127.124		
141		5-6	■	■	磨片	頁岩	0.2	9.4	10.2	4.2	0.4	-193171.098	-38188.566	127.459		
142		5-6	■	■	磨片	頁岩	0	5.5	12.6	2.7	0.22	-193171.078	-38188.495	127.449		
143		6	土部	■	磨片	-	-	-	-	-	-193170.791	-38188.234	127.398			
144		5-6	土部	■	磨片	-	-	-	-	-	-193170.458	-38188.335	127.471			
145		6	石部	■	磨片	明礬	0	12.5	11.7	3.9	0.57	-193170.506	-38188.177	127.337		
146		6	土部	■	磨片	-	-	-	-	-	-193170.242	-38188.156	127.366			
147		6	土部	■	磨片	-	-	-	-	-	-193170.266	-38187.873	127.421			
148		5-6	土部	■	磨片	-	-	-	-	-	-193170.749	-38187.745	127.428			
149	2	○	5	土部	口縁部片	-	-	-	-	-	-193170.074	-38187.114	127.495	150	新移穴	
150	2	○	5	土部	口縁部片	-	-	-	-	-	-193170.170	-38187.130	127.458	149		

Tab.86 11トレンチ出土遺物台帳③

表土 調査 番号	天淵 層位	部違	器種名	材質	容積率 (×10 ⁻⁴ %)	法量長 (cm)	法量幅 (cm)	法量厚 (cm)	重量 (g)	X線機	Y線機	Z線機	混合 試料	同一 試料 備考
151	5	石器	剥片	赤色頁岩	0	13	9.8	5.8	0.61	-193169.981	-38186.801			127.551
152	5	石器	剥片	黒曜石	0.7	10.8	10.4	4.5	0.47	-193170.014	-38186.356			127.466
153	6	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-193169.653	-38186.490			127.423
154	5-6	礎	礎片	安山岩	29.2	28.1	15.1	13	4.59	-193169.585	-38185.656			127.561
155	6	土器	胴片	-	-	-	-	-	-	-193169.411	-38185.686			127.488
156	5-6	土器	胴片	-	-	-	-	-	-	-193170.275	-38185.747			127.495
157	6	礎	礎	安山岩	92.2	86.8	63.3	52.7	232	-193170.493	-38185.356			127.488
158	5-6	燧石	燧片	黒曜石	15.7	29.6	29.1	9.6	4.28	-193171.268	-38185.365			127.455
159	5-6	燧石	燧片	-	-	-	-	-	-	-193171.545	-38185.060			127.472
160	5-6	燧石	燧片	頁岩	0.2	23.1	33.3	3.8	2.66	-193171.347	-38184.850			127.434
161	5-6	石器	分製器	黒曜石	2	14.2	15.8	6.6	1.19	-193170.890	-38185.003			127.423
162	5-6	礎	礎	安山岩	128.6	81.4	81	70.1	615	-193170.813	-38184.746			127.493
163	5-6	礎	分製器	安山岩	141.1	118.9	79.9	60.4	748	-193170.800	-38184.494			127.520
164	5-6	礎	礎片	安山岩	7.7	28.8	22.8	19.6	5.39	-193170.014	-38185.197			127.558
165	5-6	石器	剥片	頁岩	0.2	11.5	11.2	4	0.55	-193169.776	-38184.718			127.562
166	5	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-193170.401	-38184.300			127.459 243
167	5-6	石器	剥片	黒曜石	0.6	12	8.3	5.6	0.42	-193170.393	-38184.042			127.504
168	5-6	石器	剥片	黒曜石	0.3	9	5.5	2.7	0.09	-193170.503	-38183.980			127.417
169	5-6	礎	分製器	安山岩	149.1	116.2	72.4	78.8	895	-193170.825	-38184.069			127.465
170	3	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-193170.587	-38183.471			127.453 171.172
171	3	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-193170.796	-38183.385			127.473 170.172
172	3	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-193170.964	-38183.616			127.481 170.171
173	5-6	石器	剥片	黒曜石	0.9	17.2	10.8	3.1	0.42	-193170.926	-38183.323			127.467
174	5-6	石器	二次加工剥片	黒曜石	1.3	11.8	13.5	5.8	0.86	-193170.934	-38183.317			127.463
175	24	土器	胴片	頁岩	0.1	17	14	3	0.51	-193170.878	-38183.101			127.390
176	5	土器	胴片	-	-	-	-	-	-	-193171.357	-38181.868			127.366
177	5	石器	剥片	黒曜石	0.1	8.6	4.6	4.8	0.17	-193171.376	-38181.904			127.309
178	19	土器	スクレイパー	黒曜石	3.3	19	16	9	2.44	-193171.377	-38182.429			127.379
179	5-6	礎	胴片	安山岩	74.4	63.5	42.4	37.5	122	-193171.462	-38183.626			127.343
180	11	土器	胴部片	-	-	-	-	-	-	-193172.132	-38184.440			127.330 221
181	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.7	17.8	8.3	2.7	0.37	-193172.592	-38184.182			127.242
182	5-6	燧石	燧片	頁岩	0.1	8.1	6.8	1.5	0.09	-193172.099	-38184.985			127.453
183	5-6	燧石	燧片	-	-	-	-	-	-	-193172.781	-38184.882			127.219
184	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.4	10	8.3	2.8	0.14	-193172.477	-38185.719			127.469
185	5-6	燧石	燧片	安山岩	28.8	45.6	55.1	34.5	70	-193172.655	-38185.798			127.443
186	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.1	10.1	3.2	2.8	0.06	-193170.703	-38182.640			127.358
187	22	土器	切取剥片	黒曜石	5.6	43	20	15	13.35	-193170.194	-38182.586			127.468
188	23	土器	剥片	黒曜石	13.8	66	67	24	79	-193169.928	-38182.892			127.488
189	5	石器	パノイスクレーパー	黒曜石	0.1	12.7	9.4	1.7	0.14	-193170.099	-38183.480			127.583
190	5	石器	剥片	黒曜石	0.2	14.9	7.8	3.6	0.29	-193169.749	-38183.353			127.555
191	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.4	6.3	7.5	3.4	0.17	-193169.499	-38183.131			127.517
192	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.1	7.6	5.4	2.9	0.08	-193169.521	-38183.365			127.520
193	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.2	7.6	4.8	4.1	0.11	-193169.630	-38183.629			127.572
194	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.2	10.4	5.7	2.1	0.13	-193169.704	-38183.761			127.564
195	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.6	4.7	3.8	2.8	0.05	-193169.297	-38184.138			127.567
196	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0	6	4.6	2.3	0.05	-193169.137	-38183.626			127.543
197	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0.5	16.9	8.6	4.9	0.46	-193169.082	-38183.672			127.579
198	5-6	燧石	燧片	黒曜石	0	6.4	3.4	1.7	0.03	-193168.777	-38183.946			127.634
199	25	土器	石槌	黒曜石	1.8	23	17	9	2.48	-193168.997	-38184.606			127.593
200	5-6	燧石	剥片	黒曜石	2.4	14	18.9	9.6	2.13	-193168.911	-38184.936			127.617

Tab.87 11 トレンチ出土遺物台帳④

京上 番号	国所 番号	実測	部位	器種	器名	材質	器径 (×10-4 SE)	法差長 (cm)	法差幅 (cm)	法差厚 (cm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	総合	同一 調査	備考
201		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.3	6.4	4.8	4.1	0.11	-193169.043	-38184.949	127.557			
202		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.1	4.3	3.6	1.8	0.03	-193168.662	-38184.431	127.574			
203		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.2	5.3	9.7	3	0.09	-193168.481	-38184.294	127.518			
204		5-6	石部	剥片	黒曜石		1.6	16.8	10.4	6.4	0.65	-193168.479	-38184.250	127.553			
205		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.1	9.2	6.9	3.7	0.13	-193168.499	-38183.709	127.564			
206		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.1	5.3	8.2	0.9	0.02	-193168.399	-38183.781	127.571			
207		5-6	礎	分銅礎	安山岩		172.1	111.2	74.8	52	385	-193168.261	-38183.404	127.615			
208		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.4	9.4	6.2	3.3	0.14	-193168.535	-38183.433	127.638			
209		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.7	13.6	9	3.1	0.29	-193169.129	-38183.018	127.611			
210		6-7	土部	剥片	-							-193170.819	-38188.830	127.292			
211		6-7	土部	剥片	-							-193170.500	-38188.541	127.305			
212		6-7	土部	剥片	-							-193170.376	-38188.070	127.309			
213	15	○	6	石部	石敷	赤色頁岩	0.3	17	14	8	1.08	-193170.149	-38187.399	127.376			
214		6	土部	剥片	-							-193170.161	-38187.201	127.359			
215		7(検取)	石部	剥片	頁岩		5.1	10.9	15.9	2.8	0.41	-193170.470	-38184.990	127.447			
216	20	○	6	石部	使用痕のある剥片	頁岩	0.1	43	47	19	27.22	-193170.159	-38185.562	127.381			
217		5-6	礎	礎片	安山岩		0.6	18.3	17.2	4.3	1.22	-193169.141	-38185.326	127.351			
218		5-6	礎	礎	簀石		19.5	21.5	17.3	13.4	4.82	-193169.217	-38184.825	127.373			
219		5-6	礎	礎片	頁岩		4.7	10.1	12.1	2.3	0.26	-193170.580	-38184.936	127.379			
220		5-6	土部	剥片	-							-193171.172	-38184.872	127.364			
221	11	○	5-6	土部	剥片	-						-193170.986	-38184.487	127.36	180		
222	13	○	5-6	土部	剥片	-						-193170.605	-38183.856	127.349	37,28,222	8	
223	9	○	5-6	土部	底部付近破片～断片	-						-193170.228	-38183.888	127.326			
224		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.2	6.9	7.6	4	0.13	-193170.084	-38183.763	127.406			
225		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.8	8.1	9.6	5.3	0.35	-193169.211	-38183.399	127.486			
226		5-6	石部	剥片	黒曜石		0.5	5.1	11.9	4.3	0.24	-193168.996	-38183.436	127.456			
227		5-6	石部	碎片	頁岩		0.1	12.5	7.3	2.2	0.23	-193168.818	-38182.864	127.453			
228	8	○	5-6	土部	剥片(山形押型文)	-						-193168.872	-38183.150	127.486			
229		5-6	石部	剥片	黒曜石		1.2	9.7	16.8	4	0.5	-193168.525	-38183.226	127.48			
230		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.1	7.2	5.7	1.9	0.06	-193168.622	-38182.747	127.481			
231		5-6	石部	二次加工剥片	黒曜石		0.2	13.9	12.7	3.2	0.38	-193168.768	-38182.582	127.474			
232	18	○	5-6	石部	使用痕のある剥片	黒曜石	1.6	25	11	7	1.25	-193168.933	-38182.695	127.472			
233		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.3	11.4	5	3.6	0.18	-193168.888	-38182.500	127.488			
234		5-6	石部	剥片	黒曜石		0.4	12.4	10.7	2.6	0.18	-193169.260	-38182.566	127.45			
235	17	○	5-6	石部	使用痕のある剥片	黒曜石	2.8	15	43	11	4.56	-193169.740	-38182.482	127.362			
236		5-6	石部	剥片	黒曜石		1	16.1	10.8	6.5	0.93	-193170.196	-38182.282	127.343			
237		5-6	石部	剥片	黒曜石		1.1	11.9	15.7	4.3	0.79	-193171.158	-38181.465	127.376			
238		5-6	石部	碎片	黒曜石		0.1	7.2	5.6	4.8	0.17	-193171.516	-38181.860	127.251			
239		5-6	礎	礎	安山岩		40.1	70.1	48.8	45.5	83	-193171.822	-38182.611	127.251			
240		5-6	石部	剥片	頁岩		0	9.6	11	2.6	0.29	-193171.960	-38183.290	127.252			
241		5-6	礎	礎	安山岩		93.8	62.2	53.7	36.2	110	-193172.770	-38184.250	127.141			
242		5-6	礎	礎片	安山岩		5.9	17.2	13.7	3.9	1.02	-193172.363	-38184.778	127.646			
243	5	○	5-6	土部	剥片	-						-193170.349	-38184.067	127.306	166		
244		5-6	土部	剥片	-							-193170.221	-38183.990	127.316			
245		5-6	石部	剥片	黒曜石		2.5	21.3	18	7	2.52	-193171.176	-38181.827	127.236			
246		5-6	石部	剥片	黒曜石		2.9	18.3	14	8.3	16.7	-193171.479	-38183.443	127.31			
247		5-6	石部	碎片	頁岩		0	10.9	10.1	3.6	0.36	-193168.078	-38182.809	127.366			
248		5-6	石部	短冊剥片	黒曜石		1.9	24.2	12.5	5.9	1.43	-193169.448	-38182.598	127.301			
249		7	石部	剥片	頁岩		0.1	23.8	29.9	7.8	6.18	-193168.853	-38184.993	127.278			
250		5-6	石部	剥片	黒曜石		8.1	12.6	8.4	8.1	1.04	-193169.248	-38185.625	127.311			

Tab.88 11トレンチ出土遺物台帳②

取上 品号	原簿 番号	国産	品位	品名	品名	材質	容積率 (×10-4 SI)	質量係 (%)	質量係 (%)	質量係 (%)	質量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	統合 併合	同一 個体	備考	
251		6	石部	割片	黒曜石	0.6	10.4	12	6.1	0.55	-193168.929	-38183.325	127.396					
252		6/	黒土石部	割片	頁岩	0	20.8	14.4	2.3	0.77	-193169.036	-38183.804	127.293					
253		7	土部	割片	-						-193170.281	-38184.534	127.255					
254		7	礫	礫片	安山岩	9	22.4	21.5	7.3	3.67	-193171.043	-38183.680	127.099					
255		7-8	石部	割片	頁岩	15.5	18.1	13.8	5.7	1.36	-193169.558	-38186.580	127.221					
256		5-6	礫状石部	礫	黒曜石	2.2	10.2	10.3	11.6	1.35	-193171.332	-38186.385	127.200					
257		方格子	土部	割片	-						-193172.720	-38184.801	126.995					
258		4/	礫状	礫片	砂岩	8.5	21.6	18	8.4	3.23	-193172.614	-38185.880	126.811					
259		4/	礫状	礫片	砂岩	2.4	25.9	30	16.5	11.86	-193172.523	-38185.792	126.759					
260		7-8	礫	礫片	砂岩	2.8	15.9	18	17.2	6.49	-193171.150	-38182.783	126.903					
261		7-8	石部	礫片	砂岩	3.9	14.7	10.1	6.3	1.3	-193170.941	-38182.567	126.980					
262		7-8	石部	礫片	黒曜石	5.2	9.9	6.7	4.8	0.26	-193171.377	-38182.631	126.946					
263		7-8	石部	礫片	砂岩	0.9	30.9	21.5	12.7	6.88	-193169.199	-38185.457	127.267					
264		7-8	礫状	礫片	砂岩	6.4	31.6	26.9	14.2	11.95	-193171.635	-38185.992	126.994					
265		8-9	礫状石部	二次加工割片	砂岩	0.4	29.1	13.8	9.4	3.9	-193171.688	-38186.448	126.817					
266		8-9/	礫状石部	割片	頁岩	0.3	22.2	25.6	5.6	2.21	-193171.542	-38186.825	126.855					
267		8-9/	礫状	礫片	頁岩	0.4	31.1	14.1	8.6	3.95	-193171.695	-38187.371	126.830					
268	26	○	6-8-9	礫状石部	割片	チヤート	0.1	15.5	10	4.5	0.82	-193171.806	-38188.530	126.895				
269		9	礫	礫片	砂岩	1.3	17	11	8.1	5.9	0.96	-193171.564	-38185.114	126.878				
270		9	石部	礫片	黒曜石	0.2	6	7.4	0.9	0.04	-193170.836	-38186.427	126.938					
271		9	礫	礫片	頁岩	0.4	28	32.5	12.2	11.78	-193170.332	-38186.391	127.018					
272		9	石部	如新割片	頁岩	0.2	26.6	13.5	11.9	4.7	-193170.177	-38185.428	126.958					
273		9	礫	礫片	砂岩	1.4	13.4	9.6	4.2	0.61	-193170.378	-38184.546	126.892					
274		9	礫	礫片	砂岩	0.3	21.9	15.5	10.7	4.83	-193169.485	-38185.884	127.007					
275		9	礫	礫片	粘板岩	2.3	17.8	14.3	6.2	1.55	-193169.457	-38186.281	127.014					
276	28	○	9	石部	使用済のある割片	頁岩	0.1	19	16	5.5	1.36	-193169.055	-38185.253	127.204				
277		9	礫	礫片	安山岩	44.1	34.2	33.8	19.9	25.4	-193168.407	-38184.128	127.063					
278		7-8	礫	礫片	不明	64.5	44.3	24.6	26	31.34	-193170.626	-38185.797	127.216					
279		7-8	土部	割片	-						-193171.173	-38182.257	126.953					
280	30	○	9	石部	割片	頁岩	0.4	28	26	13	5.88	-193169.945	-38182.683	126.874				
281		10	礫	礫片	頁岩	0.1	13.4	9.2	3.6	0.53	-193169.841	-38183.288	126.855					
282		10	礫	礫片	不明	6.4	17.1	13.4	11.1	2.77	-193169.421	-38183.114	126.877					
283		9	礫	礫片	砂岩	0.1	6	8.6	5.3	0.31	-193169.540	-38183.374	126.894					
284		9	礫	礫片	不明	0.2	16.6	8.3	6.6	1	-193168.979	-38183.511	126.903					
285		10	礫	礫片	砂岩	0.2	15.8	17.4	10.6	2.27	-193169.749	-38183.675	126.867					
286		10	礫	礫片	粘板岩	11.5	21.9	25.5	12.3	6.67	-193169.792	-38184.116	126.865					
287		9	礫	礫片	砂岩	4.7	29.4	18.4	13.3	8.67	-193169.653	-38184.307	126.904					
288		10	礫	礫片	安山岩	0.1	7.6	5.8	3	0.1	-193169.279	-38184.305	126.922					
289		9	石部	割片	頁岩	0.4	17.6	5	5.6	0.51	-193169.038	-38183.758	127.044					
290		9	礫	礫片	頁岩	0.6	41.4	33.2	7.5	11.49	-193168.830	-38184.826	126.993					
291		9	礫	礫片	粘板岩	0.3	10.6	10.9	3.2	0.38	-193169.250	-38184.866	126.972					
292		9	礫	礫片	砂岩	0.1	17.1	7.9	5.4	0.64	-193169.434	-38184.738	126.916					
293		9	礫	礫片	安山岩	0.1	6.3	4.1	1.4	0.05	-193169.483	-38184.925	126.941					
294		9	礫	礫片	頁岩	0.1	12.3	6.6	2.9	0.21	-193169.951	-38184.652	126.908					
295		9	礫	礫片	頁岩	0.2	15.8	12.4	2.6	0.45	-193169.118	-38185.326	126.952					
296		10	礫	礫片	砂岩	1.6	11.1	8.2	4.8	0.42	-193169.393	-38185.172	126.905					
297		10	礫	礫片	砂岩	1.1	12.8	11	5.3	0.63	-193169.990	-38185.285	126.858					
298		10	礫	礫片	砂岩	2	11.9	19.8	7.5	1.45	-193169.853	-38185.363	126.899					
299		9	欠量								-193169.963	-38185.444	126.927					
300		9	礫	礫片	安山岩	0.3	15.4	6.4	3.4	0.35	-193170.244	-38185.409	126.866					

Tab.89 11トレンチ出土遺物台帳⑥

取上 四角 番号	実測 番号	厚位	器種	器種名	材質	容積率 (×10-4 SI)	法量長 (m)	法量幅 (m)	法量厚 (m)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	結合 関係	同一 器物	備考
301	9	礎	礎片	頁岩	15	17.6	7.8	6.1	0.95	-193169.696	-38185.562	126.917				
302	9	礎	礎片	頁岩	0.5	25.1	25.5	12.7	6.6	-193169.510	-38185.686	126.936				
303	9	石部	礎片	頁岩	1.1	12.6	9.2	6.8	1.04	-193169.309	-38185.816	126.952				
304	9	礎	礎片	頁岩	0.1	15.7	13.7	4.2	0.83	-193169.280	-38185.929	126.966				
305	9	石部	礎片	砂岩	0.3	12.3	15.6	5.6	1.22	-193169.448	-38185.799	126.961				
306	10	礎	礎片	安山岩	0.6	19.8	21.6	16.2	7.31	-193169.936	-38185.656	126.893				
307	9	礎	礎片	安山岩	0	11.3	7.6	6.2	0.4	-193170.351	-38185.710	126.890				
308	9	礎	礎片	砂岩	3.9	32.2	22.4	15	8.87	-193170.749	-38185.842	126.838				
309	9	礎	礎片	頁岩	0.5	8.5	5	2.9	0.16	-193170.725	-38185.696	126.843				
310	9	礎	礎片	頁岩	2.8	19.9	18.4	12.5	3.98	-193171.008	-38185.654	126.809				
311	9	石部	砕片	粘板岩	0.3	10.8	11.7	2.3	0.3	-193170.523	-38186.142	126.887				
312	9	礎	礎	安山岩	0.9	12	5	4.9	0.26	-193170.588	-38186.284	126.875				
313	9	礎	礎片	砂岩	4.1	16.5	10.1	6.1	1.11	-193170.743	-38186.428	126.868				
314	9	礎	礎片	粘板岩	2.1	31.2	13.7	9.4	5.72	-193169.922	-38186.639	126.895				
315	9	礎	礎片	頁岩	0.2	13.1	9	5.4	0.65	-193170.093	-38186.729	126.887				
316	9	石部	砕片	黒曜石	1.3	3.8	3.8	4	0.07	-193170.530	-38187.078	126.871				
317	9	礎	礎片	砂岩	0.2	11.7	8.2	5.7	0.54	-193170.404	-38187.284	126.884				
318	9	礎	礎片	安山岩	0.2	11.8	9.3	3.9	0.36	-193169.983	-38187.460	126.990				
319	10	礎	礎片	安山岩	0.2	11.2	8	4.9	0.54	-193171.150	-38185.136	126.773				
320	9	石部	ブランク	黒曜石	1.3	14.5	8.3	5.9	0.83	-193171.294	-38186.878	126.818				
321	9	礎	礎片	安山岩	0.1	11.9	6.7	2.7	0.19	-193171.367	-38187.032	126.822				
322	9	礎	礎片	砂岩	0.7	20.6	15.8	7.7	1.99	-193171.421	-38187.130	126.812				
323	9	礎	礎片	砂岩	0.5	17.8	10.5	8.4	2.07	-193171.485	-38186.973	126.830				
324	9	礎	礎	頁岩	3.5	16.1	12.7	9	1.62	-193171.428	-38186.827	126.828				
325	9	礎	礎	安山岩	0.1	13.6	5.8	5.9	0.51	-193171.610	-38186.812	126.812				
326	9	欠番								-193171.920	-38186.928	126.771				
327	9	礎	礎片	砂岩	0.4	23.3	13.2	9.3	2.24	-193170.432	-38187.672	126.871			受熱痕	
328	9	礎	礎片	砂岩	0.4	17.9	19.2	8.6	3.24	-193170.650	-38188.157	126.840			受熱痕	
329	9	礎	礎片	砂岩	0.2	9.3	24.7	8.2	1.52	-193170.572	-38188.561	126.850			受熱痕	
330	9	礎	分割物	頁岩	3.6	24.5	17.9	18.7	8.74	-193170.669	-38188.459	126.908				
331	9	礎	礎	安山岩	0.6	37	20.5	10.6	8.17	-193171.024	-38188.717	126.874				
332	9	礎	礎片	頁岩	0.2	19.4	6.9	4.6	0.68	-193170.992	-38188.128	126.812				
333	10	礎	礎片	砂岩	2.7	26.9	15.9	11.3	3.83	-193171.047	-38188.252	126.796				
334	9	礎	礎片	安山岩	1.8	21.1	21.2	8.9	5.48	-193171.482	-38188.313	126.877				
335	9	礎	礎片	安山岩	0.4	15.9	11.3	5.4	1	-193171.400	-38187.821	126.842				
336	9	礎	礎片	砂岩	0.4	14.1	12.7	2.9	0.54	-193171.514	-38187.625	126.824				
337	9	礎	礎片	砂岩	0.8	33.2	18	6.9	4.79	-193171.298	-38187.722	126.778			受熱痕	
338	10	石部	砕片	黒曜	8.1	13.9	10	11.7	1.29	-193172.086	-38188.327	126.780				
339	9	礎	礎片	砂岩	1.1	21.1	17.8	8.9	4.32	-193168.762	-38183.206	126.960				
340	10	礎	礎片	砂岩	3.1	16.9	9.5	6.4	0.68	-193169.293	-38184.577	126.906				
341	39	○	石部	使用痕のある砕片	石英	0.1	23	23	8	3.25	-193171.115	-38182.100	126.537			
342	9	礎	礎	砂岩	1.3	53.3	38.3	11.4	28.12	-193170.254	-38182.584	126.819				
343	10	礎	礎片	砂岩	0.5	12	6.5	5.4	0.45	-193168.842	-38183.457	126.881				
344	10	欠番								-193169.392	-38183.403	126.847				
345	10	礎	礎片	砂岩	3.7	26.6	32.3	12.4	12.3	-193169.651	-38183.574	126.813				
346	10	礎	礎片	粘板岩	0.5	14.6	10.7	2.5	0.35	-193169.521	-38183.877	126.844				
347	9	石部	砕片	粘板岩	0.2	16.7	37.1	6.4	3.45	-193169.013	-38184.019	126.938				
348	10	礎	礎	安山岩	21.7	19.2	17.6	16.3	5.78	-193168.819	-38183.875	126.901				
349	10	礎	礎片	砂岩	3.2	14.2	23.2	9	3.46	-193168.855	-38184.016	126.930				
350	10	礎	礎片	安山岩	0.2	13.7	10.5	6.9	1.14	-193168.607	-38184.334	126.941				

Tab.90 11トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	調査 番号	測頭 形状	部位	部材	部材名	材質	等縮率 (×10 ⁻⁴ SD)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	結合 位置	備考
351		10	礎	礎片	砂岩		1.3	11.2	19	8	1.73	-93168.692	-38184.521	126.941		
352		10	欠番									-93169.084	-38184.663	126.909		
353		10	礎	礎片	安山岩	0	10.1	12.9	4.3	0.71	-93169.796	-38184.195	126.870			
354		10	礎	礎片	砂岩	0.3	13.3	13	5	0.94	-93170.438	-38184.414	126.805			
355		10	礎	礎片	安山岩	1.5	19.6	12.7	11.3	3.11	-93169.735	-38185.058	126.876			
356		10	礎	礎片	頁岩	0.2	16.9	19.6	5.6	2.39	-93169.133	-38185.276	126.928			
357		10	礎	礎	頁岩	0.9	17.3	15	9.9	2.32	-93169.060	-38185.520	126.903			
358		10	礎	礎片	頁岩	0.7	15.7	15.4	8.4	2.05	-93169.087	-38185.698	126.848			
359		10	礎	礎片	頁岩	0.5	18	7.6	8.4	1	-93168.482	-38185.967	126.921			
360		10	礎	礎	安山岩	0.2	13.3	9.1	4.2	0.55	-93169.690	-38186.533	126.854			
361		10	石帯	割片	砂岩	0.7	14.8	13.1	6.5	1.3	-93169.953	-38186.443	126.874			
362		10	礎	礎片	砂岩	0	16.7	13.7	9	1.52	-93170.284	-38186.229	126.882		受熱面	
363		10	礎	礎	砂岩	1.1	18	11.5	13.8	2.39	-93170.264	-38186.156	126.871			
364		10	礎	礎	砂岩	0.3	28.7	24.5	6.9	4.16	-93170.417	-38186.402	126.813			
365		10	礎	礎片	安山岩	15.2	24.3	15.8	10.2	3.19	-93168.881	-38185.396	126.767			
366		10	欠番									-93170.297	-38185.738	126.835		
367		10	礎	分割礎片	砂岩	8.2	20.6	10.6	11	3.41	-93170.316	-38187.127	126.847		受熱面	
368		10	礎	礎	安山岩	34.4	39.8	23	12.5	14.58	-93170.098	-38187.689	126.855			
369		10	礎	礎片	砂岩	0.1	23.7	23.9	8.8	4.56	-93170.449	-38187.800	126.820			
370		10	礎	礎	頁岩	0	14.7	12.5	9.1	2.58	-93170.386	-38188.234	126.767			
371		9	礎	礎片	頁岩	0.2	11.1	8.4	2	0.18	-93170.505	-38188.284	126.832			
372		9	礎	礎	安山岩	19.3	19.9	21.6	6.7	2.83	-93171.019	-38188.401	126.779			
373	27	○	9	石帯	二次加工割片	砂岩	3.9	20.5	17	8	2.05	-93171.167	-38188.414	126.819		
374		9	礎	礎片	安山岩	0.2	28.9	14.1	11.8	6.22	-93171.293	-38188.168	126.765			
375		9	石帯	分割礎	黒曜石	2.3	23.3	12.9	13.5	3.54	-93171.411	-38188.178	126.757			
376		10	礎	礎片	頁岩	0.6	27.6	14.2	9.5	3.27	-93171.279	-38188.027	126.757			
377		9-10	礎	礎片	頁岩	1.7	8.9	7	2.8	0.19	-93171.736	-38188.292	126.744			
378		9-10	横断礎	分割礎	砂岩	1.7	21.9	29.5	27.4	18.31	-93171.822	-38187.803	126.704			
379		10	礎	礎片	安山岩	18.7	21	19.3	8.3	2.69	-93171.629	-38187.063	126.742			
380		9-10	横断石帯	分割割片	頁岩	1.2	13.9	16.3	12.1	4.21	-93171.857	-38186.859	126.740			
381		9-10	横断礎	礎片	砂岩	0.1	17.7	13	7.4	2.43	-93172.036	-38187.044	126.728		受熱面	
382		9	横断礎	礎片	安山岩	0.1	18.3	10.7	4.1	0.82	-93172.560	-38185.858	126.678			
383		9	横断石帯	分割割片	黒曜石	0.1	8.8	14.8	10.2	1.38	-93173.042	-38185.531	126.716			
384		9	横断礎	礎	安山岩	0.4	27.7	19.5	8.4	4.26	-93172.765	-38185.003	126.585			
385		9	礎	礎片	安山岩	0.1	17.4	8.8	7.7	1.22	-93173.084	-38184.704	126.692			
386		10	礎	礎片	砂岩	0.9	13.8	15.5	8.8	1.68	-93172.227	-38184.964	126.586		受熱面	
387		10	礎	礎片	砂岩	9.1	18	25.4	7.6	3.54	-93172.053	-38184.860	126.587			
388		9	石帯	割片	砂岩	4.5	14.7	20	4.8	1.18	-93171.793	-38183.178	126.635			
389		10	礎	礎	安山岩	44.7	28.6	30.1	17.4	18.71	-93169.334	-38186.288	126.838		受熱面	
390	40	○	10	石帯	二次加工のあまる割片	頁岩	0.57	18	15	10	2.17	-93170.589	-38188.704	126.732		
391		10	礎	礎	安山岩	9.9	23.2	18.7	13	3.78	-93170.234	-38188.064	126.703			
392		10	石帯	割片	砂岩	5.4	12.7	13.5	6.5	0.87	-93172.185	-38188.311	126.601			
393		10	礎	礎片	頁岩	2.8	11.8	16.1	9.5	1.5	-93169.211	-38185.954	126.827			
394	37	○	10	石帯	割片	黒曜石	2.7	18.5	25.5	9.5	3.18	-93170.262	-38186.789	126.787		
395		10	黒土石帯	砕片	黒曜石	0.5	5.9	8.2	7.5	0.51	-93166.867	-38185.666	126.869			
396		10	黒土石帯	砕片	黒曜石	0.1	7.4	7.5	3.1	0.18	-93165.831	-38185.897	127.062			
397		10	黒土石帯	割片	頁岩	0.2	17.7	8.7	4	0.52	-93169.869	-38185.489	126.824			
398		10	黒土石帯	割片	頁岩	1.7	20.4	9.2	4.1	0.89	-93167.040	-38185.910	126.814			
399	36	○	横土	石帯	二次加工のあまる割片	黒曜石	2.1	18	16	12.5	2.78	-93166.908	-38185.666	126.939		
400		横土	礎	礎片	頁岩	0.4	13.2	31.9	5.9	2.65	-93167.039	-38185.555	126.919			

Tab.91 11トレンチ出土遺物台帳③

取上 番号	回層 番号	尖頭	層位	器種	御名	材質	重量 (×10.4 SD)	法長 (mm)	法幅 (mm)	法厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 部位	同一 器種	備考
401			Ⅷ土層付石部	石器	碎片	黒曜石	0.1	8.4	6.7	4.5	0.21	-193167.410	-38186.216	126.852			
402			Ⅷ土層付石部	石器	碎片	黒曜石	0.3	6.3	6.8	3.1	0.14	-193167.496	-38186.112	126.847			
403	38	○	10-Ⅷ土石部	石器	剥片	砂岩	0.9	43.5	26	15	18.51	-193167.805	-38186.525	126.839			
404			10-Ⅷ土石部	石器	剥片	粘板岩	14.9				23.83	-193167.909	-38186.287	126.807			
405			Ⅷ土 器	器	丸山岩	安山岩	89.5	30.3	26.2	12.9	14.52	-193168.299	-38186.697	126.794			
406	35	○	Ⅷ土 石部	石器	剥片	黒曜石	0.2	9	17	8.5	1.05	-193167.486	-38187.820	126.857			
407			9-Ⅷ土 器	分銅	丸山岩	安山岩	7.5	42.7	37.7	28.1	50.52	-193166.417	-38188.315	127.059			受熱表
408			9 石部	石器	碎片	黒曜石	0.2	6.6	4.5	3.1	0.09	-193167.061	-38190.982	127.008			
409			10 石部	石器	碎片	黒曜石	0.4	7.2	7.1	4.1	0.19	-193168.104	-38184.279	126.837			
410			10-Ⅷ土 器	器片	頁岩	頁岩	23.2	22.1	9.1	8.4	1.97	-193170.254	-38185.911	126.771			
411	34	○	10-Ⅷ土石部	石器	丸山岩の片断剥片	頁岩	0.1	13	11	8	0.93	-193170.027	-38185.940	126.766			
412			10-Ⅷ土 器	器片	砂岩	砂岩	5	17.5	18.3	4.2	1.83	-193169.881	-38186.838	126.828			
413			1g 土部	器片	-	-	-	-	-	-	-	-193176.233	-38189.726	130.849			
414			1g 土部	器片	碗形尖部剥片	-	-	-	-	-	-	-193176.347	-38189.646	130.743			
415			1g 土部	器片	-	-	-	-	-	-	-	-193176.362	-38185.749	130.578			
416			1g 土部	器片	-	-	-	-	-	-	-	-193176.304	-38185.641	130.727			
417			1g 土部	器片	-	-	-	-	-	-	-	-193176.416	-38185.788	130.882			
418			1 器部	器片	-	-	0.4	-	-	-	-	-193177.413	-38187.764	130.917			
419			10-Ⅷ土石部	剥片	頁岩	頁岩	0.7	15	15.3	5	1.39	-193166.972	-38186.764	126.866			

Tab.92 11トレンチ出土遺物台帳⑨

第7節 平成13・14年度の調査成果

平成13年度・平成14年度の重要遺跡範囲確認調査は、平成12年度からの継続調査である。その目的は、平成11年度に第I調査区で後期旧石器時代の遺構群が検出されたことを受けて、第I調査区周辺での当該期の遺構群の広がりとその内容とを確認することである。各トレンチの確認調査の結果、下記のような成果を得ることができた。各トレンチ毎に地層、出土遺物、遺構などについて記す。

(1) 11トレンチ (平成13・14年度実施)

①弥生時代中期：弥生時代中期の遺物包含層である第1層gは、調査区内の南西隅に一部残存している程度であり、平面的にはほとんど堆積していなかった。また、第1層gは、概ね、北側から南側へ傾斜堆積している。これまでに、第1層gの東側への傾斜面(第II調査区)や北側への傾斜面(12・13・14トレンチ)は確認されていたが、北側から南側への傾斜面は初めて確認された。即ち、第1層g上面において、11トレンチの南側は尾根状地形の南側斜面の一部と考えられ、12・13・14トレンチで確認された北側斜面を考慮すると、狭い尾根地形であったと想定できる。

②縄文時代早期：第5・6層中から、縄文時代早期の土器・石器などが出土した。土器は、二枚貝の腹縁部を斜位に連続して刺突することで縞文を施す、いわゆる下割式土器^㉓である。また、いわゆる、桑ノ丸式土器と下割式土器との中間型として評価されている辻タイプ^㉔に該当するものも出土している。併せて、山形押型土器も出土しており、在地系土器との関連を探る上で貴重な資料になるものと思われる。これらの土器は、縄文時代早期中葉に帰属するものと考えられる。

③後期旧石器時代：第9層から129点の遺物が出土している。石器組成は、使用痕のある剥片、二次加工剥片、切断剥片、石核、細石刃核ブランク等である。調査区の北側半分において後期旧石器時代の遺構群を検出した。平面プランが方形の遺構が5基と土坑2基、ピット10基である。平面が方形プランの遺構については、底面が平坦であるとともに、周囲にピットが伴うと考えられるものもあり、第I調査区と西側拡張区で検出された堅穴建物跡と同様の遺構と見られるものがあつた。今回の確認調査によって、第I調査区と西側拡張区と同様な遺構群が広がっていることが確認できた。

(2) 12トレンチ (平成13年度調査実施)

①弥生時代中期：第1層gから弥生時代中期の遺物が出土した。遺物の出土状況は、トレンチの北側半分のみであり、南側半分は、畑地造成段階で削平を受け残存していない。第1層gの弥生時代中期の遺物包含層は、概ね南側から北側へ傾斜しており、弥生時代中期の生活空間が、尾根状の地形の北側斜面地にも広がっているものと考えられる。また、ピットと考えられる遺構を北壁断面で検出した。

(3) 13トレンチ (平成13年度調査実施)

①中世：東側壁面において、中世に帰属する土坑を1基を検出した。

②弥生時代中期：第1層gから、弥生時代中期に帰属する遺物が出土した。遺物の出土状況は、トレンチの北側に多くまとまっている。東壁・西壁の層位断面の観察から、第1層gは、概ね南側から北側へ傾斜している。包含されている遺物も傾斜方向に沿って出土し、斜面地の下のほうにまとまっている状況を呈する。遺物が、地形の傾斜に沿って、流れ込んだ可能性もある。しかしながら、ほぼ同じ範囲から柱穴5基が検出していることから、14トレンチと同様に、13トレンチの遺物分布状況が、単に流れ込みを示すものと断定することもできない。なお、調査区の南側寄りでは、第1層gは、畑地造成段階で削平を受け残存していない。

③縄文時代早期：第5・6層から、遺物の出土は見られなかったが、第5・6層を埋土とする柱穴を3基検出した。これまでの水追遺跡の確認調査では、第5・6層から、岩板式土器、前板式土器、下割式土器、竊土器が出土している。しかしながら、13トレンチで検出された柱穴の帰属時期に関しては、第4層の鬼界カルデラの噴火以前の縄文時代早期としか言えない。なお、調査区内では、プランを確認できなかった。

④後期旧石器時代：第11層上面において、第9層を埋土の主体とするピット5基を検出した。調査区内では、プランを確認できなかった。しかしながら、少なくとも、第13トレンチの位置までは、後期旧石器時代の遺構が広がっていることが確認された。

(4) 14トレンチ (平成14年度調査実施)

①中世：東側壁面において、中世に帰属するピットを検出したが、調査区全体では検出されていない。

②弥生時代中期：第1層gから、弥生時代中期に帰属する遺物が出土した。遺物の出土状況は、トレンチの北側に多くまとまっている。遺物の出土状況は、13トレンチと同様である。13トレンチから延びる北側への傾斜面地の続きと考えられ、少なくとも13トレンチから14トレンチにかけての第1層gの北側斜面地では、遺物が同様に包含されているものと考えられる。また、14トレンチでは、第1層gを埋土とするピットが25基検出されている。ピットNo20のように、主柱痕が残るものもある。調査区内では、プランは確認できなかったが、弥生時代中期において、なんらかの構築物を伴うような生活空間があつたことが推察される。

12・13・14トレンチともに確認できた第1層gは、北側への斜堆積である。平坦地や尾根の頂上部は、畑地の造成段階で削平されており現在は残存していない。また、南側の傾斜面は、後世の谷の侵食や林道築造に伴って削平されており、残存していない。しかしながら、12・13・14トレンチでの第1層gの遺物出土状況から見ると、削平された平坦地にも遺構を伴うような生活空間があったと想定できよう。

また、第II調査区、及び2トレンチにおいても、第1層gから合計1500点を越える量の同時代の遺物が出土し、かつ29基のピットが検出されている。これらのことから、標高126mを超える丘陵上の広い範囲に、弥生時代中期前半代の生活空間が広がっていた可能性が高いと考えられる。

(5) 後期旧石器時代の遺構群の広がり

平成12年度から平成14年度までの3ヶ年の継続調査の結果、後期旧石器時代に帰属する遺構群は、Fig.100に示す範囲に存在することが分った。その面積は、約6,500㎡である。

(註)

11トレンチの出土土器については、新家晃一・前迫亮一・泉畑光博・黒川忠広・金丸武司・遠藤慎の各氏氏からご教示を得た。

(文献)

- 指宿市教育委員会 2001 「水迫遺跡Ⅰ」
- 指宿市教育委員会 2002 「水迫遺跡Ⅱ」
- 南九州縄文研究会 2002 「南九州貝殻文系土器Ⅰ ～鹿児島県～」

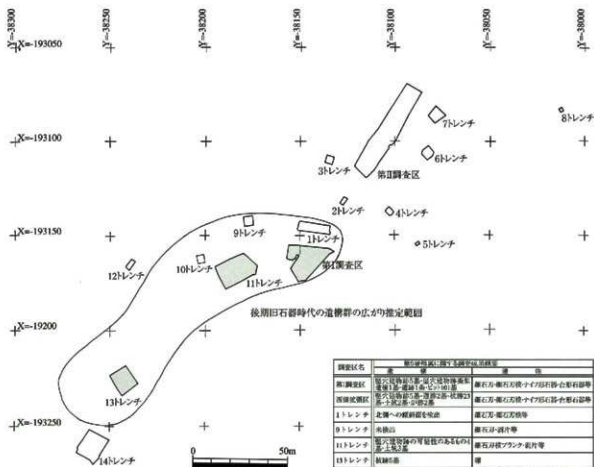


Fig.100 水迫遺跡後期旧石器時代帰属の遺構群の広がり (S=1/2,000)

第8節 第I調査区・西側拡張区検出の後期旧石器時代の遺構群について

平成11年・12年度の調査で、第I調査区、及び西側拡張区で検出された後期旧石器時代の遺構群については、当該期の今後の調査・研究をすすめていく上で、重要な情報と課題を提供するものと考えられるため、再度、振り返っておきたい。特に、今回は次の点についてまとめておきたい。

1. 第I調査区と西側拡張区の地層堆積状況について
2. 第9層の安定性について
3. 西側拡張区における第9層の遺物分布状況と地形について
4. 竪穴建物跡の遺構としての再確認
5. 道跡の遺構としての再確認

1. 第I調査区・西側拡張区の地層堆積状況について

水迫遺跡の基本層序の詳細な説明については、本編の第3章第2節を参照願いたい。

ここでは、後期旧石器時代に関連する地層の堆積状況について再度記述しておく。後期旧石器時代に関連する地層は、第9層から第15層までである。

第9層は、ナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期の遺物包含層で、岩火火山灰が混在している。

第10層は、ナイフ形石器文化期の遺物包含層であり、第9層より黒味が強く、粘性が強い。場所によっては、第10層を土色差や硬さの違いから、黒味の強い第10層aと下層の第11層とで見られるやや明るい第10層bとに細分ができる。なお、第10層bは第10層より硬く引き締まっており、「B2」が含まれている。

第11層は、始良カルデラ噴出物堆積層（入戸火砕流＝第11層a・大隅降下軽石＝第11層b）である。

第12・13層は、暗褐色～褐色を呈するナイフ形石器文化期の遺物包含層である。いわゆるAT下位の石器群である。

第14層は、宿利原火山灰ローム層である。第15層は、宿利原火山灰層である。

なお、遺跡の基盤層のひとつである第14層の上には、第I調査区北側と西側拡張区では、尾根状地形の頂上付近に位置しているため、概ね平坦である。第I調査区南半分では、尾根状地形の南側への斜面地であるため、北西方向から南東方向に緩やかに傾斜している。

（1）第I調査区・西側拡張区の地層堆積状況（Fig.101, 別図2を参照）

第I調査区と西側拡張区は、調査年度が異なるため、便宜上、異なる名称を用いているが、Fig.101のとおり、一連の調査区である。第I調査区の調査成果は「水迫遺跡Ⅱ」に、西側拡張区のものも「水迫遺跡Ⅱ」にそれぞれまとめられている。

第I調査区北側と西側拡張区における後期旧石器時代に帰属する遺構群の検出面は、第14層上面あるいは、第10層bや第11層上面である。遺構検出面の層位が異なるのは、第10層・第11層・第12層・第13層の各層の堆積状況が異なり、各層が欠落している範囲が調査区内であるためである。よって、大部分の遺構の掘削開始層である第9層の直下層は、第10層の地点もあれば、第14層である地点もある。

次に、各層の堆積状況の概要について説明する。

第14層は、水迫遺跡全体の基盤層の一部であり、遺構検出面でもある。第I調査区と西側拡張区全体内で、ある程度の層厚を持って堆積していることが確認できる。北側は層厚が薄く、南側は厚い傾向がある。

第13層は、第I調査区の南側半分付近からその堆積が見られ、北側の平坦面では確認できない。層厚は、南側で最も厚く、約40cmを測る。

第12層も、第I調査区の南側半分付近からその堆積が見られ、北側の平坦面では確認できない。層厚は、南西側で最も厚く、約20cmを測る。

第11層も、第I調査区の南側半分付近からその堆積が見られ、北側の平坦面では確認できない。出現し始める地点では、第11層a（入戸火砕流）のみである。南側ほど第11層aも厚くなり約30～40cmの層厚を測る。また、第I調査区南側端部では、第11層aの直下層に、第11層b（大隅降下軽石層）が堆積している。

第10層は、第9層と比較すると黒味が強く粘性に富んでいる。土色・土質ともに第9層と明確な違いが認められたため分層した。第10層は、第11層・第12層・第13層と同様に第I調査区の南半分付近からしか堆積が見られないため、第I調査区の北側平坦面での堆積は確認できない。第10層も南側に移るにつれ厚くなりながら堆積し、最も厚く堆積している部分で約20cmを測る。また、西側拡張区の中央ベルトの南西側の範囲に若干堆積し、西側拡張区北側付近に部分的な堆積が見られるものの、平面的にはほとんど堆積が見られない。

次に、第I調査区北側と西側拡張区の中央ベルト付近より北東側部分の比較的平坦な範囲（以下、尾根頂部と呼ぶ）での、第9層とその下位層との攪乱の有無について、その状況を述べる。

尾根頂部では、肉眼観察による第10層から第13層の堆積は認められない。仮に、第9層が下位層と混在するような攪乱を受けながら堆積した場合、下記について判断することで混在しているか否かを判別が可能である。

- ① プライマリーな第9層と比較して土色差と土質変化があるかどうか

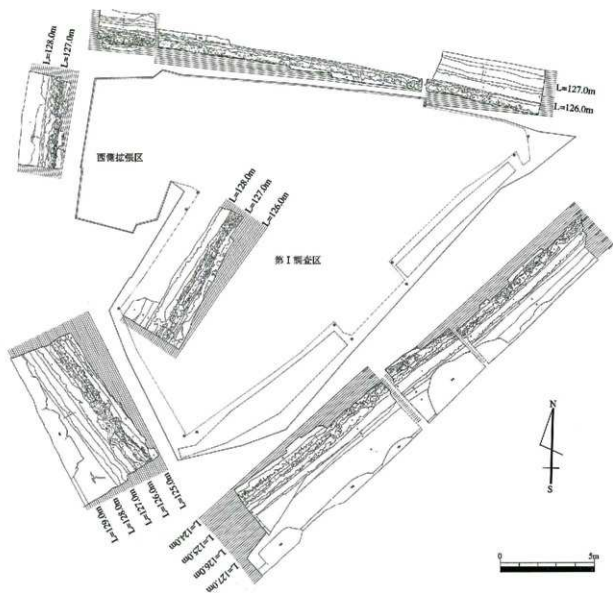


Fig.101 第I調査区・西側拡張区の地層堆積状況図(S=1/20)

②第9層の下位層に含まれている軽石や自然礫などの混在物があるかどうか

③第9層の下位層に含まれている遺物などの混在があるかどうか

第9層中で、糝混じりで褐色を呈する入戸火砕層(第11層 a)や、橙色を呈する大隅降下軽石(第11層 b)、褐色から暗褐色を呈する第12層・第13層との混在があった場合は、容易にその判別が可能であり、実際、肉眼観察では混在している状況は確認できない。このことから、尾根頂部で第9層が生成される時点で、すでに第11層～第13層の土壌は、調査区南側の傾斜面側へ流出していたものと判断できる。

では、第10層はどうであろうか。第10層は、第11～13層と同様に、尾根頂部では堆積は認められない、第10層が認められない理由としては、以下のものが考えられよう。

①第10層が、第11層・第12層・第13層と同様に何らかの自然要因で流出したため。

②第10層・第9層の堆積過程または堆積後、何らかの二次的な擾乱を受け、第9層と第10層は混在しているため。

なお、第10層は、第9層より黒味が強く粘性に富んだ土壌であり、肉眼観察による色調や土質の差異から判別が可能である。第9層を掘り下げていく時点で第Ⅰ調査区北壁の地層断面、及び、調査過程で設定したベルトの地層断面等の肉眼観察からも、第9層と第10層が混在した状況は確認できなかった。また、第10層に含まれているようなナイフ形石器や三稜尖頭器などは第9層に混在していない。しかしながら、仮に、第9層と第10層が区別がつかないほどの擾乱で再堆積した土壌であった場合は、厳密には肉眼観察のみで、両層の擾乱・混在の有無を判断することはできない。そこで、遺物分布の状況と遺物の掘り込み痕跡から第9層の安定性について考察してみる。

2. 第9層の安定性について

地層の堆積状況を踏まえ、第9層の安定性について、第9層の遺物分布状況と炉跡の立ち上りの状況から考察してみる。まず、第9層の遺物分布状況から考察してみる。

(1) 遺物分布からみた第9層の安定性について

① 第9層と第10層との分別の蓋然性について 一包含される石器群から一

まず、第9層石器群と第10層石器群の様相から、第9層と第10層の層間に、蓋然性があるか否かについて考察する。

1. 第9層石器群の様相

第9層には、細石刃・細石刃核・打面再生剥片・作業面のある剥片、ナイフ形石器・台形石器等が含まれている。細石刃核は、黒曜石の小礫を素材とした野岳・休場型細石刃核が主体を占めており、この様相をこれまでの九州での旧石器研究成果と照らし合わせてみると、南九州における細石刃文化初期の所産のものとして位置づけることが可能である。(Fig.102参照)。

ナイフ形石器・台形石器は、頁岩・黒曜石を素材としたもので小形のものが主体を占める。ナイフ形石器やその素材剥片の形態、プランティングの施工などから、南九州におけるナイフ形石器文化終末期の所産のものとして位置づけることが可能である。

このことから、第9層の帰属時期は、南九州におけるナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期の所産のものと考えられる。両石器群については、平面・垂直分布図から分離・分層はできないと「水迫遺跡Ⅰ」・「水迫遺跡Ⅱ」で報告した。水迫遺跡第9層石器群の編年の位置付けの根拠については、第68回日本考古学協会2002年大会での発表要旨をいし、その要旨を一部再録した「水迫遺跡Ⅱ」を参照願いたい。

第9層の両石器群の様相と石器組成、及びそれらの出土分布状況から、下記のように解釈することが可能であろう。

- 南九州における細石刃文化初期とナイフ形石器文化終末期の異なる石器群が、水迫遺跡第9層中で混在している。
- 小形のナイフ形石器・台形石器が細石刃と同様に組み合わせ石器として利用されていた可能性もあると考えられていることから、両石器群が時間的に非常に近接し、「ナイフ形石器文化期から細石刃文化期への過渡期的様相」を示すひとつの事例である。

このような解釈は、石器群の変遷のあり方や石器組成の様相による個々の研究者の編年観の違いによって異なるものであり、様々な解釈が可能であろう。

さて、「水迫遺跡Ⅱ」で鹿児島県鹿屋市西丸尾遺跡のⅧb層石器群(細石刃文化初期)を取り上げて、第9層石器群での細石刃文化期の帰属時期を検討したが、若干、ここで補足説明を付け加えておく。

西丸尾遺跡では、2時期の石器群が確認され、明確に分離されている。岩本山火灰を含むⅧb層からは、水晶を素材の主体とする野岳・休場型細石刃核が認められ、南九州における細石刃文化初期に位置付けられている。また、桜島起源の火山噴出物のP15～P17のいずれかに対比できる軽石や小礫混じりのⅧa層を挟んで、Ⅷb層からは、剥片尖頭器、両面加工尖頭器、二側加工のナイフ形石器、今幹型ナイフ形石器が出土している。さらに、「西丸尾型横長剥片」と呼ばれる特徴的な横長剥片も組成中に含まれ、九州におけるA T上位の横長剥片剥離技術のひとつである瀬戸内技法との関連も想定されている。このようなⅧb層石器群の様相は、編年的には、南九州におけるナイフ形石器文化の中でA T降灰・堆積の時期の石器群に近く、ナイフ形石器文化終末期には帰属しないことは明らかである。両石器群は、編年

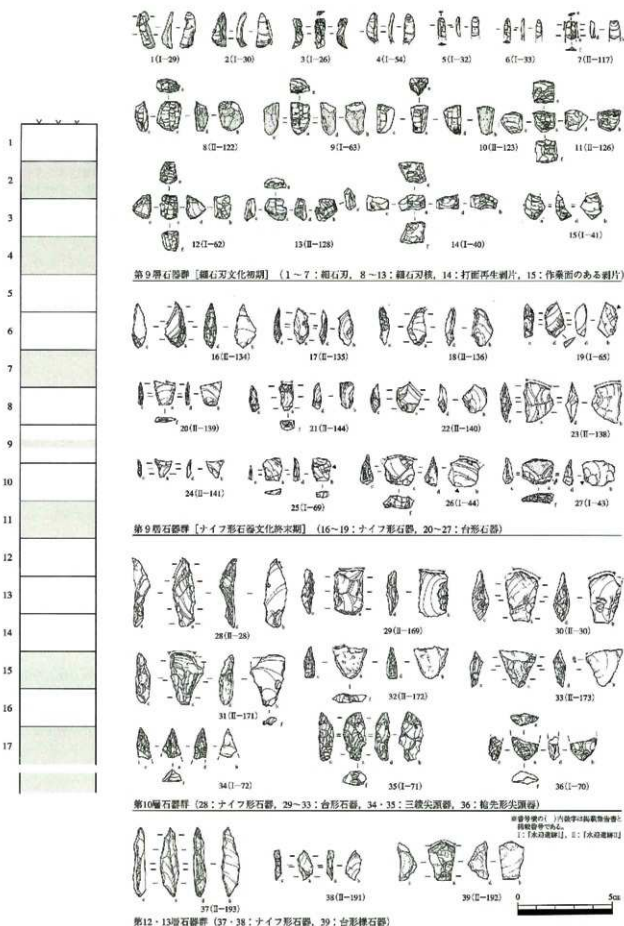


Fig.102 水迫遺跡後期旧石器時代石器群の組成図

的にも、出土層位や石器組成的にも明確な時期差が認められる。

水迫遺跡の石器群と西九尾遺跡の石器群を年代的に対比させると次のようになる。西九尾遺跡のⅧb層石器群（細石刃文化初期）とⅧb層石器群（ナイフ形石器文化後半期）との間に、水迫遺跡第9層石器群（細石刃文化初期とナイフ形石器文化終末期）と第10層石器群（ナイフ形石器文化後半期）が入ることとなる。

ii. 第10層石器群の概相

水迫遺跡の第10層からは、西九尾遺跡のⅧ層石器群より新しい時期に位置付けられる石器群が確認されている。第10層の石器群の平面分布状況は、第Ⅰ調査区南半分と西側拡張区の南側に偏在して分布している。第9層の平面分布図と比較すると、第9層と第10層の平面分布域が異なっていることがわかる。

第10層と第9層のナイフ形石器・台形石器を比較すると、第9層のものが顕著に小形である。第10層には、やや大振りのナイフ形石器をはじめ、台形石器・三稜尖頭器・槍先形尖頭器等が含まれている（Fig.102参照）。これまでの調査では剥片尖頭器は出土していない、また、三稜尖頭器は小形で整形も粗いものである。これらのことから、第10層石器群は、A T上位のナイフ形石器文化の中でも、剥片尖頭器が石器組成中から消滅している時期に帰属するものと考えられ、九州におけるナイフ形石器文化後半の時期に位置付けられるものである。

iii. 第9層と第10層の分別の蓋然性について

第9層石器群と第10層石器群の概相を踏まえ、両石器群の石器組成や各石器の形態などを、南九州でのナイフ形石器文化期から細石刃文化期の編年観に照らしてみると、両者には、その諸特徴から明確な時期差が認められ、しかも、層位的にも異なることから、分別することは有意であると判断できる。なお、水迫遺跡の第9層と第10層は、水迫遺跡特有の地層堆積状況ではなく、南九州に広く見られる、通称、「チョコ層」、「クロ層」と呼称されている地層にそれぞれが該当するものである。以上のことから、第9層と第10層を分別することには蓋然性があると言える。

② 第Ⅰ調査区・西側拡張区での遺物分布状況（Fig.103）

さて、上記のことを踏まえ、第Ⅰ調査区と西側拡張区での遺物の分布状況を見てみたい。

先述したとおり、第9層には、細石刃文化初期とナイフ形石器文化終末期の所産の遺物が含まれている。両時期の石器群での主要な遺物毎に色を変え、分布図を作成してみた。細石刃文化期に帰属する主要な石器として、細石刃・細石刃核・細石刃核ブランク（細石刃核）打面再生剥片（細石刃核）作業面のある剥片を取り上げた。また、ナイフ形石器文化期に帰属する主要石器として、ナイフ形石器・台形石器を取り上げた。なお、第9層から出土した石器の中で、両石器群のどちらに帰属するのか確定が難しい剥片・砕片・石核・スクレイパー・片刈機は同色で作成した。

以下、細石刃文化期とナイフ形石器文化期の両時期毎に分布状況を見てみる。

i. 細石刃文化期に帰属する主要石器の分布状況（赤色）

細石刃文化期に帰属する主要な石器は、西側拡張区から第Ⅰ調査区西側にかけてまとまりがみられる。また、第Ⅰ調査区東側と南西側には、西側拡張区から第Ⅰ調査区西側に比べると点数が少なく散在している状況である。

西側拡張区の中央から北側に分布している石器を見ると、細石刃・細石刃核・細石刃核ブランクをはじめ、細石刃剥離作業段階に伴うと考えられる打面再生剥片や作業面再生剥片も分布している。また、細石刃の縁辺に使用痕の認められるものと認められないものがある。

これらのことから、この周辺を、細石刃核整形作業、細石刃剥離作業、細石刃の使用・廃棄が行われた場と想定することが可能である。さらに、西側拡張区の北東隅で検出した1号炉跡の周辺から出土している細石刃核には、受熱によって表面に変色があると指摘を受けているものもある⁽¹⁾。また、第Ⅰ調査区の北側（1号堅穴建物跡の北側に隣接する部分）にも、細石刃核と細石刃がまとまって分布しており、細石刃・細石刃核と同質の黒曜石製の砕片や剥片などもあることから、ここでも細石刃剥離作業が行われていたと想定することが可能である。

ii. ナイフ形石器文化期に帰属する主要石器の分布状況（青色）

ナイフ形石器文化終末期に帰属する主要石器の分布状況は、西側拡張区中央付近から、第Ⅰ調査区の西側にかけてまとまりがみられる。また、第Ⅰ調査区東側と南西側には点数は少ないものが散在している。これらの分布状況は、先述した細石刃文化期の主要な石器の分布状況と一部重なるように看取できる。実際、調査時点において、1号堅穴建物跡の北側や1号炉跡の東側から出土しているナイフ形石器や台形石器は、細石刃・細石刃核と隣接し、ほぼ同レベルから出土している状況であった。

iii. 第Ⅰ調査区・西側拡張区での遺物分布状況からみた第9層の安定性について

以上、第10層が見られるない尾根頂部における第9層帰属の石器組成と遺物分布状況から、第9層のあり方について、下記の点が看取できた。

①細石刃核整形作業、細石刃剥離作業、細石刃の使用・廃棄が行われた「場」と想定できる遺物のまとまりがある。

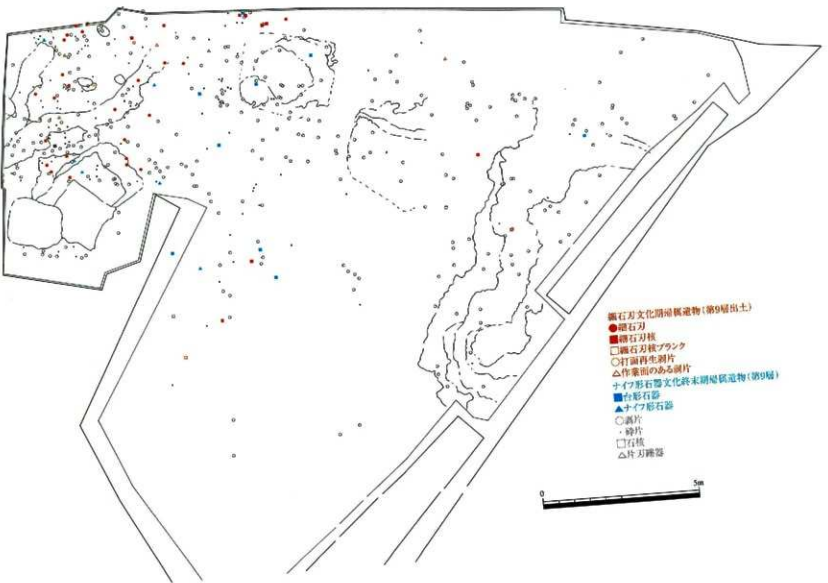


Fig.103 第1調査区・西諸地区区第9層出土遺物平面分布図(S=1/120)

②出土遺物の内容は、南九州におけるナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期の所産のものである。

③出土遺物の中には、第10層に帰属する製品は含まれていない。

④第9層出土遺物の個々の肉眼観察では、包含層自体の二次的な攪乱や流水等による攪乱等によって生じると言われている石器の剥離面やエッジに残される磨耗・摩滅は観察されない。

さて、先述したように、肉眼観察による土色差や土質の差異からは、第9層と第10層が混在した状況は確認できなかった。それに加え、遺物の分布状況と個々の遺物の状態を見る限り、上記①～④の状況は、第10層が見られない尾根頂部は、第9層がプライマリーな状況であることを示唆している。このことから、第10層の見られないその範囲では、第10層は、第11層～第13層同様に、第9層の生成する以前に何らかの自然現象で流出していたと考えられる。

よって、その調査区における比較的平坦な範囲の後期旧石器の遺物包含層は、第9層と第10層が区別がつかないほどの二次的な攪乱を受け、再堆積した土壌とは考えにくい。このことは、第9層出土遺物に磨耗、摩滅を受けた痕跡が観察できないことから窺えらる。第9層と第10層の混在が、皆無か否かは厳密には断定できないが、少なくとも、遺物分布の状況から、ブロックが形成された以後、第9層と第10層が区別がつかないほどの二次的な攪乱が起こった可能性は低く、第9層は、安定した遺物包含層と言える。

(2) 炉跡からみた第9層の安定性について (Fig.104)

続いて、第9層の安定性について、西側拡張区の北東隅で検出された1号炉跡から考察してみる。

1号炉跡は、西側拡張区を設定する以前の、平成12年3月に第1調査区北西部を拡張した際、南壁の第9層中に赤色化した土壌と赤色粒子、及びカーボンが集中する範囲を確認し、炉跡の可能性を想定した。その後、平成12年度の総合調査で西側拡張区を設定し、掘り下げていく段階で、炉跡が残存していると予想される範囲においては、南壁を併用する形で幅6cmのベルトを残し、少しでも炉跡の立ち上がりを残すために、高い位置での炉跡の平面検出を試みた。

ベルト北壁での土色を肉眼観察し、土質を確認しながら、遺構の掘り込み痕跡を探索した結果、炉跡の立ち上がりは第9層中に確認することができた (Fig.104参照)。ここで、総合調査段階での肉眼観察の記録と、測色計で計測した土壌の測色データを提示し、認識した炉跡の立ち上がりラインの妥当性について検証する。

① 炉跡左側の立ち上がりラインの検証

肉眼観察の記録

炉跡埋土内②：全体的に⑤・⑥・④に比べ茶味が少なく、黄土色が強い。赤色粒、カーボン、共に埋土中で一番多く混在している。1回目に掘り込まれた面と接し、2回目の第一埋土である。

炉跡埋土内④：⑥より若干、茶味が増し、3mm大のカーボンや赤色粒 (2mm大) が含まれるが、下層の②と比べると少ない。白色粒を含む。

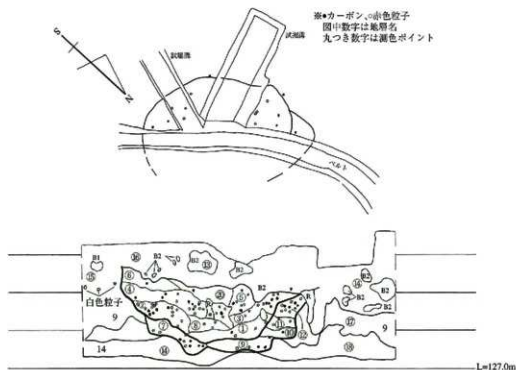


Fig.104 西側拡張区検出の1号炉跡平面・断面図 (S=1/10)

炉跡埋土内⑥：⑤よりやや茶味がうすい、細かな「斑」と岩本火山灰の白色粒、カーボンを含む。

炉跡埋土外⑤：遺構外の第9層であり、3～5cm大の「斑」が含まれ、ほぼ同じレベルに2～8mm大の白色粒が点在している。遺構上面付近に14層ブロックが認められ、掘り込み面と想定される周辺に、宿利原火山灰ローム層（14層）が掘り上げられているものと考えられる。カーボンは見られない。

炉跡埋土外④：1号炉跡の立ち上がりライン及び埋土⑥の上に堆積している。9層土、一部炉跡の埋土の可能性も考えられ、「斑」や細かな「斑」が認められる。一部、岩本火山灰の白色粒を含む。

肉眼観察において、土壌中の赤色粒子や赤化土壌、カーボンの有無、土壌の色を指標として②・④・⑥の土壌を埋土内と判断し、Fig.104左側半分のような境界線（炉跡左側の立ち上がりライン）を引いた。

次に、肉眼観察による土色の違いを客観的に記録し、肉眼観察による土色の差異を追証するため、測色計で計測した。

なお、図中の①～⑥は、測色した位置を示している。

測色位置	L	a	b
炉跡埋土内②	27.5	9.9	13.4
炉跡埋土内④	27.4	6.5	9.2
炉跡埋土内⑥	27.0	5.6	8.4
炉跡埋土外⑤	25.3	6.5	11.0
炉跡埋土外④	27.3	5.3	7.9

測色計で計測したL・a・b値は、色を数値化して表示する方法である⁽²⁾、例えば、炉跡埋土内④と炉跡埋土外⑤のa値は、数値的には6.5と同じであるが、L値（④：27.4と⑤：25.3で⑤がより暗い）とb値（④：9.2と⑤11.0で⑤がより黄色が強い）に数値的に差異が認められ、異なった色であることが示されている。

測色データによると、炉跡埋土内②・④・⑥の測色値と自然堆積層と認識した炉跡埋土外⑤の測色値には、L値（炉跡埋土内②・④・⑥のL値は27前後に対して、炉跡埋土外⑤の数値25.3と低い）に差異が認められる。

② 炉跡右側の立ち上がりラインの検証

肉眼観察の記録

炉跡埋土内⑨：黄土色が強く、やや軟質である。カーボンが若干含まれる。

炉跡埋土内⑩：⑨に比べ灰色が強く、分層が可能である。若干、赤色粒が含まれる。

炉跡埋土内⑪：1回目の炉として用いられた際の埋土である。色調・混和されるものから判断して、④に類似しているが、①によって切られている。赤色粒、カーボンが若干含まれている。

炉跡埋土外⑫：遺構外の第9層であり、3～5cm大の「斑」が含まれ、ほぼ同じレベルに2～8mm大の白色粒が点在している。

炉跡埋土外⑬：第14層と第9層が混在した土壌で、第9層本体より黒味が薄い。

遺構右側の立ち上がりラインの検討と同様に、肉眼観察において、土壌中の赤色粒子や赤化土壌、カーボンの有無、土壌の色を指標として⑩・⑪・⑫の土壌を埋土内と判断し、Fig.104右側半分のように境界線（炉跡右側の立ち上がりライン）を引いた。

次に、肉眼観察による土色の違いを客観的に記録し、肉眼観察による土色の差異を追証するため、測色計で計測した。

測色位置	L	a	b
炉跡埋土内⑩	26.3	8.9	15.5
炉跡埋土内⑪	25.3	9.5	15.6
炉跡埋土内⑫	24.6	7.5	12.7
炉跡埋土外⑬	22.9	6.4	11.8
炉跡埋土外⑭	33.5	9.2	19.0

測色データによると、肉眼観察による土色の差異が、炉跡埋土外⑩・⑪と炉跡埋土内⑩・⑪・⑫のL・a・b値の数値に差異が現れている。

③ 炉跡の立ち上がりの妥当性と第9層の安定性について

炉跡埋土内の赤色粒子や赤化土壌、カーボンの有無、土壌色を指標として、炉跡の立ち上がりラインについて検討を行った。さらに、肉眼観察による土色の差異について、測色計を用い追証した結果、先述したとおり、立ち上がりラインを境界とした炉跡埋土内と炉跡埋土外には、土色に差異があることを確認した。これらのことから、第9層中には、炉跡の立ち上がりがあることを確認した。

よって、炉跡の立ち上がりが第9層中まで残存していることから、炉跡が形成された付近の第9層は、少なくとも炉跡が形成された以降は、その掘り込みラインや形状を大きく崩すほどの、下位層と混在するような擾乱、再堆積が起こった可能性は低いと思われる。すなわち、9層は安定している地層であることが言える。

(3) 遺物分布状況と炉跡からみた第9層の安定性について

これまで、第9層の遺物分布状況と炉跡の立ち上がりの妥当性からの視点で、第9層の安定性について考察してきた。その結果、次のようにまとめられる。

第9層の遺物分布状況、並びに炉跡の立ち上がり及びの残存状況から、ブロックが形成された以後、そのブロックと捉えられる分布状況を崩すほどの再堆積があった可能性、また、遺構形成後、その立ち上がりラインを消失してしまうほどの攪乱・再堆積の可能性はいずれも低いと考えられる。

このことから、第9層・第10層が、区別がつかないほど攪乱され混在した地層とは考えにくく、第9層は安定している遺物包含層であると言える。

3. 西側拡張区における第9層の遺物分布状況と地形について (Fig.105・106)

これまでに刊行した『水迫遺跡Ⅰ』・『水迫遺跡Ⅱ』において、西側拡張区の地層堆積状況や遺物分布状況図を提示してきた。遺構との関連を考える上で重要な情報を提示するため、改めて西側拡張区における遺物分布状況に関する事実関係を整理し、後期旧石器時代(第9層)に帰属する遺構群が構築された第9層段階での地形について考える。

西側拡張区における第9層の遺物分布状況と第9層下部の地形を見ていく上で、2種類の第9層出土遺物の平面・垂直分布図(①西側拡張区での遺構外出土遺物の平面・垂直分布図・②西側拡張区での遺構外出土遺物と遺構埋土出土遺物の平面・垂直分布図)を用いて観察していく。

(1) 西側拡張区での遺構外出土遺物の平面・垂直分布図 (Fig.105)

ここでは、第9層出土遺物で遺構外から出土した遺物のみの南北方向の垂直分布図に、西壁層位断面図を投影し、遺物分布と西壁層位断面図での出土状況について観察していく。Fig.105を参照されたい。遺構外出土遺物の南北方向の垂直分布図①を見ると、約20～30cm程の上下の幅を持ちながらも北方向から南方向へ行くに従い、遺物の出土レベルが下がっているように看取できる。

では、この垂直分布図①に西側拡張区の西壁層位断面図を投影してみる。ただし、西側拡張区の西壁層位断面図には、遺跡B・Cの断面も含まれている関係上、西壁層位断面図の南側半分は明確な第9層下部ラインは書かれていない。

西壁層位断面図に投影すると、第9層中に入る遺物と、上位層である第8層に投影されてしまう遺物と、下位層の第10層に投影されてしまう遺物、遺跡B・Cの遺構内に投影されてしまう遺物があることがわかる。ここで、便宜上、西壁層位断面図に投影した結果、第9層中に入る遺物と第9層より上位、あるいは下位に投影される遺物別で、ドットの形を区別して垂直分布図を作成してみた(垂直分布図①)。区分は、下記のとおりである。

- ：西壁層位断面図に投影した結果、第9層中に入る遺物を示している。
- ：西壁層位断面図に投影した結果、第9層に含まれるが土坑の埋土中に入る遺物や、西壁層位断面図の実測範囲外に位置する遺物で、周辺にある第9層のラインを結ぶことで第9層に入ることと蓋然性のある遺物を示している。
- △：西壁層位断面図に投影した結果、第9層の上部ラインより上位に位置する遺物を示している。投影部分の第9層は凹状を呈しており、周辺の第9層ラインを結ぶことで、第9層中に入ることと蓋然性がある遺物を示している。
- ：西壁層位断面図に投影した結果、第9層の下底部ラインより2cm以内で位置する遺物を示している。
- ：西壁層位断面図に投影した結果、第9層の下底部ラインより2cm以上4cm以内に位置する遺物を示している。
- ：西壁層位断面図に投影した結果、第9層の下底部ラインより4cm以上に位置する遺物を示している。

併せて、平面分布図も同じドットを用いて作成し、第9層中に入る遺物とそれ以外の遺物がどの場所から出土したのかを確認してみた。以下、西壁層位断面図に投影した結果と平面図での出土位置関係について観察した結果を記す。

第9層の上部ラインより若干上位から出土した遺物(△)を、平面分布図と垂直分布図で確認してみる。平面分布図では、西側拡張区の北側半分に散在しているようにみえる。垂直分布図①では、第9層が部分的に薄くなっている所に投影されている。特に、垂直分布図①中央付近でまとまっている△の分布を観察すると、分布している部分は、第9層の上部ラインが落ち込んでいるところに位置しており、その結果、第9層より上位に投影されてしまうことになる。その部分の北側と南側の第9層上部のラインを結ぶことで、本来の第9層の上部ラインを復元すると、△の遺物は、第9層中から出土していることと蓋然性があると言える。

第9層の下底部から下位のもの、便宜上、2cm以内のもの(○)、2～4cm以内のもの(□)、4cm以上のもの(■)に分けた。特に、■のもののみをみる。■の平面分布は、大きく3ヶ所に認められる。西側拡張区北半分出土のもの、西壁付近出土のもの、西側拡張区東側出土のものである。特に、多くのまとまりを見せて分布しているものは、東側から出土したものである。そこでは、2～4cm以内のもの(□)のものも比較的まとまって分布している。東側にまとまる分布理由は、西側拡張区における地形の傾斜のためである。すなわち、西側拡張区の第9層下部の地形が、北西方向から南東方向へ傾斜しているため、第9層に包含されている遺物も必然的に同方向へ傾斜分布することになる。

よって、地形的に低い地点から、かつ、低いレベルより出土した遺物を、レベルの高い西壁層位断面図に投影したため、第9層中に投影されずに、第9層下部より低い第10層中から出土しているかのように見える。

試しに、範囲を狭めて■がまとまって分布している西側拡張区東側が含まれる中央部 (a・b・c・d) で縦断面(指)で東西の垂直分布図を作成してみた(垂直分布図②)。すると、○や□は、西壁層位断面図の第9層中に投影されている○とはほぼ同じレベルに含まれる。また、■の中にも○と同じレベルに含まれるものもある。ただし、全体的に低いレベ

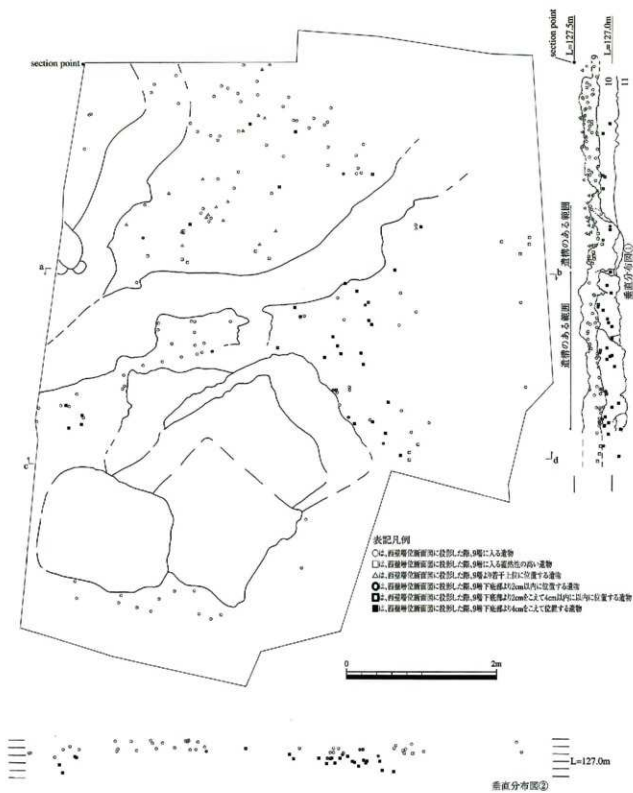


Fig.105 西側拡張区第9層遺構外出土遺物平面・垂直分布図(S=1/50)

ルから出土しているが、これは地形的に低い地点から出土している結果を投影しているためであると考えられる。

なお、西側拡張区の西壁付近出土の、西壁層位断面図に投影した結果、第9層下底部より4cmを超えている■については、第9層に包含されていると判断した上で第9層出土遺物として取り上げているが、第10層のものも錯誤している可能性も否定できない。

(2) 西側拡張区での遺構外出土遺物と遺構埋土出土遺物の平面・垂直分布図 (Fig.106)

第9層出土遺物で遺構外出土遺物と遺構埋土出土遺物を、便宜上、出土標高別毎にドットを分けて、平面図・垂直分布図を作成した (Fig.106)。標高は10cm毎で区切り、8種類のドットを用いた。区分内容は凡例のとおりである。

この図から、出土レベルの高いものと低いものとがどのような場所から、どのような傾向をもって出土しているのか、また、第9層中に包含されている遺物が包含層中でどのような傾向をもって包含されていたかを知る手がかりを提供してくれる。すなわち、出土レベル別の垂直分布でのまとまりの様相が、当時の生活面の地形を投影しているものと考えられることができる。

平面分布図から見てみる。標高的に高いレベルから出土している丸形 (○・○・●) は、西側拡張区の北半分と中央部に分布している。また、中位ぐらいのレベルから出土している三角 (△・▲) は、調査区の中央部付近で散在している。標高的に低い四角 (□・□・■) は、調査区中央部の東側と調査区南側に分布している。

垂直分布図は、遺物の分状況がより地形の傾斜方向を投影するように、2つ方向から、かつ範囲を限定して作成した。垂直分布図③は、幅1mの範囲において南北軸方向で垂直分布図を作成した。垂直分布図③では、遺構外の第9層出土遺物 (黒色) と堅穴建物跡内からの埋土出土遺物 (赤色) を重ねることで、遺構埋土出土遺物が、遺構外の第9層出土遺物とどのような関係があるのかを導き出すものである。

高いレベルから出土している○・○・●は、垂直分布図③の右側から中央にかけて分布している。これは、調査区北側から中央部にかけて九印が多く分布していることを示している。また、中位ぐらいから出土している△・▲は、垂直分布図③中央部と左側に、レベル的に低い□は垂直分布図③左側のみに分布している。

この垂直分布図③に遺構埋土出土遺物 (赤色) を重ねてみる。遺構埋土出土遺物の遺物は、□や■が多く分布し、遺構埋土上位には、△や▲が認められる。遺構外周辺 (遺構の北側や南側の出土遺物) は、●や▲、□があり、遺構埋土出土遺物と比較すると、遺構埋土出土遺物が遺構外周辺の遺物より低いレベルから出土しているものが多いことが看取できる。

垂直分布図④は、西側拡張区の各地層断面図と第14層上面の傾斜方向から判断した本来の傾斜方向に対して遺物を投影したものである。西側拡張区内には、ほぼ地形の傾斜方向と主軸が重なって延びる道路Bの断面観察用のベルトAがある。そのベルトA北壁に対して南北2mの範囲の出土遺物を投影させた。垂直分布図④によると若干のレベル差を持ちながらも、次のような傾向が看取できる。

出土レベルが127.300m以上の○は、垂直分布図④左側に偏在している。また、○や●は、垂直分布図全体に広がっている。中位ぐらいのレベルから出土している△・▲や、低いレベルから出土している□は、垂直分布図④右側に偏在している。この垂直分布図に、ベルトAで確認した第9層直下層の第14層上面ライン (道路B・Cの断面の部分は、その周辺の第9層下部ラインから破線で本来のラインを想定して復元した) を重ねると、第14層上面ラインは左側 (北西) から右側 (東南) へ傾斜しており、その傾斜方向と同様な傾斜で第9層出土遺物が分布している。

このことは、第9層で取り上げた遺物は、第9層中で北西方向から東南方向へ傾斜しながら包含されていたものであることを示している。これは、遺物が第9層に包含されたから以降、擾乱等の自然要因によって生じたものとは考えにくく、当時の生活面の傾斜方向に則った分布状況が維持されていたものであると判断するのが妥当である。

よって、垂直分布図④から、西側拡張区における第9層は、先述したとおり北西方向から東南方向への緩やかな傾斜地積であり、同時に、第9層は安定した遺物包含層であることが証証されていると判断ができる。

(3) 西側拡張区の第9層の遺物分布状況と地形について

2種類の第9層出土遺物の平面・垂直分布図を観察した結果、西側拡張区内での、第9層の地積状況と第9層に包含されている遺物の時期の地形は、完全に平坦ではなく、北西方向から東南方向へ緩やかに傾斜していると判断できる。

第9層出土遺物の地積状況を再確認することで、後期旧石器時代の遺構群が検出された西側拡張区の第9層も安定した遺物包含層であることがさらに裏付けられた。

4. 水追遺跡で検出された堅穴建物跡の再確認

前項までで尾根頂部の第9層は安定した状況であり、第10層との大きな積乱などは認められないことを確認した。ここではそれを前提とし、かつ遺構の検出段階の状況も踏まえながら、堅穴建物跡の再確認を行っていく。

(1) 第I調査区と西側拡張区で共通して存在する落ち込み

遺構の検出と確認の第一段階は、下位層への落ち込みがあるか否かの検討からである。まず落ち込みの平面を検出し、次に断面で形状を確認する。ここではまず、確かに第I調査区と西側拡張区に落ち込みが存在することを再度確認する。そのために、まず第14層上面で落ち込みが明瞭に確認された第I調査区の状況から見直してみたい。

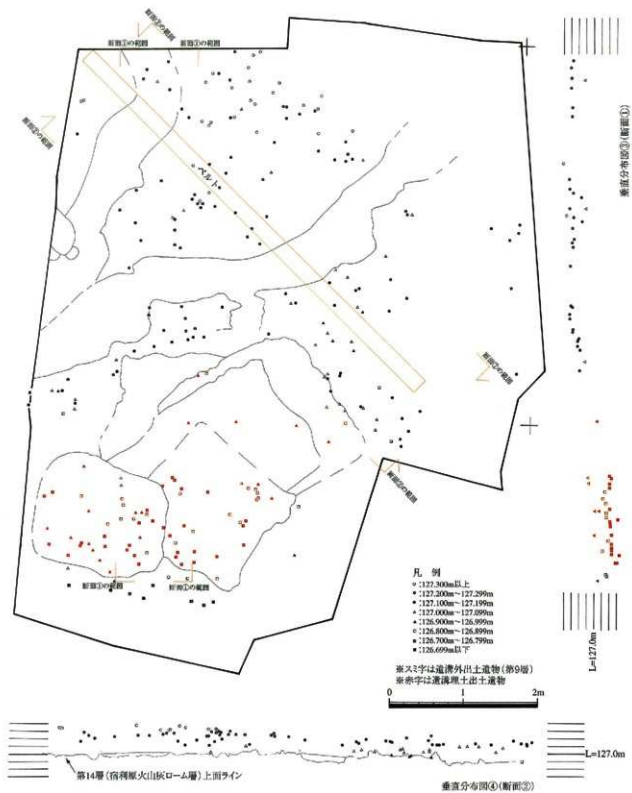


Fig.106 西側拡張区第9層遺構外出土遺物・遺構埋土出土遺物平面・垂直分布図(S=1/50)

① 第14層上面で検出された落ち込み

i 第I調査区で検出された落ち込みの状況

第I調査区の北側部分（尾根上の平坦部）では、第9層直下は黄色味の強いローム層（第14層）となっている。第I調査区では、第14層上面付近で土色が異なる範囲が検出された。これについては以下のような調査結果を得た。

- ・土色が異なる範囲は、平面が閉じた範囲を形成していた¹³。
- ・先行トレンチを設定、断面で土色が異なる範囲に立ち上がりを確認。

これらから土色が異なる範囲は一定の深さを持つ落ち込みであることを確認した。第I調査区にはこのような落ち込みが2ヶ所あることが確認された。後に西側のものを1号堅穴建物跡、東側のものを2号堅穴建物跡と呼称した¹⁴。

落ち込みについては、その後詳細な調査を実施して形状的な特徴や土壌の状況について情報を得た。その過程でも、第14層、場合によっては第15層に対して落ちこみ形状が明らかになった。

ii 西側拡張区で検出された落ち込みの状況

西側拡張区の落ち込みの検出過程は以下のとおりである。

- a 拡張区の南側付近では、第9層掘削途中で周囲より土色が暗いことが認識されていたが、平面形状の把握を行わず、第14層上面付近までの掘削を進めた
- b 第14層上面付近が露出した段階で、土色が異なる範囲が検出された（PL158）
- c 断面を確認するための先行トレンチを設定、一定の深さを持つ落ち込みの断面を確認した（PL159）
- d 土色の異なる範囲の一部に、方形に見える複数の部分が観察され、これが調査区南縁に入り込むように見えた
- e 遺構の可能性を考慮、調査区を南に拡張、間にベルト（ベルトB）を残した
- f 南側では第14層に達する前（第10層b上面段階）に平面形を検出するよう精査した
- g 平面形を把握、閉じた範囲であること、複数が切り合っていることを同時に確認した（PL160下）
- h 断面確認用の先行トレンチを設定、落ち込みの複数箇所でも立ち上がりを確認した（PL161, PL162）

検出過程からは以下のことが言える。

① bは、西側拡張区における落ち込みの検出が、第I調査区の検出状況と同じで、第14層上面において土色が異なる範囲を検出したことを示している

② cは、西側拡張区南縁に接してなんらかの落ち込みがあることを示している

平面形状を確認した後、先行トレンチで断面を確認し、一定の深さをもつことが確認されたためである。ただ、全体形状が把握できていないこの段階では、土色差のある範囲は以下の2者のいずれかの可能性があった。

- a 遺構の可能性のある落ち込み
- β 南に下る谷頭の一部のような自然地形

しかし、土色が異なる範囲が方形平面である可能性を示すdから、上記のaの可能性が高まった。このため調査過程eに進んだ。

③ eは、落ち込みが閉じた範囲であることを示している

南へ拡張した部分での落ち込みの平面形状の検出は、第10層b上面で行った（PL160）。西側拡張区北側と異なり、南側では第10層などの層序が見える。第10層bは西側拡張区南側では、下位層（第14層=黄色ローム層）との漸移層であり、黄色味を帯びており、土色差の認知は容易である。検出した平面ラインは、断面においても明瞭に確認できた。

④ hは、西側拡張区南側には、地形傾斜の下方でも立ち上がりがあることを示している

このことから、上記のβの南に下る谷頭の一部のような地形である可能性は棄却された。ベルト南側で検出された立ち上がりは、PL162に見えるように、第14層に落ち込んだものである（6号堅穴建物跡試掘掘削）。PL163はその解析画像である。これを見ると、第10層bが途切れて、第14層上面に黒色の土壌が落ち込んでいることを確認できる。

上記のように、北側から南に向けての緩傾斜地において、北側で立ち上がりを持つ落ち込みが検出され、傾斜の下の南側でも立ち上がりを持つ落ち込みが検出された場合は、落ち込みは明らかに存在すると言える。特に、この現象は、第10層の堆積範囲を超え、下位層の第14層に達している。第I調査区との相違は、下位層の堆積状況が異なっている点にのみ集約される。

以上は、西側拡張区に落ち込みが存在することを示している。そしてその検出状況は、第I調査区検出の2つの落ち込みと同様で、類似した落ち込みがあることを示す。なお、西側拡張区南北方向の第9層と遺構内の遺物の垂直分布を示したFig.106の垂直分布図③は、第9層遺物が北西方向から東南方向へ向けて緩やかな傾斜をみせ堆積するが、遺構埋土土遺物は第9層遺物のピークより下位に分布することを示しており、落ち込みがあることを支持している。

(2) 水迫遺跡で検出された遺構の埋土状況

水迫遺跡で検出された遺構の埋土には、周辺自然堆積層と異なる特徴がある。以下相違点について述べる。

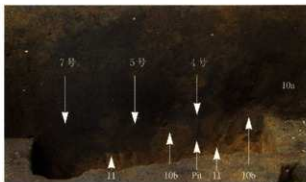
① 自然堆積層と埋土の状況について



Pl.156 1号竪穴建物跡検出直後の写真
(平成11年11月末日段階)



Pl.157 1号竪穴建物跡ラインあり写真
(平成11年12月18日段階)



断面の拡大



Pl.158 西側拡張区落ち込み検出直後の写真



Pl.159 西側拡張区落ち込み断面確認写真



Pl.161 6号竪穴建物跡立ち上がり状況
(試掘溝H部分、左が南、右が北)

← Pl.160 西側拡張区南側平面確認写真及断面写真
(7号竪穴建物跡)

自然堆積層の第10層は、上下(a・b)に分かれる。下の第10層bは下位層との漸移層となり、全体に第14層のブロックを多く含む黄色が強い層序である。『水迫遺跡Ⅰ』には、このような下位層(この場合第14層となる)起源のブロックを「B2」と呼び、第10層bに含まれると記述した。第9層・第10層a・第10層bが擾乱なしに堆積する場合においては、「B2」は大きく上層に向かって上がることは基本的にはない。一方、遺構の埋土中には、「B1」・「B2」・「岩本火山灰中の白色粒」など、本来なら上下の層にあるべきものが混入し、乱れた状況が見られることがある。第9層の安定性を述べるまでもなく、埋土の状況から人の手の介在があったと判断する妥当性があると考えられる。

さらに、遺構が第10層を掘り抜く西側拡張区では、竪穴建物跡の埋土色が、第9層より第10層aに近く、むしろ第10層aより暗い土色である傾向が強い。これは、複数の調査参加者からも指摘された事項であり、平面でも断面でも認識されている。下記の測色データはこのことを支持している。つまり、埋土は第10層aとは異なる土色であり、第10層aが断絶していることを裏付けている。

土層名称	L	a	b	測色位置	土層名称	L	a	b	測色位置	土層名称	L	a	b	測色位置
第10層a	23.6	4.4	7.7	ベルトB北	5号埋土	22.0	7.5	11.3	ベルトB北	3号埋土	22.2	4.4	7.8	ベルトB北
4号埋土	23.2	3.8	6.8	ベルトB北	7号埋土	21.5	3.9	7.2	ベルトB北	3号埋土	23.3	5.0	8.2	ベルトB北
4号埋土	22.8	4.2	7.5	ベルトB北	7号埋土	21.2	5.2	7.2	ベルトB北	第10層a	22.4	5.8	6.5	ベルトB北
5号埋土	22.7	4.9	8.3	ベルトB北	7号埋土	24.5	5.5	8.1	ベルトB北	第10層a	24.2	4.4	6.9	ベルトB南
5号埋土	20.3	4.4	8.5	ベルトB南	5号埋土	21.3	4.1	6.3	ベルトB北	第10層a	23.4	4.7	7.6	ベルトB北

また、自然堆積層が局部的にはではなく、面的に途切れる状況が確認されている。Pl.161は7号竪穴建物跡の平面と断面の写真である。平面形状は、第10層bが途切れた範囲として認識し、途切れた範囲を断面でも確認できている。7号竪穴建物跡の例が意味するところは、本来貫くはずの第10層bに断絶があることを示している。このように遺構埋土によっては自然堆積層が乱れている状況が見られる。

② 白色粒混在の状況

竪穴建物跡や道跡の落ち込みの埋土には、「岩本火山灰中の白色粒」が混在している。このことは、一般堆積層には見られないため、第9層が下位層に落ち込んだことの証左としている。再度この点について確認を行う。

岩本火山灰は、第9層の堆積途中で降下したものである。第Ⅱ調査区では、第9層の中心に岩本火山灰が1層を形成している事実があり、岩本火山灰が第9層と第10層を分けていることはない。さて、火山灰の第9層中におけるありかたは場所によって若干異なる。例えば第Ⅰ調査区などでは、第9層中に1層を形成せず、白色粒がルーズではあるがピークをもって堆積している(『水迫遺跡Ⅱ』p14)。

第Ⅰ調査区でも良好な堆積状況の箇所を見みると、白色粒は第9層に堆積のピークがあるし、第10層にはほとんど白色粒が含まれていない状況がある(Pl. 165)。

ところで、角閃石の混入割合から、第10層に白色粒が混在する可能性は言及できるのであろうか。早田氏の分析結果では、岩本火山灰は顕著に角閃石を含んでいる。また、第9層に包含される角閃石のおよそ4分の1量が第10層に含まれている(早田2001)。ただし、第10層中の角閃石について、その起源は未だ明らかになっていない。これは、第9層・第10層にそれぞれ含まれる角閃石について理化学分析を実施し、鉱物組成を比較することで、はじめて同一のものか否かが判明するからである。それ以前においては、両者が同一起源のものか、別起源のものかは議論ができない。現状では、第10層中に「岩本火山灰中の白色粒」が入っているか否かについて判断するための方法は、肉眼観察となる。

第Ⅰ調査区北側などの第9層の堆積状況は、炉跡の立ち上がりが残ること、ブロックが複数基検出されていることから、安定していることが確認された。第9層の安定性は同時に、第9層中の「岩本火山灰中の白色粒」が自然堆積の過程で第10層に大きく混ざり込む可能性は低いことを示している。遺構の埋土は、第10層と同レベルの位置にありながら、白色粒が多く入り込む状態が観察されることがある。これは、第9層何らかの原因で下位層に向かって落ち込んだためと考えられるが、このような状態は遺構が検出された箇所で見られる特徴である。よって、白色粒が入り込むのは、遺構の埋設過程によるものと考えるのが妥当であろう。

以上のことは、遺構埋土が自然堆積層とは土色や構成物の点で異なっていることを裏付けており、このことから認識した遺構の立ち上がりの判断は妥当であると考えられる。

(3) 落ち込みに見られる人為性の証左

① 平面形状と断面形状に見る規格外

『水迫遺跡Ⅰ』・『水迫遺跡Ⅱ』の中でも取り上げたが、検出された落ち込みが遺構なのか、否かを判断する基準として、形状に規格外性が認められるかどうかという点が重要と考える。

竪穴建物跡で取り上げた規格外性は、平面プランと立ち上がりの断面形状に認められるものである。前者では、「[方形]に類似した形状であるという規格外性、コーナーの角度の比較や平面形状から確認しようとした。後者では、単体の落ち込みで複数の断面形状が相互に類似するかどうかを、立ち上がりの角度の比較や特徴的な断面形状を共有するかどうかという点から確認しようとした。

i 平面形状

竪穴建物跡とした落ち込みは平面形状が方形に類似した形状となる。方形は4辺と4コーナーを持つが、検出された遺構の内4辺と4コーナーともに揃うものがほとんどない。このため、コーナー形状を最も反映すると考えられるコーナー角度を比較した。結果的に、コーナー角度が100°程度に集約することなどのデータが得られた。結果は、1号が114°・114°・117°・104°、2号が98°、3号が103°、4号が107°、5号が99°、6号が113°、7号が104°、8号が109°・105°、10号が108°となる。データの比較が容易なためにコーナー角度の計測方法は、統一したものをを用いている。得られたデータからは、各落ち込みのコーナー角度がかなり近似していることがわかる。

ii 断面形状

断面形状を比較するために、立ち上がりの角度を計測した。角度の表現には、鉛直から何度傾いているかという数値を用いたので、数値が0に近いほど、立ち上がりは鉛直に近くなるということになる。各遺構で計測した数値は以下のとおり。なお、切り合いなどにより立ち上がりを4方向検出できないものについては、検出できた立ち上がりでの計測値を掲載する。1号が43°・37°・44°・23°、2号が10°・36°・27°・42°、3号が23°・28°、4号が18.5°・30°、5号が30°・33°・18°・27°、6号が23.5°・23°・21°・21°・35°・25°・23°、7号が20°・37°・28°・28°・37°となる。各計測値から、概ね立ち上がり角度は30°におさまること、大きく傾いても40°程度であることが知られる。報告書の中でも述べているが、40°程度の数値となる場合は、形状からみても、埋没による形状の崩れがある程度影響するものと考えられる。同時に、立ち上がり直下に一皿窪みを持つという形状の特徴が大部分の断面で確認されていることも重要であろう。以上の結果は断面形状に規格性があることを示すと考えられる。

② 自然堆積層と落ち込み底部の形状との相違

自然層位の層理境界面の形状は、当時の地形の特徴を示していると考えられる。ここでは、遺構周辺の地形の傾きと遺構と考えられる落ち込みの底面の形状とを比較する。

6号竪穴建物跡の底面は第14層となっている。周辺は、南へ傾斜する傾斜変換点となっている。西側拡張区南側のみと、第9層の上下の層理境界面も第11層の上も南北1.8mの間に20cm落ちている。しかし、6号の底面は、地形の傾斜と異なるラインを見せ、126.65m~126.67mの範囲に収まっており、平坦となっている。

2号竪穴建物跡の西側と東側における、第14層上面の高低差は30cm程度であるが、2号の底面は、付帯遺構と考えられる落ち込みを除くと、2~3cmの高低差の範囲に収まっており、平坦となっている。

7号竪穴建物跡も6号同様南北方向の緩傾斜地に立地する。床面は第10層である。この底面も126.69m~126.72mの範囲に収まっており、平坦となっている。

上記は、遺構の立地が「傾斜変換点」に位置する例であり、周辺の自然地形は平坦な部分から、傾斜面へと転じている。落ち込みの底面形状との比較の結果、2号・6号・7号の底面は自然地形の傾斜とは無関係に平坦となっている。

①で落ち込みの平面と断面に規格性があることを再確認した。②で傾斜を持つ自然地形と落ち込みの底面の形状が異なる点に注目した。これは、遺構の底面は平坦であるという規格性を持っていると捉えることができると考える。

このように見ると、検出された落ち込みは人為的な構造物である可能性はきわめて高いと思われ、一定の形状を意識し掘られたものであると考えられる。

(5) 竪穴建物跡の再確認について

竪穴建物跡に関して、検出状況を含めて記述してきた。これらをまとめると、水迫遺跡で検出された遺構には次のような特徴がある。

- ・竪穴は第I調査区と西側拡張区においては第14層に連して掘り込まれている
- ・竪穴の平面プランは概ね直線的な辺とコーナーで構成された方形である
- ・竪穴には規格性が認められる立ち上がりがあり、傾斜変換点に立地する例でも、傾斜の下方にも立ち上がりを確認されるものがある
- ・竪穴の底面は周辺地形の傾斜とは異なる形状となり平坦であることから、自然地形とは考えがたい
- ・竪穴の掘土には第9層に含まれる「岩本火山灰中の白色粒子」と下位層のブロックが混入している。かつ、第10層より色が暗い傾向があり、第10層と区分できる
- ・ほぼ直立した尖底状のピットが、竪穴から概ね近似した距離範囲に竪穴の周囲を取り巻くように集中して位置している

以上は、検出された竪穴が遺構であることを裏付けていると考えられる。第I調査区と西側拡張区のそれぞれの遺構は、検出段階が相互に極めて類似した状況であり、それだからこそ、それぞれを切り離して別個に考察するよりも、同様の状況で検出された同様な遺構が多数あるという事実を重視すべきであろう。また、遺構の用途に関して、方形の竪穴の底面が平坦であり、周辺を枕状のピットが取り巻くという形態を見ると、上部構造を構築することを意識した遺構とみなすことに矛盾はないと考える。

なお、床面直上遺物の検出はいずれの竪穴でも検出されていないが、西側拡張区においては、遺構埋土出土遺物が紹介

されている。その内製品は次のような内容となっている。

3号：細石刃3点、4号：細石刃1点・小形ナイフ形石器1点・三稜尖頭器1点、5号：細石刃1点・小形ナイフ形石器1点、6号：細石刃2点・台形石器1点、7号：三稜尖頭器1点・彫器1点・槍先形尖頭器1点。遺構埋土が一般包含層の第10層を掘り抜き入ることと、埋土中に第9層と第10層に帰属する遺物が混在している傾向があることは、遺構の帰属時期を第9層（細石刃文化初期～ナイフ形石器終末期）とする見解と矛盾しないと考えられる。

5. 遺跡の遺構としての再確認

(1) 遺跡の検出状況について

ここでは遺跡の検出段階の状況も踏まえながら、遺跡の再確認を行っていく。

① 第14層上面で検出された帯状の黒色土の落ち込み

第1調査区・西側拡張区双方で第9層直下の黄色味の強いローム層（第14層）上面付近で土色が異なる範囲を検出した。この範囲は、帯状に伸びる形態であった（PL165, PL166）。

② 断面での落ち込みの確認

①について、シミの可能性はないかを確認するために、複数の先行トレンチなどを設定して断面を確認した。帯状に土色が異なる範囲には一定の深さがあることを確認。平行する2本の平面ラインに対応する一対の立ち上がりがあり、帯状の落ち込みと確認した。

③ 埋土と周辺土の差異

遺跡の埋土中には、「B1」・「B2」・「岩本火山灰中の白色粒」など、本来なら上下の層にあるべきものが混入し、乱れた状況が見られることがある。堅穴遺物跡でも述べたが、この状況は周辺の自然堆積層とは異なっている。特に、第14層のブロックである「B2」が本来多く含まれている「第10層b」のレベルより上に上がっている場合が多々ある。こうした点は自然堆積層と考えるには矛盾がある。

①～③は、遺跡とした部分が、確実に平面と断面を持つものであることを示している。ただ、遺構か否かは次のような方法で確認した。

(2) 遺跡の人為性について

① 平面形態について

遺跡の平面形状に見られる規格性は、概ね平行し、かつ、閉じない2本の線で区別されるという平面形状である。この点については、遺跡A・B・Cそれぞれで確認できた。

② 断面形態について

断面ではすべての確認箇所で一対の立ち上がりを確認した。場所によっては逆台形断面の箇所がある。また、複数の断面で底面が平坦に近い形状を呈していることを確認した。底面の下部の第14層中に掘削痕跡の可能性があると考えられる鋤齒状に汚れた部分も検出された（『水追遺跡Ⅱ』参照）。

③ 流水痕の可能性の有無について

帯状の落ち込みの形状から、第一に流水痕跡である可能性を考慮したが、以下の点で流水痕跡である可能性は棄却される。

- ・傾斜と無関係に曲がるなど、地形と関係ない方向に伸びるラインである
- ・埋土中にラミナ成層構造や砂層の再堆積など水成堆積の特徴を示す痕跡が見られない
- ・底面に尖底状の凹部を含む凹凸を呈する部分がある

④ 周辺地形との関係

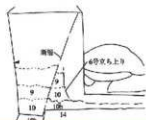
遺跡が検出された箇所の地形との関係は次の通りである。遺跡Aは、やや平坦な丘陵上部から南西に傾斜する部分に位置し、傾斜に沿って南西方向に延び、急に南東に方向を変える。遺跡が急に方向を変える部分では地形の傾斜方向は変化していない。また、遺跡Bと遺跡Cは、やや平坦な丘陵上部に位置し、検出された半分以上の長さが等高線と並行している。

遺跡Aは地形の傾斜と無関係な曲折を見せる点と、遺跡BとCが半分以上等高線と並行しているという点は、遺跡が周辺地形に関係なく所在することを示す。また、遺跡BとCでは、傾斜の上側と下側に立ち上がりが確認されている。

このことは、浸蝕などの自然営力が傾斜の下方向に向かって働くことと矛盾している。



PL.162 6号竪穴建物跡立ち上がり状況
(試掘溝し部分)



PL.164 水道遺跡の層序(第9層・第10層前後の状況)



PL.163 6号竪穴建物跡立ち上がり画像解析
(PL.162の解析画像)

画像解析はimage++2.60を用い、デジタルカメラで撮影した画像をトリミングし、カラー抽出を実施した。カラーモデルは「RGB」を選択、抽出したのはRed0-255, Green78-255, Blue0-255の範囲である。抽出結果は抽出画像で出力した。



PL.165 遺跡A検出状況



PL.166 遺跡B検出状況

(3) 遺跡の再確認について

遺跡に関して記述したが、内容の大半は「水迫遺跡Ⅰ」・「水迫遺跡Ⅱ」でも掲載した内容である。再度念を押ししたのは遺跡もまた、第14層において平面が検出されたのであり、それに基づき、断面形状の確認作業を実施していった。この中で、粗土と考えられる土壌には、自然堆積層とは異なる「上下層の混在」という特徴が顕著に見られた。具体的には、西朝並張区では第14層の上にある第10層bに多く含まれる黄色いブロック「B2」が、第10層bの範囲を越え、一部第9層付近にまで上がり、第9層に見られる「岩火火山灰中の白色粒」や薄いブロック「B1」などと混在している状況である。そして、遺構粗土ではこれが顕著に見られる。第9層の堆積時点においては、下位層との区別がつかないような大きな攪乱と再堆積は観察されていない。このことから、上記のような埋土状況は、人為的掘削の結果と判断する妥当性があると考えられる。

さらに、平面形状と断面形状には規格性が認められる部分が多々あった。また、類似した平面形状を示すと考えられる流水痕とするには一致点が少なかった。以上のことを総合して、遺構と判断することに矛盾はないと考える。

これまで、遺構群が検出された地点の後期旧石器時代の遺物包含層（第9層）は、遺物の出土状況などから、上下層の区別がつかないような大きな攪乱はなく、安定した層序であること、遺物の出土状況も地形的変化に合致することなどが確認できたことで、遺構が形成されないような条件は存在しないことを確認した。その上で、調査の内容を段階的に述べることで、遺構の特徴を更に浮き彫りにするとともに、遺構と判断した根拠を再確認できたかと思う。

(註)

- (1) 「水迫遺跡Ⅰ」P211 No.62, P216 No.83
- (2) L・a・b値の内容については、指宿市考古博物館企画展図録に詳しく記されている（下山2000）。具体的には、「L*：明度を表す。マンセル Valueの10倍にはほぼ等しい。a*：正の値で数字が大きいほど赤、負の値で数字が大きいほど緑、b*：正の値で数字が大きいほど黄、負の値で数字が大きいほど青」となっている。
- (3) 平面プランは閉じているという観点は、「水迫遺跡Ⅰ」で述べたように遺構なら基本的に当てはまる状態を指摘したのみの事項である。しかし、傾斜変換点周辺で、風化などの原因で土壌が部分的に尖られた場合には、傾斜の下側に立ち上がりが形成されないことがあり、平面プランが閉じていない場合があることに注意したい。
- (4) 1号と2号では、方形の窪が込みの外側にシミのような土色が異なる範囲が検出され、当初から例えば「壱穴を掘り上げた後の残土を置いたため土色が変化した」などの解釈が提出されていた。最終的には、土色の異なる範囲が方形に似た形状を呈しているとともに、ピット列がこれに共存すると見られたことから、1・2号とは別の壱穴遺物群が切り合っているものと解釈し、8号壱穴遺物群・9号壱穴遺物群・10号壱穴遺物群と報告した。

(文献)

指宿市教育委員会	1999	『第6回企画展「ときどき縄文さがけ展」図録』
指宿市教育委員会	2001	『水迫遺跡Ⅰ』指宿市伝統文化財発掘調査報告書第34集
指宿市教育委員会	2002	『水迫遺跡Ⅱ』指宿市伝統文化財発掘調査報告書第35集
鹿児島県教育委員会	1992	『西風遺跡』鹿児島県伝統文化財発掘調査報告書(64)
下山 寛	2000	『水迫遺跡における土層の異同判定について—主にデジタルデータの解析を通して—』『第7回時遊館COCCOはしむれ 企画展図録「水迫遺跡からのメッセージ—日本史の源流を探る—」』
早田 勉	2001	『指宿市、水迫遺跡における自然科学分析 Ⅰ. 水迫遺跡の土質とテクニク』『水迫遺跡Ⅰ』
九州旧石器文化研究会	1997	『九州の縄石器文化—縄石器文化の開始と周年研究—』
九州旧石器文化研究会	1998	『九州の縄石器文化—九州島における縄石器文化の石器と技術—』

第9節 水迫遺跡の保存処置について

(1) 広域農道迂回案作成までの経緯

①平成5～10年度

平成5年度のサン・オーシャンリゾート開発に伴う鹿児島県文化財課の分布調査により、水迫遺跡が周知化された。

平成8年度に指宿市教育委員会が鹿児島県耕地事務所からの委託により、鹿児島県農政部が実施する広域営農団地農道整備事業予定路内での、水迫遺跡と中尾追跡跡内での確認調査を実施した。水迫遺跡では、2ヶ所の試掘トレンチを設定し確認調査を実施した結果、縄文時代早期と弥生時代中期の遺物包含層があることが確認された。

確認調査の成果に基づき、鹿児島県耕地事務所・県文化財課・市耕地課・市教育委員会との協議の結果、指宿市教育委員会が、平成9年度に中尾追跡跡、平成10年度に水迫遺跡の全面発掘調査を行うこととなった。

②平成11年度

水迫遺跡の発掘調査は、平成11年5月から開始された。

平成11年11月には、縄文時代草創期に属する「水迫式土器」の新型式発見の報道発表を行った。

平成11年12月には、第Ⅰ調査区内で後期旧石器時代（ナイフ形石器文化終末期～細石刃文化初期）の堅穴建物跡・道跡・枕跡・石器製作跡から構成される遺構群発見の報道発表を行った。

これらの調査成果を鑑み、平成12年1月から鹿児島県耕地事務所・県文化財課・市耕地課・市教育委員会によって、次の件について協議を行った。その結果、平成12年度の事業内容は下記のとおりになった。

- (i) 第Ⅰ調査区で検出した後期旧石器時代の遺構群の広がりや内容確認を目的とした確認調査を行う。
文化庁補助金・県費を用いた重要範囲確認調査事業で実施。県文化財課から遺跡の重要性を鑑み平成12年度から30年の継続調査を行うよう計画が提示された。
- (ii) 遺跡の保存を目的とした広域農道迂回案作成の情報収集のため、第Ⅰ調査区の東西地域で確認調査を行う。
鹿児島県耕地事務所との委託契約事業で実施。
- (iii) 広域農道予定路の第Ⅱ調査区の継続調査。鹿児島県耕地事務所との委託契約事業で実施。

③平成12年度

(i) では、文化庁の指導を受けながら、東京大学・岡山大学・九州大学・別府大学・熊本大学・鹿児島大学の教授・助教授と院生・学生などの参加による総合調査を実施し、第Ⅰ調査区の西側隣接地に西側拡張区を設定して、後期旧石器時代の遺構群の広がりや内容確認を目的として調査を行った。その結果、堅穴建物跡5基、道跡2条、灰跡2基、土坑1基、石器分布を検出した。このことから、第Ⅰ調査区の西側にも遺構群と石器分布が広がっていることが確認された。また、市道を挟んで1トレンチの確認調査の結果、後期旧石器時代に遺構群が構築された立地は、概約16mの狭い尾根の南側の平坦地と緩やかな斜面地であることが分かった。

(ii) では、第Ⅰ調査区・第Ⅱ調査区の東側・西側に7ヶ所のトレンチを設定して、後期旧石器時代の遺物包含層・遺構の有無とその広がりを確認することを目的として確認調査を実施した。その結果、第Ⅰ調査区の西側では、弥生時代・縄文時代・後期旧石器時代の遺物包含層が残存していることが確認された。また、東側では、遺物包含層は確認できなかった。この調査成果については、鹿児島県耕地事務所へ中間報告した。

(i)・(ii)の調査結果を踏まえ、鹿児島県耕地事務所・県文化財課・市耕地課・市教育委員会の四者によって、広域農道迂回路について協議を行った。協議の結果、広域農道の迂回案作成の基本的な考え方としては、広域農道を当初予定路の東側に迂回する案を作成し、それに伴い市道も北側へ付け替えることで妥結することとなった。

(2) 後期旧石器時代の遺構群の現地保存処置について

後期旧石器時代の遺構群が検出された第Ⅰ調査区と西側拡張区については、奈良国立文化財研究所・埋蔵文化財センターから指導を受け、現地保存を目的として埋め戻しを行った。以下、その埋め戻し作業内容を記載する。PI.167には、第Ⅰ調査区と西側拡張区の埋め戻しをする際に、遺構所在の目印として同時に埋めたピンボール等の位置を示している。なお、埋め戻し用の土壌は、3段階に分けて異なる土壌を用いた。なお、同時期の遺構が検出された11トレンチも同様にして埋め戻しを行った。

第1段階：遺構を直接被覆する土壌として細粒の山砂を用いた。再調査の際に遺構を直接被覆している土壌としての目印にもなるようにした。遺構上に約20cmほどの厚みがあるようにして埋めた。また、第Ⅰ調査区中央付近にある縄文時代早期層の集石（「水迫遺跡Ⅱ」に掲載）と西側拡張区東側にある縄文時代早期の舟形配石炉（「水迫遺跡Ⅱ」に掲載）は高いレベルで検出されているが完全に被覆するようにした。

第2段階：細粒の山砂によって、第Ⅰ調査区と西側拡張区に完全に被覆後、パウダー状の細粒シラスを用い、さらに被覆した。北側では約30cm以上、南側では約200cm以上埋めた。

第3段階：シラスの流失防止と埋め土の養生のため、南産地域で採掘できる間開火山性噴出物の確混じりの黒色土（通称、山川土）を最後に調査区全体に被覆させた。山川土は、固く引き締まる特性があり、埋め戻し後の土壌の安定性を考慮して用いることとした。

次に、埋め戻し作業段階等の概要について、写真を用いて説明する。

- 写真①：第1調査区と西側拡張区における後期旧石器時代の遺構群の現地保存を目的とした埋め戻し作業直前写真。
 写真②：埋め戻し作業終了写真。西側拡張区は、個人所有地であるため細地に復旧した。
 写真③：第1段階の山砂搬入状況写真。手前のベルトは、第1調査区の2号竪穴建物跡の東側に位置するものである。
 写真④：遺構への山砂被覆作業状況写真。ダンプから搬入された山砂を、竪穴建物跡・道跡・炉跡・土坑・縄文時代早期遺構等、調査区全体に直接被覆させていく。
 写真⑤：1号竪穴建物跡への山砂被覆作業状況写真。断面観察用の先行トレンチ内にも充填させた。
 写真⑥：1号竪穴建物跡への山砂被覆後状況写真。少なくとも35cm以上は被覆させている。ベルト南東角のピンボールNo1が見える。ピンボールの頭は、ベルトより高い位置にくるようにした。
 写真⑦：2号竪穴建物跡への山砂被覆作業状況写真。
 写真⑧：2号竪穴建物跡への山砂被覆後状況写真。手前にベルト北西角のピンボールNo2が、奥にベルト南東角のピンボールNo3が見える。
 写真⑨：第1調査区中央部での縄文時代早期帰属の集石への山砂被覆作業状況写真。集石を検出した部分に刺したピンボールNo4が見える。
 写真⑩：第1調査区中央部での縄文時代早期帰属の集石への山砂被覆後状況写真。写真中央にはピンボールNo4と、2号竪穴建物跡のベルト南東角のピンボールNo3が見える。
 写真⑪：西側拡張区への山砂被覆作業状況写真。東西ベルトの北側中央に刺したピンボールNo8が見える。
 写真⑫：西側拡張区への山砂被覆作業状況写真。手前は、西側拡張区東側にある縄文時代早期に帰属する舟形配石の山砂被覆後状況が見え、また、ピンボールNo5も見える。写真奥壁手前には、1号炉跡に刺したピンボールNo6が見える。左手には、道跡B断面観察用のベルトに刺したピンボールNo7が見える。少なくとも、全体的に40cm以上は被覆させた。
 写真⑬：第1段階で遺構に細粒の山砂を直接被覆後、第2段階の細粒シラスの被覆作業状況写真。
 写真⑭：第2段階での細粒シラス被覆終了写真。奥にボールが見える。
 写真⑮：第3段階での山川土被覆終了写真。
 写真⑯：第1段階に用いた山砂の接写写真。
 写真⑰：第2段階に用いた細粒シラスの接写写真。
 写真⑱：第3段階に用いた山川土の接写写真。



PL167 第1調査区・西側拡張区遺構所在地確認用のピンボール位置写真



Pl.168 埋め戻し作業状況写真①



Pl.169 埋め戻し作業状況写真②



Pl.170 埋め戻し作業状況写真③



Pl.171 埋め戻し作業状況写真④



Pl.172 埋め戻し作業状況写真⑤



Pl.173 埋め戻し作業状況写真⑥



Pl.174 埋め戻し作業状況写真⑦



Pl.175 埋め戻し作業状況写真⑧



Pl.176 埋め戻し作業状況写真⑨



Pl.177 埋め戻し作業状況写真⑩



Pl.178 埋め戻し作業状況写真⑪



Pl.179 埋め戻し作業状況写真⑫



PI.180 埋め戻し作業状況写真⑬



PI.181 埋め戻し作業状況写真⑭



PI.182 埋め戻し作業状況写真⑮



PI.183 埋め戻し作業状況写真⑯



PI.184 埋め戻し作業状況写真⑰



PI.185 埋め戻し作業状況写真⑱

報 告 書 抄 録

ふりがな	みずさこいせき							
書名	水 迫 遺 跡							
副書名	平成13・14年度水迫遺跡発掘調査報告書							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	中摩 浩太郎 渡部 徹也 鎌田 洋昭							
編集機関	鹿児島県指宿市教育委員会（指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ）							
所在地	〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町2290 TEL：0993-23-5100							
発行年月日	平成16年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みずさこいせき 水迫遺跡	いばらきしほしかたみずさ 指宿市西方水迫	46210	2-58			2001.9.10～ 2002.3.31 2002.4.24～ 2003.3.20	11トレンチ:130㎡ 12トレンチ:50㎡ 13トレンチ:120㎡ 14トレンチ:144㎡	重要範囲確認調査(国庫・県費補助事業)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
水迫遺跡 11トレンチ	包含地 集落 集落	弥生時代中期 縄文時代早期 後期旧石器時代	— — 竪穴建物跡 土坑 ピット	山之口式土器等 下剥峯式土器、辻タイプ、 石鏃、尖頭状石器等 剥片、二次加工剥片等		後期旧石器時代の遺構群を検出		
12トレンチ	包含地	弥生時代中期	ピット	山之口式土器				
13トレンチ	包含地 集落 包含地 包含地	中世 弥生時代中期 弥生時代早期 後期旧石器時代	ピット ピット ピット ピット	— 山之口式土器、剥片、 軽石製加工品等 — —		後期旧石器時代の遺構の広がり が想定できる情報を得た。		
14トレンチ	集落 集落	中世 弥生時代中期	ピット ピット	— 山之口式土器				

水迫遺跡Ⅲ

Report of The Mizusako Archaeological Site Vol.Ⅲ

2004年3月

2004 March

発行

指宿市教育委員会

The Ibusuki Board of Education
鹿児島県指宿市十二町2290

Junicho2290 Ibusuki-city,Kagoshima Pref.Japan

TEL 0993-23-5100

印刷所

潤上印刷株式会社

鹿児島市樋之口町6-6

Tenokuchicho6-6 Kagoshima-city,Kagoshima Pref.Japan

TEL 099-225-2727

